

平成 30 年度
栄区セーフコミュニティアンケート調査

結果報告書

(詳細版)

平成 31 年 1 月
横浜市栄区役所



目次

I	調査の概要	3
II	回答者の属性	9
III	集計分析結果	13
1	セーフコミュニティ全体	13
(1)	「セーフコミュニティ」の認知度	13
(1)-1	「セーフコミュニティ」を知った媒体	23
(2)	安全・安心への実感	25
(3)	セーフコミュニティの重点項目への関心	34
2	日常生活におけるけが・事故の危険性	71
(4)	けが・事故の危険性の認知度	71
3	セーフコミュニティの取組	95
(5)	けが・事故等の予防の取組の認知度	95
(6)	参加したいセーフコミュニティの取組 【新規】	111
4	安全・安心に関する質問	113
(7)	地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動 【新規】	113
(8)	運動不足の実感	115
(9)	スポーツをする頻度	118
(10)	ウォーキングをする頻度	120
(11)	「ヒートショック」の対策	122
(12)	救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度 【新規】	124
(13)	地域防災拠点の認知度	126
(14)	地域防災拠点の訓練の訓練に参加したことがある割合	128
(15)	震災等の災害に対する備え	130
(16)	振り込め詐欺の受電経験の有無 【新規】	132
(17)	知っている振り込め詐欺 【新規】	134
(18)	行っている振り込め詐欺対策 【新規】	136
(19)	自殺についての考え方	138
(20)	セーフコミュニティについてのご意見やご要望	155
IV	調査票	158

I 調査の概要

I 調査の概要

【調査の目的】

「セーフコミュニティ」の取組を進めるにあたって、区民の求める安全・安心の取組に対するニーズを把握するとともに、現在行っている取組を評価するための指標として使用し、取組の質の向上を図る。

【調査対象】

栄区内に居住する20歳以上の男女1,500人

【抽出方法】

住民基本台帳からの無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査期間】

平成30年11月2日（金）～11月23日（金）

【回収数】

577件（回収率38.5%）

【集計結果の見方】

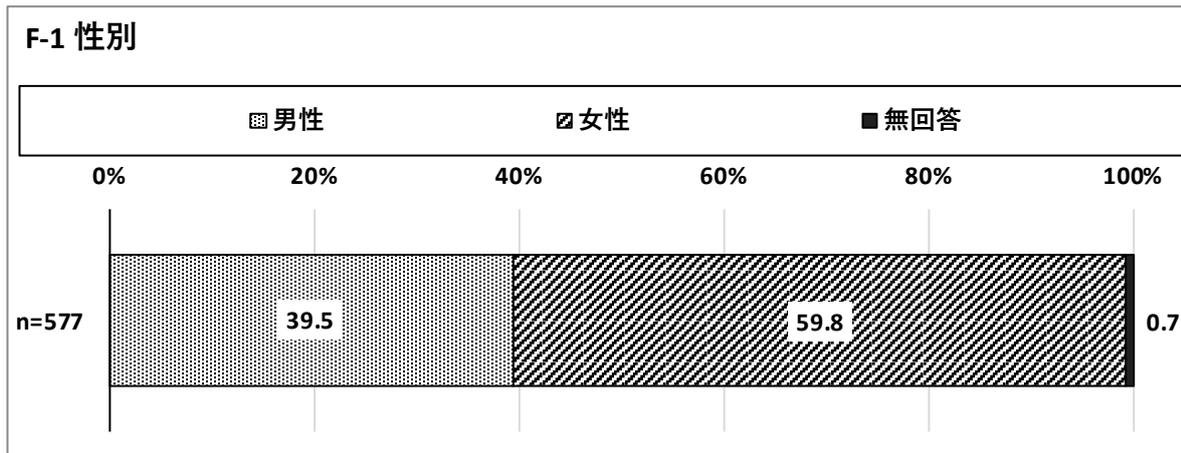
1. 図（グラフ）の中で使用されている「n=〇〇」は、その設問に対する回答者数をあらわす。
2. 回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
3. 項目をまとめてひとつのカテゴリにする場合（例えば問1など）、各回答項目の回答者数の合計を基数として%を算出している。各回答項目は小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答項目の%の合計と一致しない場合がある。
4. 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
5. 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

II 回答者の属性

II 回答者の属性

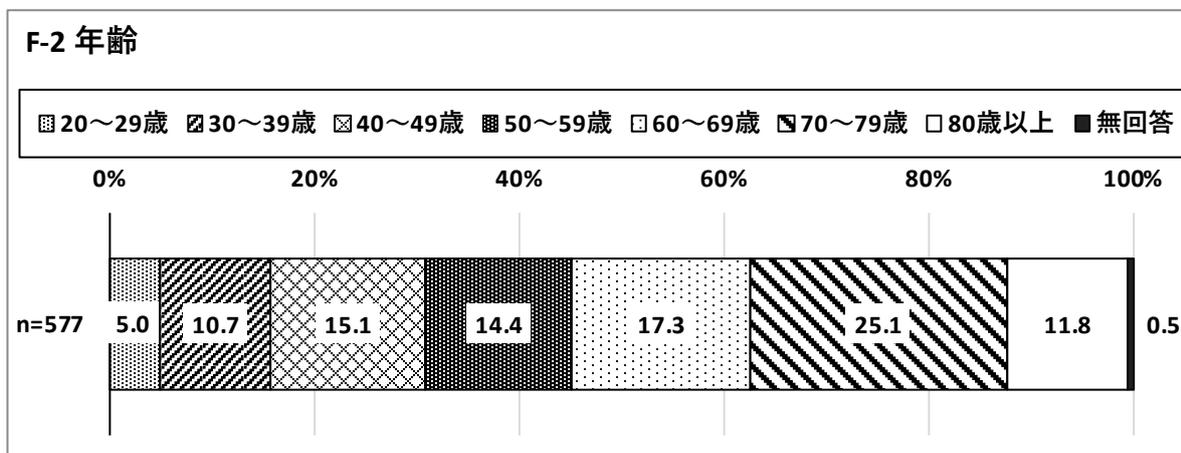
1 性別

- ・「女性」が59.8%で、「男性」(39.5%)より20.3ポイント多い。



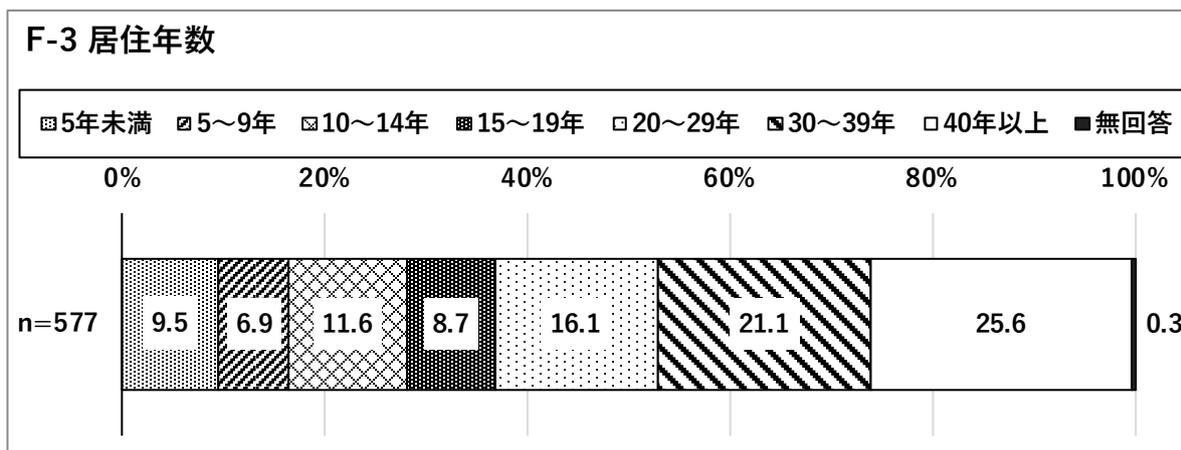
2 年齢

- ・「70～79歳」が25.1%で最も多い。「20～29歳」は5.0%で最も少ない。



3 居住年数

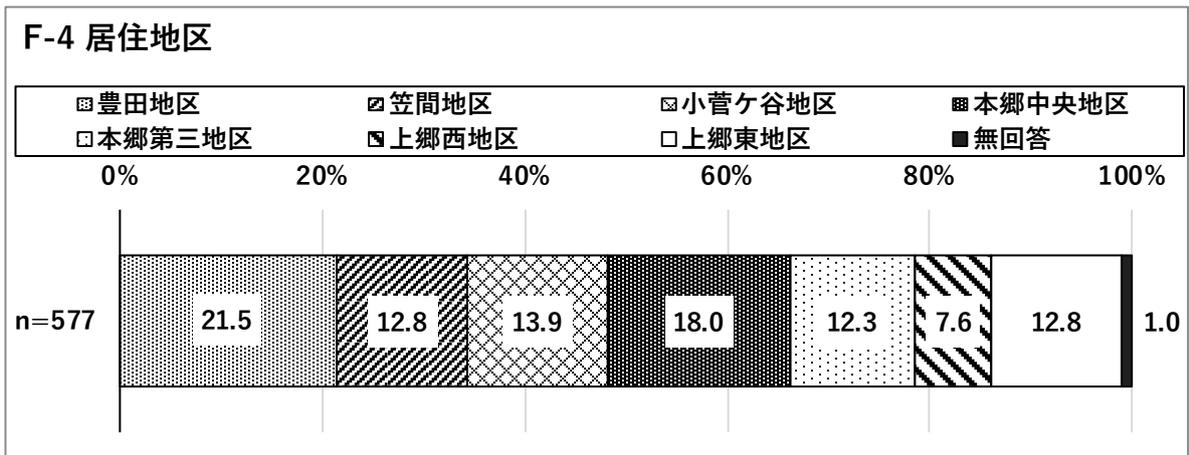
- ・「40年以上」が25.6%で最も多く、「30～39年」が21.1%が続く。「20年以上」が全体の約6割を占めている。



II 回答者の属性

4 居住地区

・「豊田地区」が21.5%で最も多く、「本郷中央地区」が18.0%で続く。「上郷西地区」が7.6%で最も少ない。

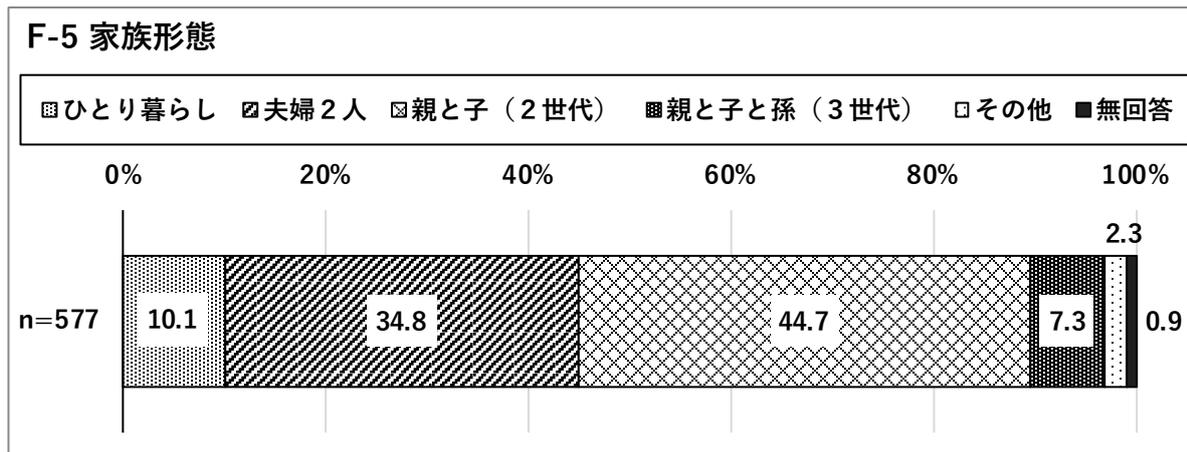


豊田地区	: 飯島町、金井町、田谷町、長尾台町、長沼町、本郷台一丁目～五丁目
笠間地区	: 笠間町、笠間一丁目～五丁目
小菅ヶ谷地区	: 小菅ヶ谷町、小菅ヶ谷一丁目～四丁目、小山台一丁目～二丁目
本郷中央地区	: 桂台北、桂台中、桂台西一丁目～二丁目、桂台東、桂台南一丁目～二丁目、桂町、公田町
本郷第三地区	: 鍛冶ヶ谷町、鍛冶ヶ谷一丁目～二丁目、中野町、柏陽、元大橋一丁目～二丁目、若竹町
上郷西地区	: 犬山町、尾月、上之町、亀井町
上郷東地区	: 上郷町、庄戸一丁目～五丁目、長倉町、野七里一丁目～二丁目、東上郷町

※ 町界で区分しているため、連合町内会のエリアとは一部異なっている部分があります。

5 家族形態

・「親と子(2世代)」が44.7%で最も多く、「夫婦2人」が34.8%で続く。「ひとり暮らし」は10.1%。



III 集計分析結果

Ⅲ 集計分析結果

1 セーフコミュニティ全体

(1) 「セーフコミュニティ」の認知度

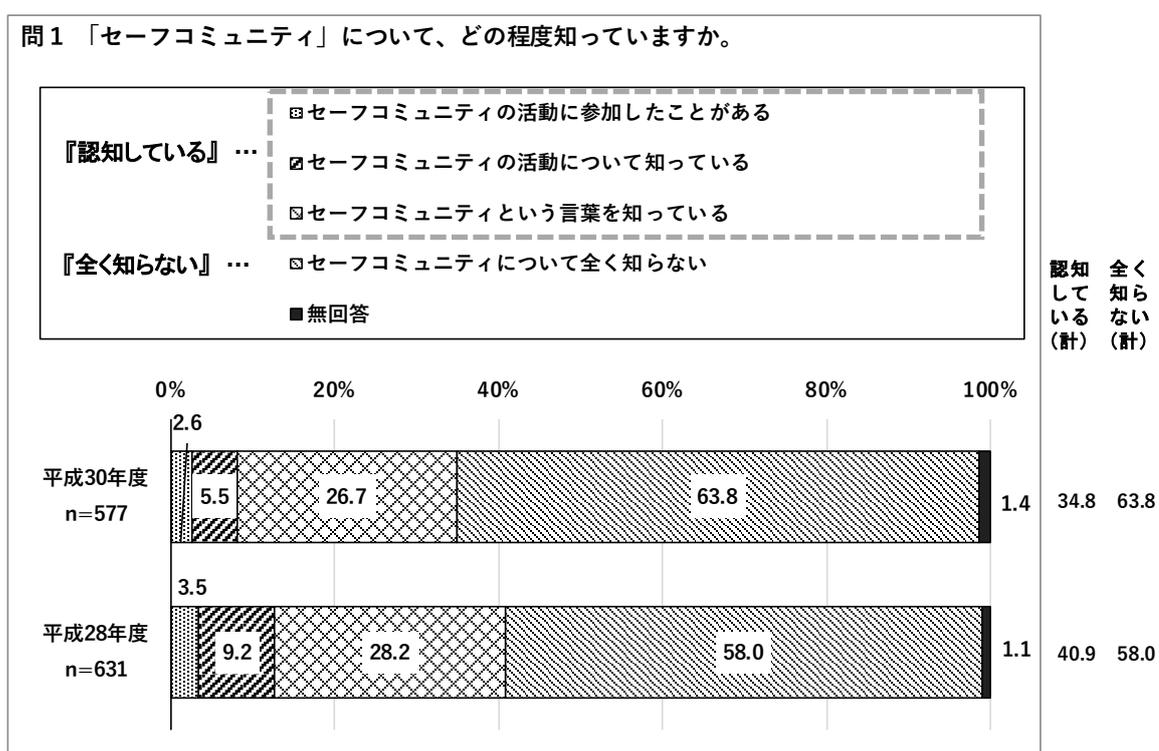
【「セーフコミュニティ」の認知度： 時系列】

<全体>

- ・セーフコミュニティについて、「活動に参加したことがある」(2.6%)、「活動について知っている」(5.5%)、「言葉を知っている」(26.7%)を合わせると(以下『認知している』)34.8%の方が『認知している』と回答している。
- ・一方、セーフコミュニティについて「全く知らない」割合は63.8%である。

<平成28年度調査と比較>

- ・平成28年度調査と比較して、『認知している』割合は6.1ポイント減少し、「全く知らない」割合は5.8ポイント増加した。



III 集計分析結果

【「セーフコミュニティ」の認知度：性別・年齢別・地区別】

<性別>

・『認知している』割合は、「女性」が39.1%と「男性」の28.5%に比べて10.6ポイント高い。

<年齢別>

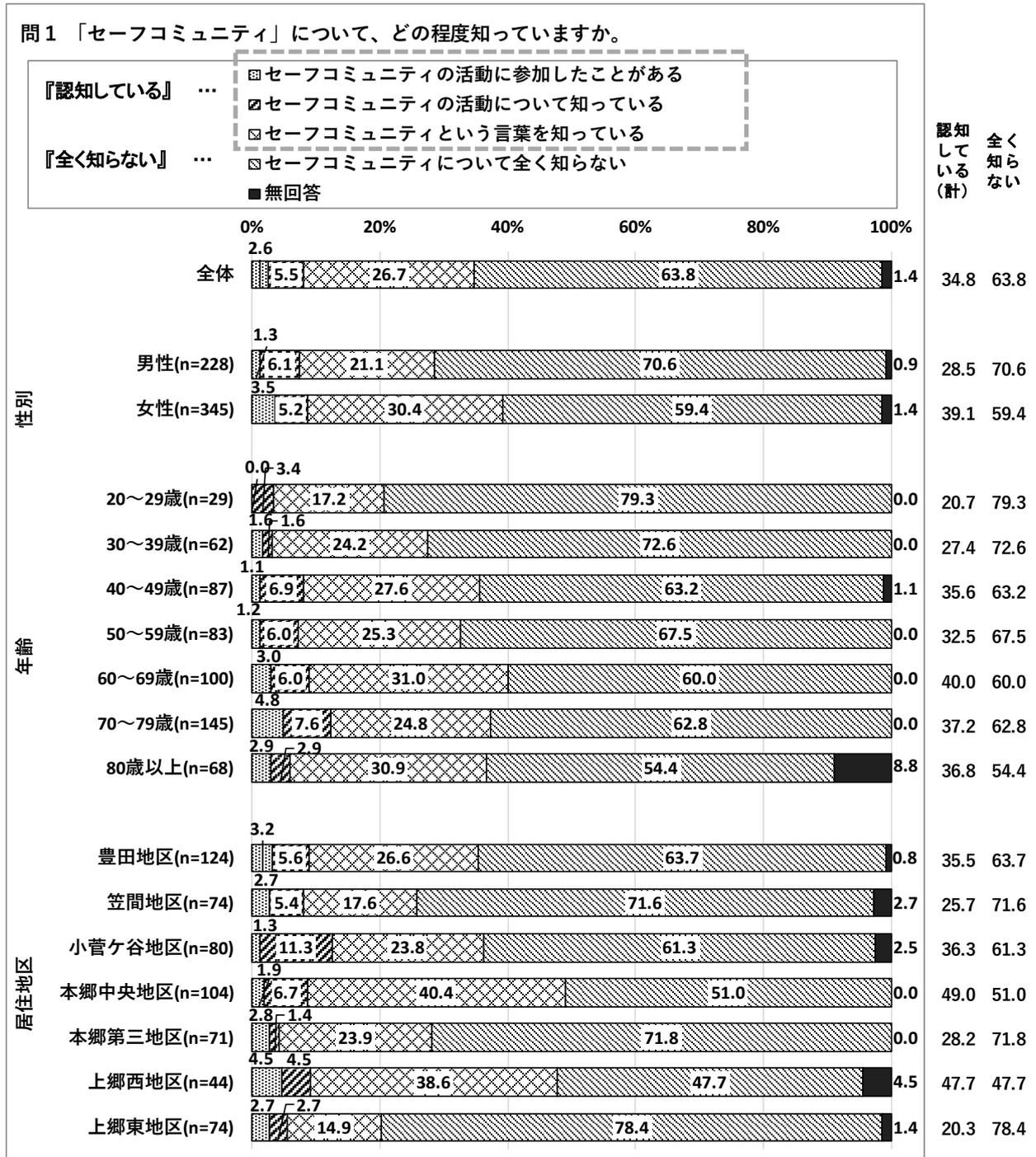
・「20～29歳」「30～39歳」の「全く知らない」割合は7割以上。

・「60～69歳」では、『認知している』割合が40.0%と全体より5.2ポイント高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「上郷西地区」で『認知している』割合が、それぞれ49.0%、47.7%と全体より10ポイント以上高い。

・「上郷東地区」では「全く知らない」割合が78.4%で、全体よりも10ポイント以上高い。



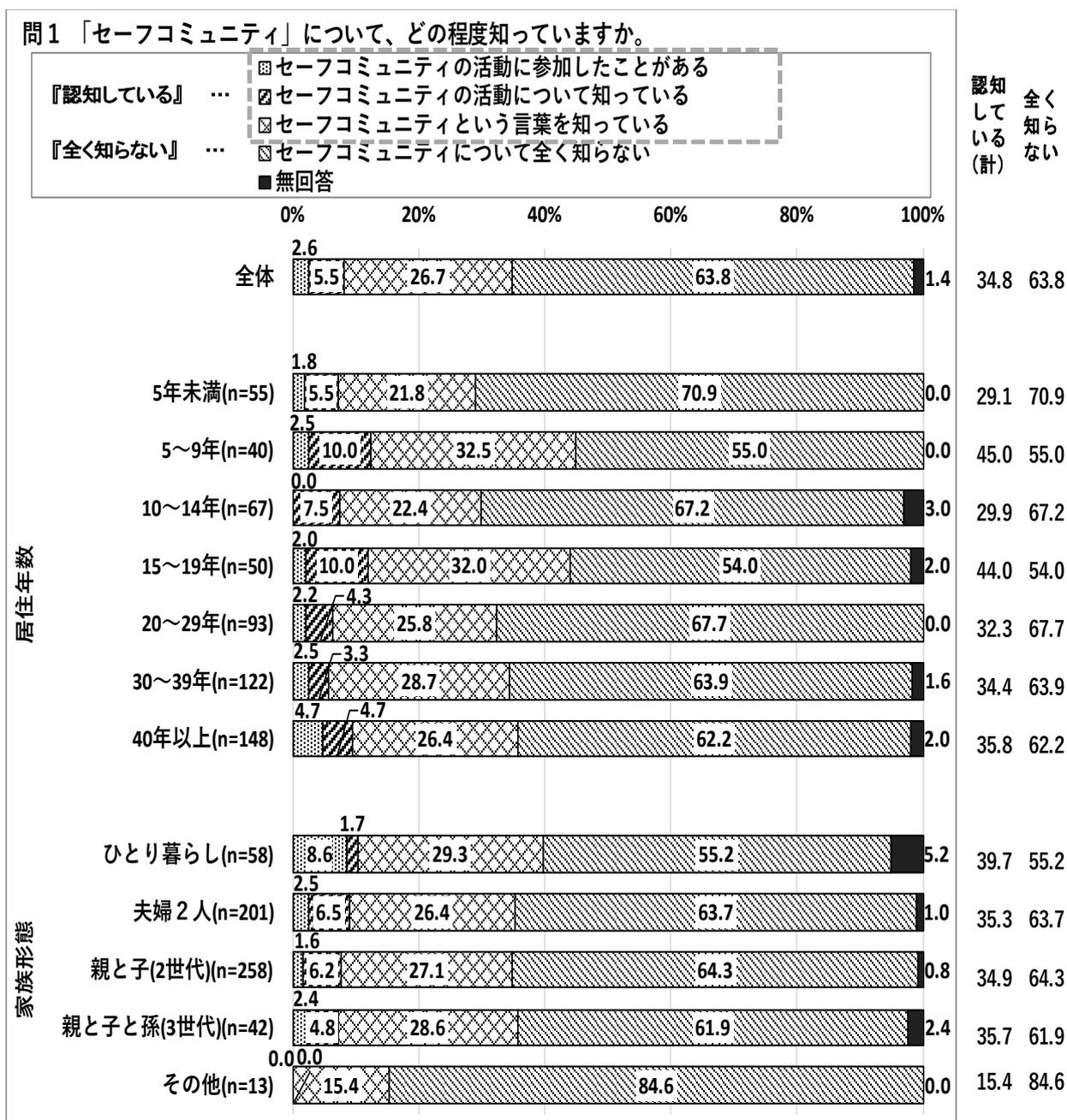
【「セーフコミュニティ」の認知度： 居住年数・家族形態別】

<居住年数別>

- ・「5～9年」では『認知している』割合が45.0%と、全体より10ポイント以上高く、「15～19年」では44.0%と全体より5ポイント以上高い。
- ・一方、「全く知らない」割合は「5年未満」が70.9%で、全体よりも7.1ポイント高い。

<家族形態別>

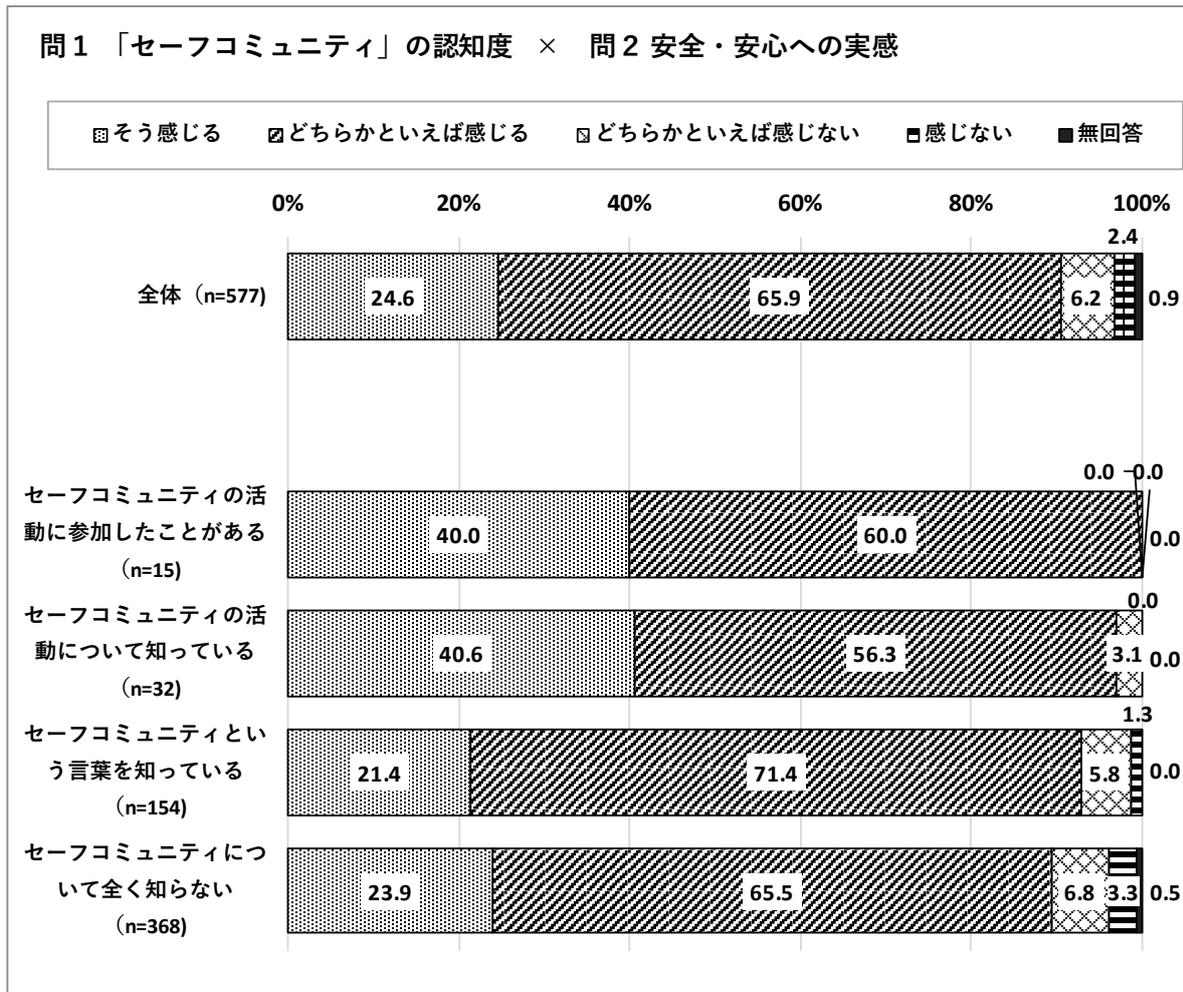
- ・「ひとり暮らし」では「活動に参加したことがある」割合が8.6%で、全体よりも5ポイント以上高い。



III 集計分析結果

【「セーフコミュニティ」の認知度：安全・安心への実感別】

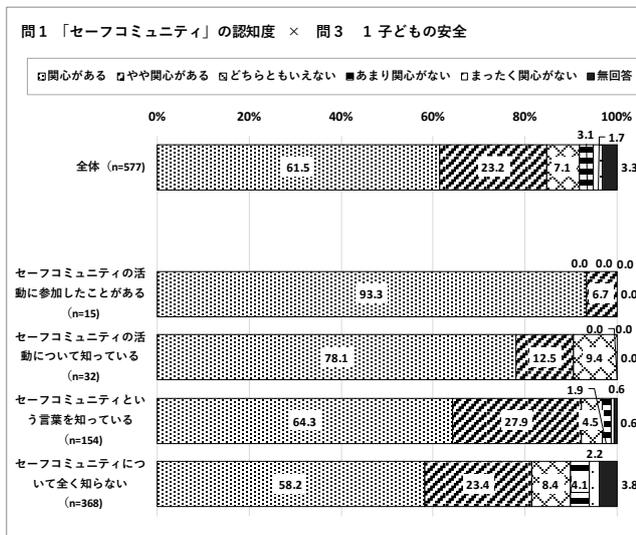
- ・セーフコミュニティの活動に「参加したことがある」「知っている」方ほど、安全・安心なまちだと感じる割合が高くなっている。



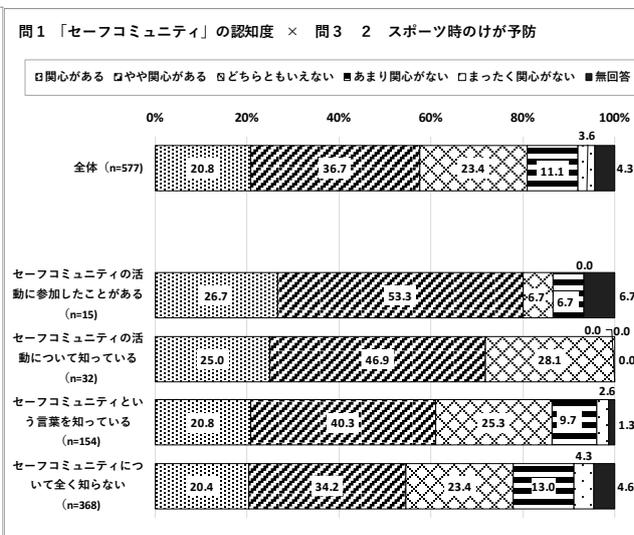
【「セーフコミュニティ」の認知度： 重点課題の関心度合別】

- ・ どの重点課題でもセーフコミュニティの活動に「参加したことがある」「知っている」方ほど「関心がある」の割合が高くなる傾向がある。
- ・ 特に「子育て支援と児童虐待の防止」では、「セーフコミュニティの活動に参加したことがある」方の「関心がある」割合が他と比べて高くなっている。

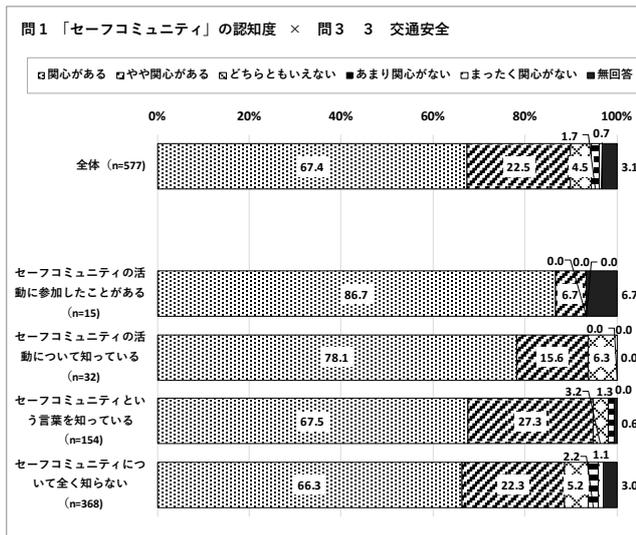
1 子どもの安全



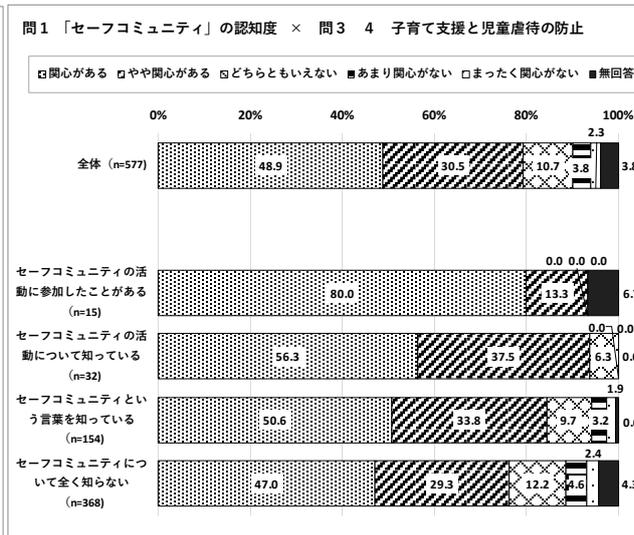
2 スポーツ時のけが予防



3 交通安全

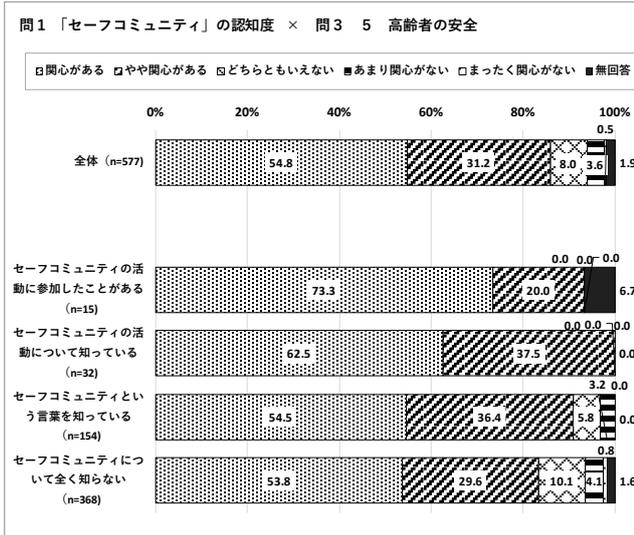


4 子育て支援と児童虐待の防止

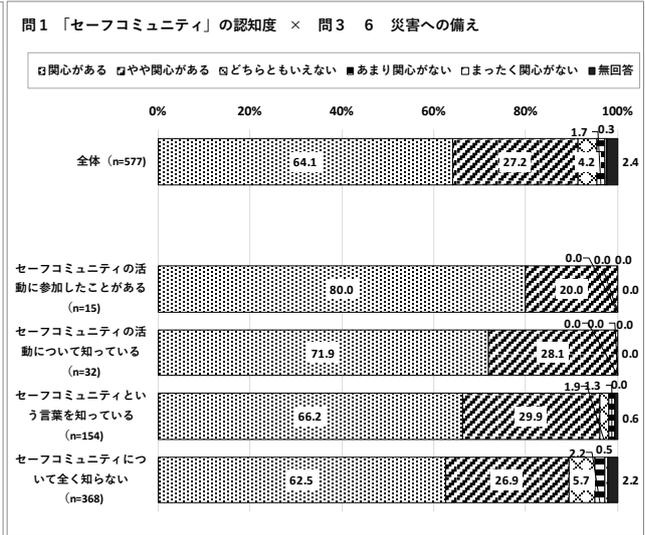


III 集計分析結果

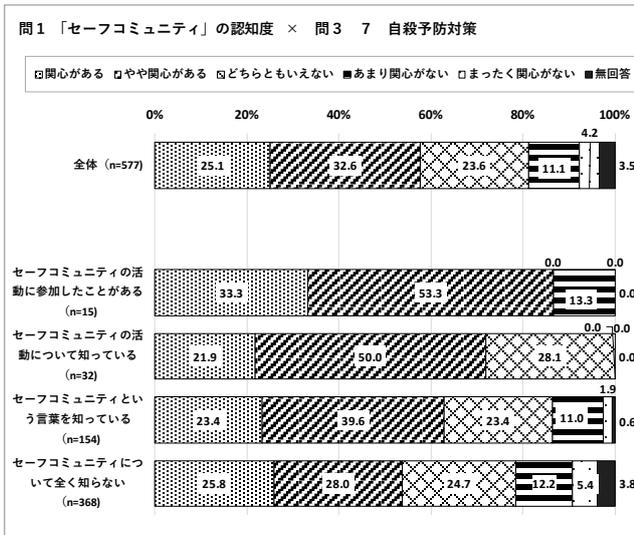
5 高齢者の安全



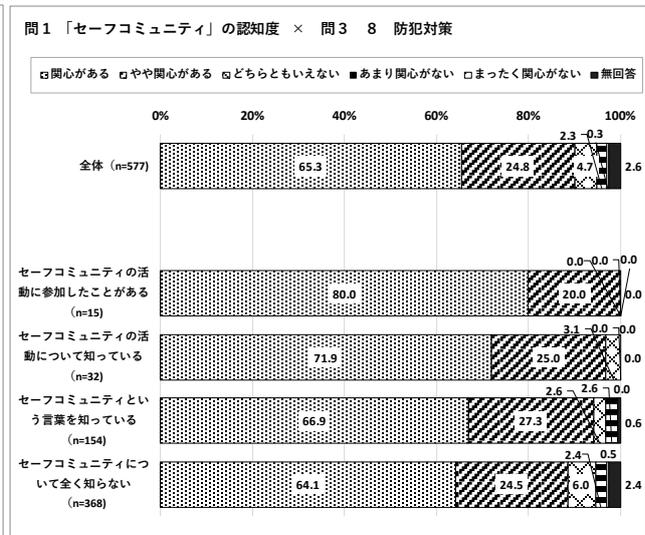
6 災害への備え



7 自殺予防対策



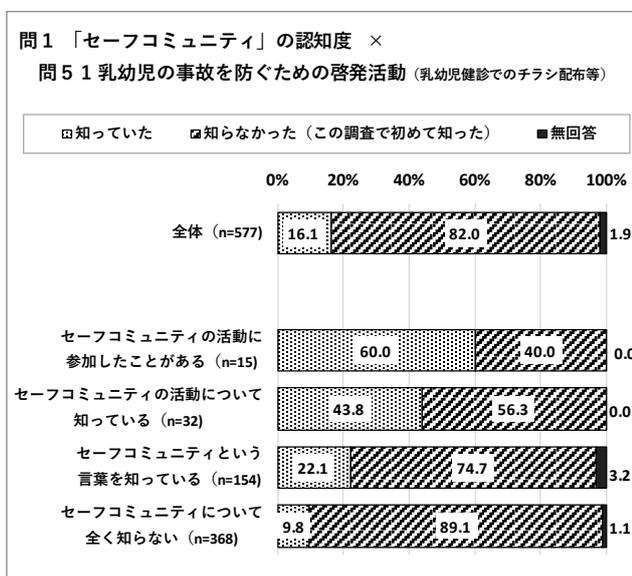
8 防犯対策



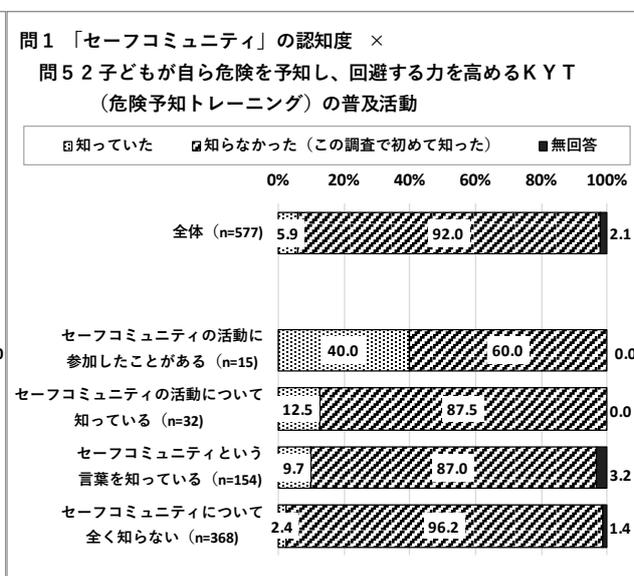
【「セーフコミュニティ」の認知度： 具体的な取組の認知度別】

- ・どの取組でもセーフコミュニティの活動に「参加したことがある」「知っている」方ほど「知っている」の割合が高くなる傾向がある。
- ・「子どもの登下校の見守りの推進」「子ども 110 番の家の登録の推進」「運動不足解消のためのウォーキングの推奨」「地域防災拠点等での実践的な訓練の推進」では、セーフコミュニティの活動の認知度に関わらず具体的な取組として認知されている割合が高くなっている。

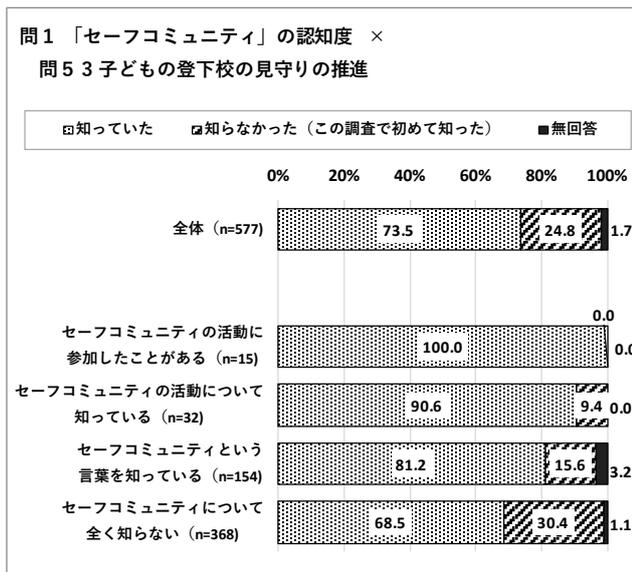
1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動
(乳幼児健診でのチラシ配布等)



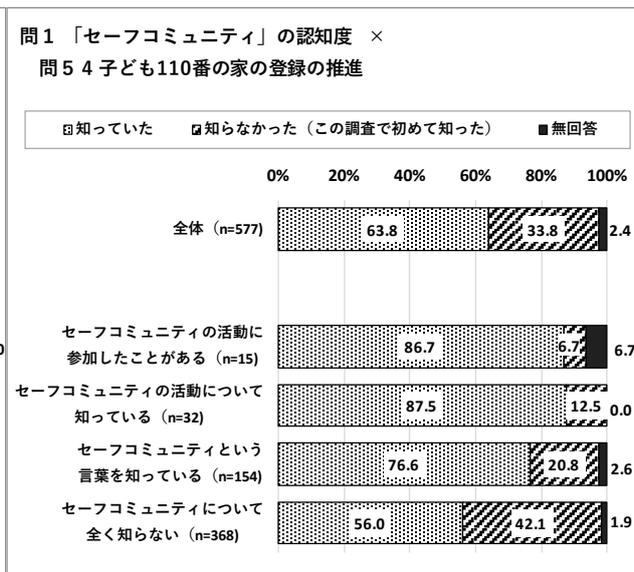
2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高める
K Y T (危険予知トレーニング) の普及活動



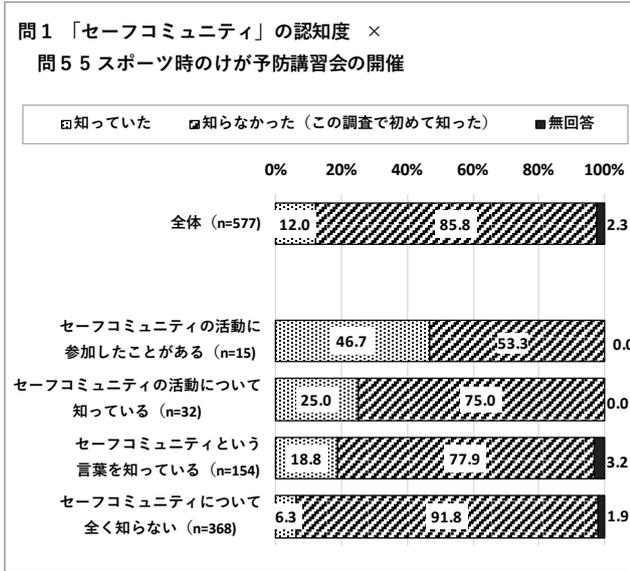
3 子どもの登下校の見守りの推進



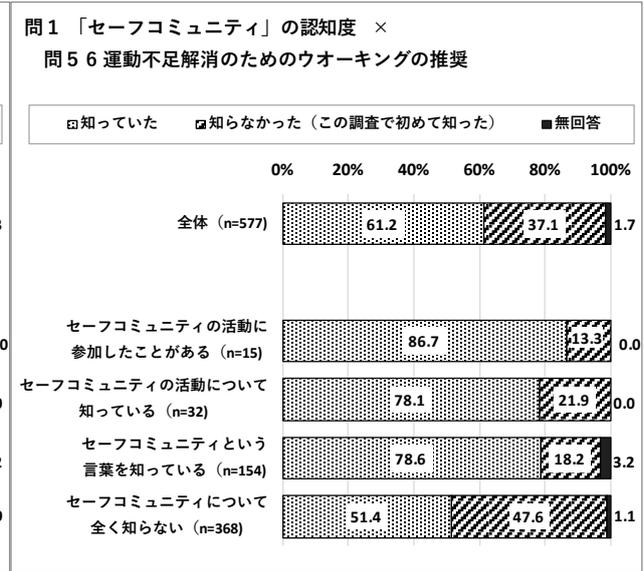
4 子ども 110 番の家の登録の推進



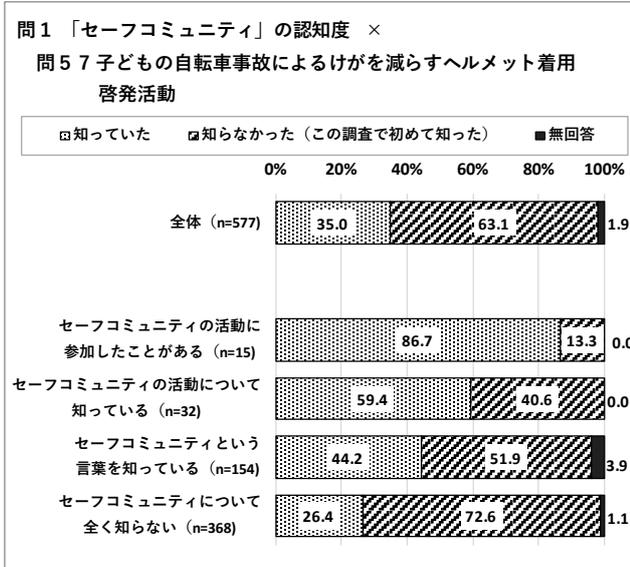
5 スポーツ時のけが予防講習会の開催



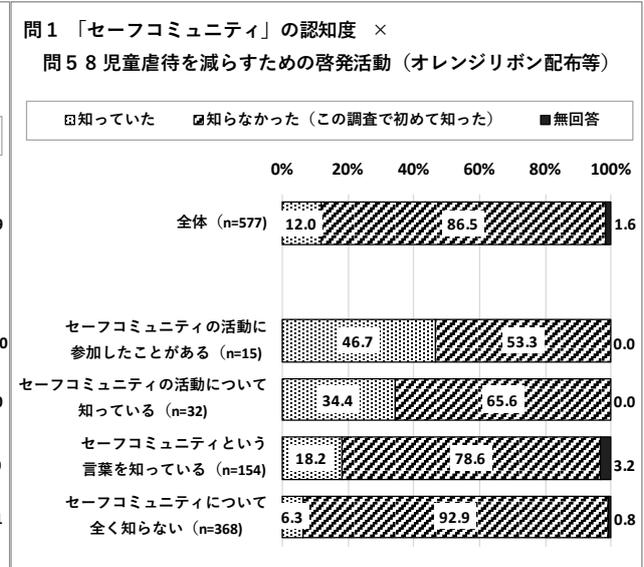
6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨



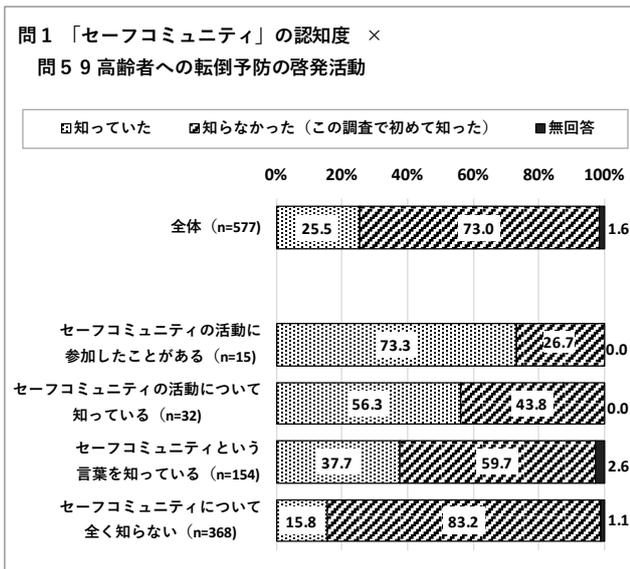
7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動



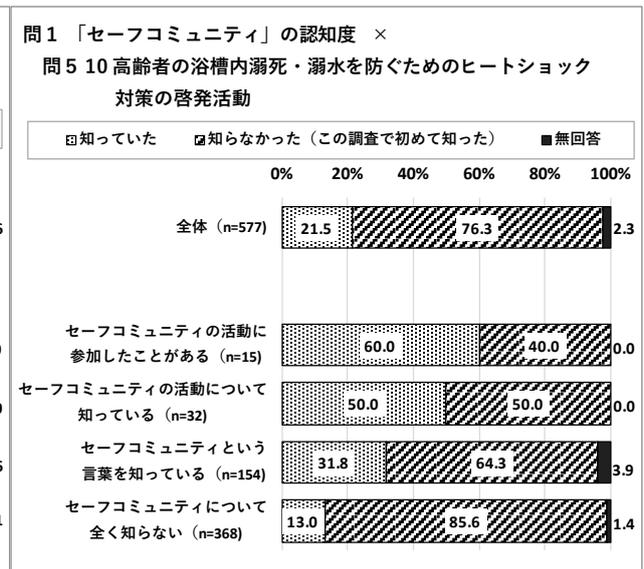
8 児童虐待を減らすための啓発活動 (オレンジリボン配布等)



9 高齢者への転倒予防の啓発活動

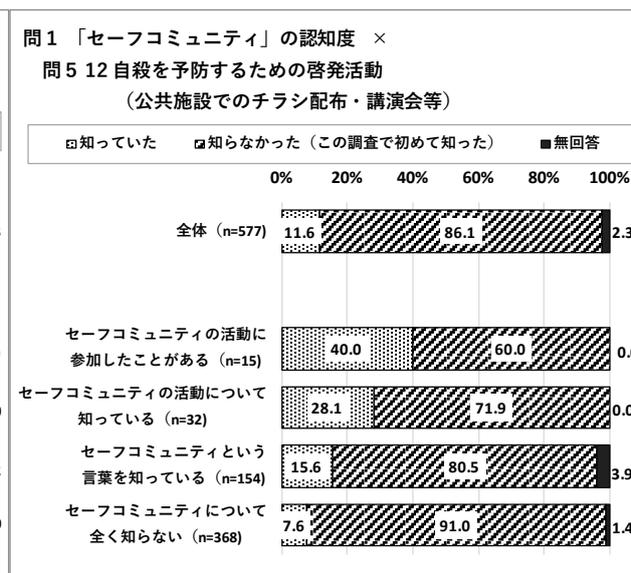
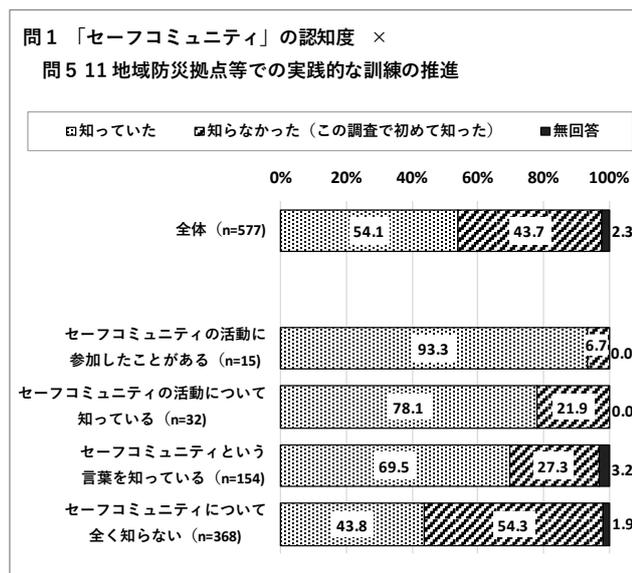


10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動



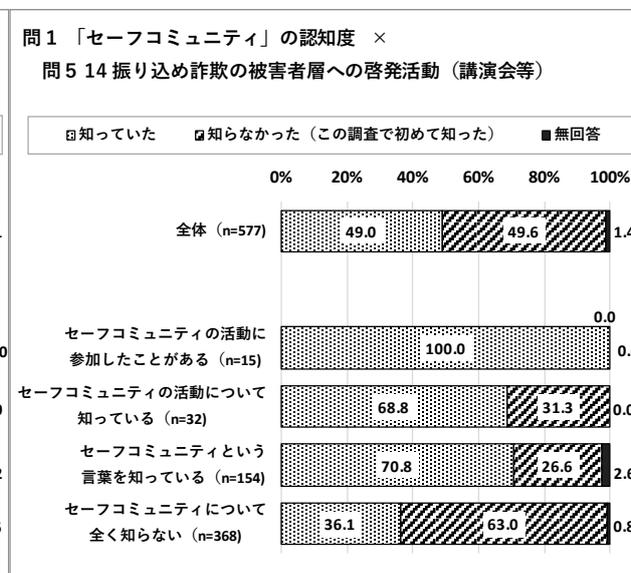
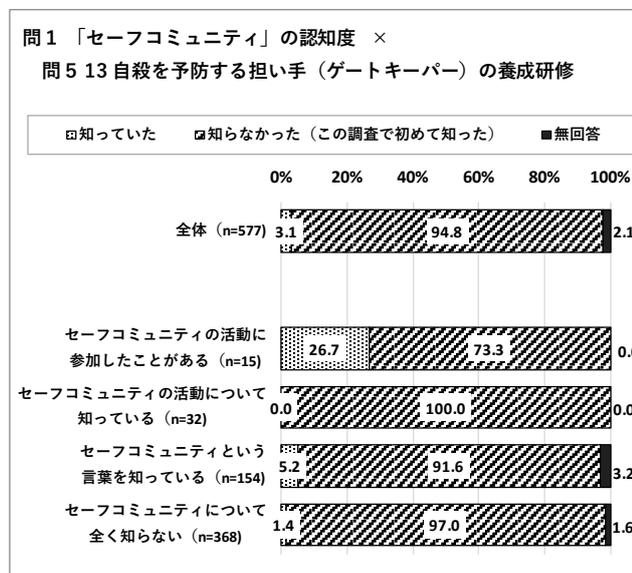
11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進

12 自殺を予防するための啓発活動 (公共施設でのチラシ配布・講演会等)



13 自殺を予防する担い手 (ゲートキーパー) の養成研修

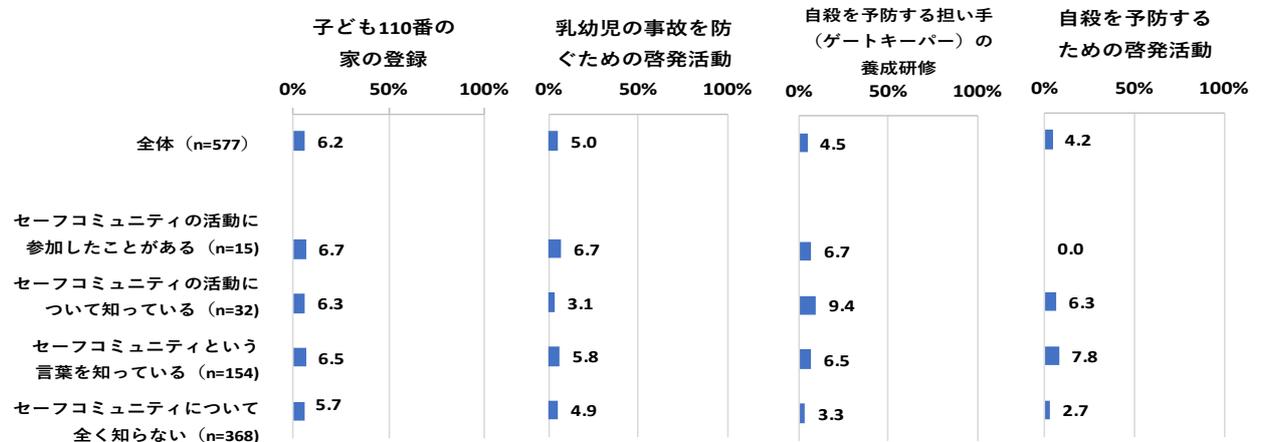
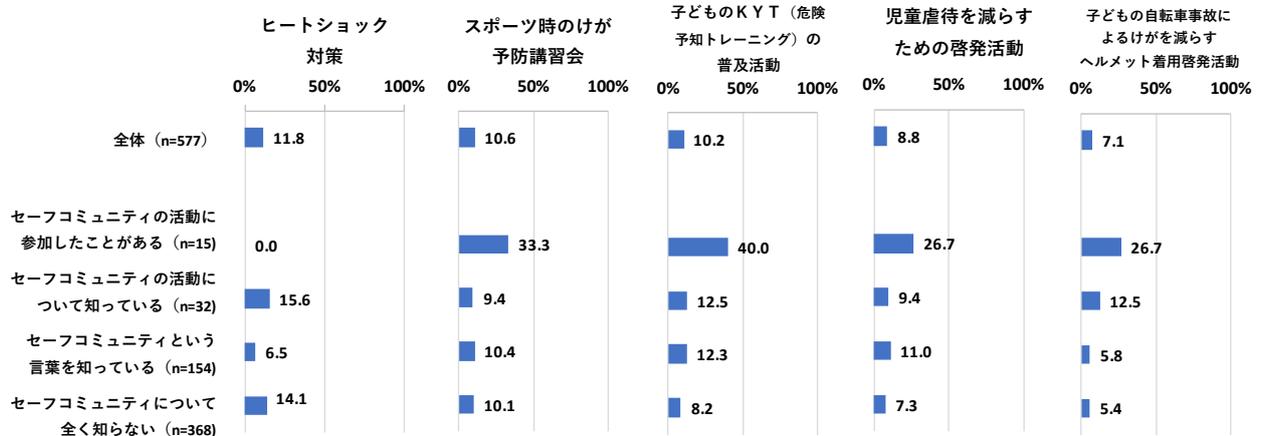
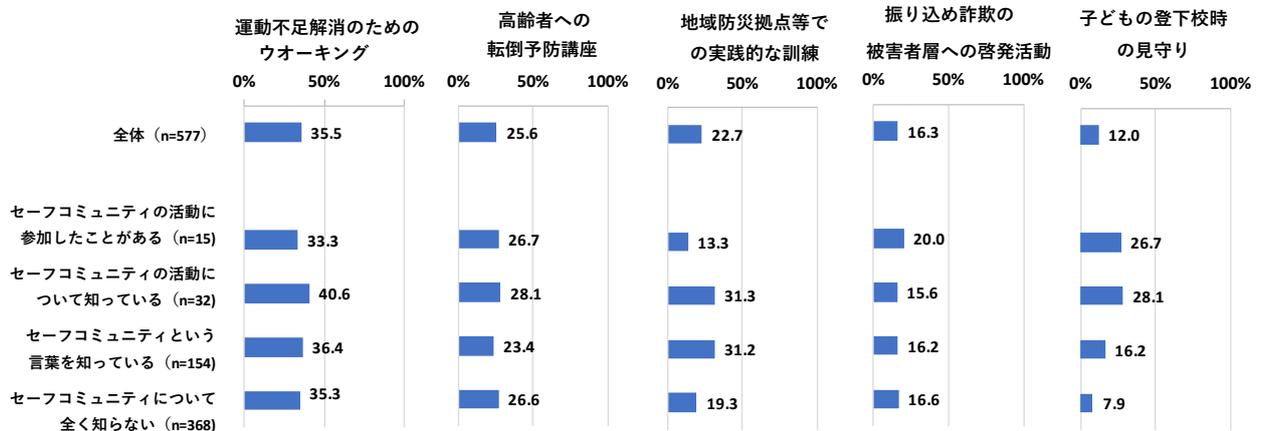
14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 (講演会等)



III 集計分析結果

【「セーフコミュニティ」の認知度： 今後参加したい取組別】

- ・「セーフコミュニティの活動に参加したことがある」方は「スポーツ時のけが予防講習会」「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を挙げる傾向がある。
- ・「セーフコミュニティについて全く知らない」方は「運動不足解消のためのウオーキング」「高齢者への転倒予防講座」「地域防災拠点等での実践的な訓練」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」「子どもの登下校時の見守り」を挙げる傾向がある。

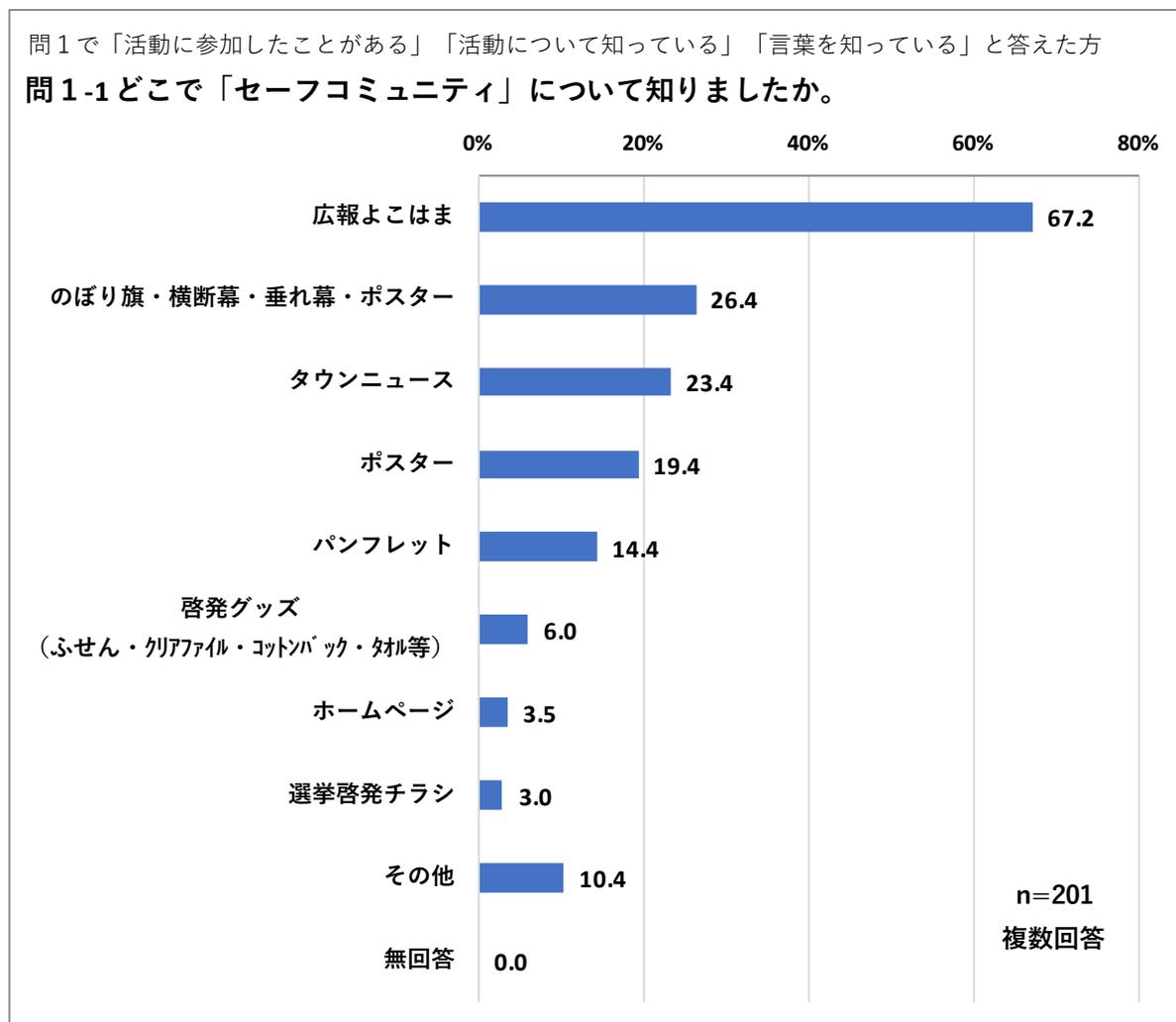


(1) -1 「セーフコミュニティ」を知った媒体

【「セーフコミュニティ」を知った媒体】

<全体>

- ・「広報よこはま」が67.2%で最も多く、「のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター」(26.4%)、「タウンニュース」(23.4%)、ポスター(19.4%)の順で続く。



問1-1 どこで「セーフコミュニティ」について知りましたか (その他記述)【19件】		
市・区・町内会の会議	6	関係者
テレビ	2	認証導入時
新聞記事	1	再認証記念式典
インターネット	1	区民祭
自治会ニュース	1	絵画コンクール
友人(隣人)	1	ロゴマークを使用
職場	1	

III 集計分析結果

【「セーフコミュニティ」を知った媒体： 属性別 】上位4項目

<性別>

・「男性」より「女性」の方が「広報よこはま」では15.0ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」で「のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター」の割合が全体より40.3ポイント、「ポスター」の割合が30.6ポイント高い。また、年齢が上がるほど「広報よこはま」による認知の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

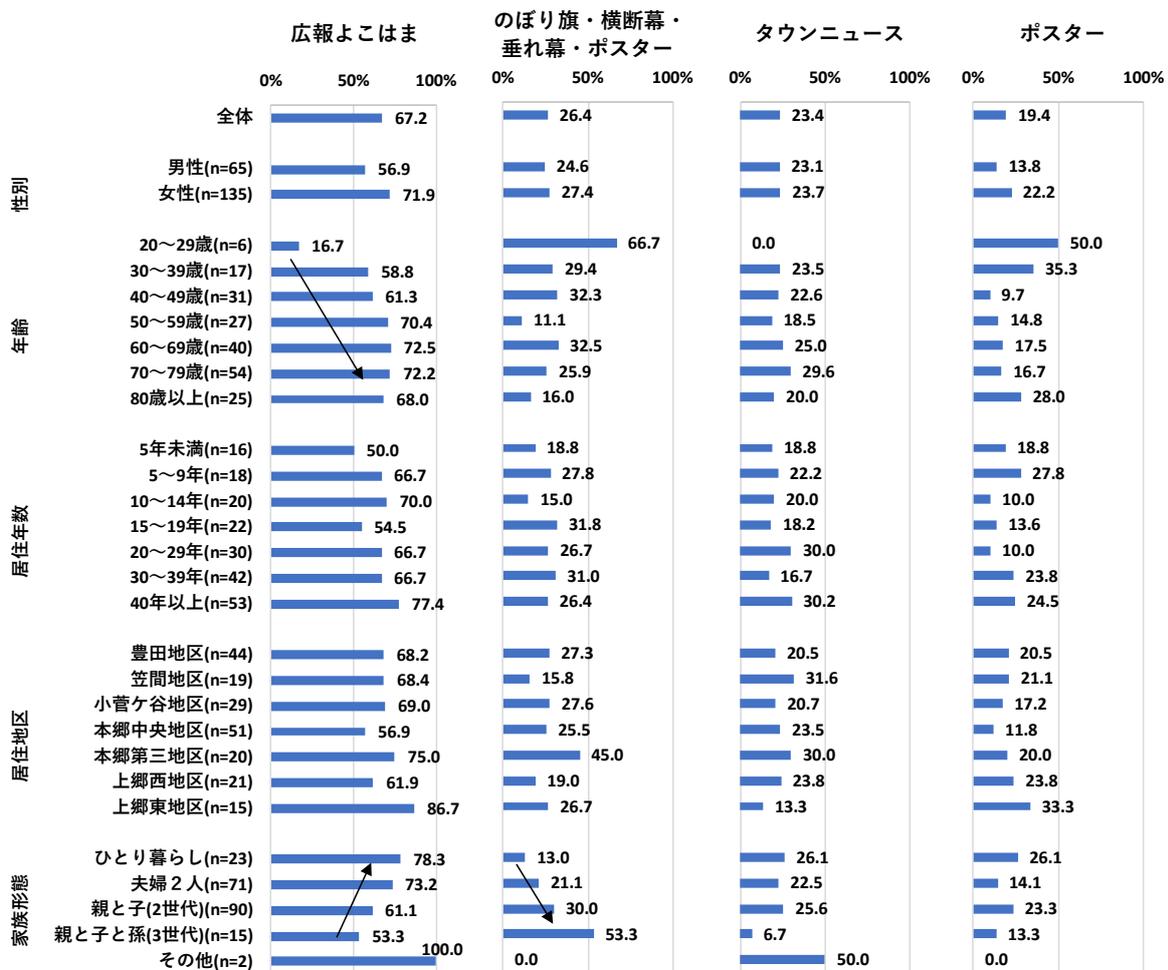
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」で「のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター」の割合が、「上郷東地区」で「広報よこはま」の割合が、全体より15ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族構成の数が多いほど「のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター」の割合が高く、家族構成の数が少ないほど「広報よこはま」の割合高い傾向が見られる。



(2) 安全・安心への実感

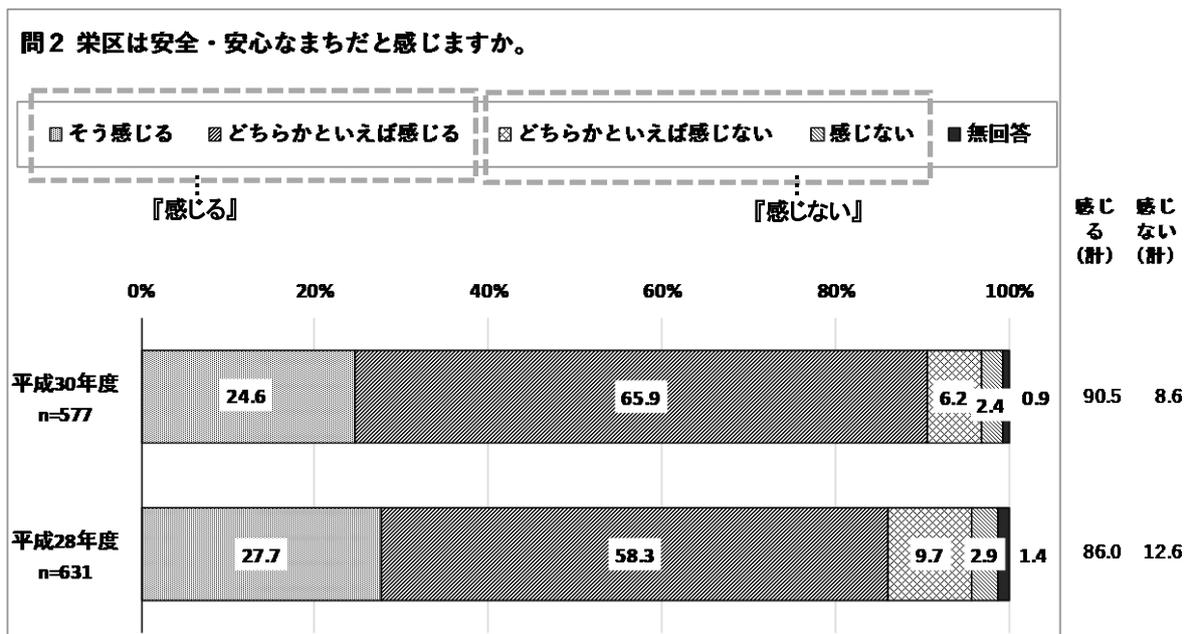
【安全・安心への実感】

<全 体>

・「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『感じる』方が90.5%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『感じない』方が8.6%となっており、約9割の区民が安全・安心なまちだと感じている。

<平成28年度調査と比較>

・平成28年度調査と比較して、『感じる』割合は4.5ポイント増加し、『感じない』割合は3.9ポイント減少し、安全・安心なまちだと感じる区民が微増している。



【安全・安心への実感： 属性別】

＜性別＞

・「女性」より「男性」の方が「そう感じる」の割合が4.3ポイント高い。

＜年齢別＞

・「80歳以上」で「そう感じる」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

＜居住年数別＞

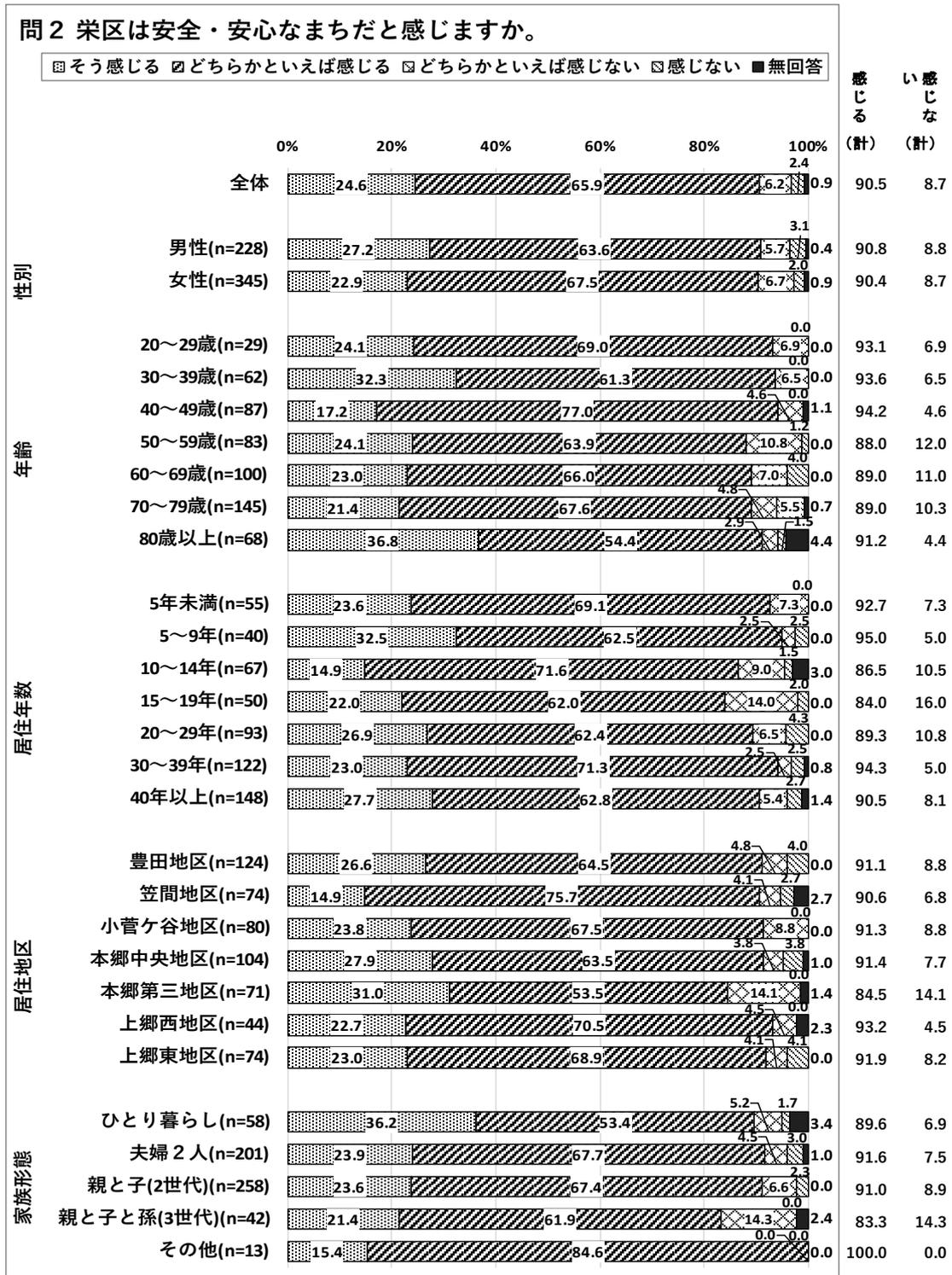
・「5～9年」で「そう感じる」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

＜居住地区別＞

・「本郷第三地区」で「そう感じる」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

＜家族形態別＞

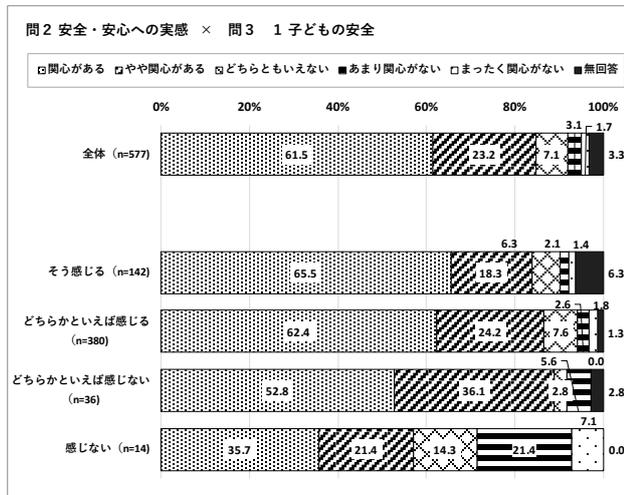
・「ひとり暮らし」で「そう感じる」の割合が、全体より10ポイント以上高い。



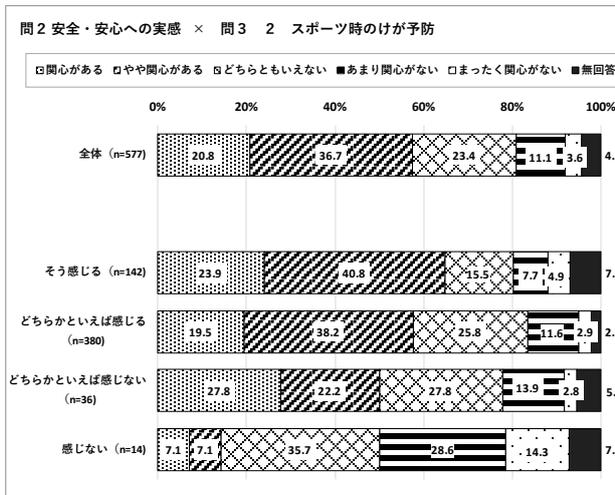
【安全・安心への実感： 重点課題の関心度合別】

・安全・安心への実感がある区民ほど重点課題の関心度は高い傾向が見られるが、「自殺予防対策」では、安全・安心への実感を「感じない」方の「関心がある」割合が全体より10ポイント以上高くなっている。

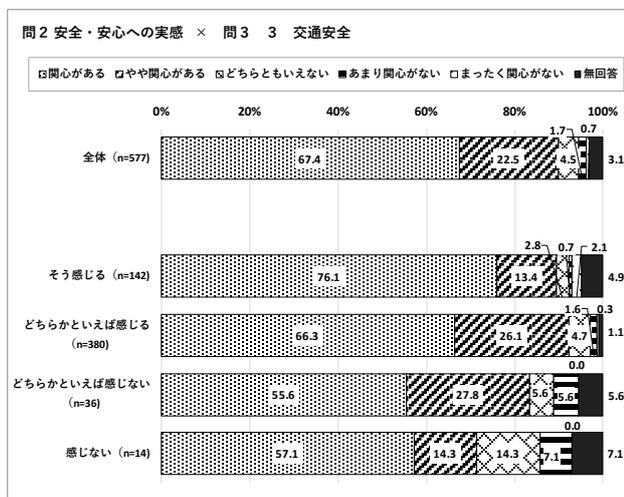
1 子どもの安全



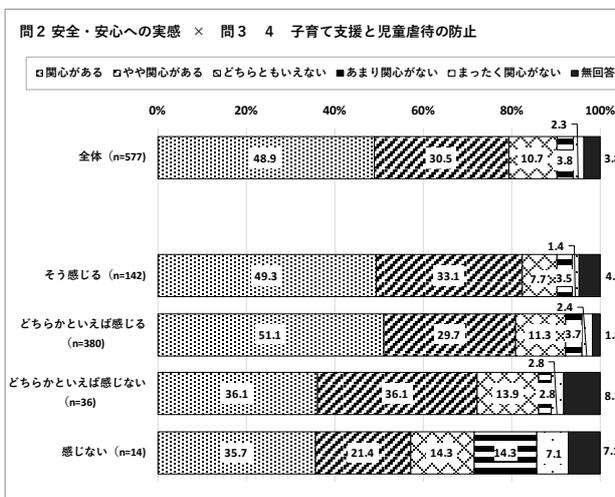
2 スポーツ時のけが予防



3 交通安全

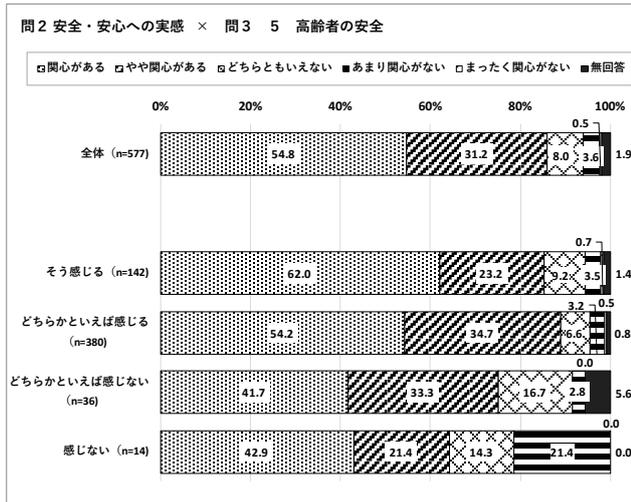


4 子育て支援と児童虐待の防止

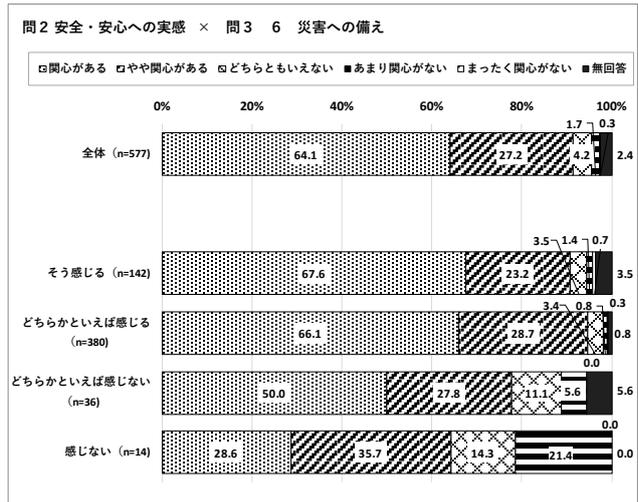


III 集計分析結果

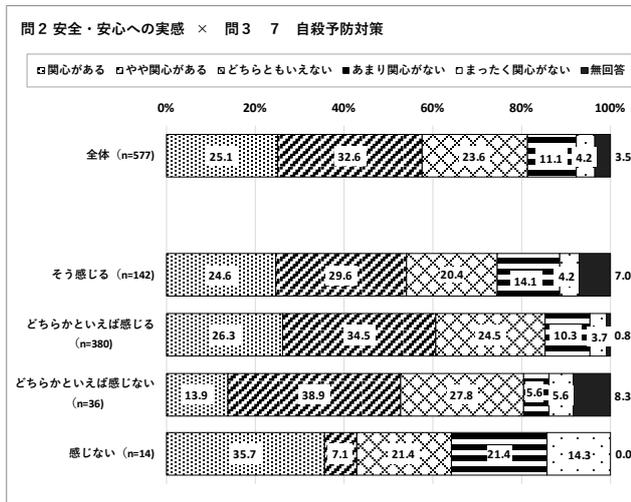
5 高齢者の安全



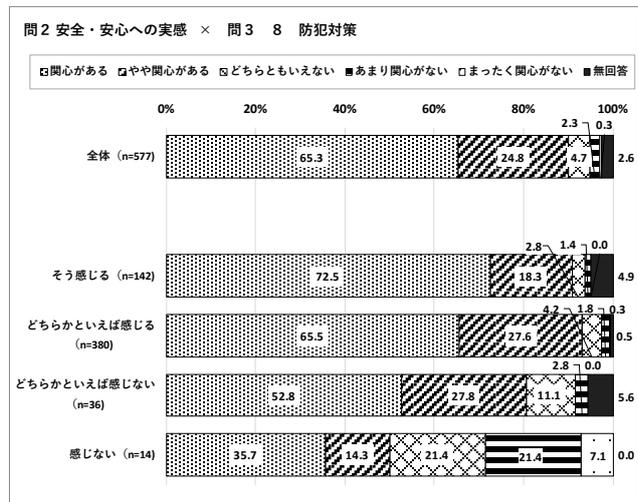
6 災害への備え



7 自殺予防対策



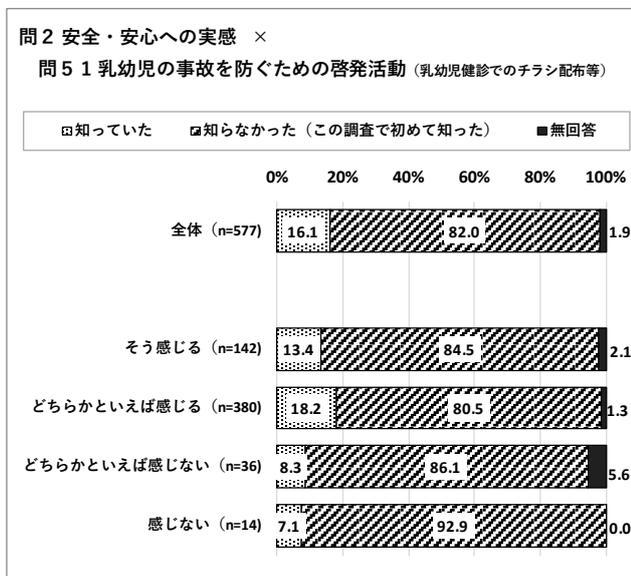
8 防犯対策



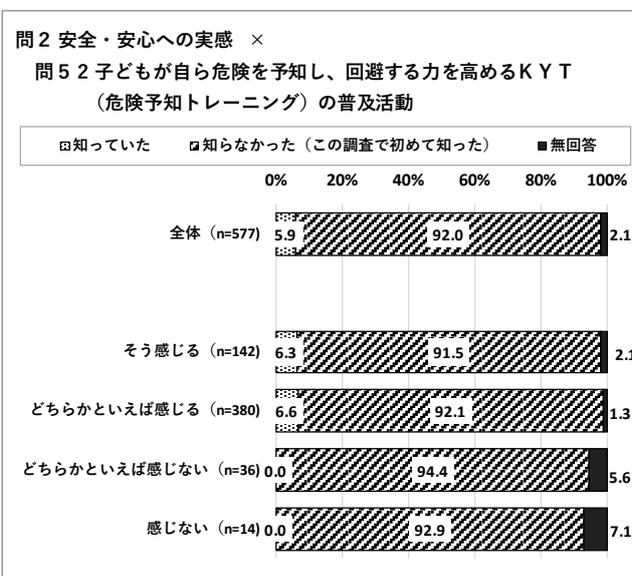
【安全・安心への実感： 具体的な取組の認知度別】

・安全・安心への実感がある区民ほど具体的な取組の認知度は高い傾向が見られるが、「スポーツ時のけが予防講習会の開催」「子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動」「高齢者への転倒予防の啓発活動」では、安全・安心への実感を「感じない」方が、具体的な取組を「知っていた」割合が全体より5ポイント以上高くなっている。

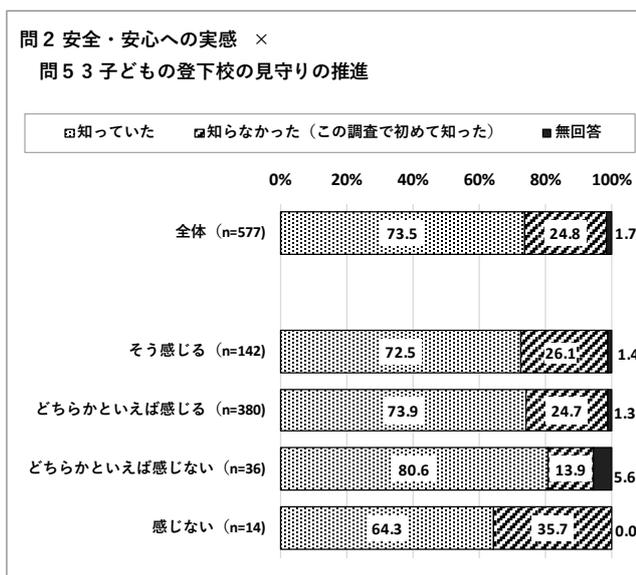
**1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動
(乳幼児健診でのチラシ配布等)**



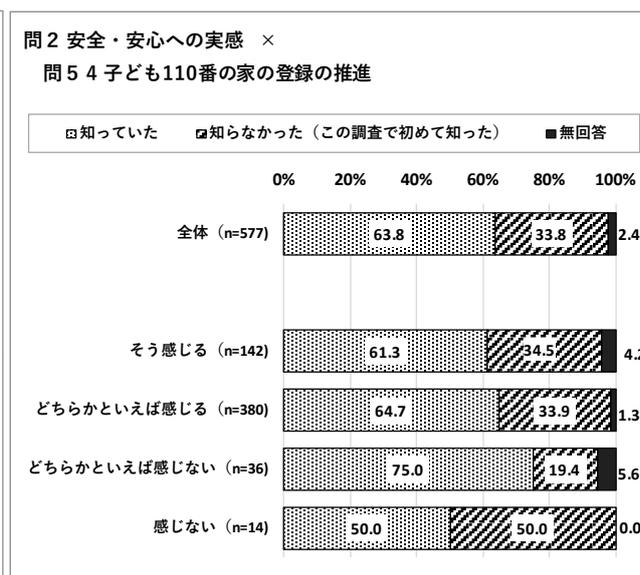
**2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高める
KYT (危険予知トレーニング) の普及活動**



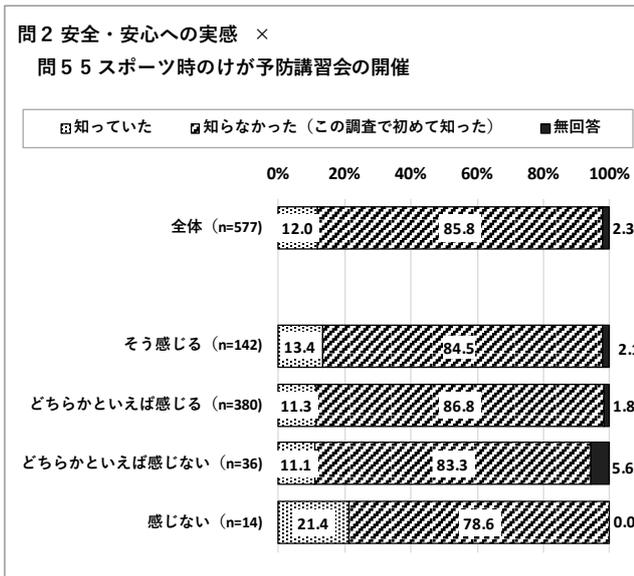
3 子どもの登下校の見守りの推進



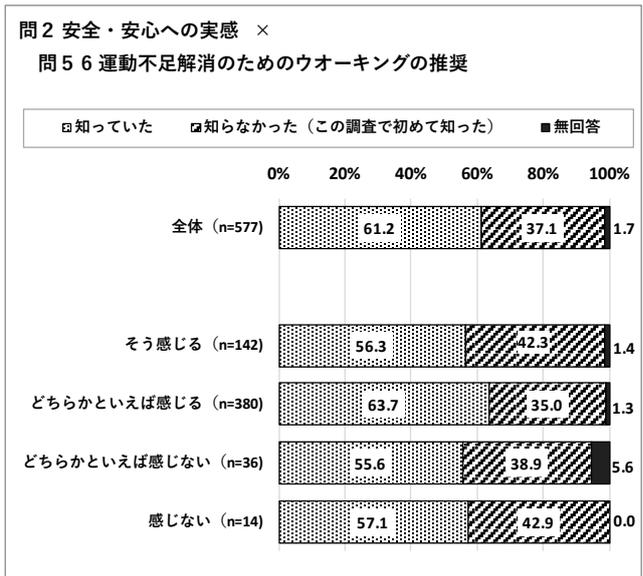
4 子ども110番の家の登録の推進



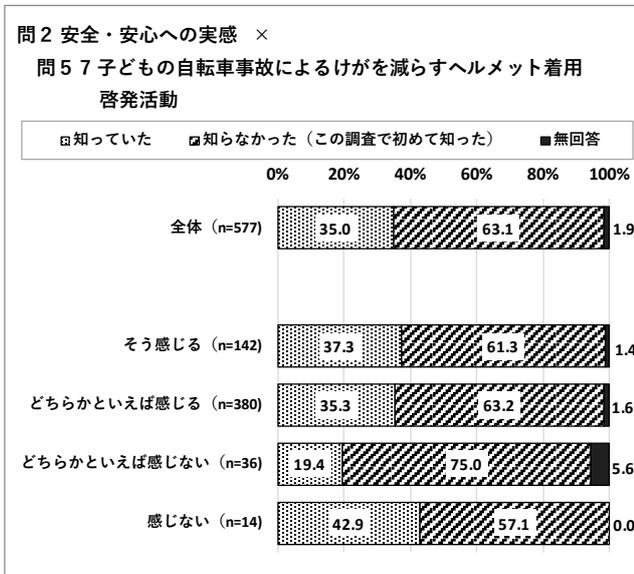
5 スポーツ時のけが予防講習会の開催



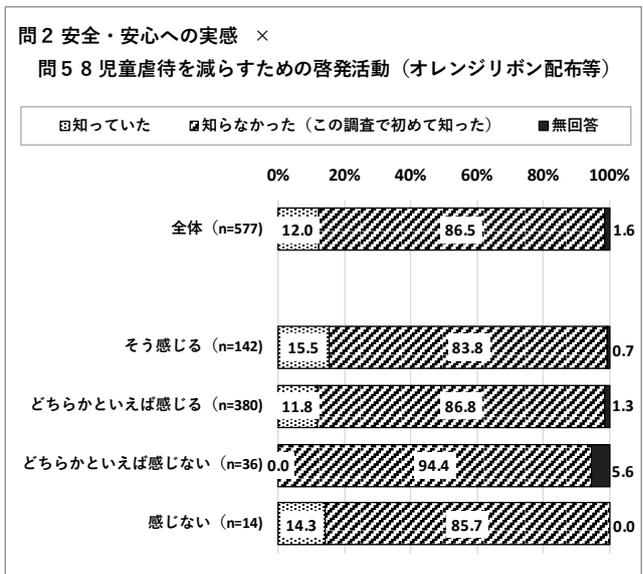
6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨



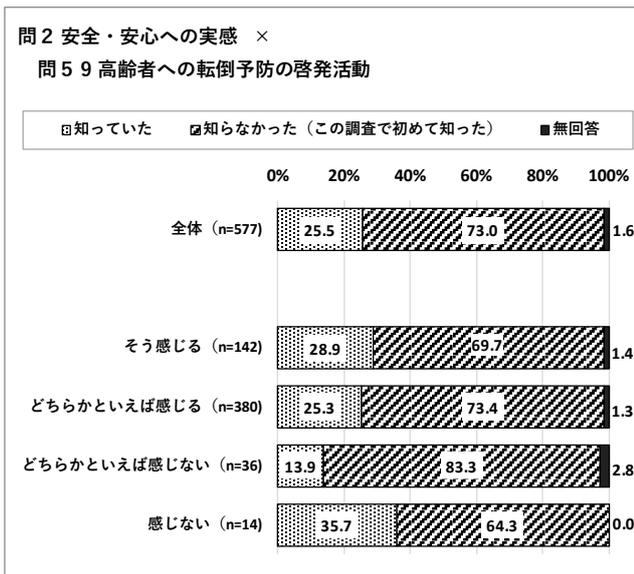
7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動



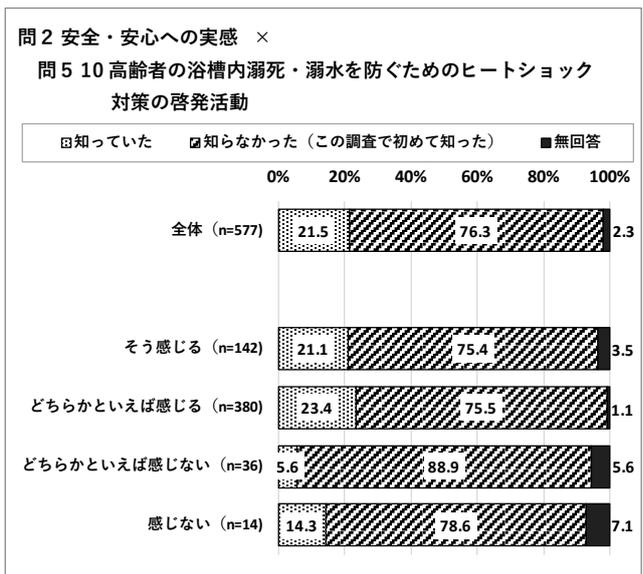
8 児童虐待を減らすための啓発活動 (オレンジリボン配布等)



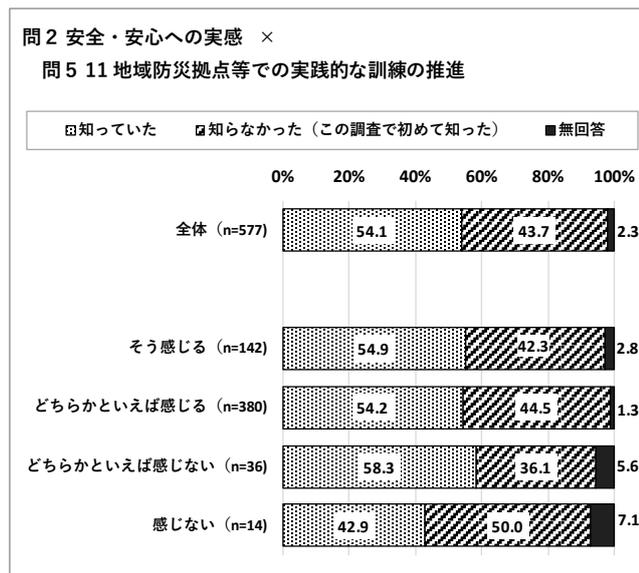
9 高齢者への転倒予防の啓発活動



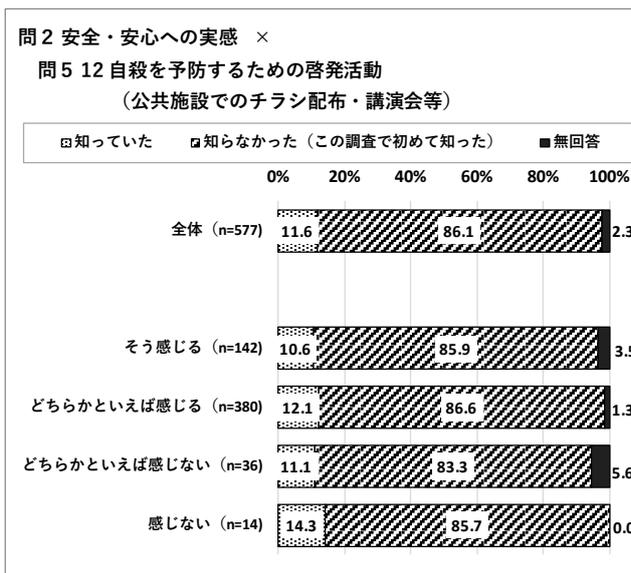
10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動



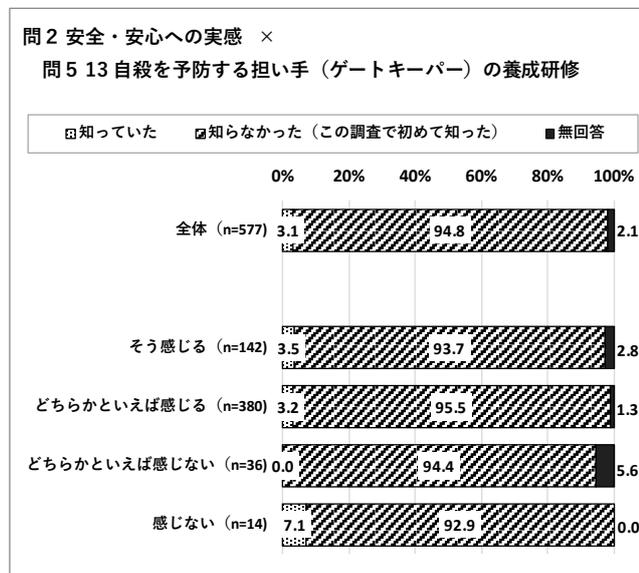
11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進



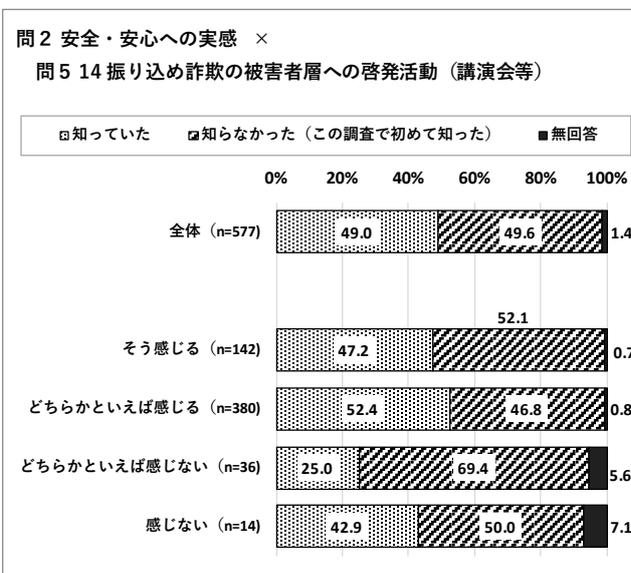
12 自殺を予防するための啓発活動
(公共施設でのチラシ配布・講演会等)



13 自殺を予防する担い手 (ゲートキーパー) の養成研修



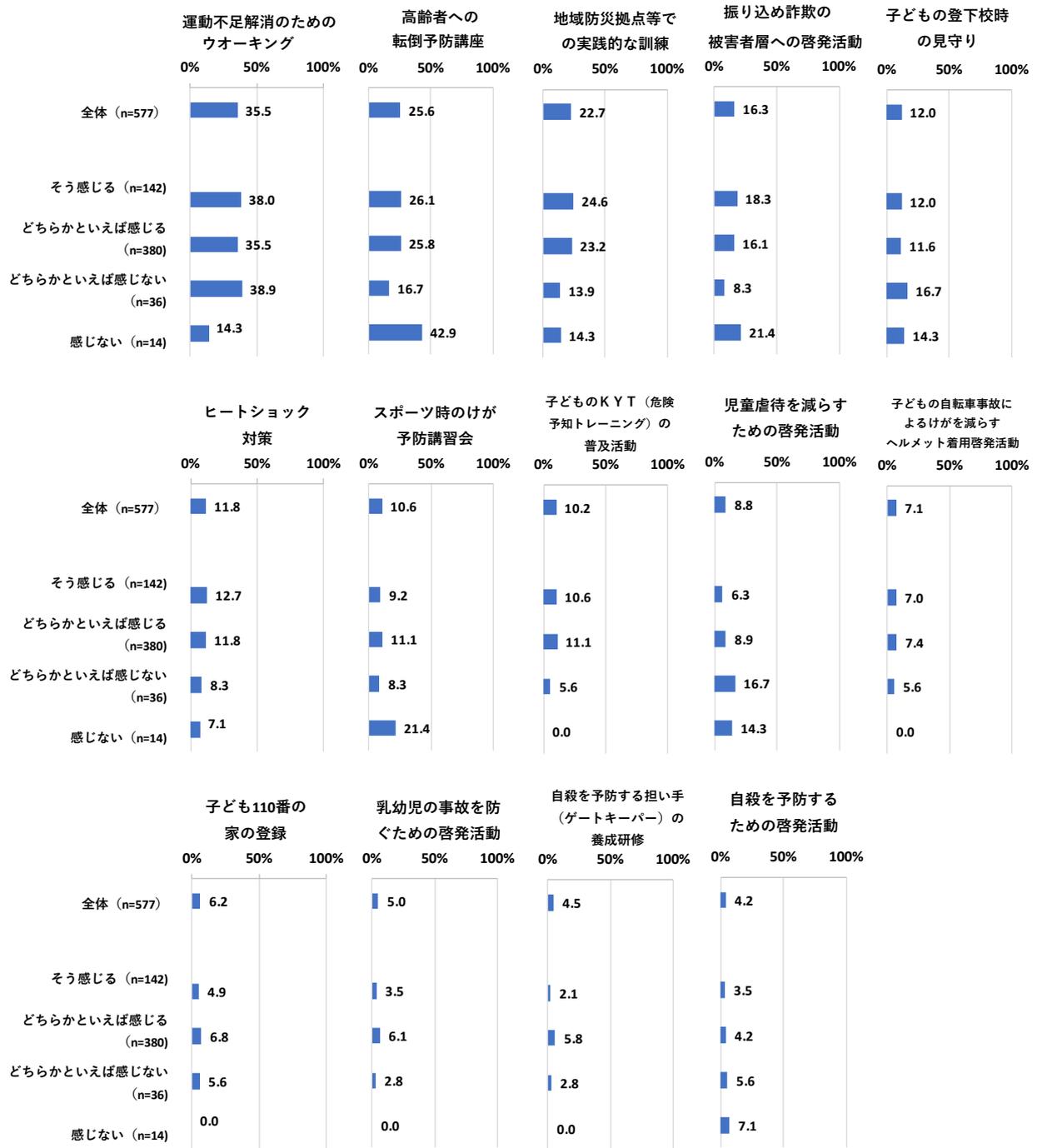
14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 (講演会等)



III 集計分析結果

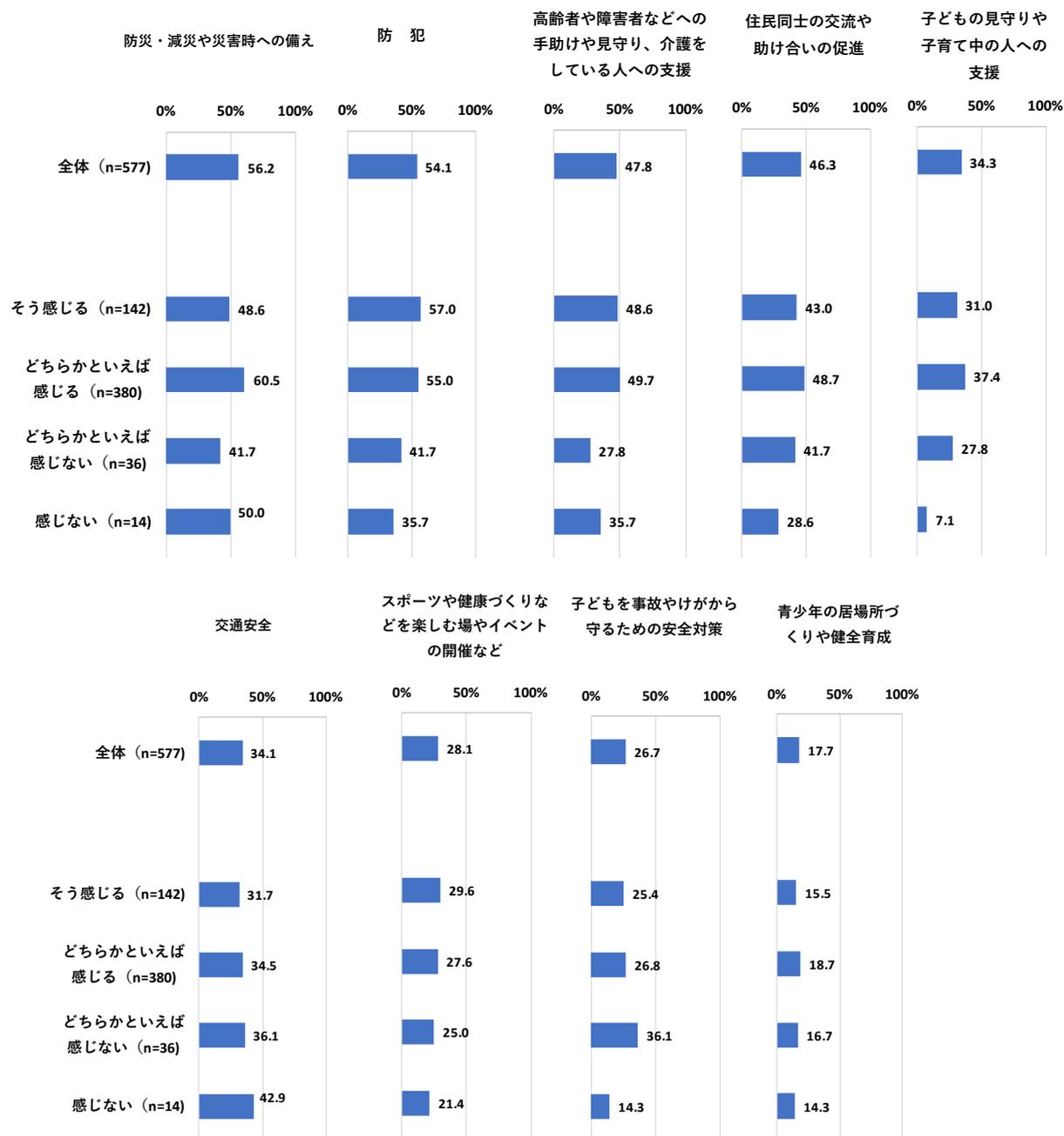
【安全・安心への実感： 今後参加したい取組別】

・安全・安心への実感が高い方は「地域防災拠点等での実践的な訓練」を、安全・安心への実感を「感じない」方は「高齢者への転倒予防講座」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」「スポーツ時のけが予防講習会」「児童虐待を減らすための啓発活動」を今後参加したい取組として挙げる割合が高い傾向が見られる。



【安全・安心への実感： 地域で取り組むべき課題別】

・安全・安心への実感が高い方は「防犯」「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」「子どもの見守りや子育て中の人への支援」を、安全・安心への実感を「感じない」方は「交通安全」を地域で取り組むべき課題として挙げる割合が高い傾向が見られる。

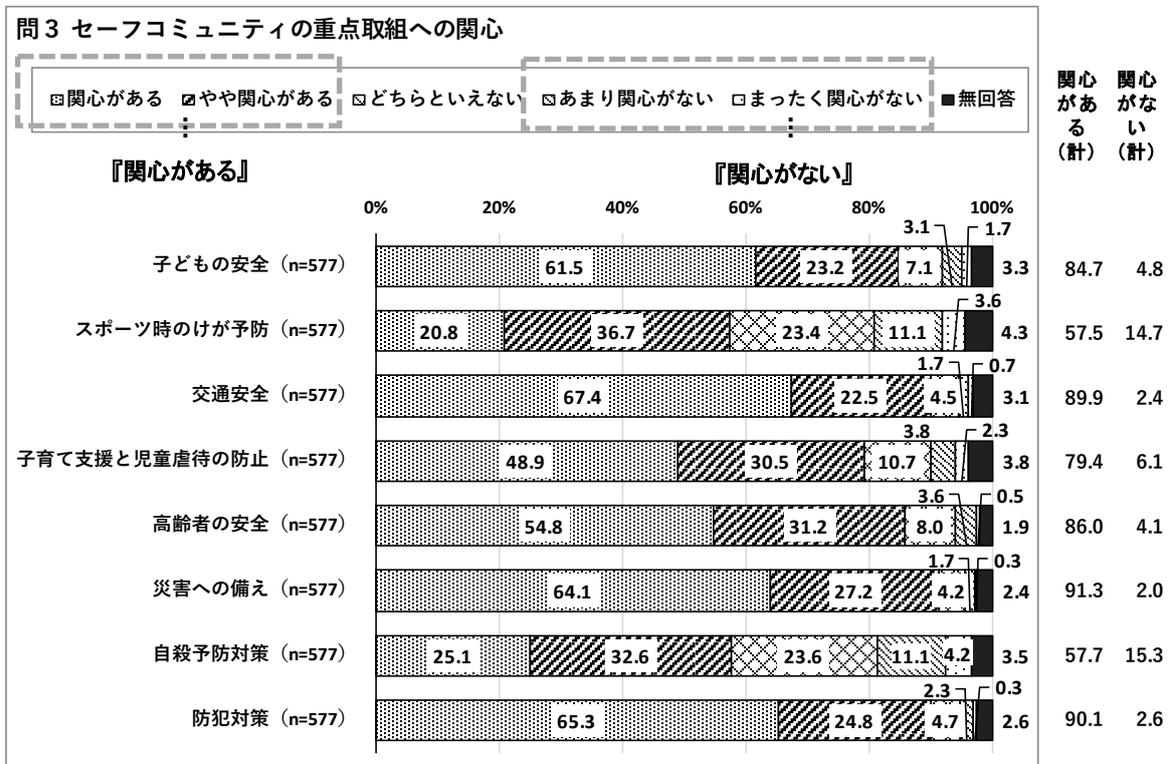


(3) セーフコミュニティの重点項目への関心

【セーフコミュニティの重点項目への関心】

<全体>

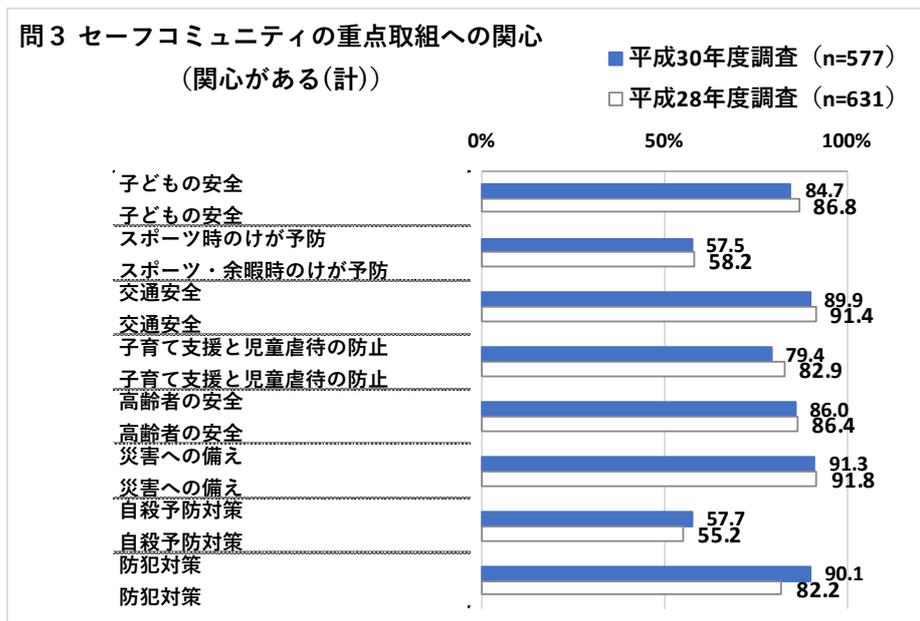
- ・「関心がある」「やや関心がある」を合わせた『関心がある』は、「災害への備え」「防犯対策」で9割以上、「子どもの安全」「交通安全」「高齢者の安全」で8割以上なのに対し、「スポーツ時のけが予防」「自殺予防対策」では6割以下となっている。
- ・全ての項目において男女別では、「男性」より「女性」の方が、「関心がある」割合が高い。中でも「子育て支援と児童虐待」「災害への備え」では、10ポイント以上高くなっている。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：時系列】

<平成28年度調査と比較>

- ・平成28年度と比較すると、『関心がある』割合は、「自殺予防対策」「防犯対策」の2項目で増加がみられる。



1 子どもの安全

【セーフコミュニティの重点項目への関心： 属性別】

<性別>

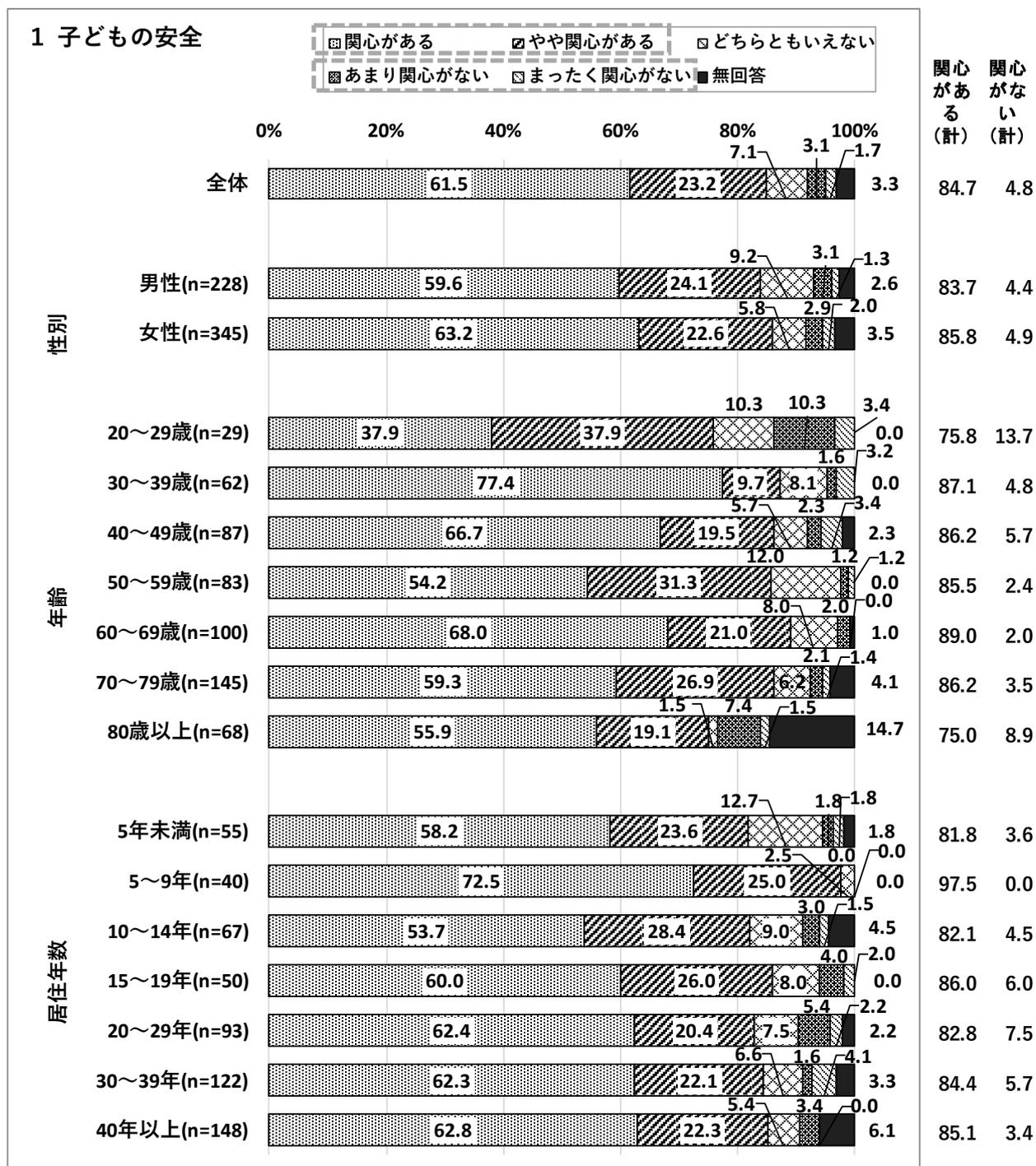
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、3.6ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

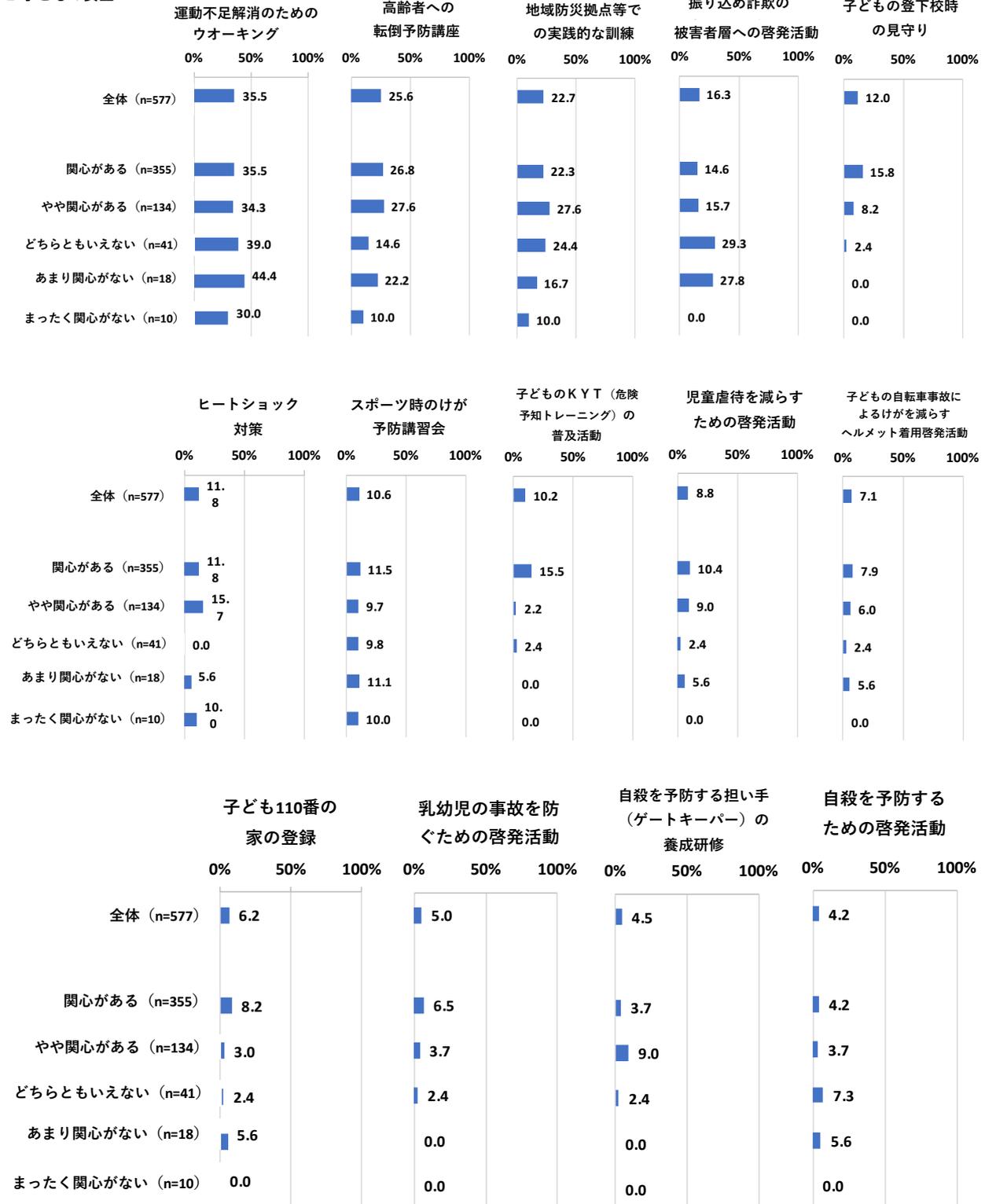


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『子どもの安全』について「関心がある」方は「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

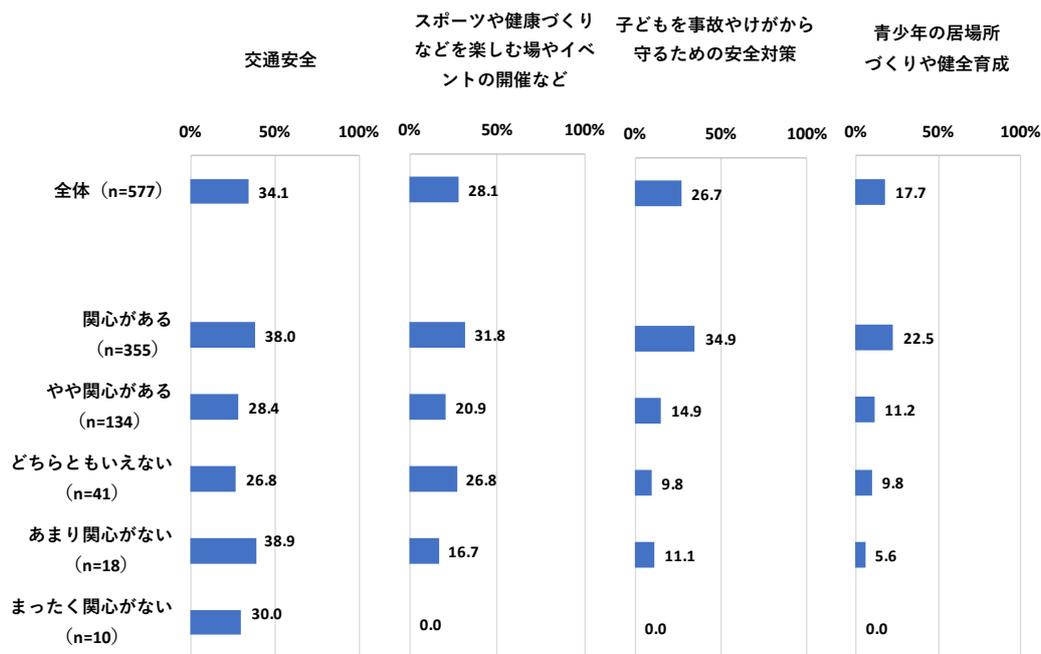
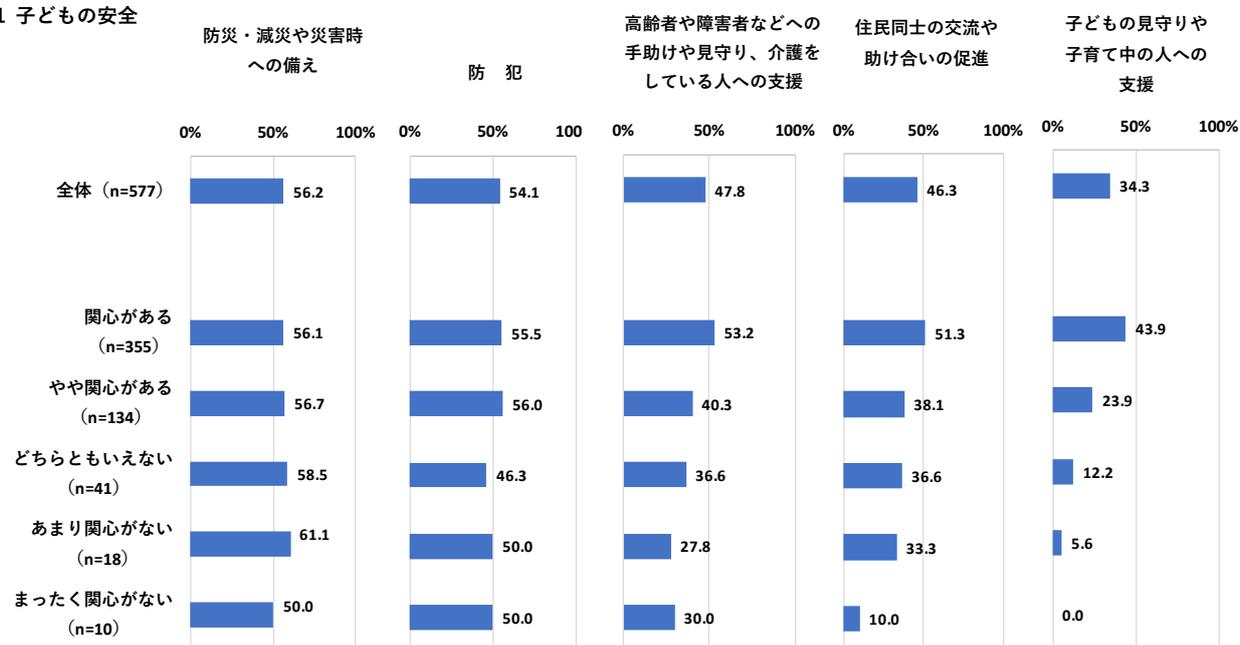
1 子どもの安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『子どもの安全』について「関心がある」方は「子どもの見守りや子育て中の人への支援」「子どもを事故やけがから守るための安全対策」「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

1 子どもの安全



2 スポーツ時のけがや予防

<性別>

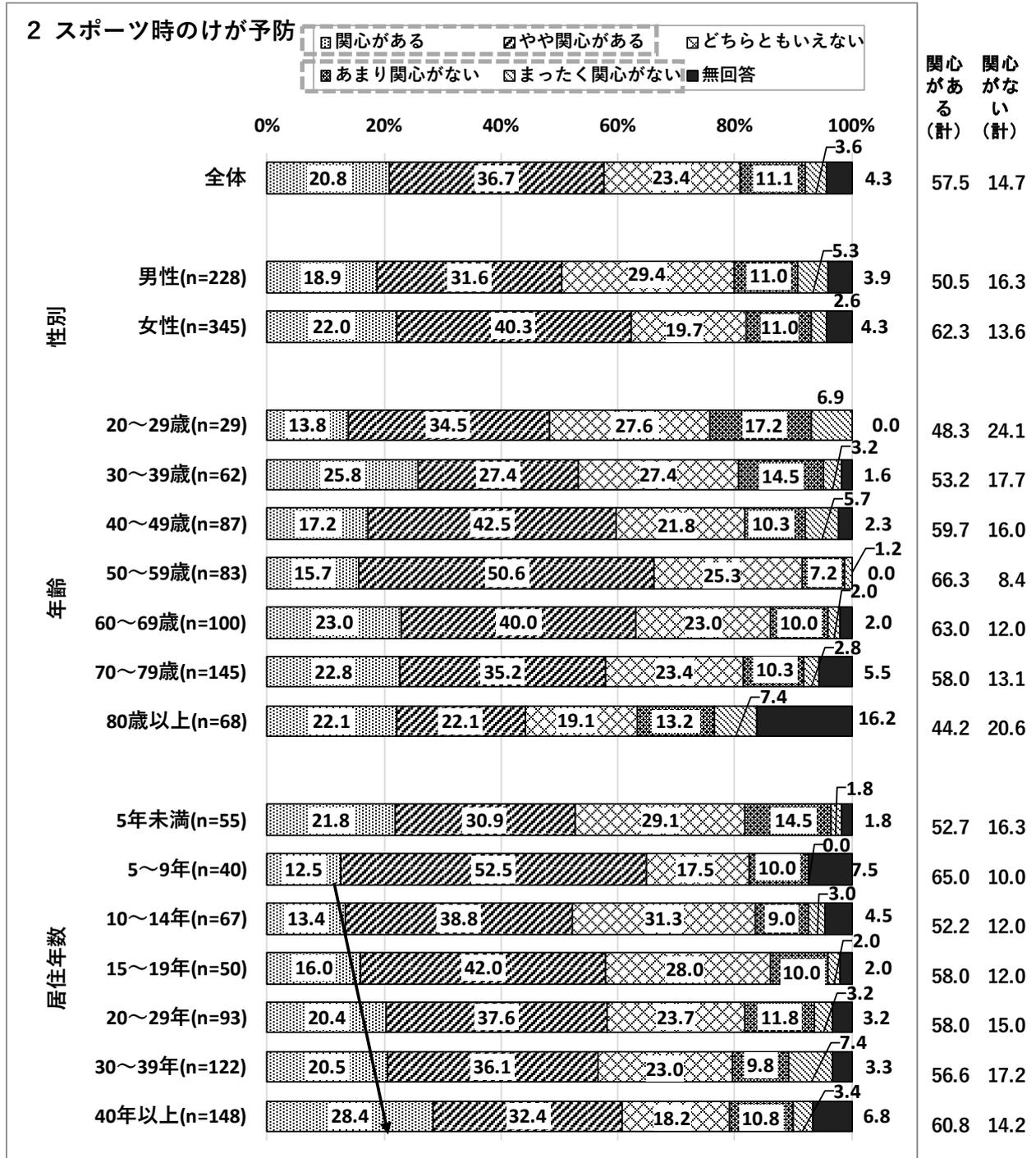
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、3.1ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

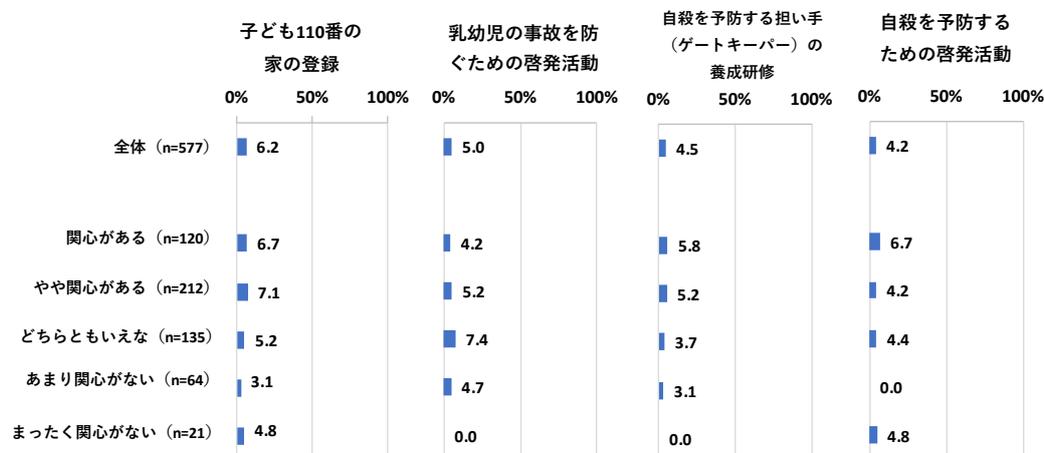
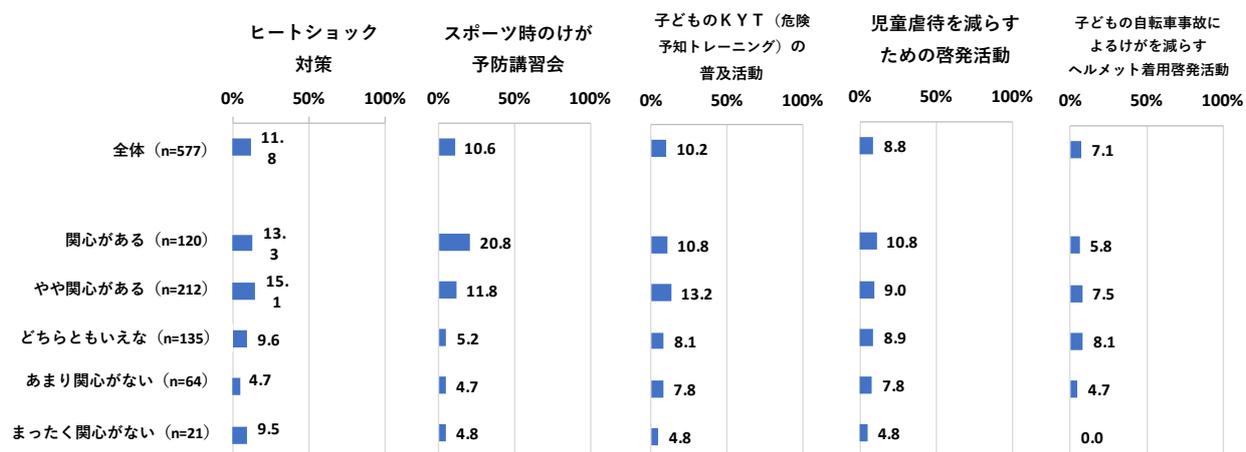
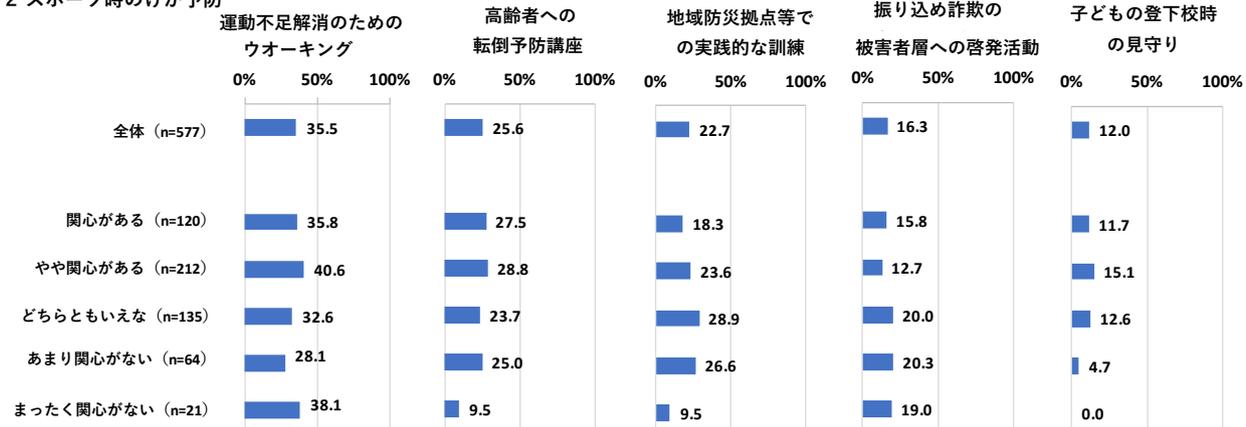
・「5年未満」を除いて「関心がある」の割合は、居住年数が長いほど高くなっている。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『スポーツ時のけがや予防』について「関心がある」方は「スポーツ時のけが予防講習会」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より10ポイント以上高い。

2 スポーツ時のけが予防

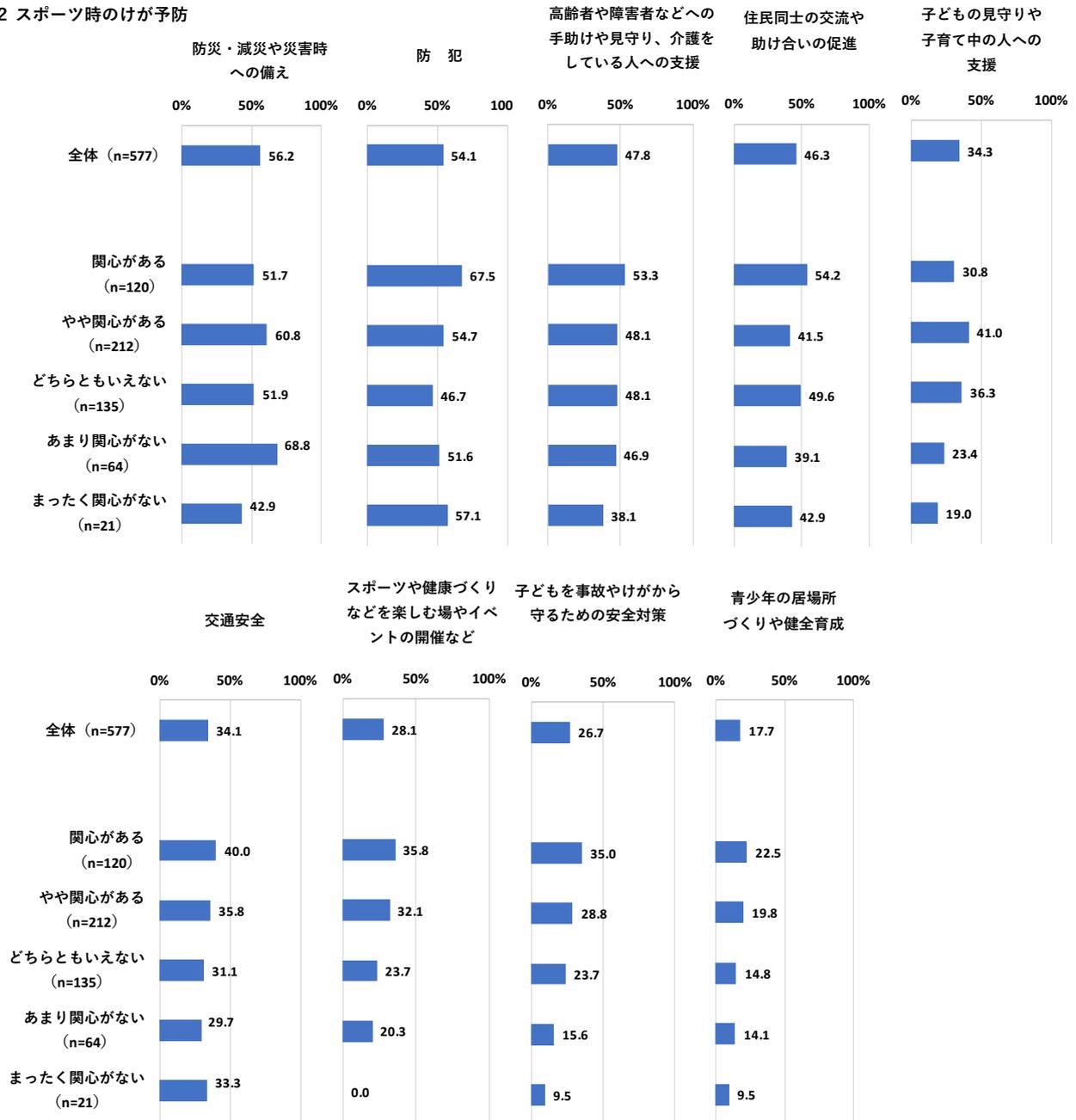


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

- ・『スポーツ時のけがや予防』について「関心がある」方は「防犯」「子どもを事故やけがから守るための安全対策」「住民同士の交流や助け合いの促進」「スポーツや健康づくりなどを楽しむ場やイベントの開催など」「交通安全」「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

2 スポーツ時のけが予防



3 交通安全

<性別>

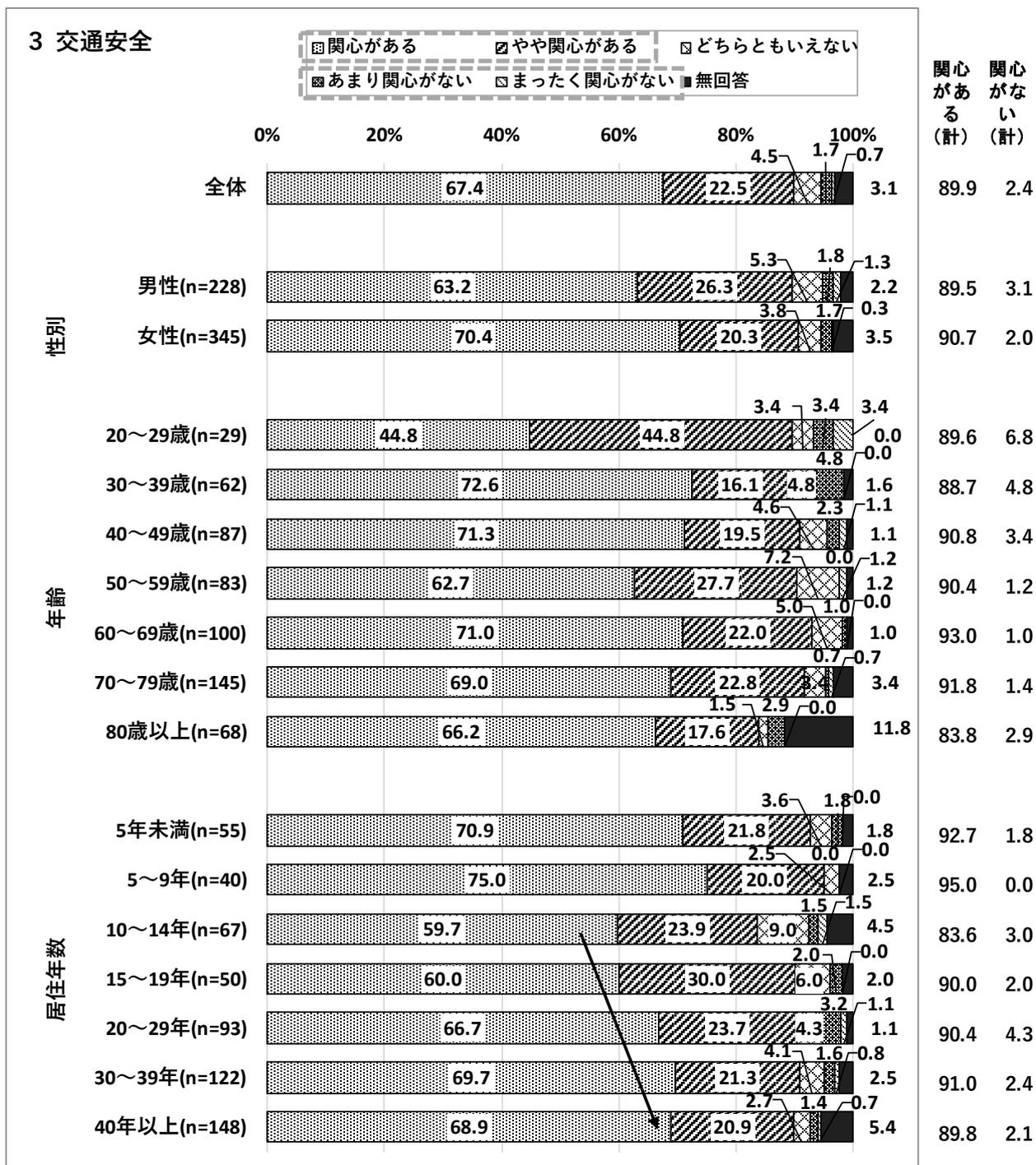
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、7.2ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

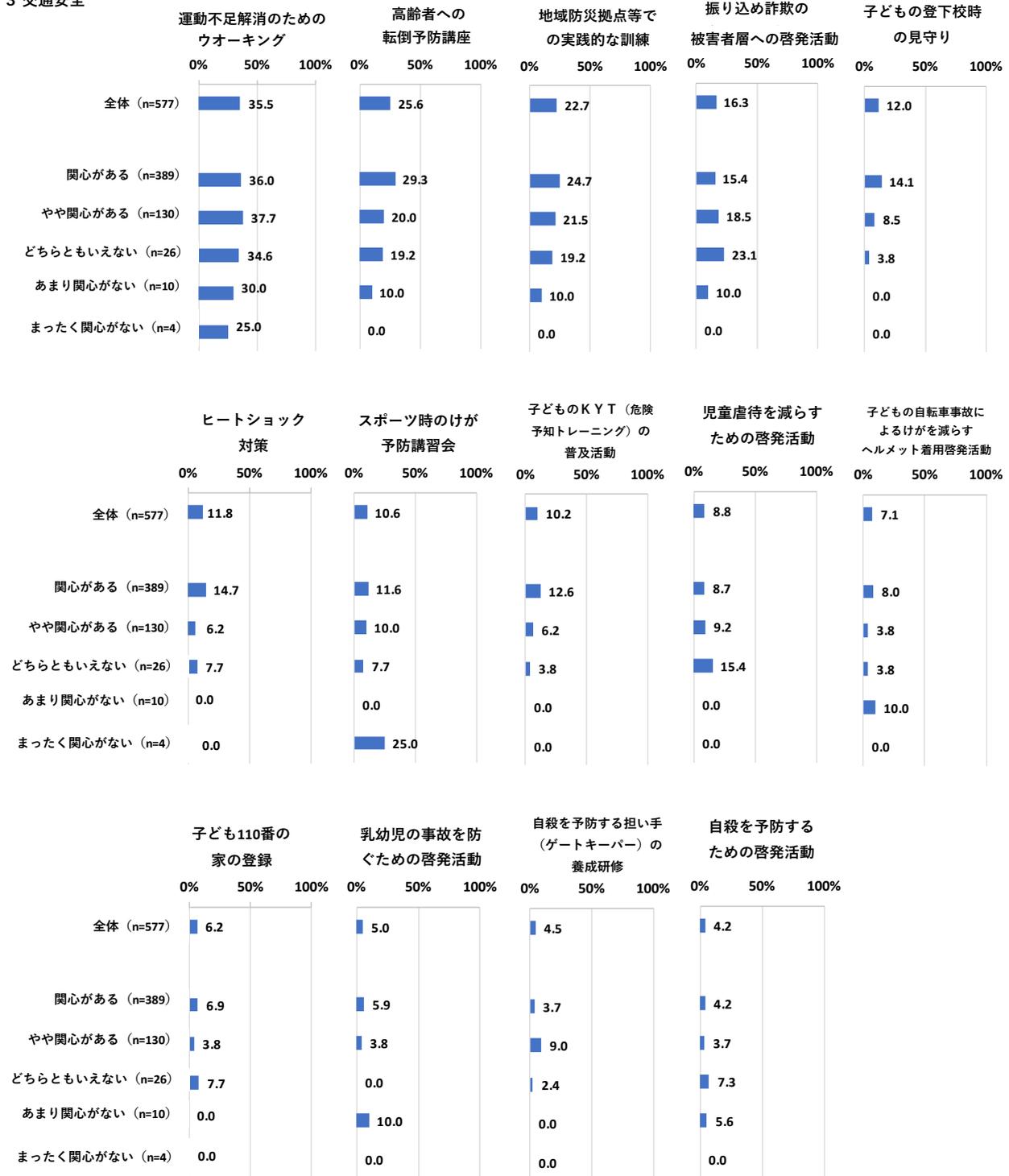


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

- ・『交通安全』について関心がある方ほど「高齢者への転倒予防講座」「地域防災拠点等での実践的な訓練」「子どもの登下校時の見守り」「ヒートショック対策」「スポーツ時のけが予防講習会」「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が高い傾向が見られる。

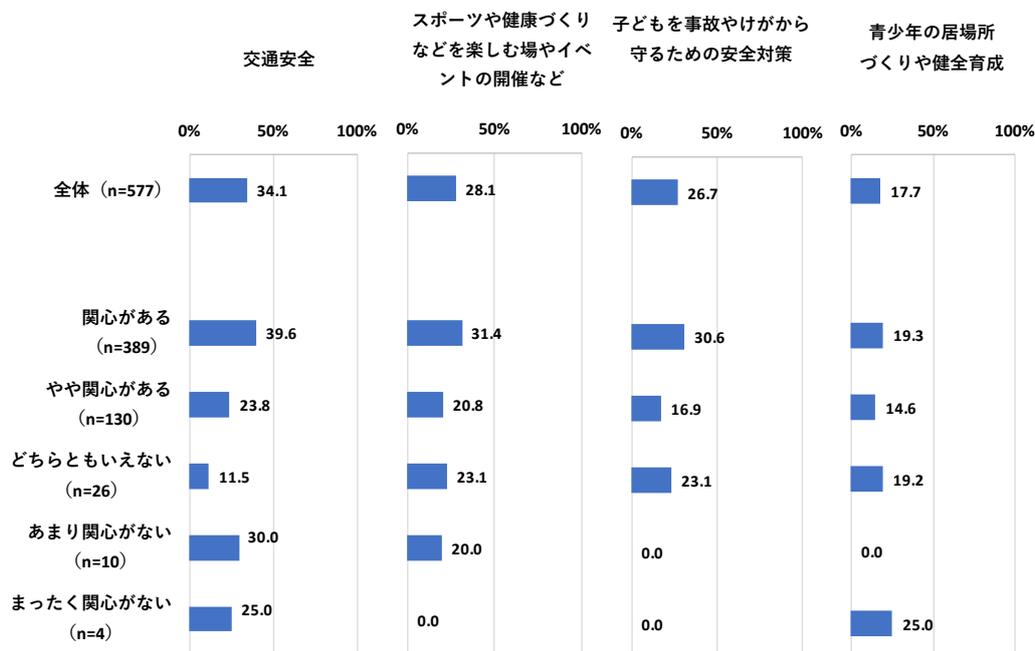
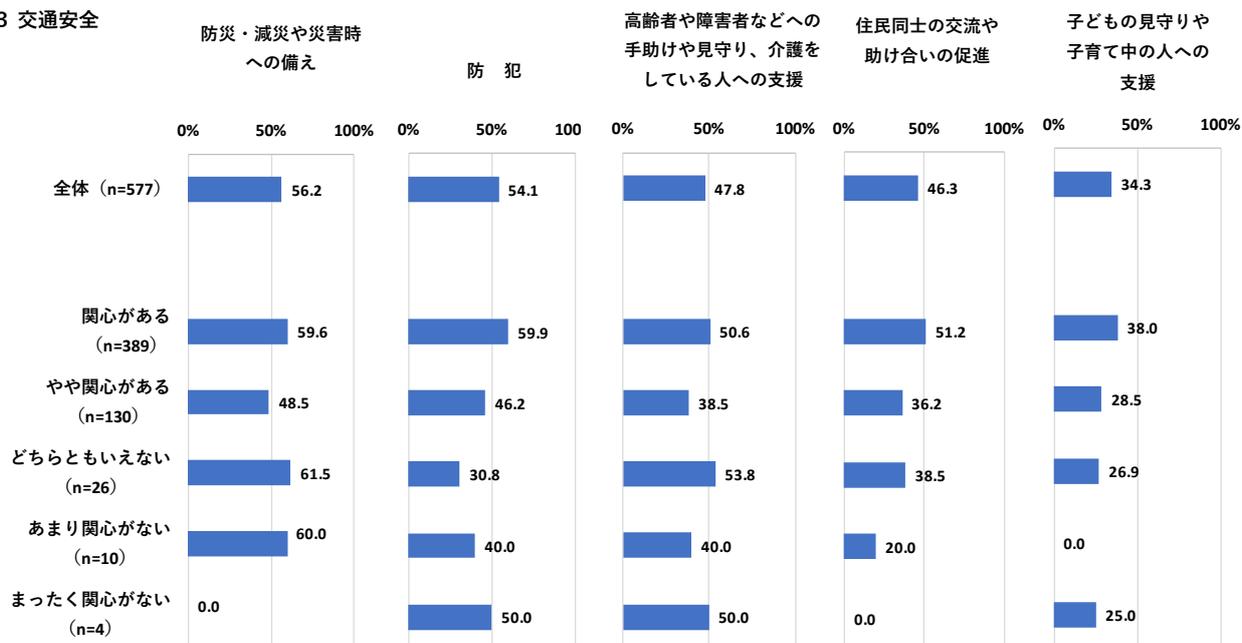
3 交通安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『交通安全』について「関心がある」方は「防犯」「交通安全」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

3 交通安全



4 子育て支援と児童虐待

<性別>

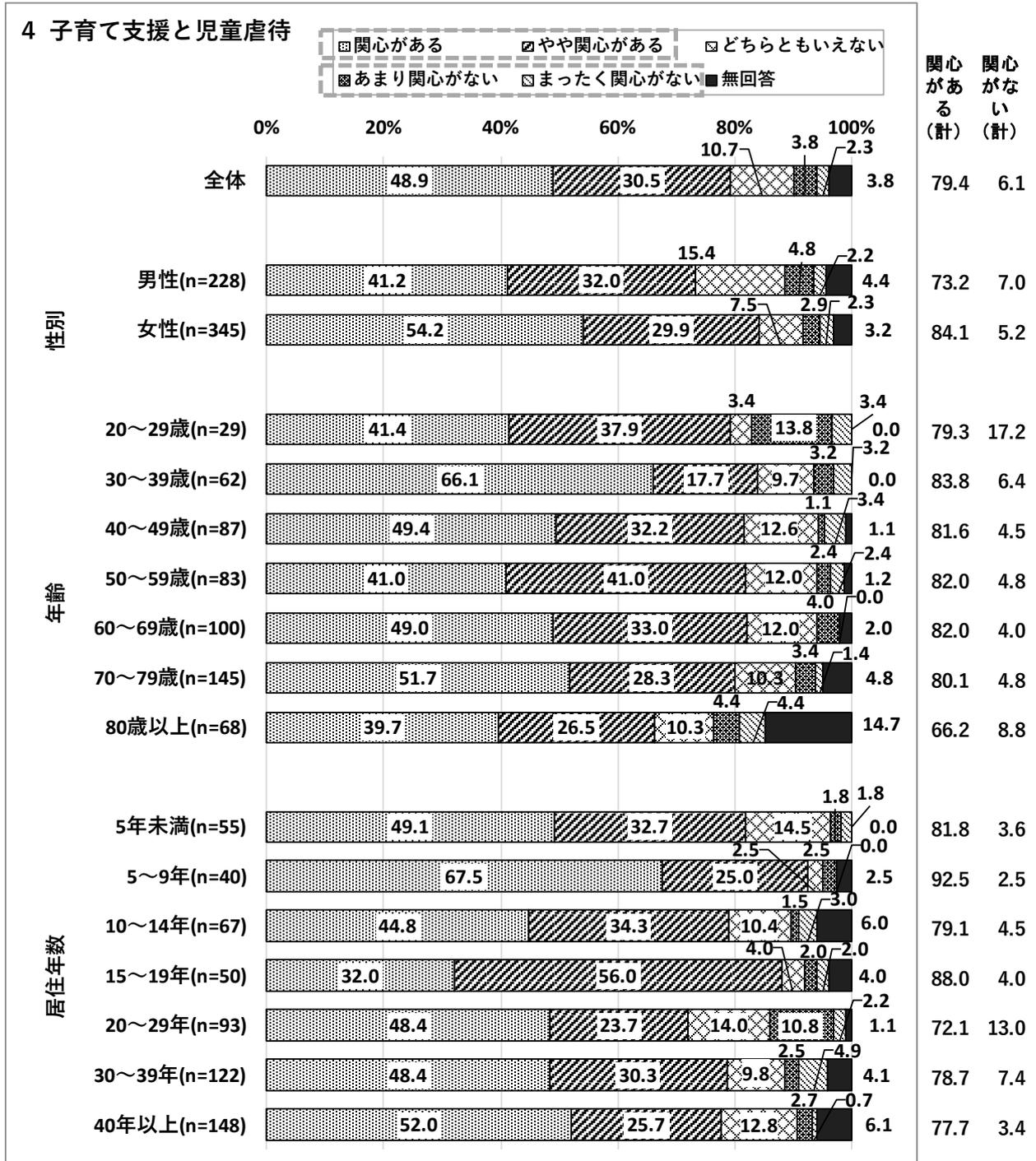
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、13.0ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

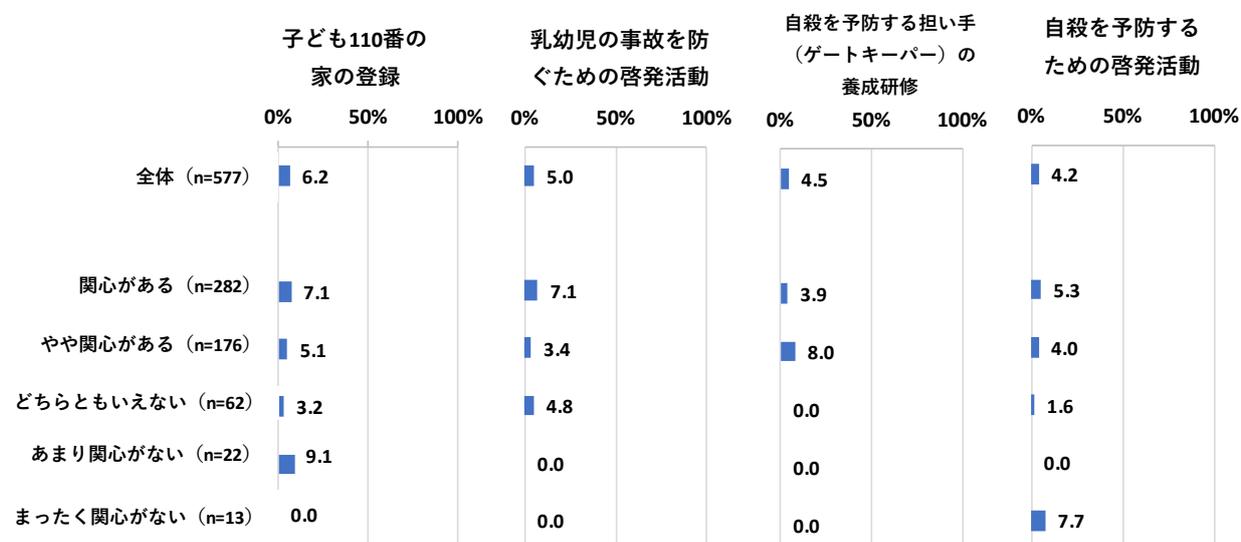
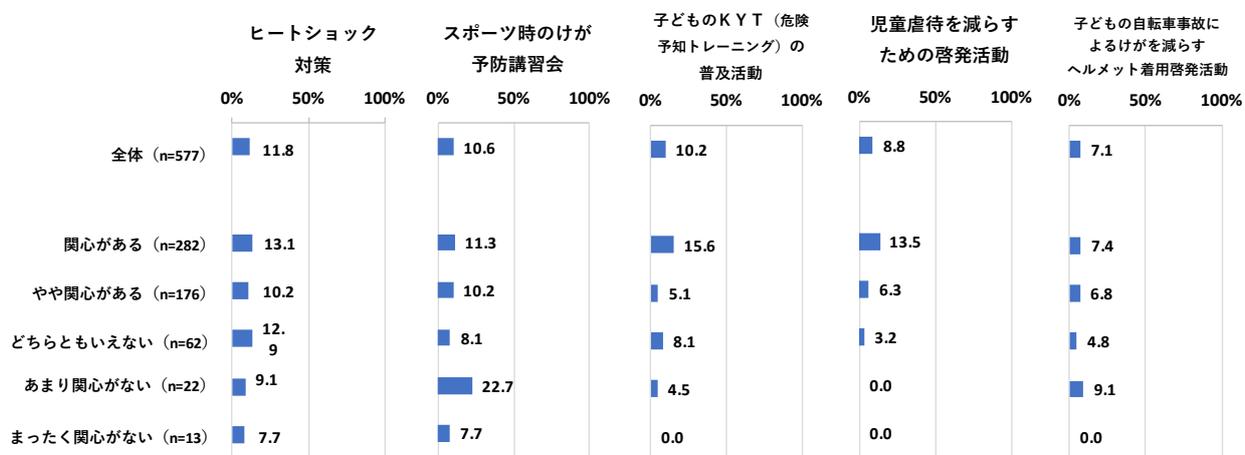
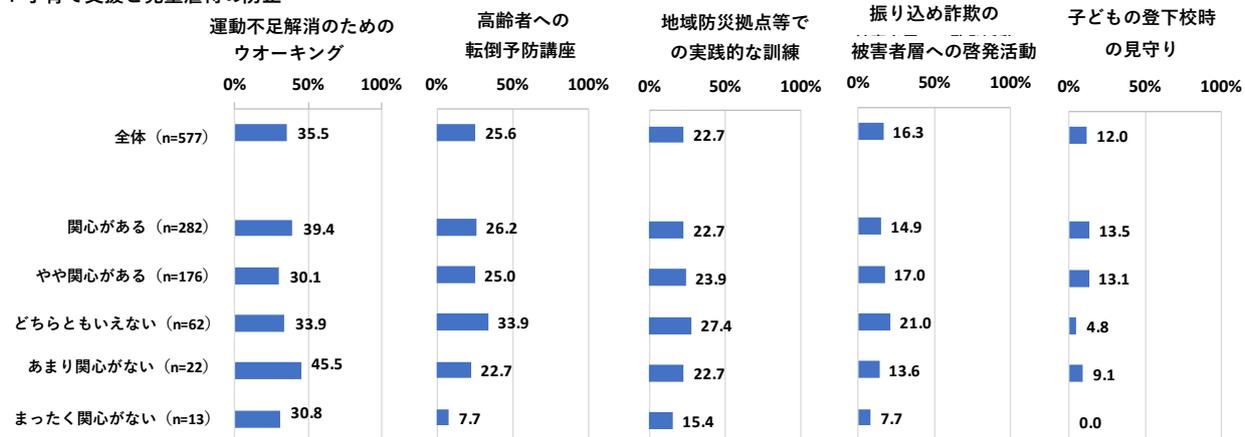
・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より15ポイント以上高い。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『子育て支援と児童虐待』について「関心がある」方は「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」「児童虐待を減らすための啓発活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より5ポイント程度高い。

4 子育て支援と児童虐待の防止

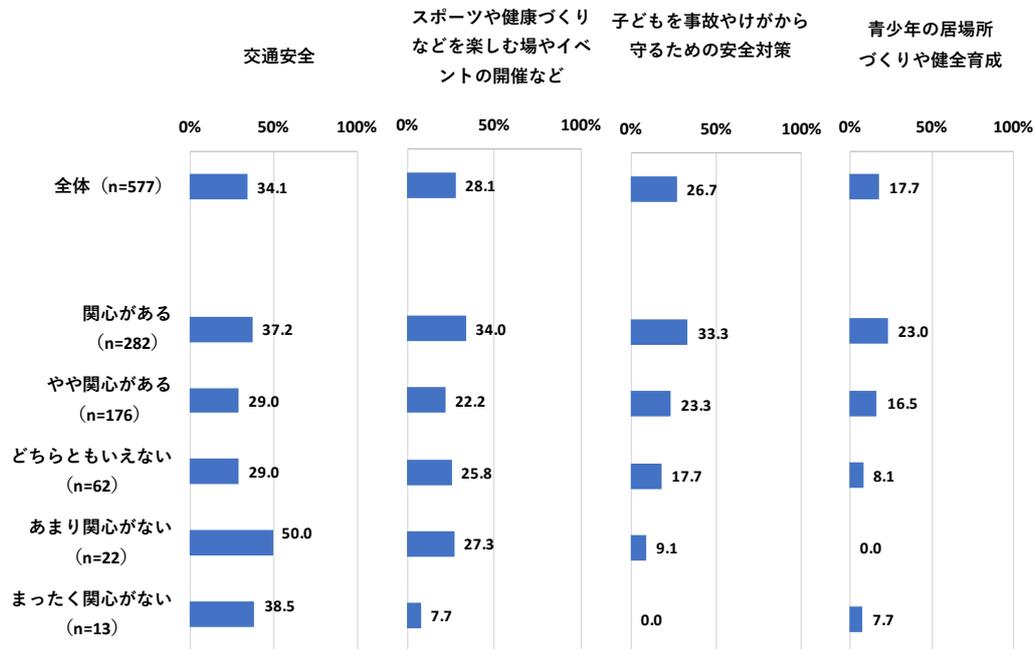
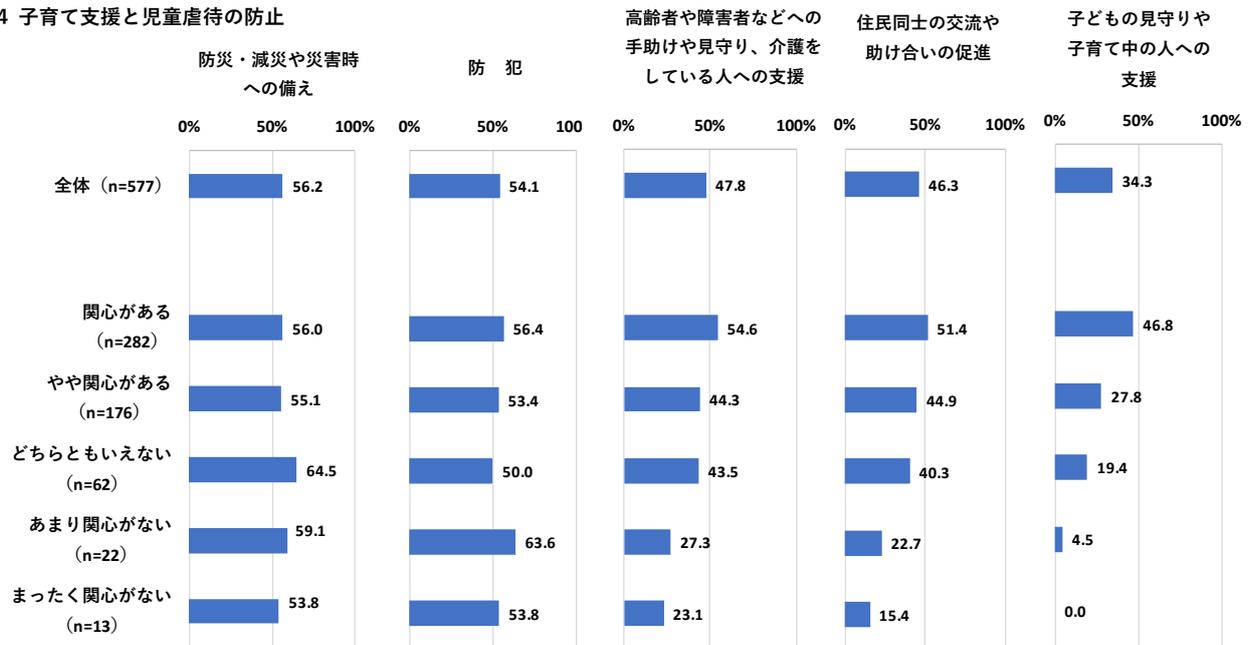


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『子育て支援と児童虐待』について「関心がある」方は「子どもの見守りや子育て中の人への支援」を地域での課題に挙げる割合が全体より10ポイント以上高い。

4 子育て支援と児童虐待の防止



5 高齢者の安全

<性別>

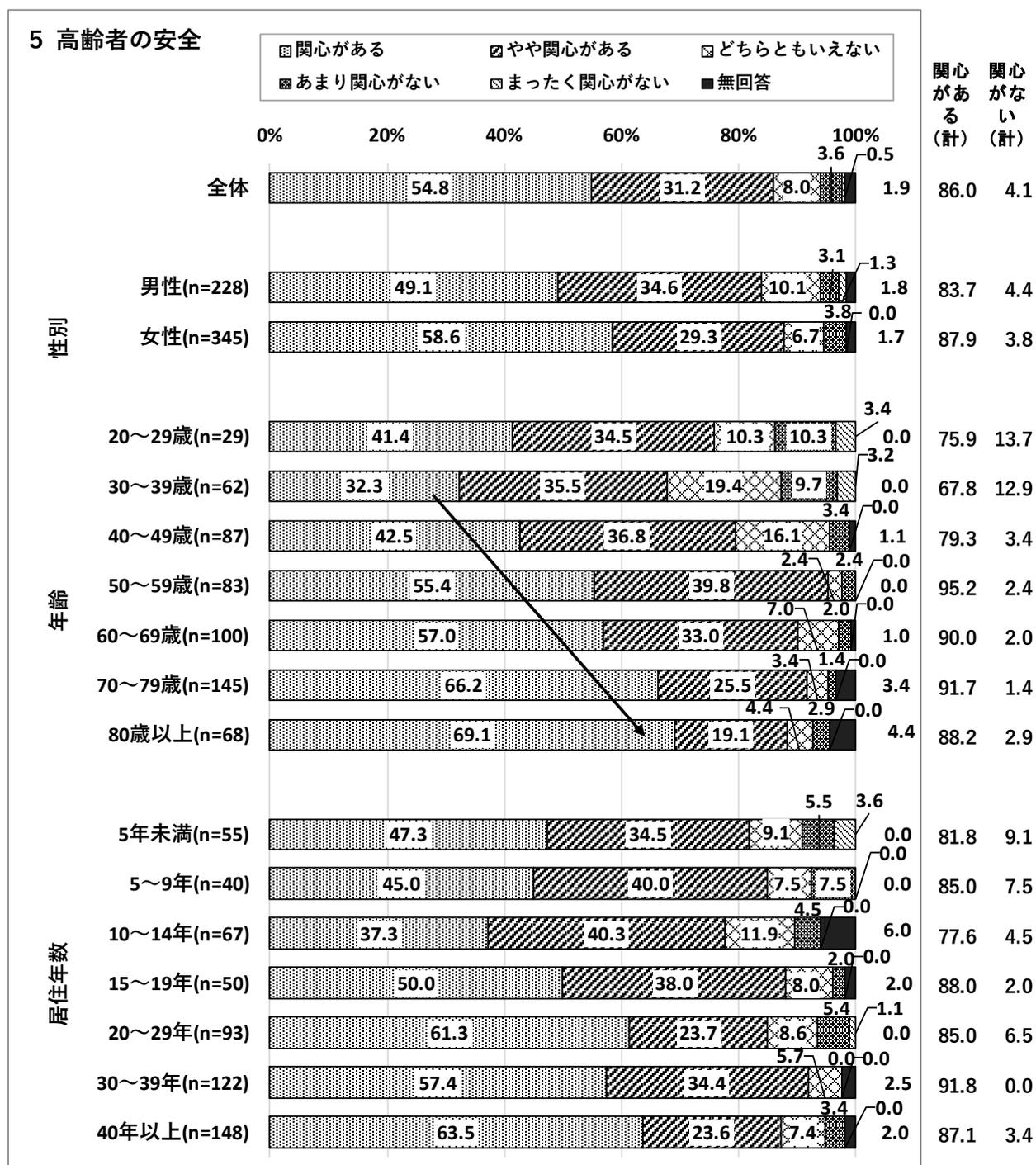
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、9.5ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて「関心がある」の割合は、年齢が上がるほど高くなっている。
 ・「70～79歳」「80歳以上」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

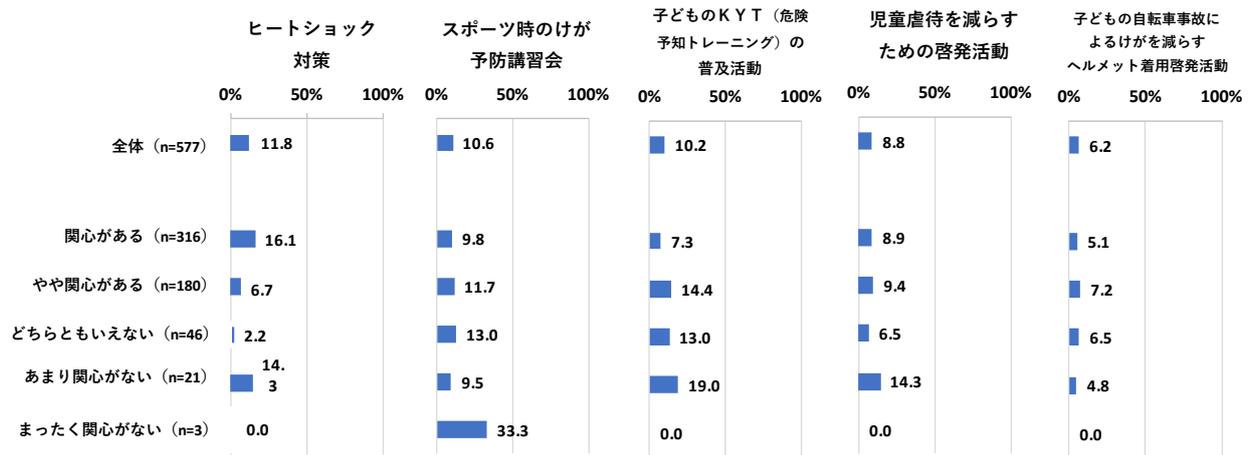
・居住年数別には大きな差は見られない。



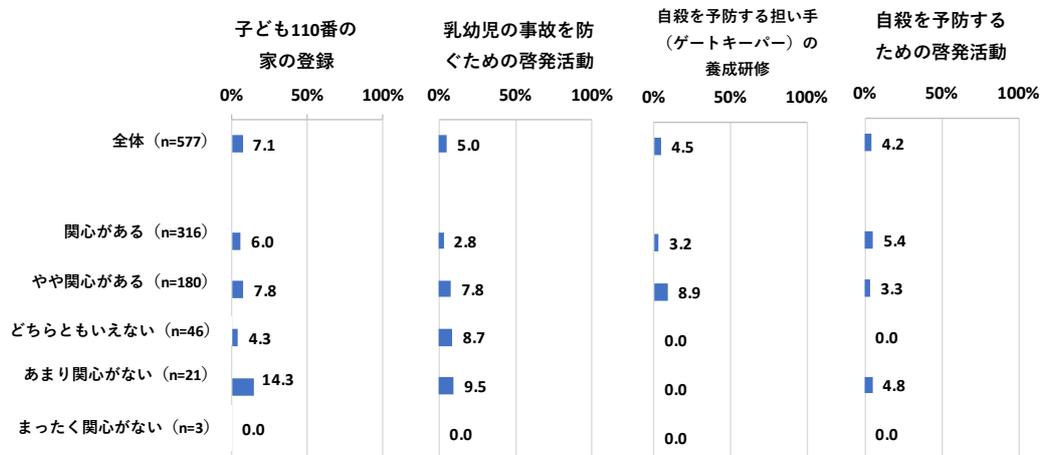
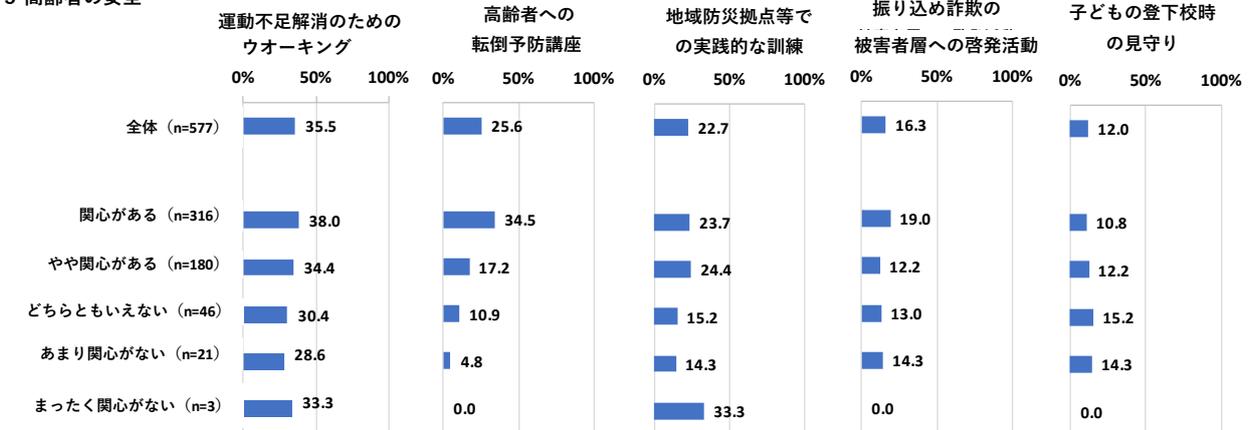
III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『高齢者の安全』について「関心がある」方は「高齢者への転倒予防講座」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より10ポイント程度、「ヒートショック対策」では5ポイント程度高くなっている。



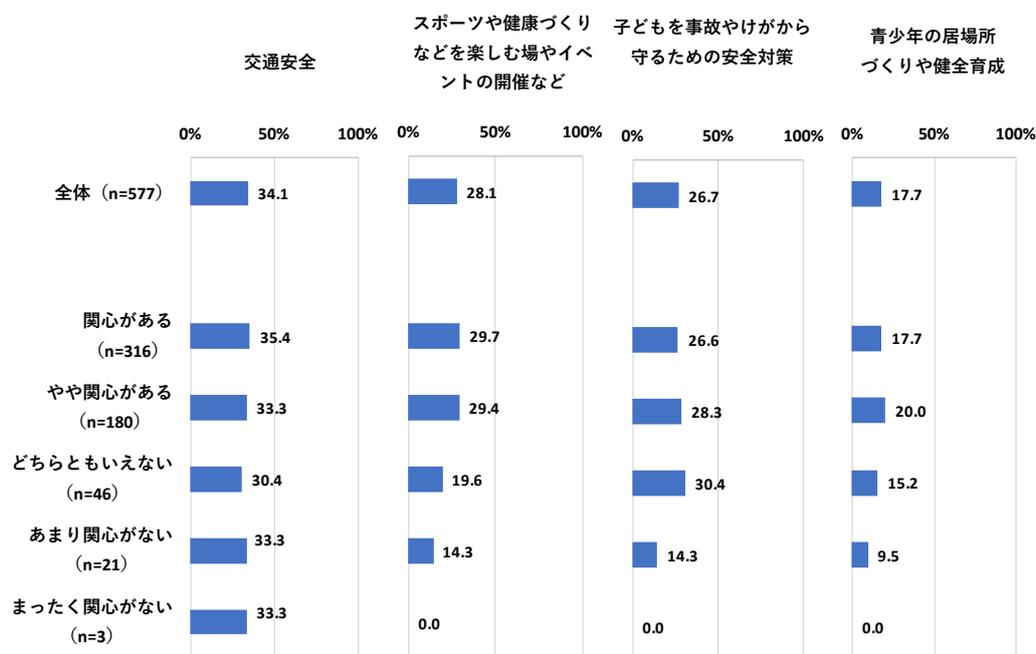
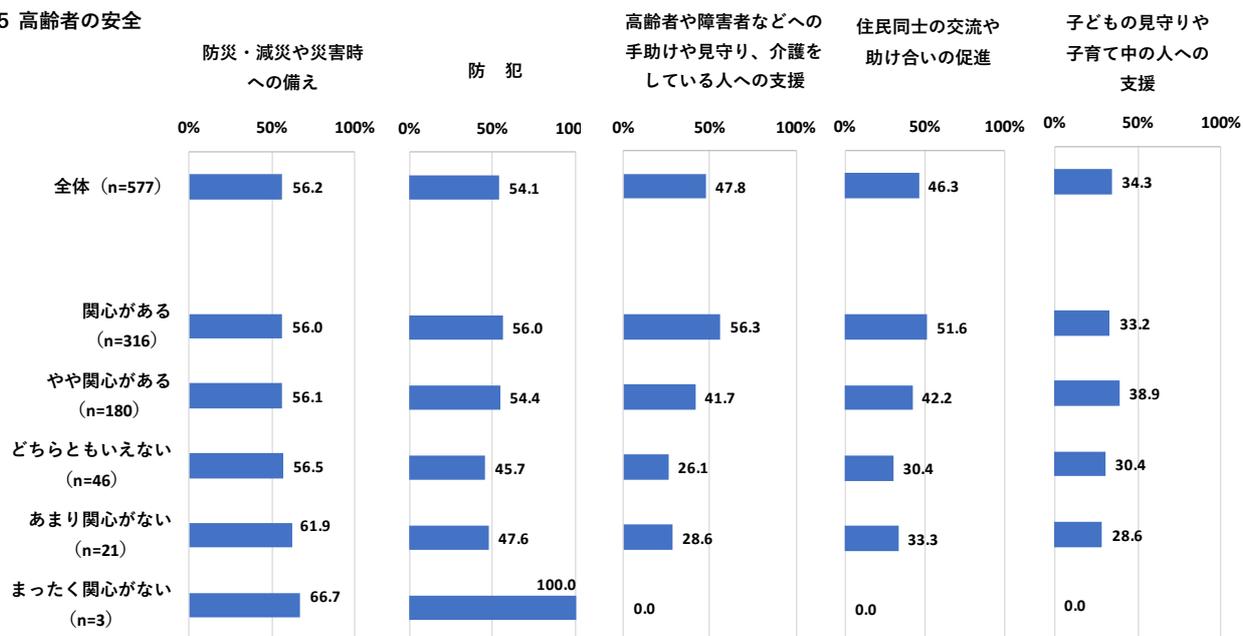
5 高齢者の安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『高齢者の安全』について「関心がある」方は「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

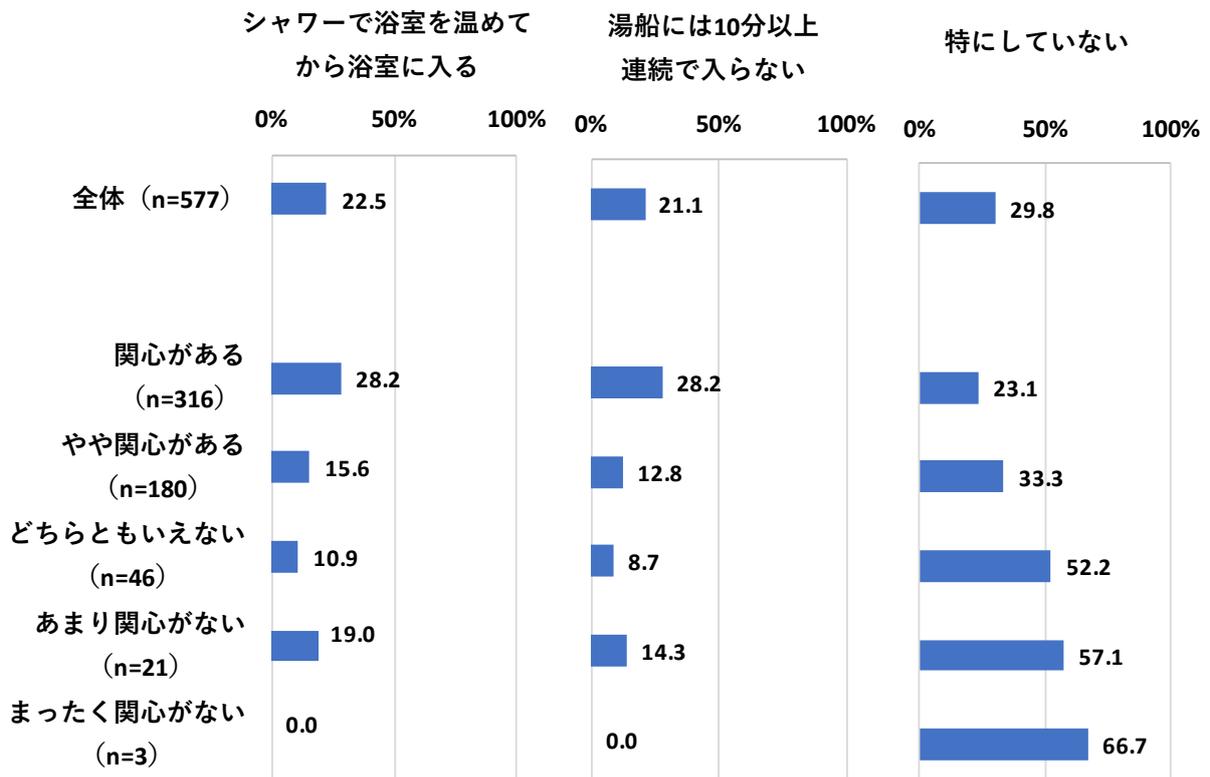
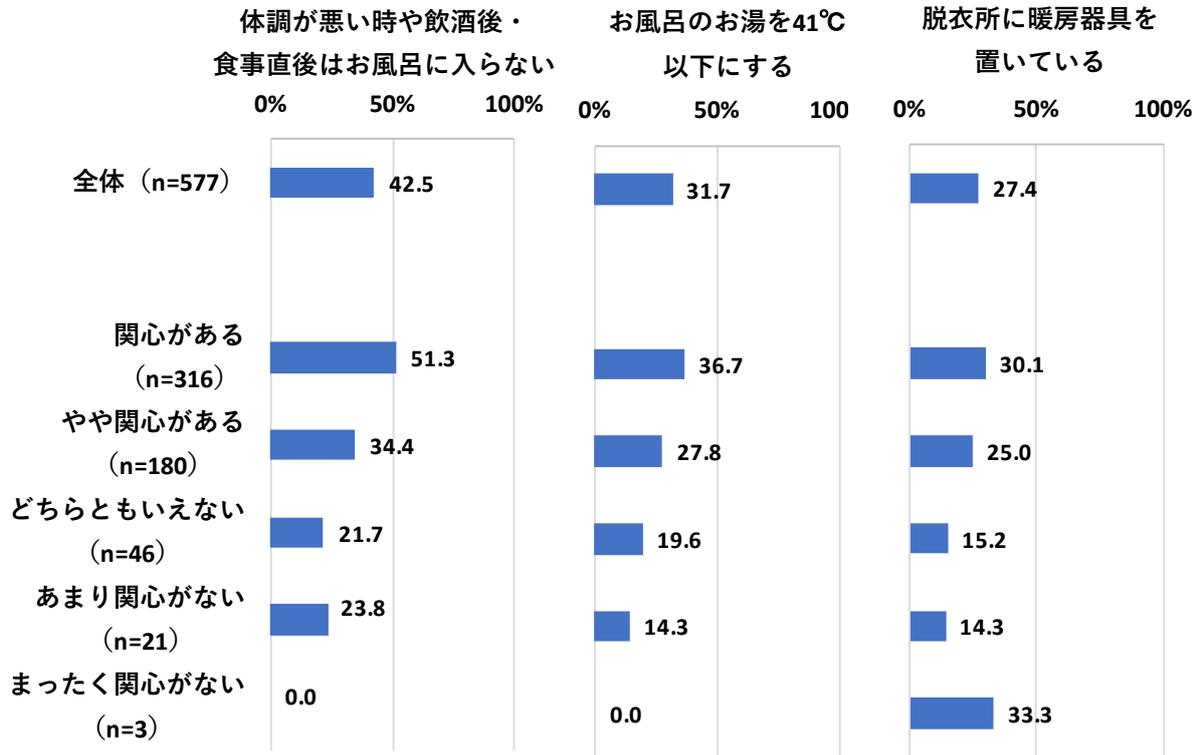
5 高齢者の安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：ヒートショック対策別】

・『高齢者の安全』について関心がある方ほどヒートショック対策を行っており、関心がない方ほど「特にしていない」割合が高い。

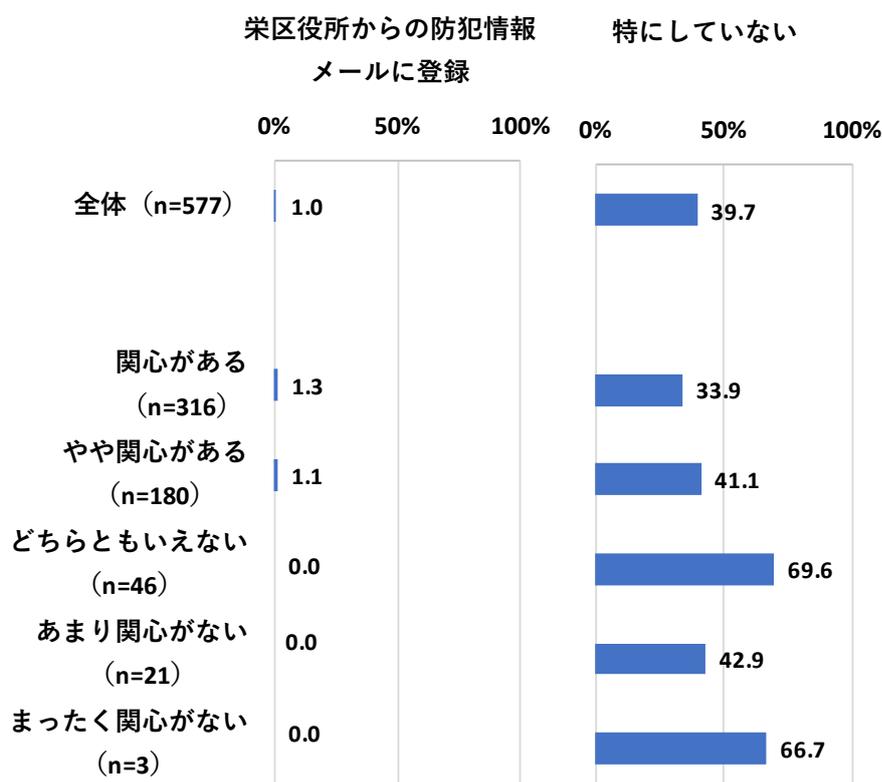
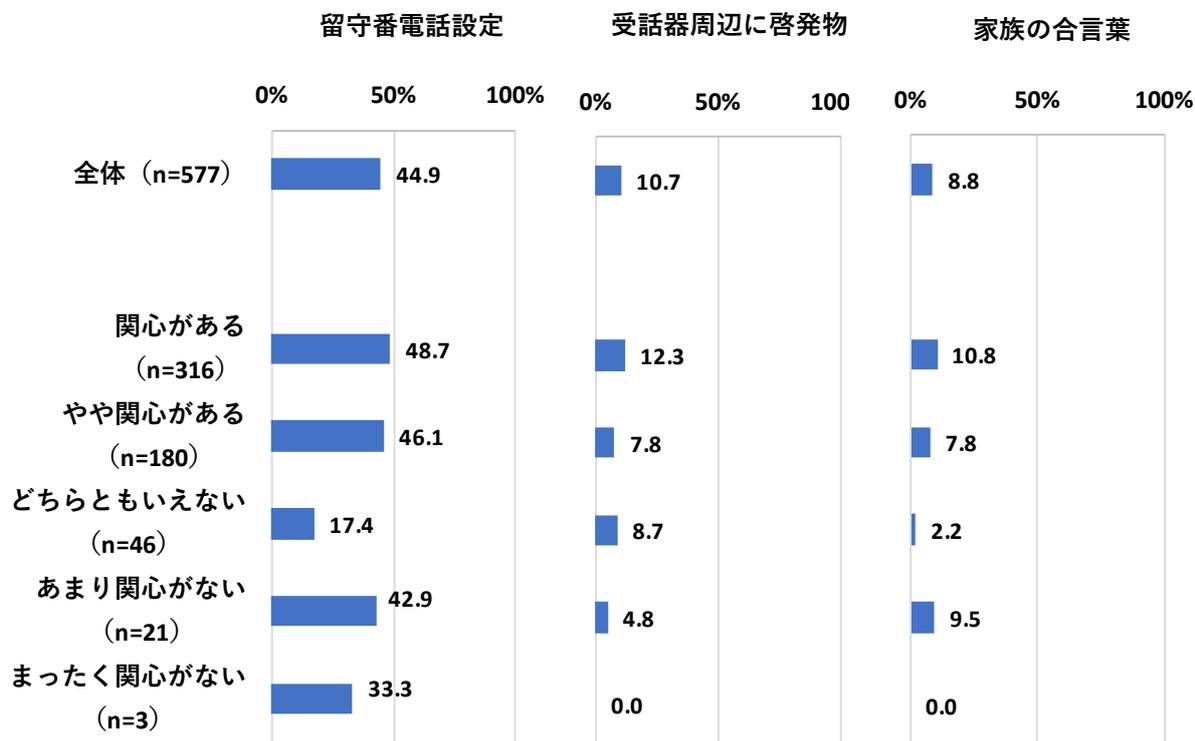
5 高齢者の安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：振り込め詐欺対策別】

・『高齢者の安全』に「関心がある」方は、振り込め詐欺対策を「特にしていない」割合が全体より5ポイント以上低い。

5 高齢者の安全



6 災害への備え

<性別>

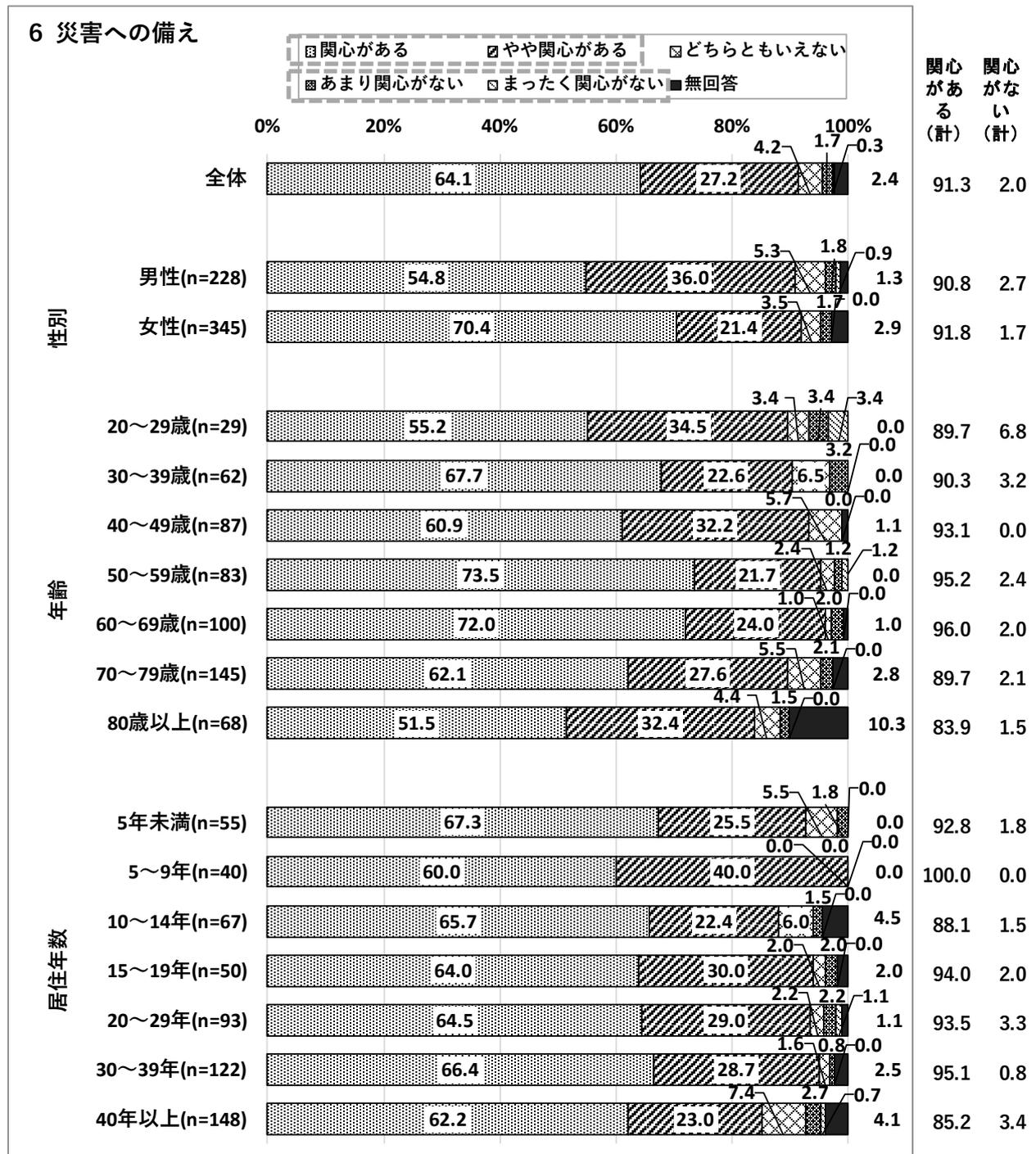
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、15.6ポイント高い。

<年齢別>

・「50～59歳」「60～69歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

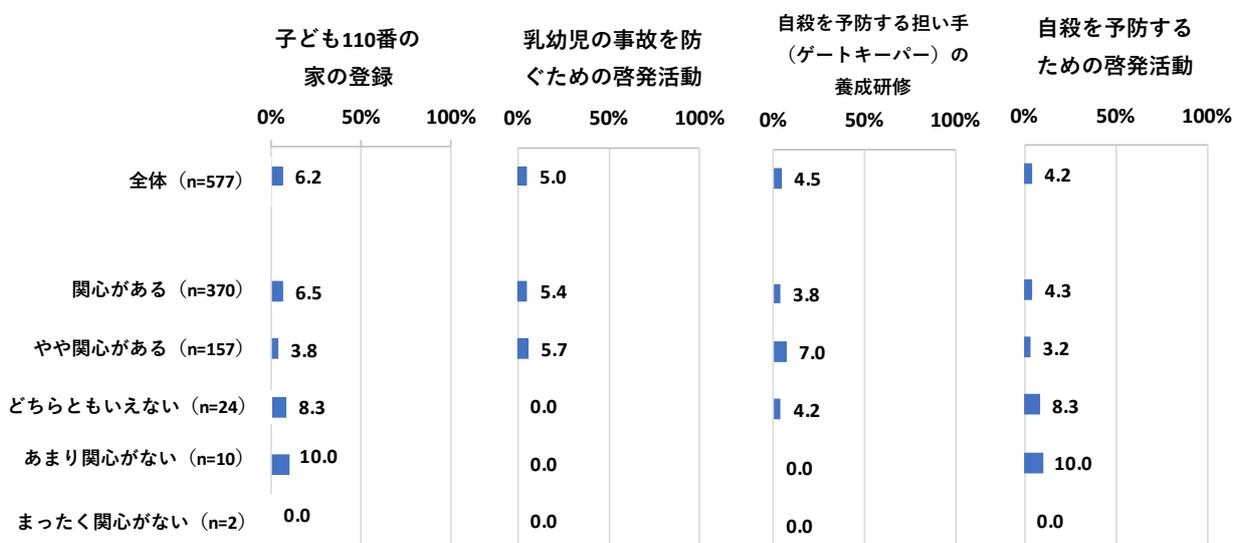
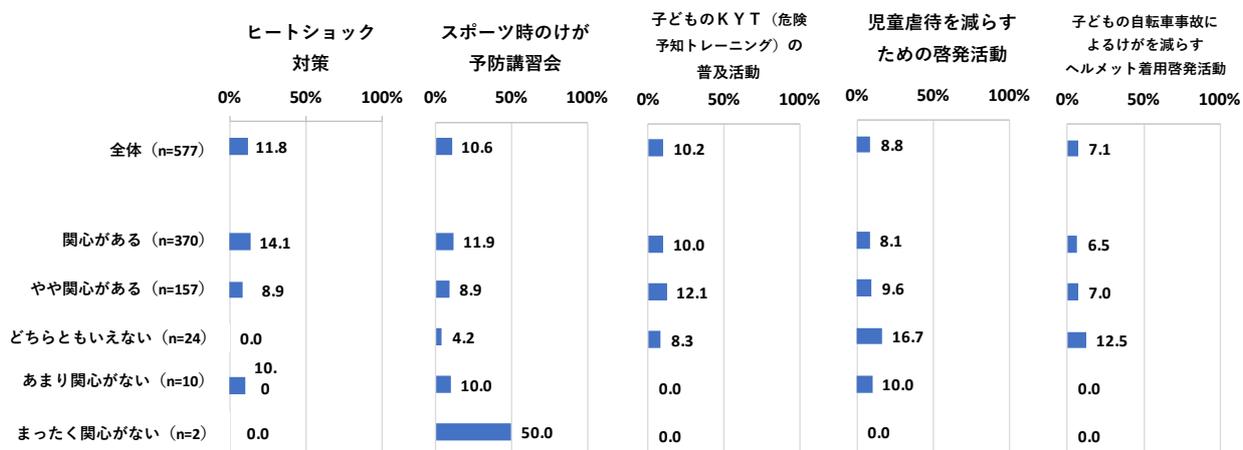
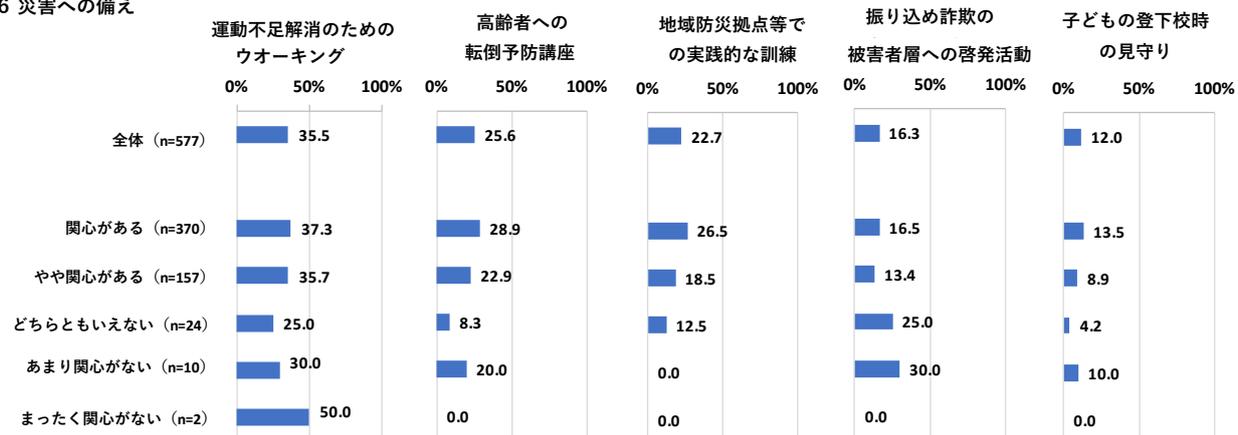
・「40年以上」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上低い。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『災害への備え』について関心が高い方ほど「地域防災拠点等での実践的な訓練」を今後参加したい取組に挙げる割合が高い。

6 災害への備え

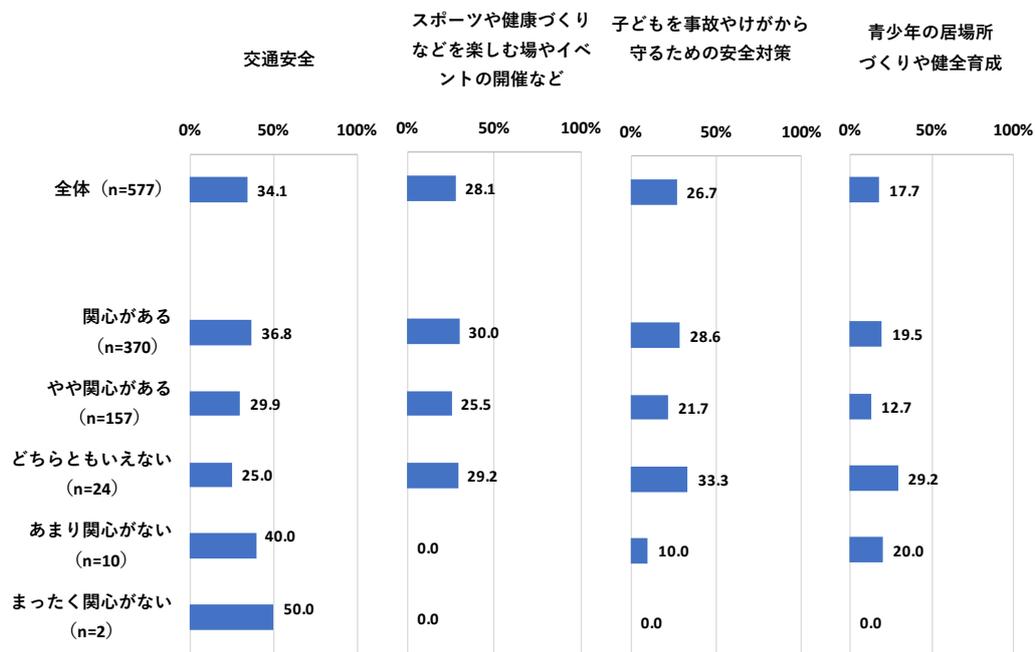
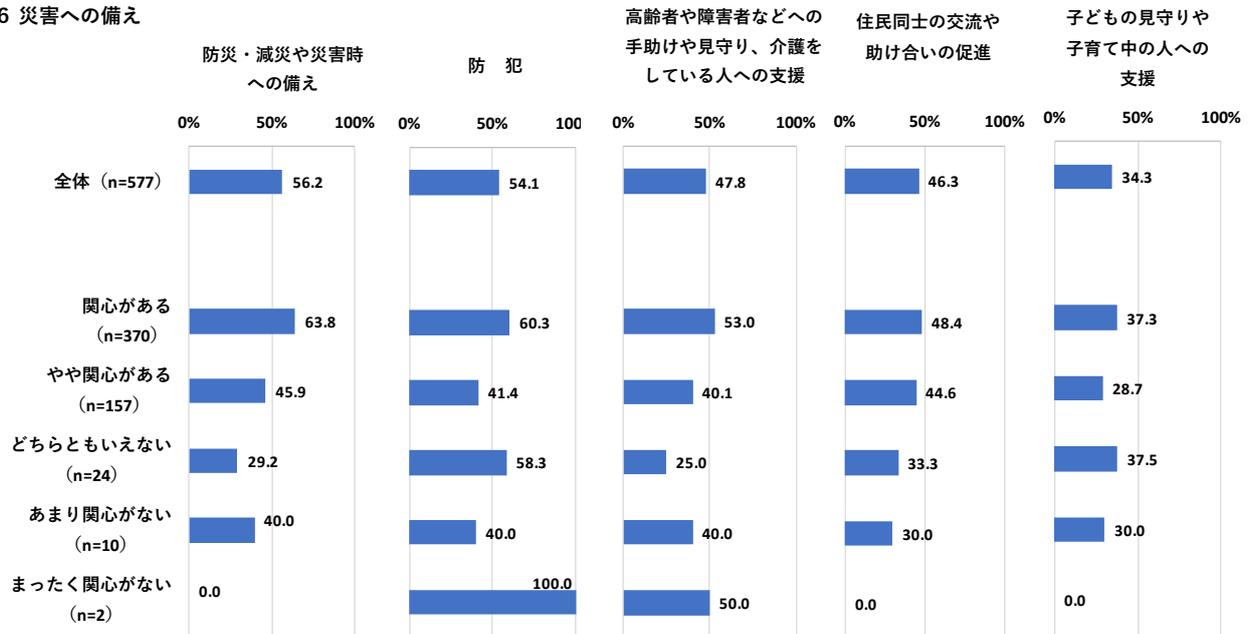


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

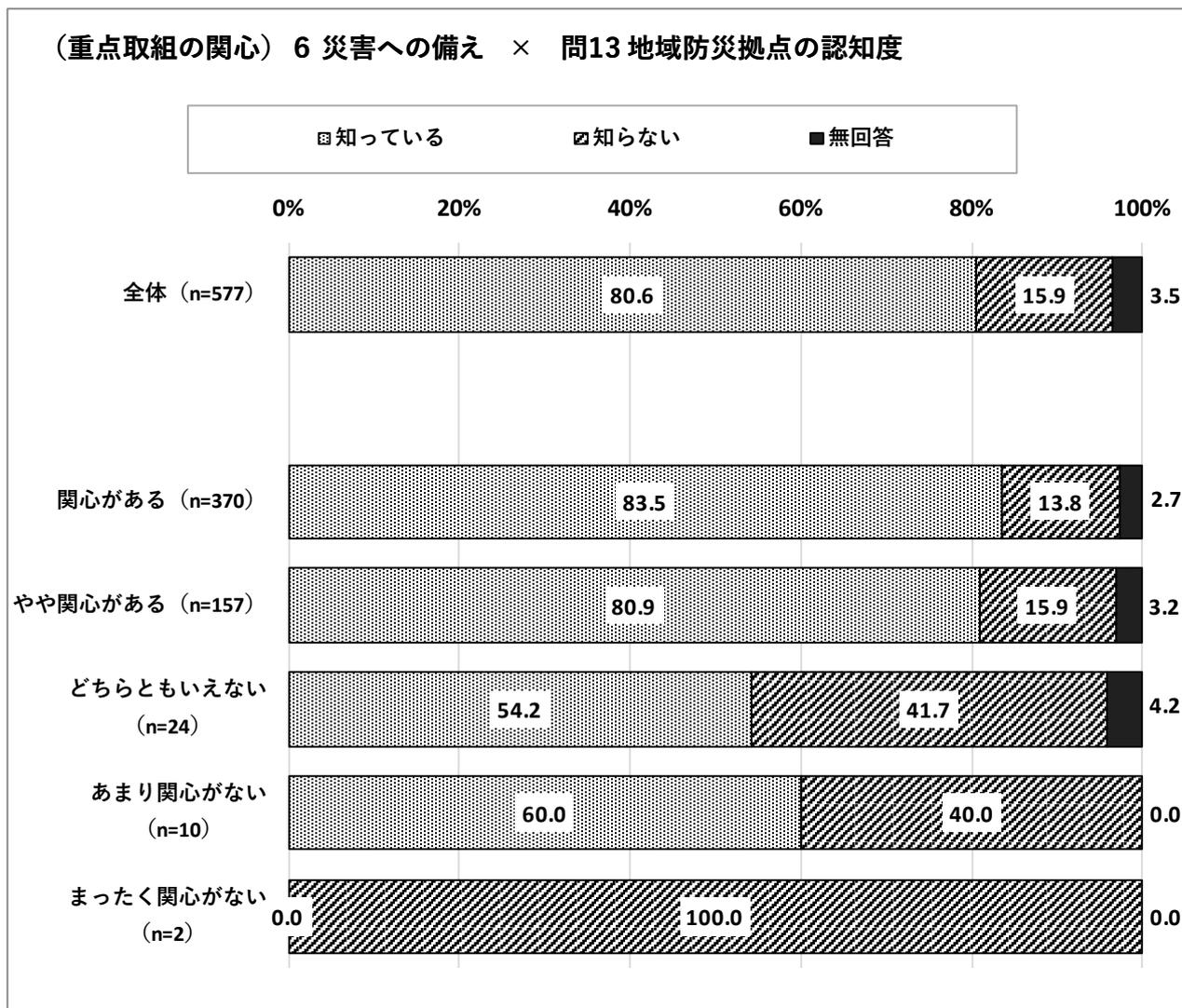
・『災害への備え』について「関心がある」方は「防災・減災や災害時への備え」「防犯」「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

6 災害への備え



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域防災拠点の認知度別】

・『災害への備え』について「関心がある」方ほど地域防災拠点がどこか知っている割合が高い。一方、「全く関心がない」方を除いて、「どちらともいえない」「あまり関心がない」方でも5割以上の方は認知されている。



7 自殺予防対策

<性別>

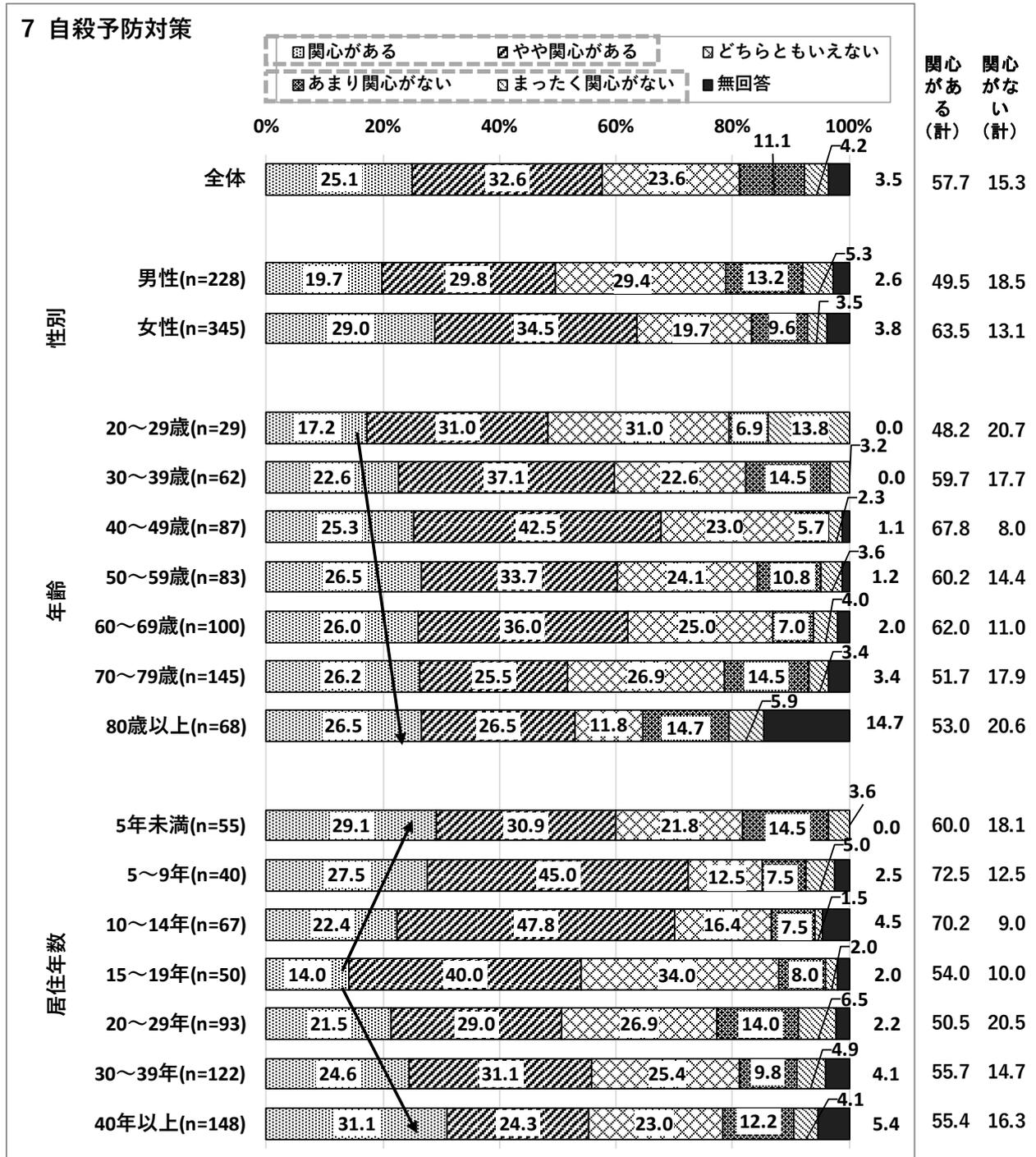
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、9.3ポイント高い。

<年齢別>

・年齢が上がるほど「関心がある」の割合は微増する傾向にある。
 ・「40～49歳」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

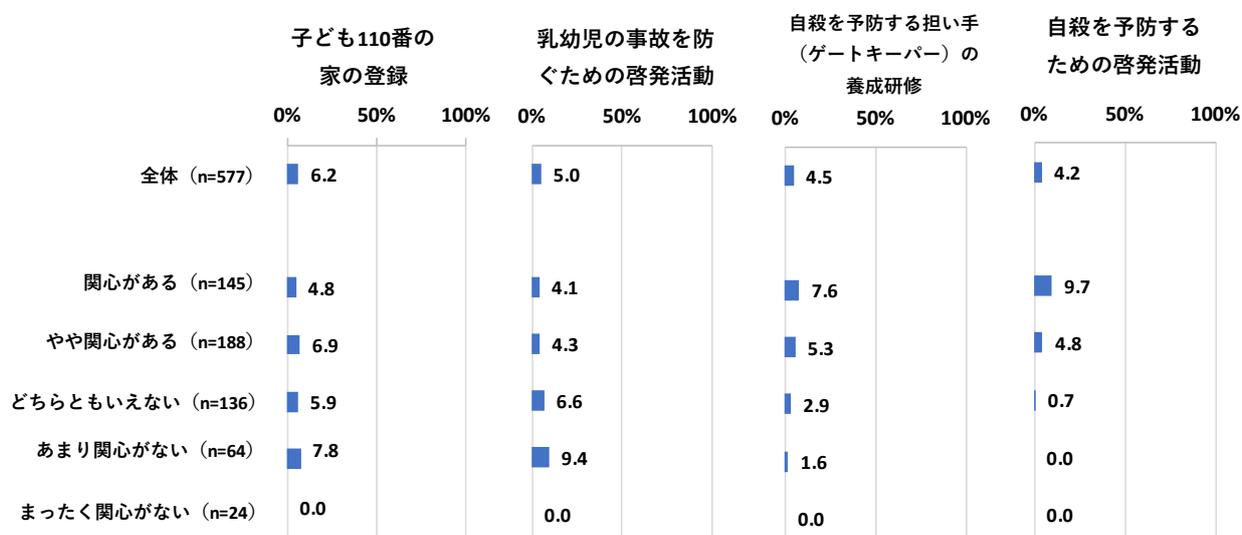
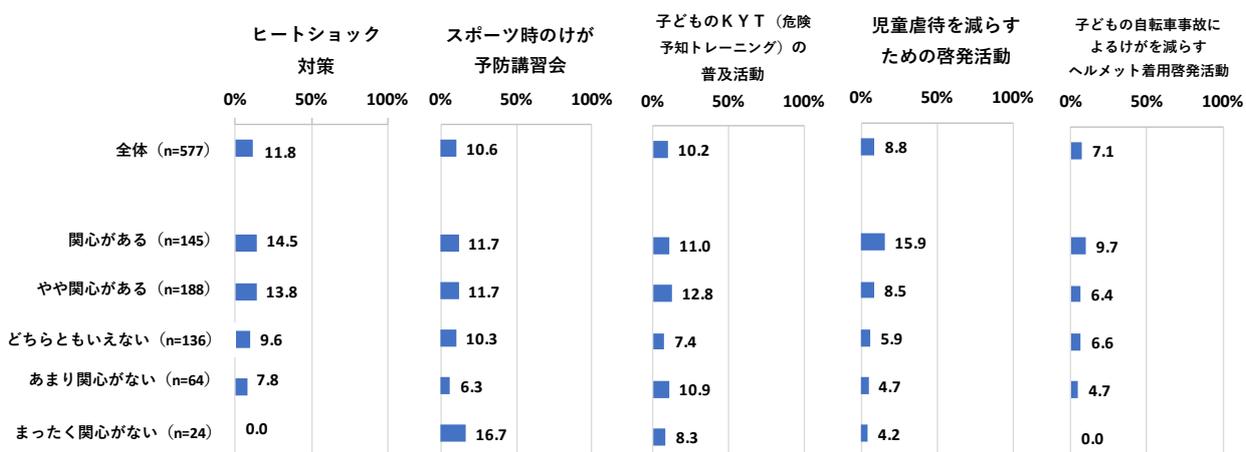
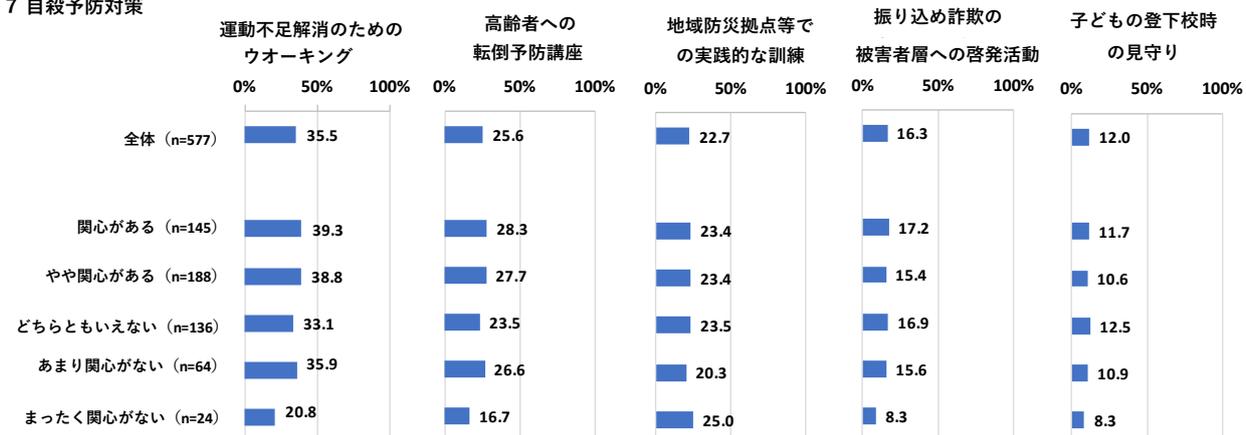
・「15～19年」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上低く、「15～19年」より居住年数が短くなるほど、また、長くなるほど「関心がある」の割合は高くなっている。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『自殺予防対策』について「関心がある」方は「児童虐待を減らすための啓発活動」「自殺を予防するための啓発活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

7 自殺予防対策

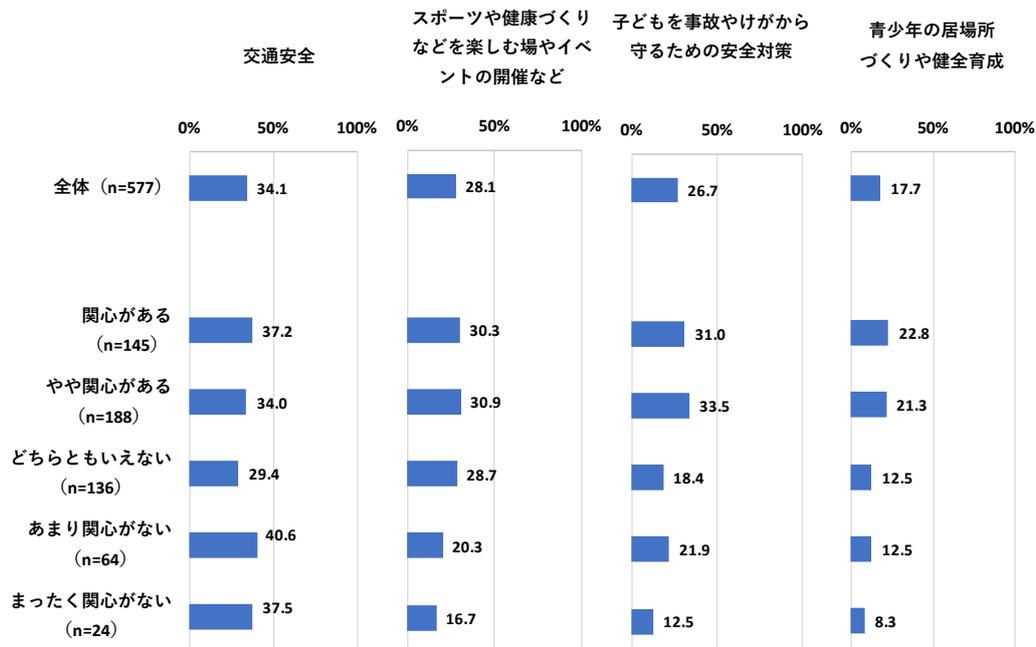
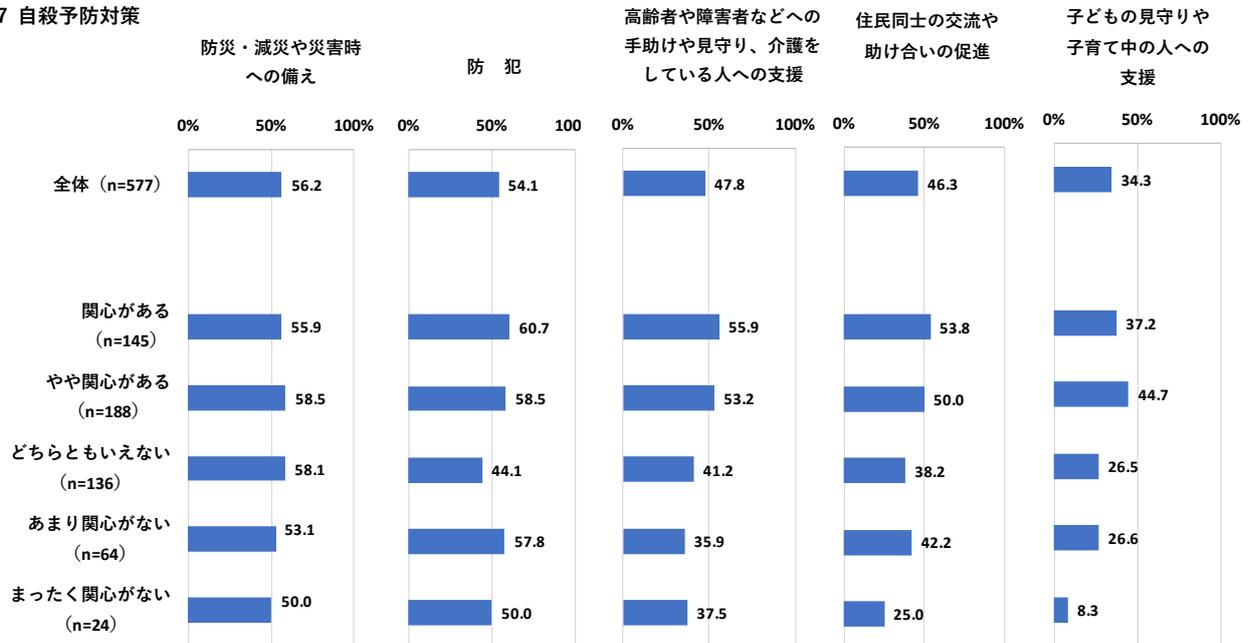


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

- ・『自殺予防対策』について「関心がある」方は「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」「防犯」「青少年の居場所づくりや健全育成」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

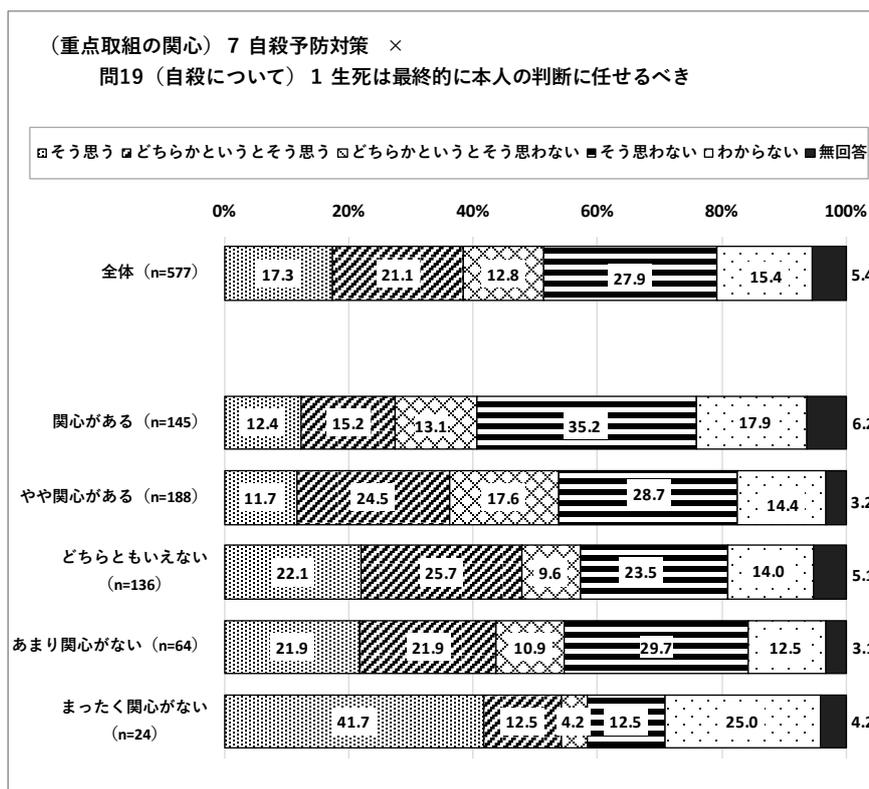
7 自殺予防対策



【セーフコミュニティの重点項目への関心：自殺予防対策への関心度別】

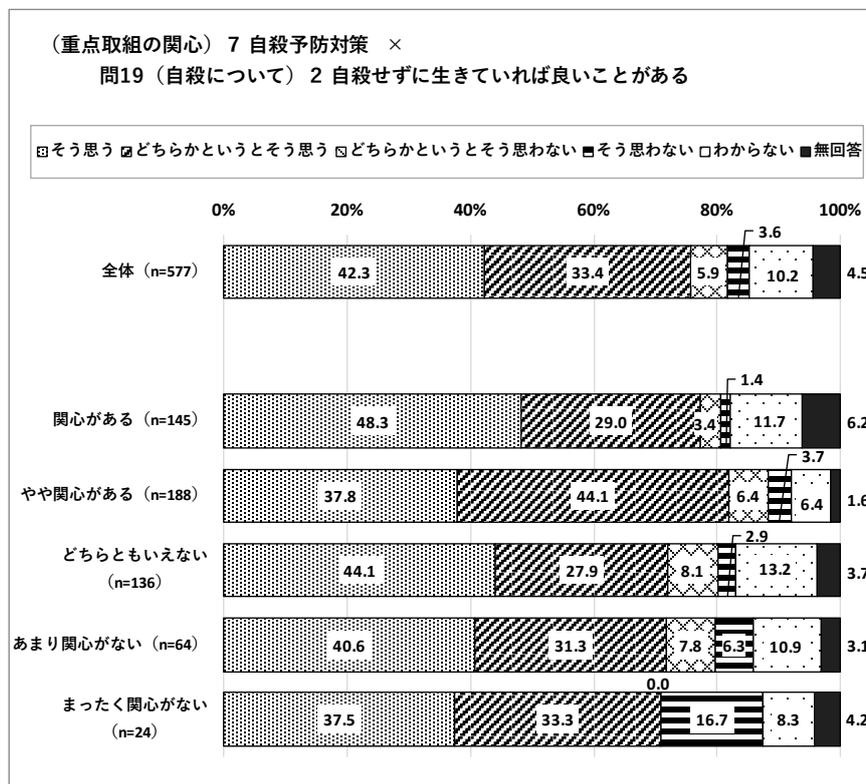
1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき

・『自殺予防対策』について関心があるほど「生死は最終的に本人の判断に任せるべき」とは考えていない傾向が見られる。



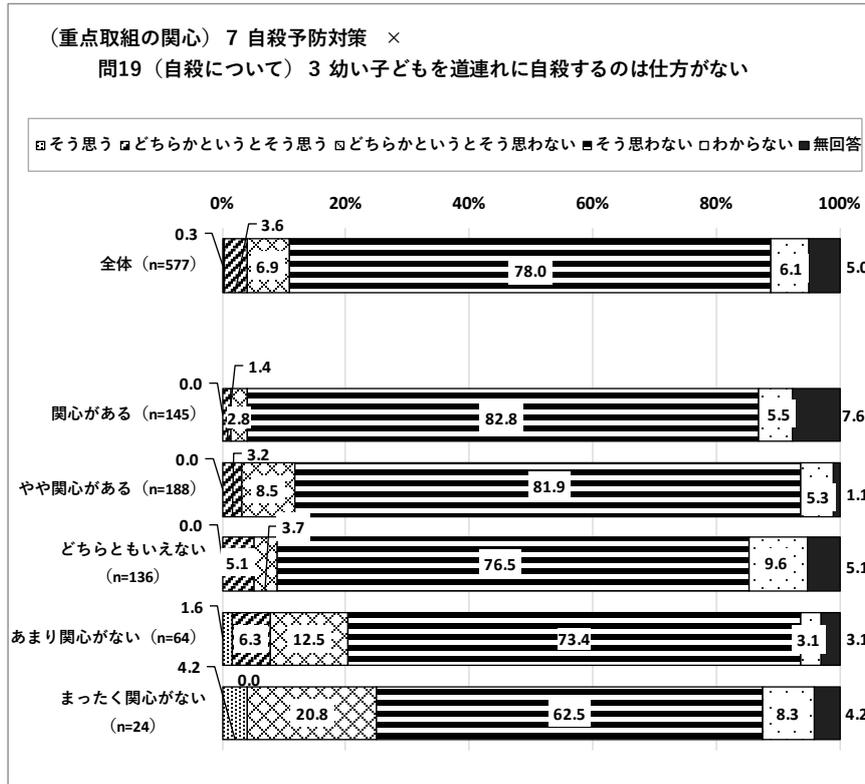
2 自殺せずに生きていけば良いことがある

・『自殺予防対策』の関心度と「自殺せずに生きていけば良いことがある」という考え方の関係について、大きな差は見られない。



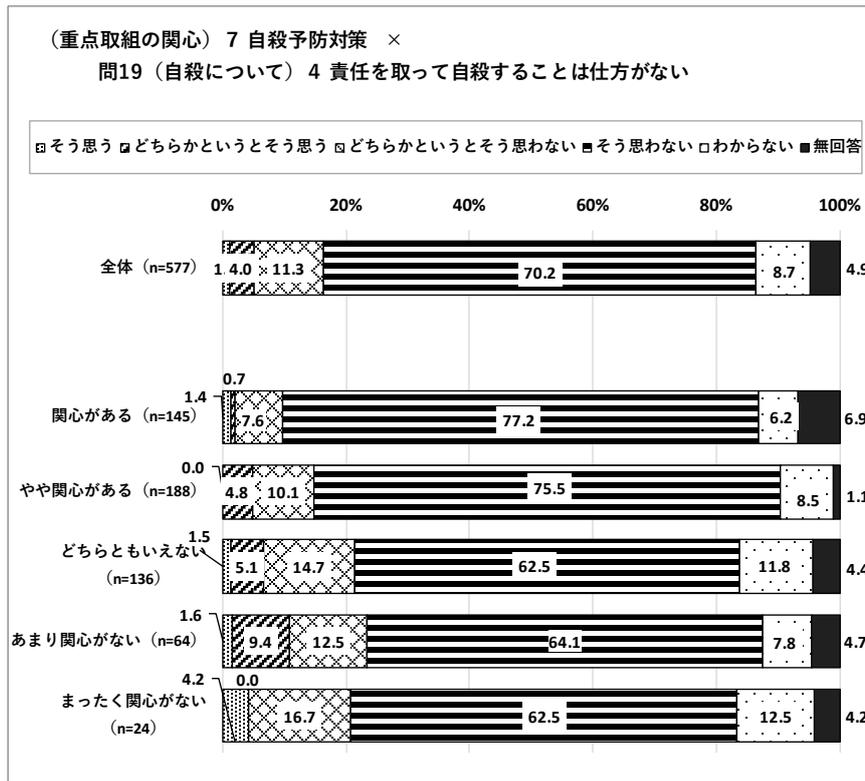
3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」とは考えていない。



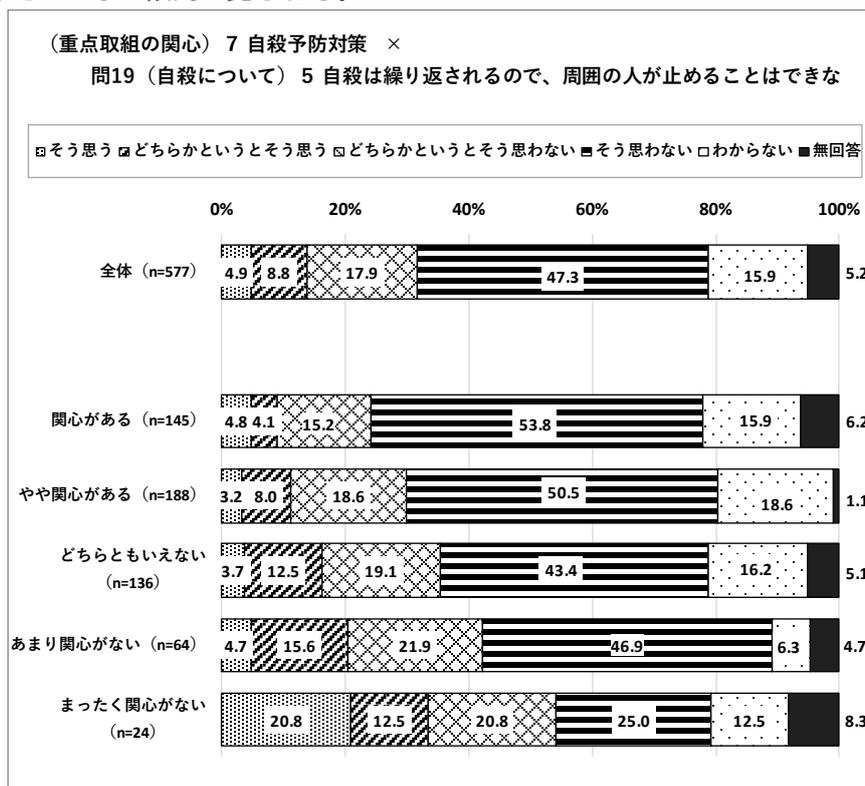
4 責任を取って自殺することは仕方がない

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「責任を取って自殺することは仕方がない」とは考えていない傾向が見られる。



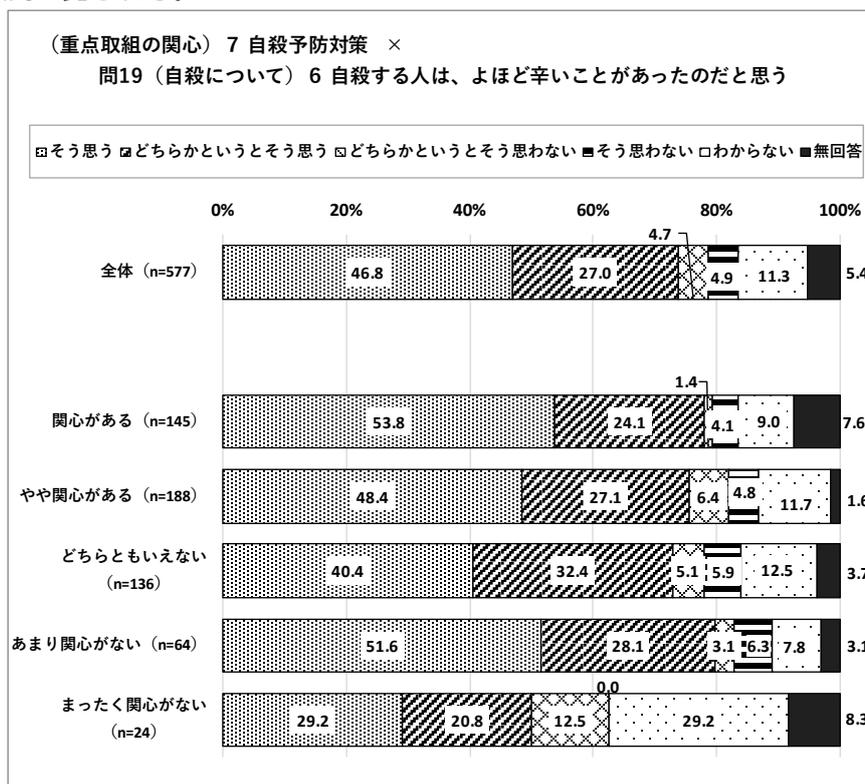
5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」とは考えていない傾向が見られる。



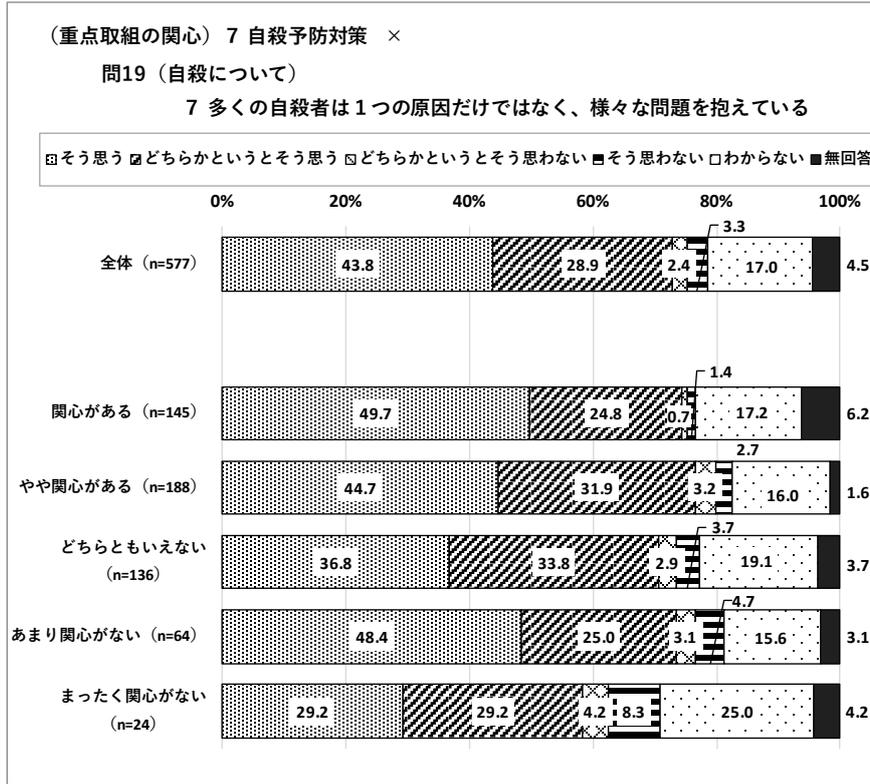
6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う」と考えている傾向が見られる。



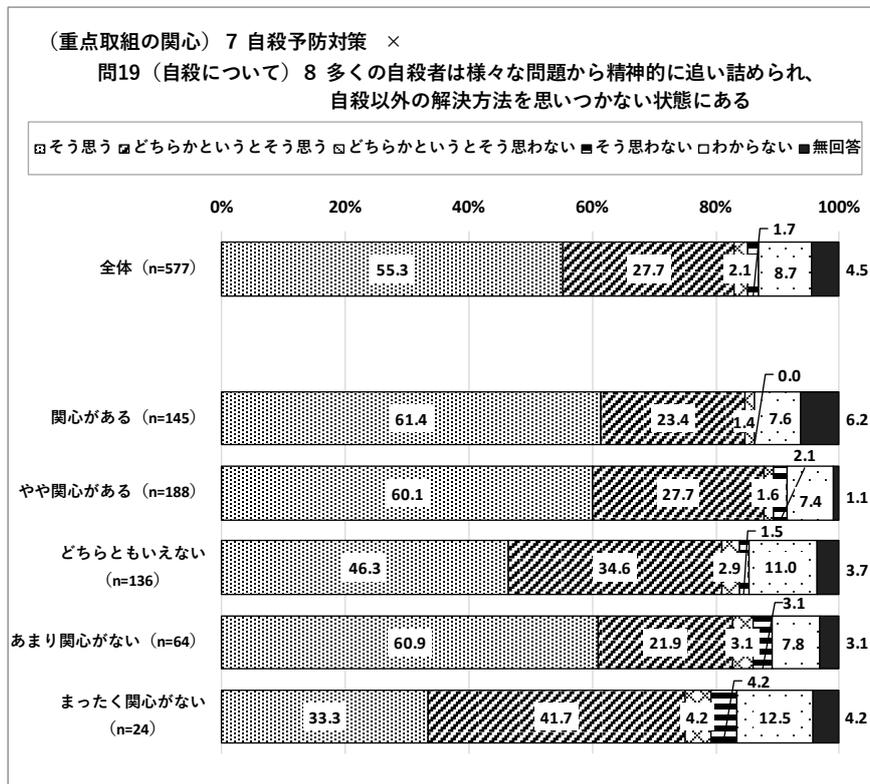
7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている」と考えている傾向が見られる。



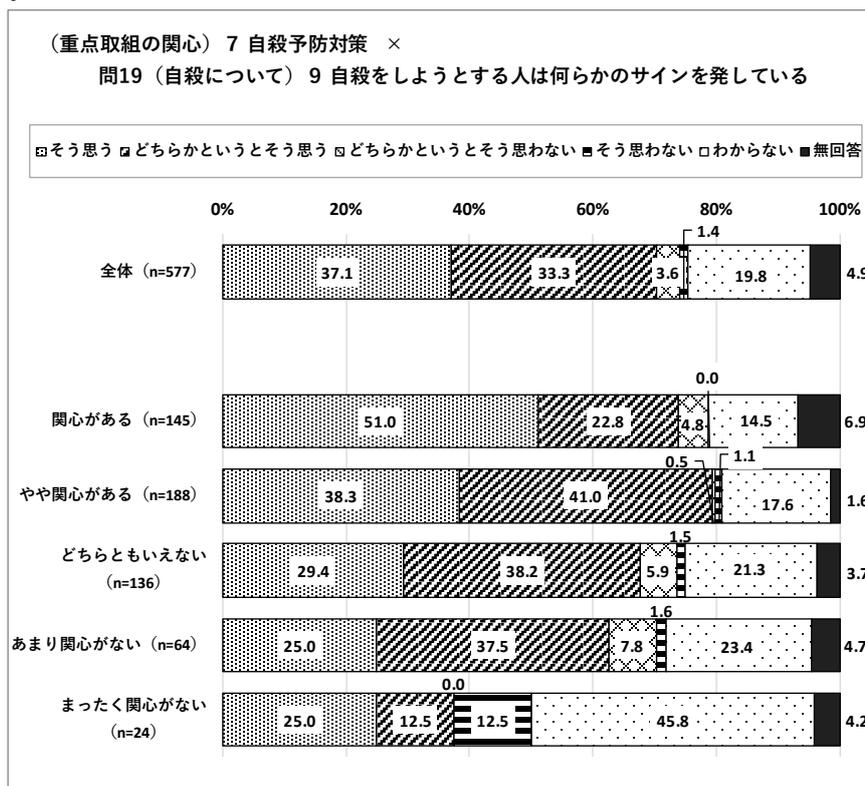
8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」と考えている傾向が見られる。



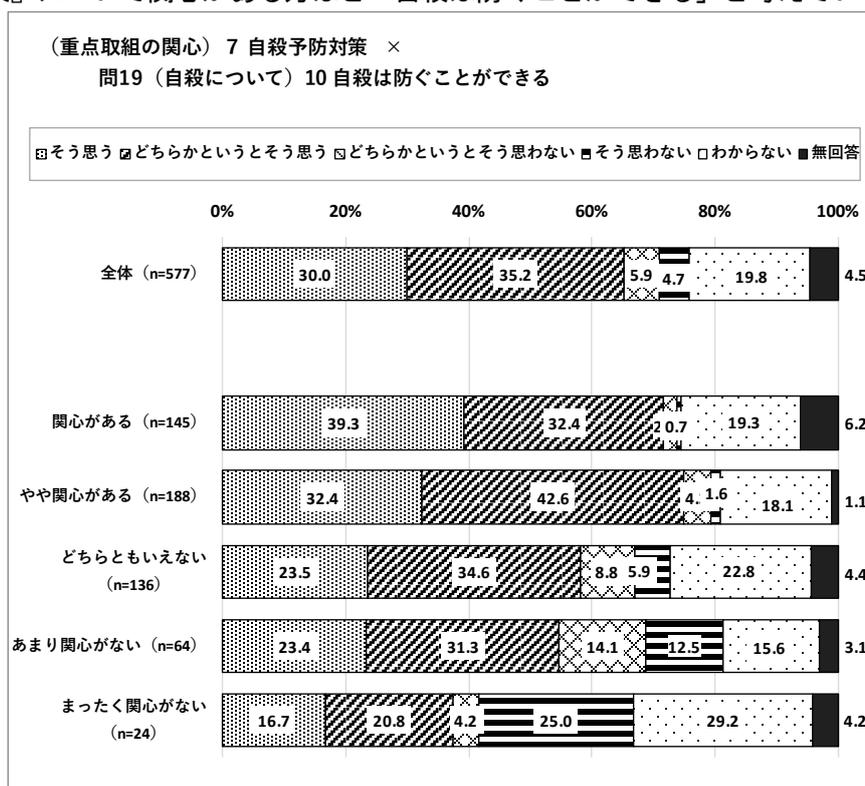
9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺をしようとする人は何らかのサインを発している」と考えている。



10 自殺は防ぐことができる

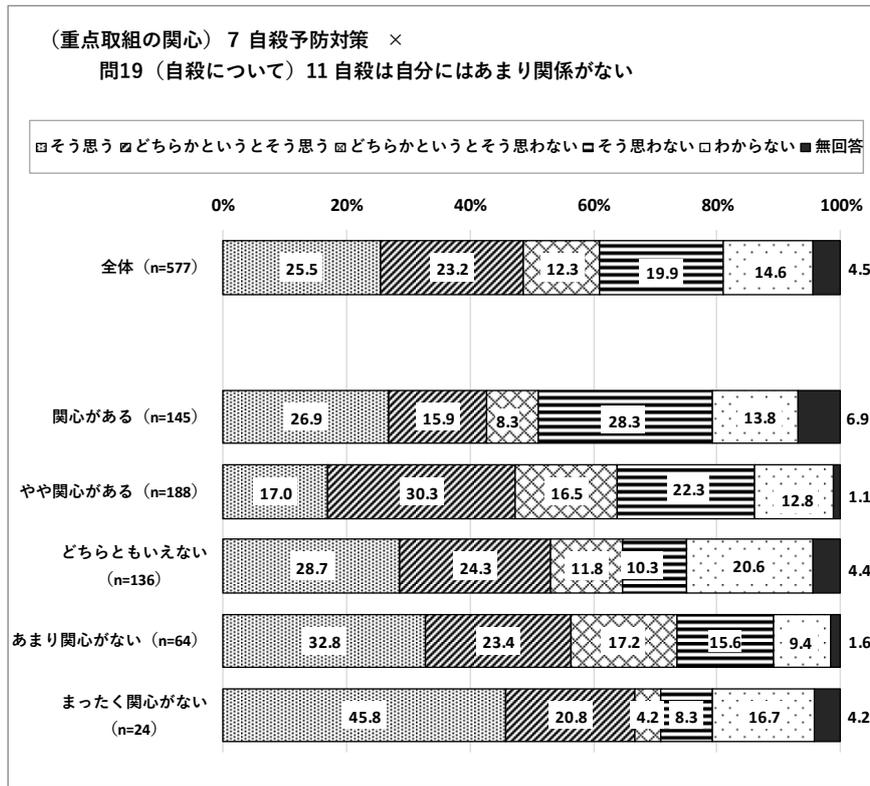
- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は防ぐことができる」と考えている。



III 集計分析結果

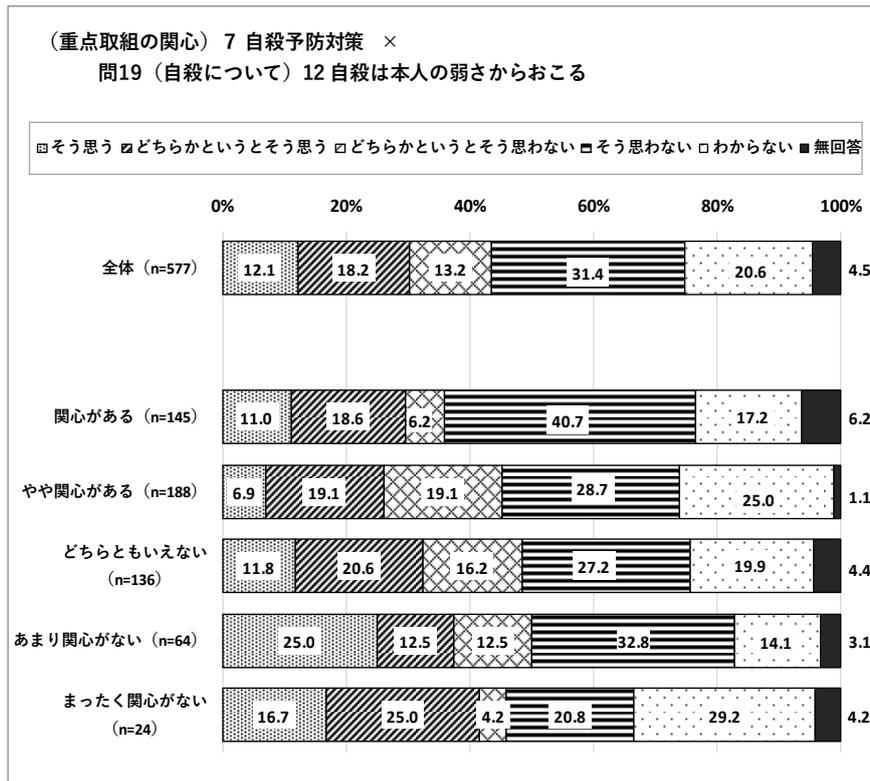
11 自殺は自分にはあまり関係がない

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は自分にはあまり関係がない」とは考えていない傾向が見られる。



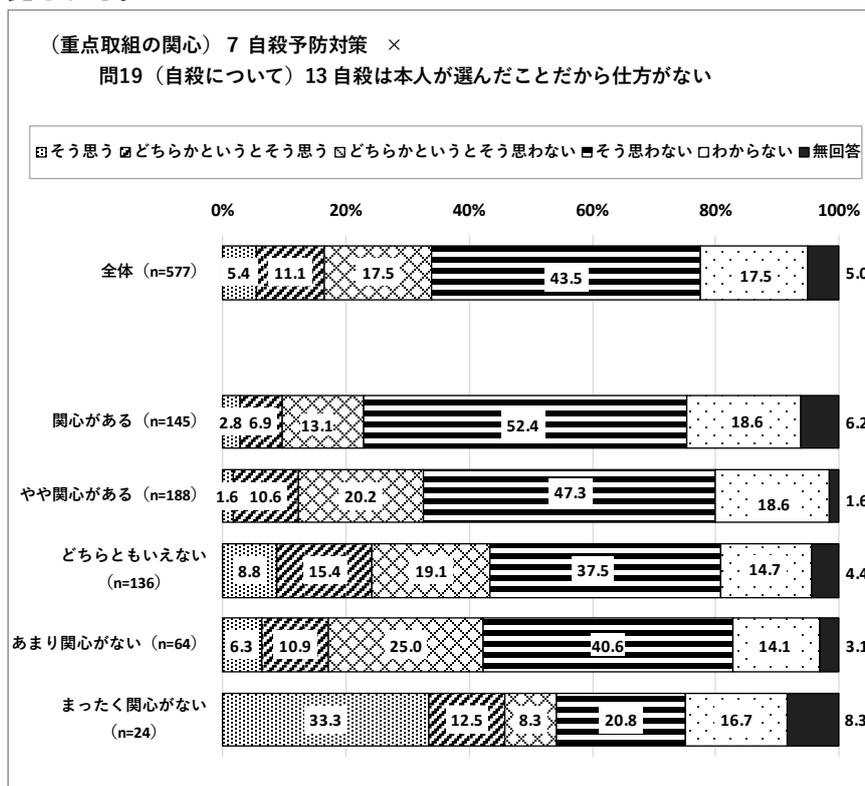
12 自殺は本人の弱さからおこる

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は本人の弱さからおこる」とは考えていない傾向が見られる。



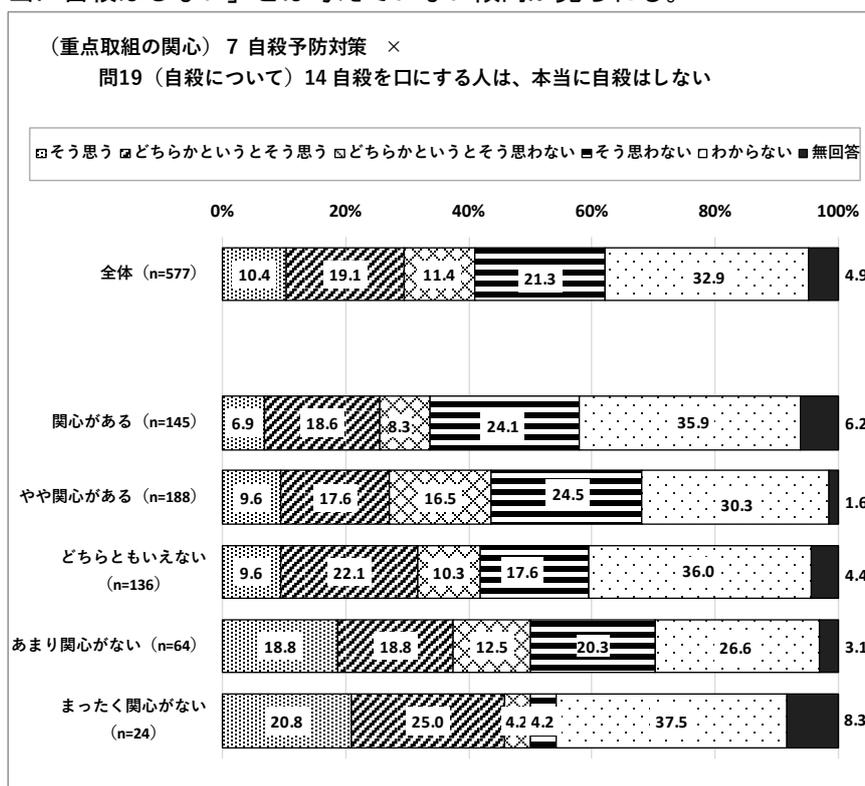
13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は本人が選んだことだから仕方がない」とは考えていない傾向が見られる。



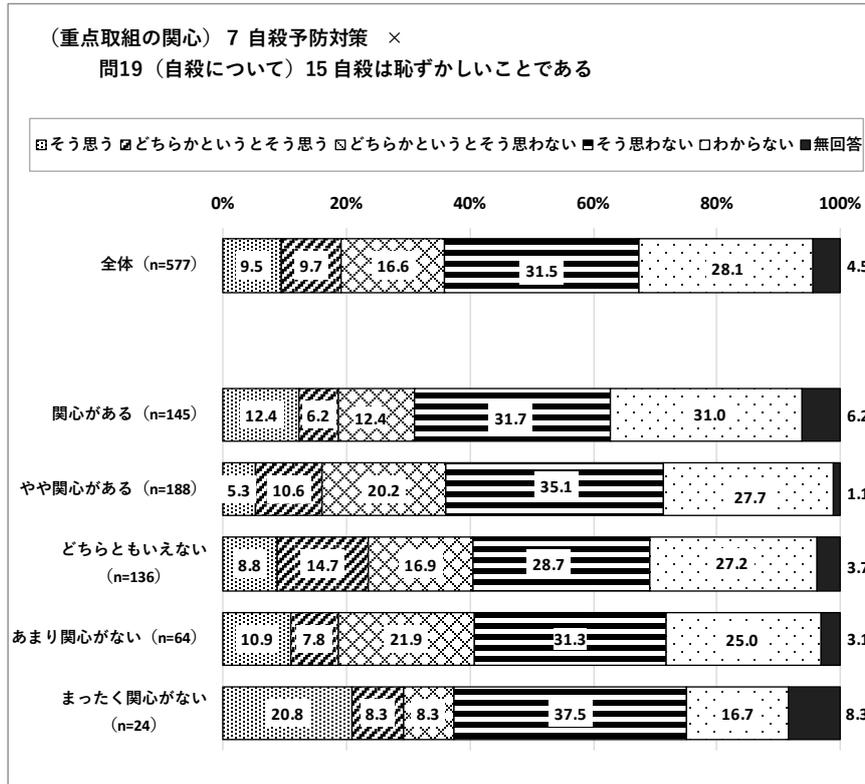
14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない

- ・『自殺予防対策』について関心度合いにかかわらず、「自殺を口にする人は、本当に自殺はしない」という考え方について「わからない」と回答した方が3割程度いるが、関心がある方ほど「自殺を口にする人は、本当に自殺はしない」とは考えていない傾向が見られる。



15 自殺は恥ずかしいことである

- ・『自殺予防対策』について関心度合に関わらず「自殺は恥ずかしいことである」とは考えていない方が3割程度いる。



8 防犯対策

<性別>

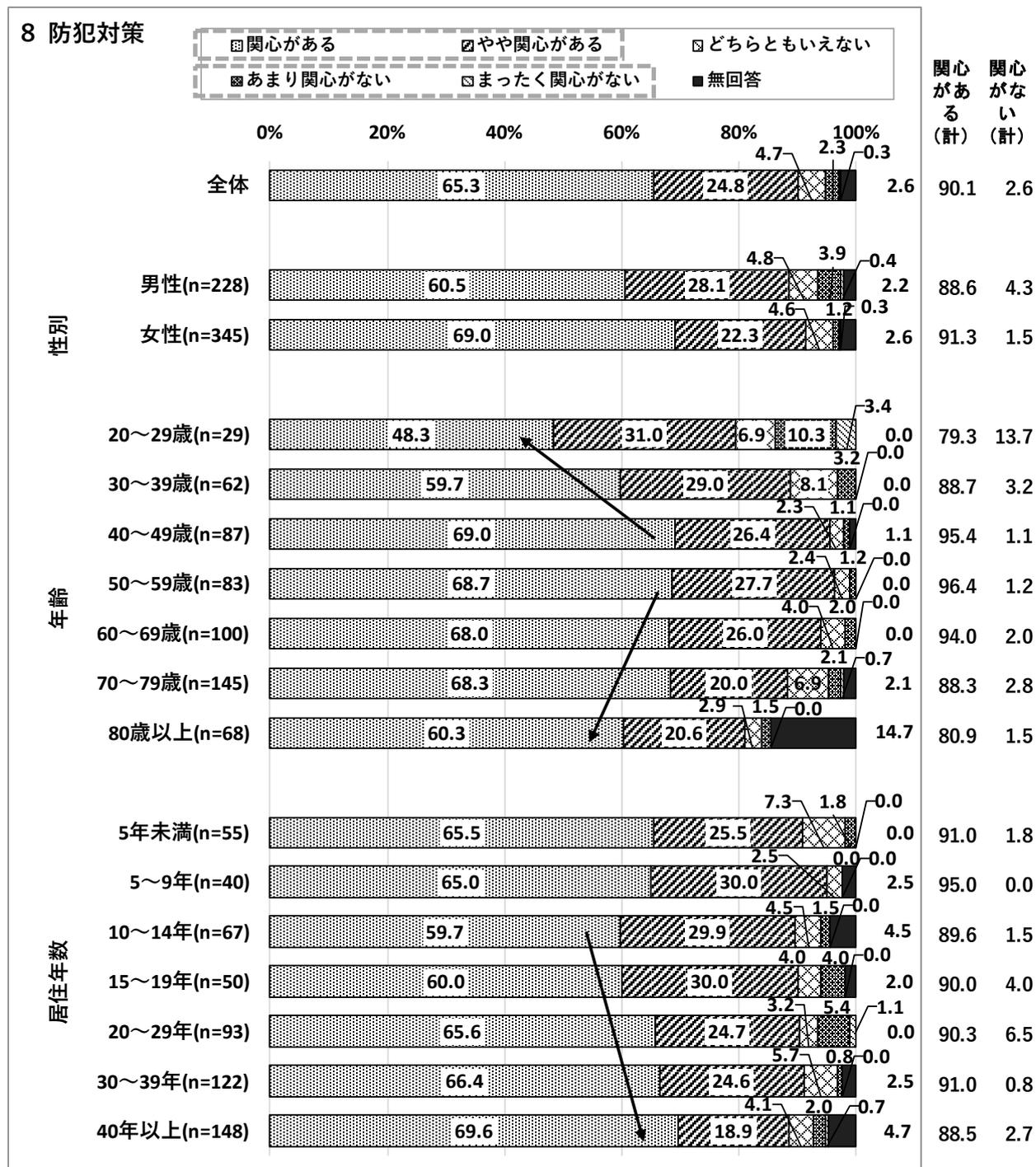
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、8.5ポイント高い。

<年齢別>

・「40～49歳」「50～59歳」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上高く、40歳より若くなるほど、また、60歳より高齢になるほど関心度は低くなっている。

<居住年数別>

・10年未満を除いて「関心がある」の割合は、居住年数が長いほど高くなる傾向にある。

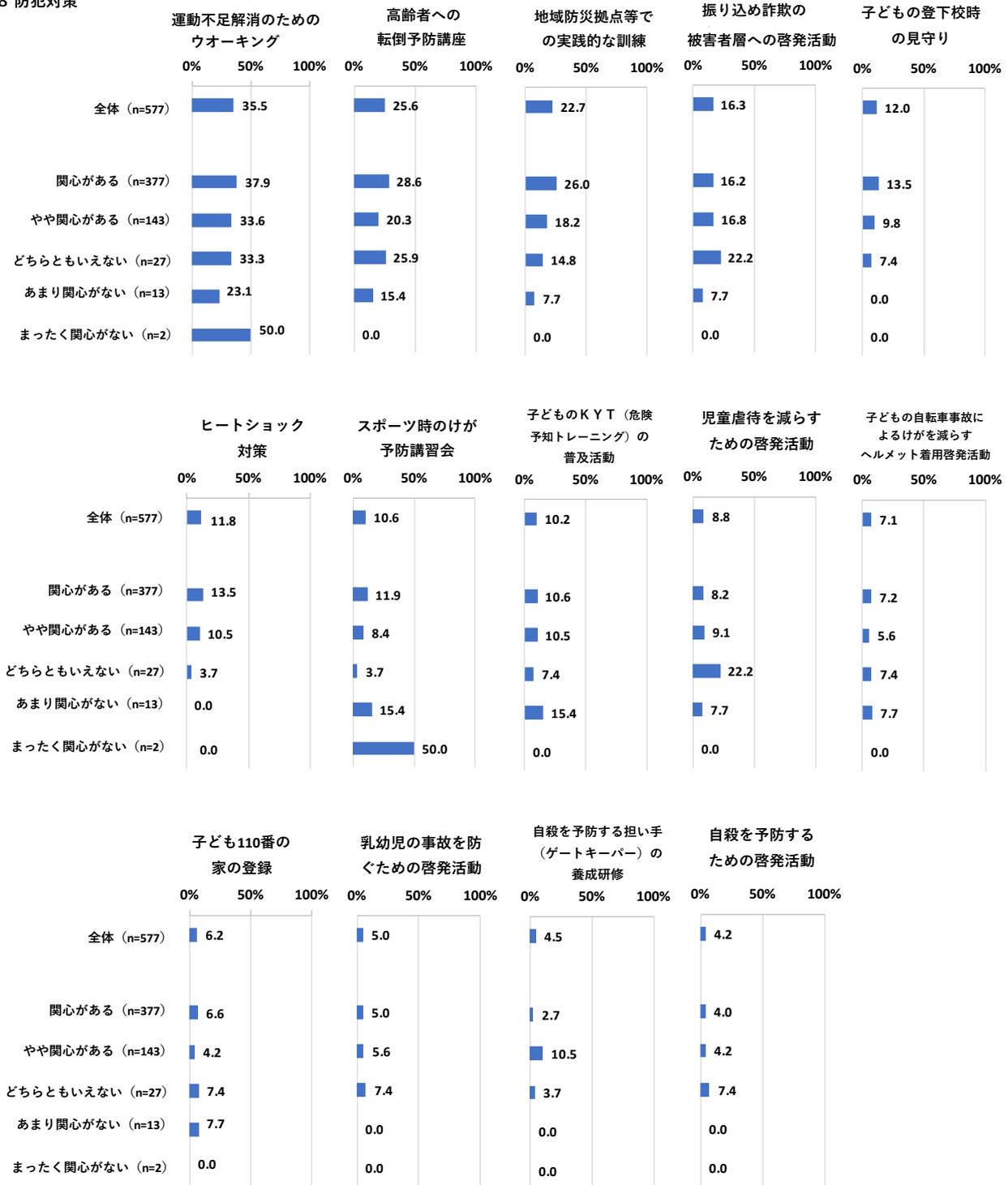


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『防犯対策』について関心が高い方ほど「地域防災拠点等での実践的な訓練」「子どもの登下校時の見守り」「ヒートショック対策」を今後参加したい取組に挙げる割合が高い。

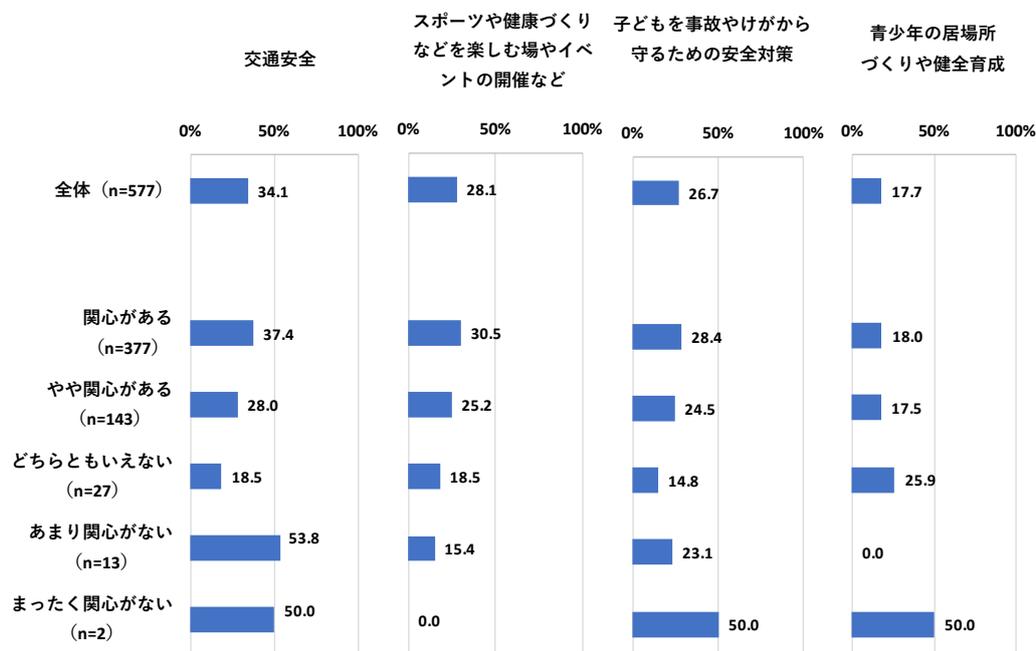
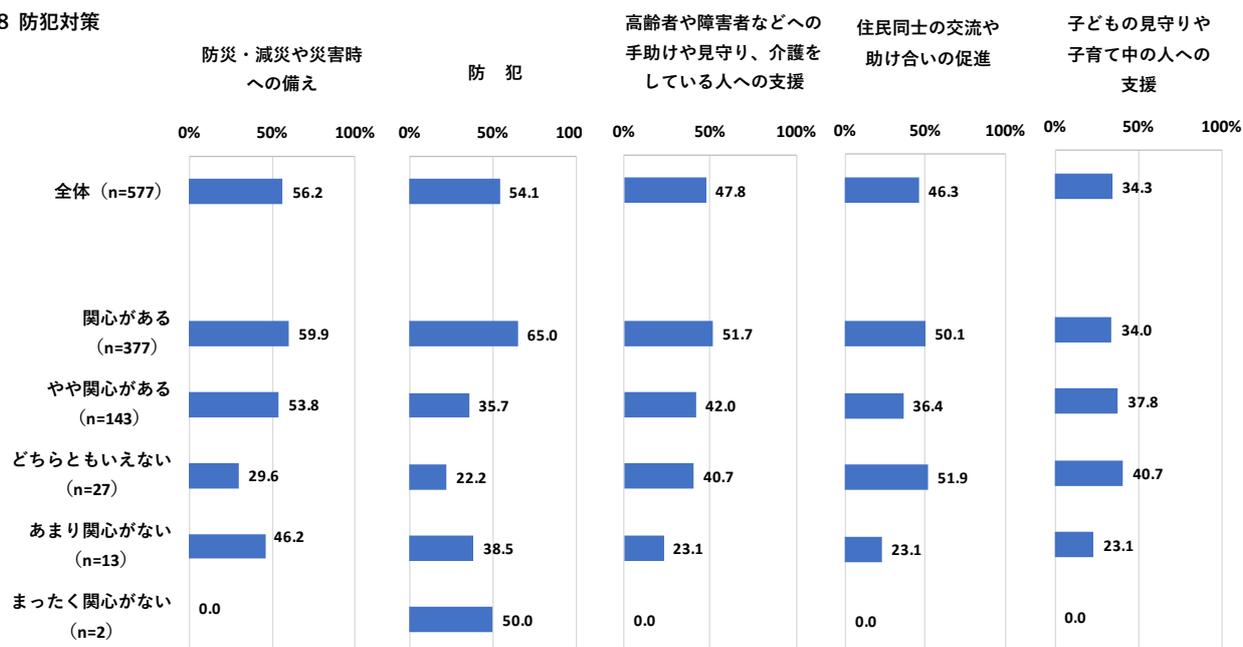
8 防犯対策



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『防犯対策』について「関心がある」方は「防犯」を地域での課題に挙げる割合が全体より10ポイント以上高い。

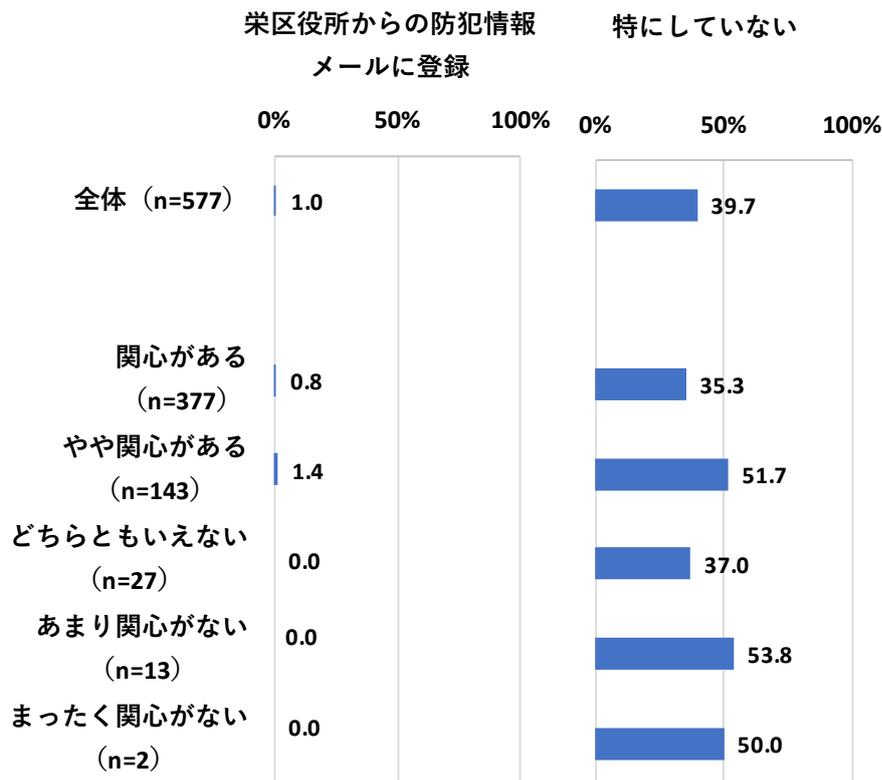
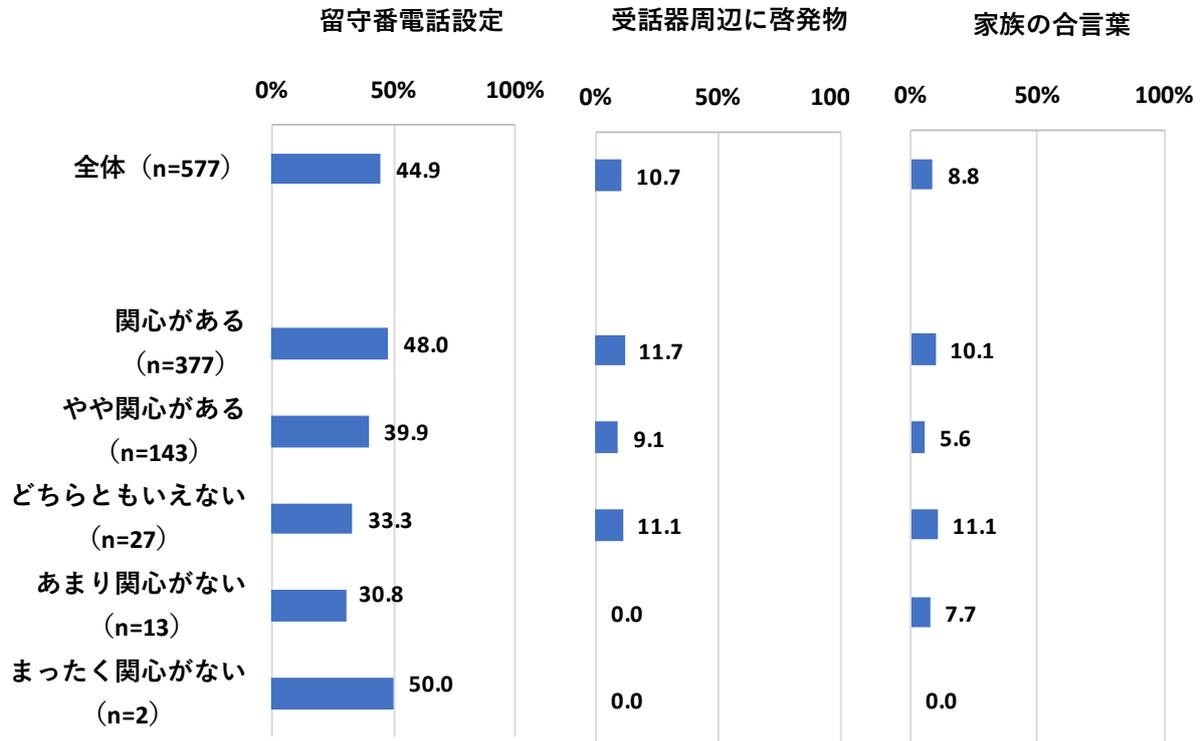
8 防犯対策



【セーフコミュニティの重点項目への関心：振り込め詐欺対策別】

・『防犯対策』への関心度合と振り込め詐欺対策を行っている方の割合には、あまり大きな違いは見られない。

8 防犯対策



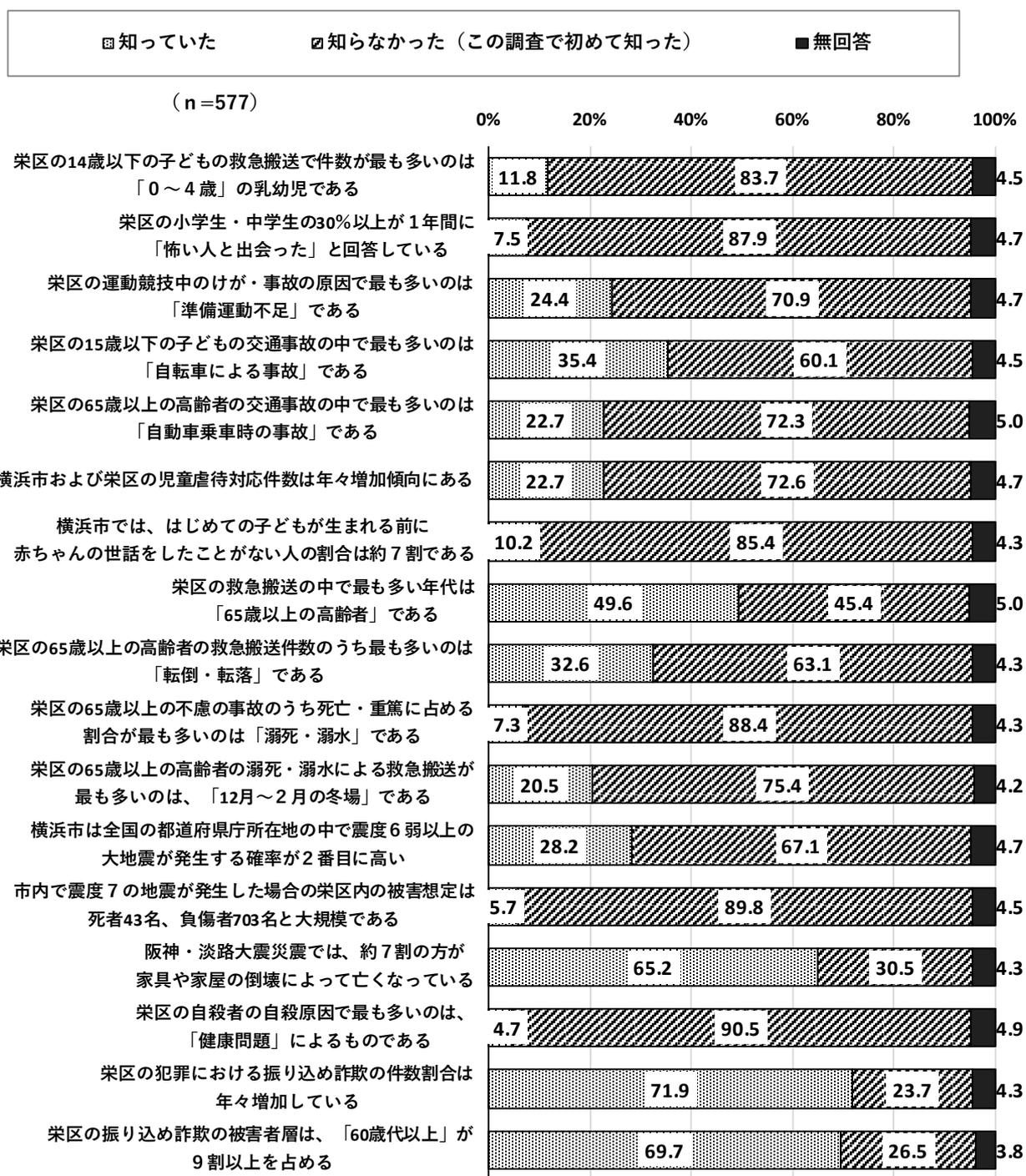
2 日常生活におけるけが・事故の危険性

(4) けが・事故の危険性の認知度

<全体>

- ・けが・事故の危険性について、振り込め詐欺に関する2問は「知っていた」方が70%前後と高い割合になった。その一方、栄区の自殺者の自殺原因と市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定について「知っていた」方は5%前後と、低い割合となっている。
- ・全ての項目について男女別で見るとほとんどの項目において「男性」より「女性」の方が、「知っていた」割合が高い。「栄区の運動競技中のけが・事故の原因で最も多いのは「準備運動不足」のみ「女性」より「男性」の方がわずかに高くなっている。

問4 けが・事故の危険性についての認知度



【けが・事故の危険性の認知度：時系列】

＜平成28年度調査と比較＞

- ・平成28年度と比較すると、「知っている」割合は、「横浜市は全国の都道府県庁所在地の中で震度6弱以上の大地震が発生する確率が2番目に高い」「阪神・淡路大震災／過去の熊本地震では、約7割の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている」「栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は年々増加」の3項目で増加がみられる。

問4 けが・事故の危険性についての認知度

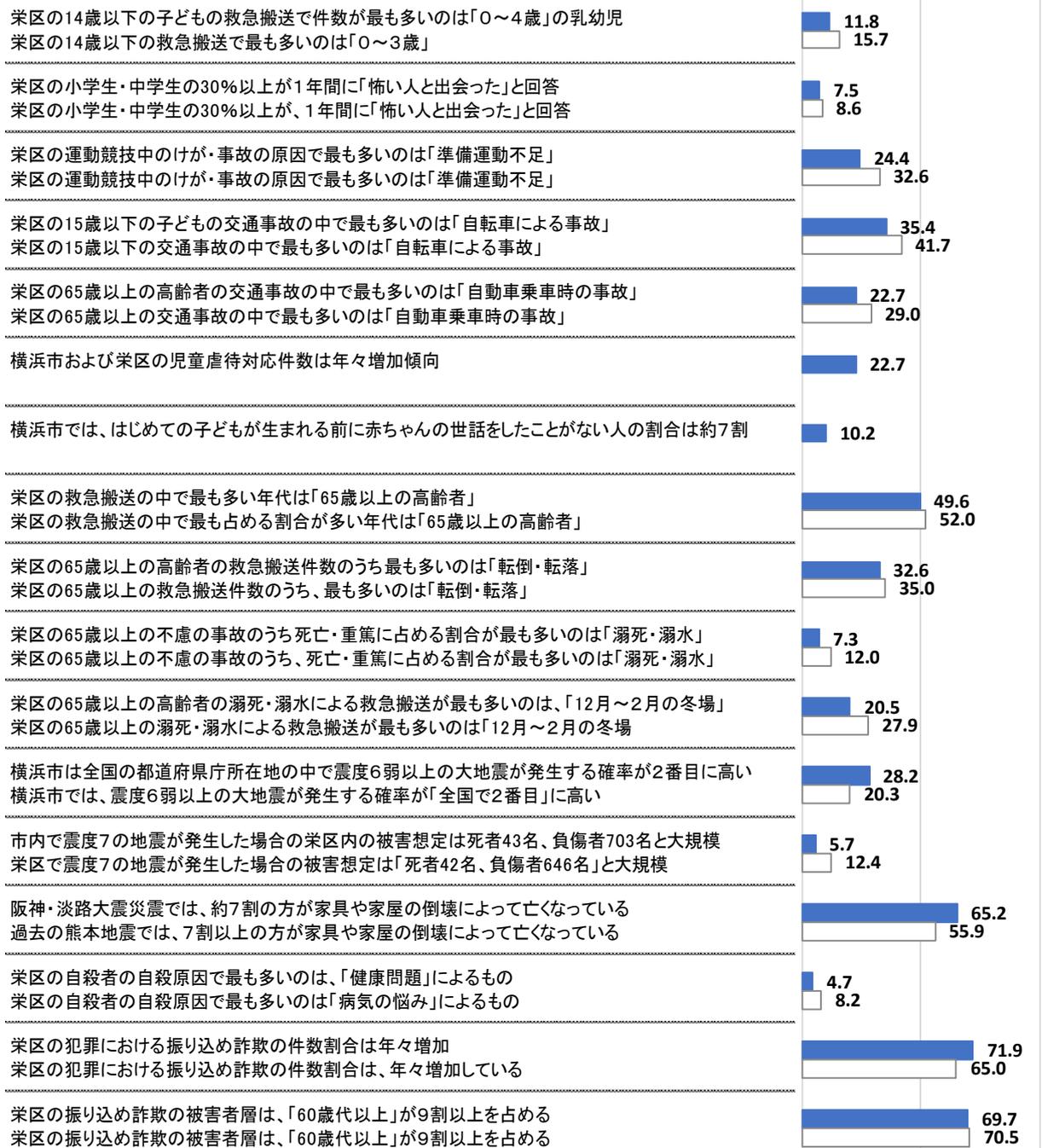
平成30年度調査（知っていた）

平成28年度調査（知っている）

■平成30年度調査（n=577）

□平成28年度調査（n=631）

0% 50% 100%



【けが・事故の危険性の認知度： 属性別】

1 栄区の14歳以下の子どもの救急搬送で件数が最も多いのは「0～4歳」の乳幼児

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、11.7ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

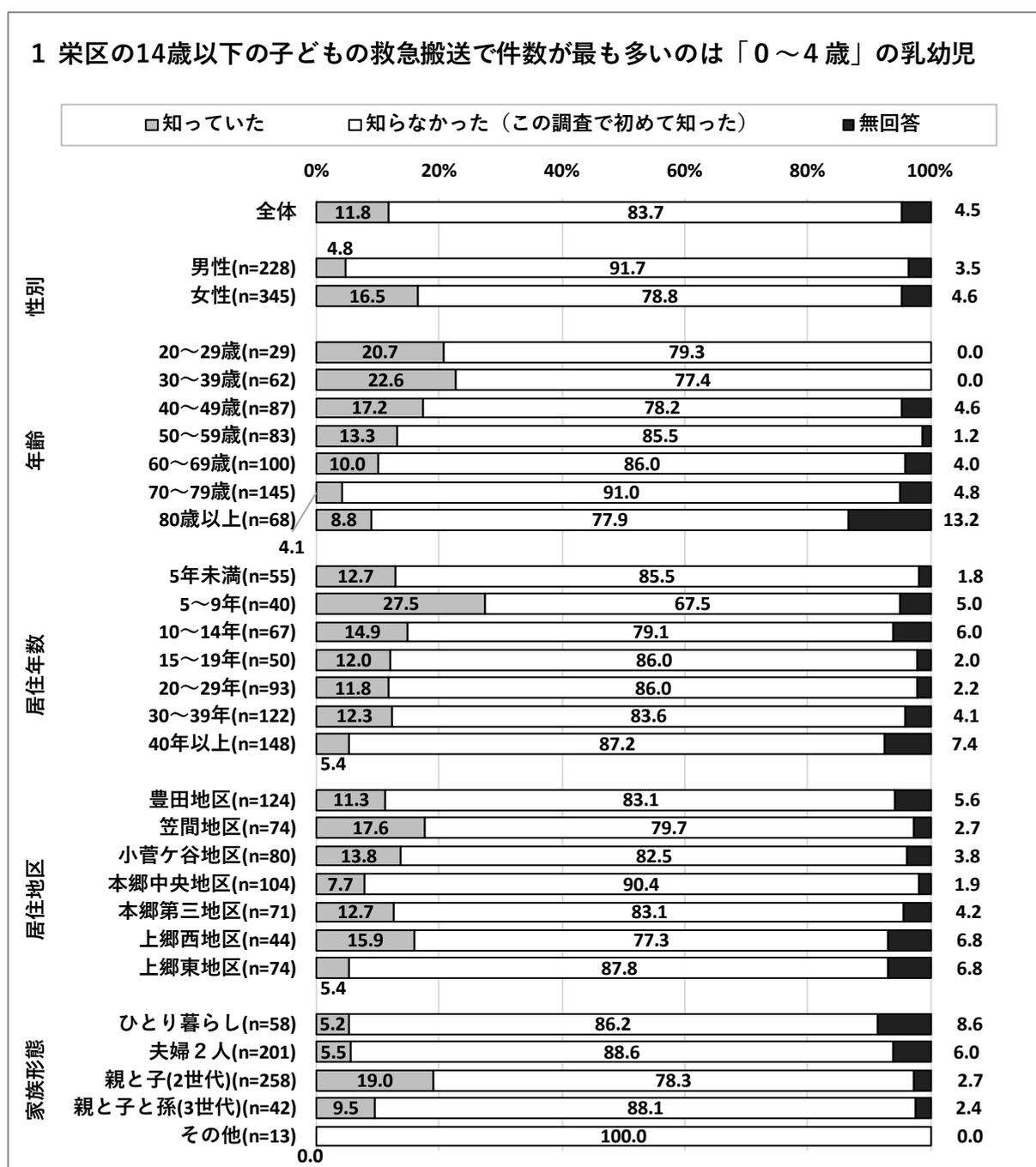
・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

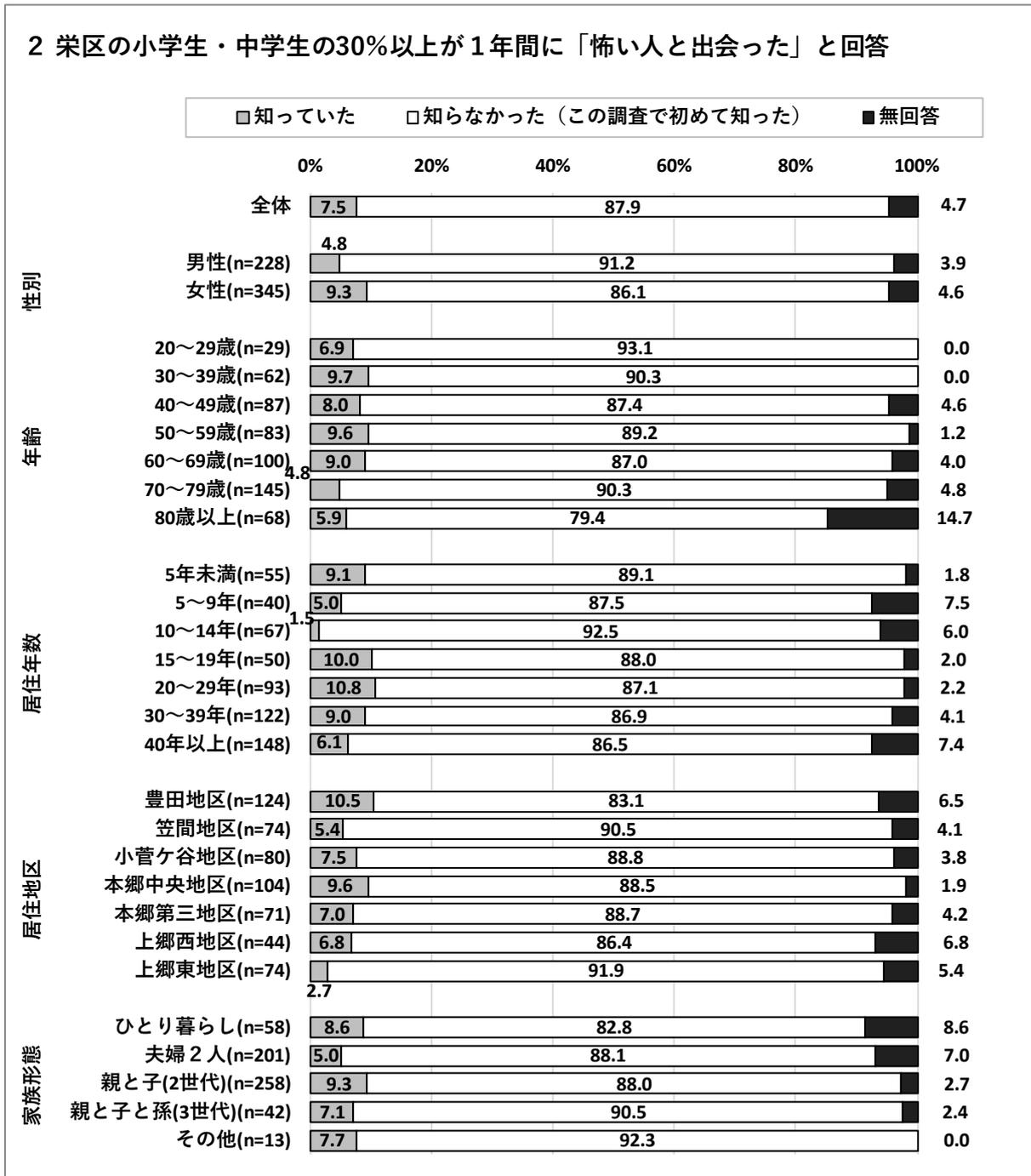
・「親と子(2世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



2 栄区の小学生・中学生の30%以上が1年間に「怖い人と出会った」と回答

<全体>

・「知らなかった」が9割弱で、属性別では大きな差は見られない。



3 栄区の運動競技中のけが・事故の原因で最も多いのは「準備運動不足」

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、「知っていた」で、3.9ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

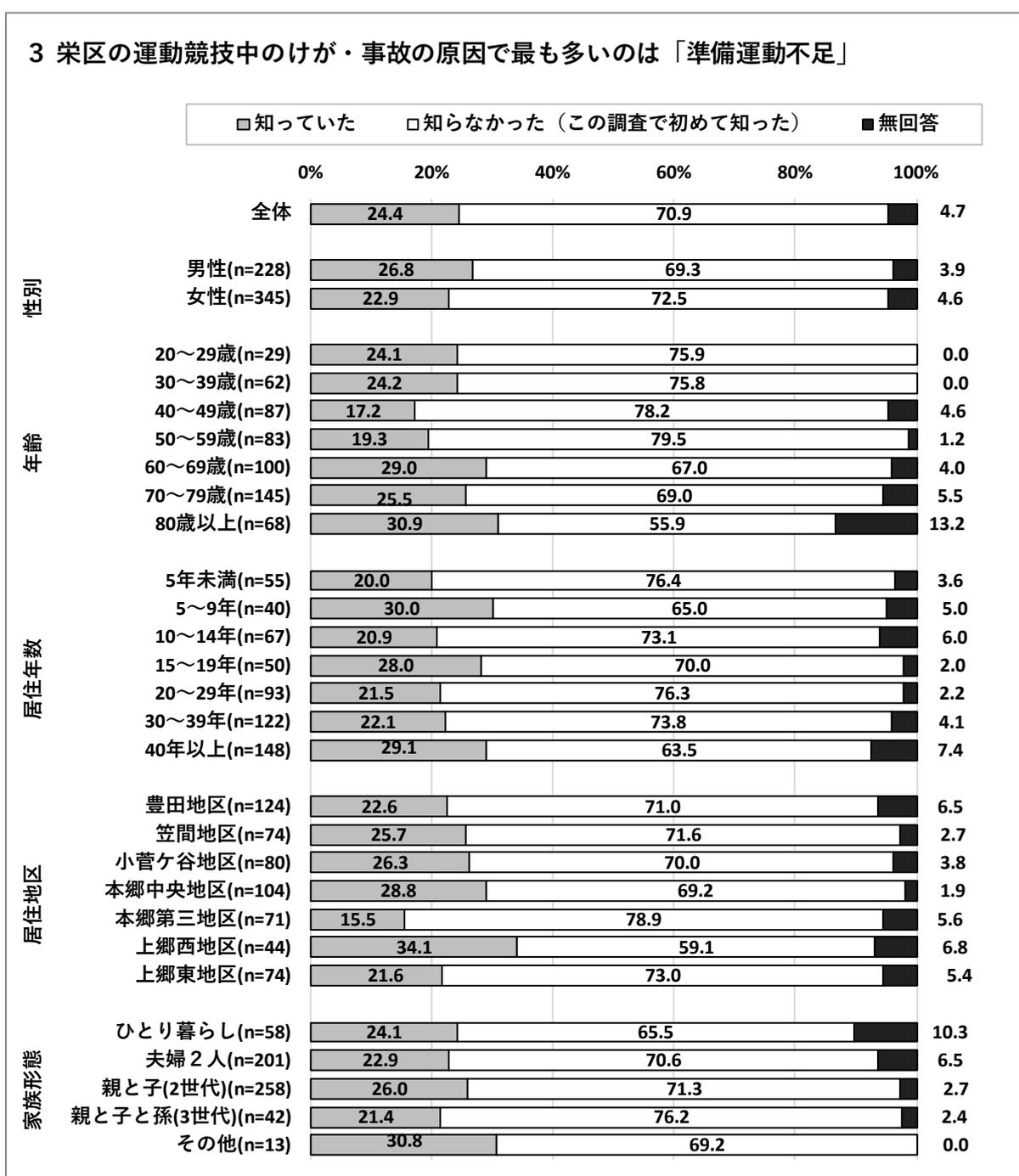
・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



4 栄区の15歳以下の子どもの交通事故の中で最も多いのは「自転車による事故」

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、8.5ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

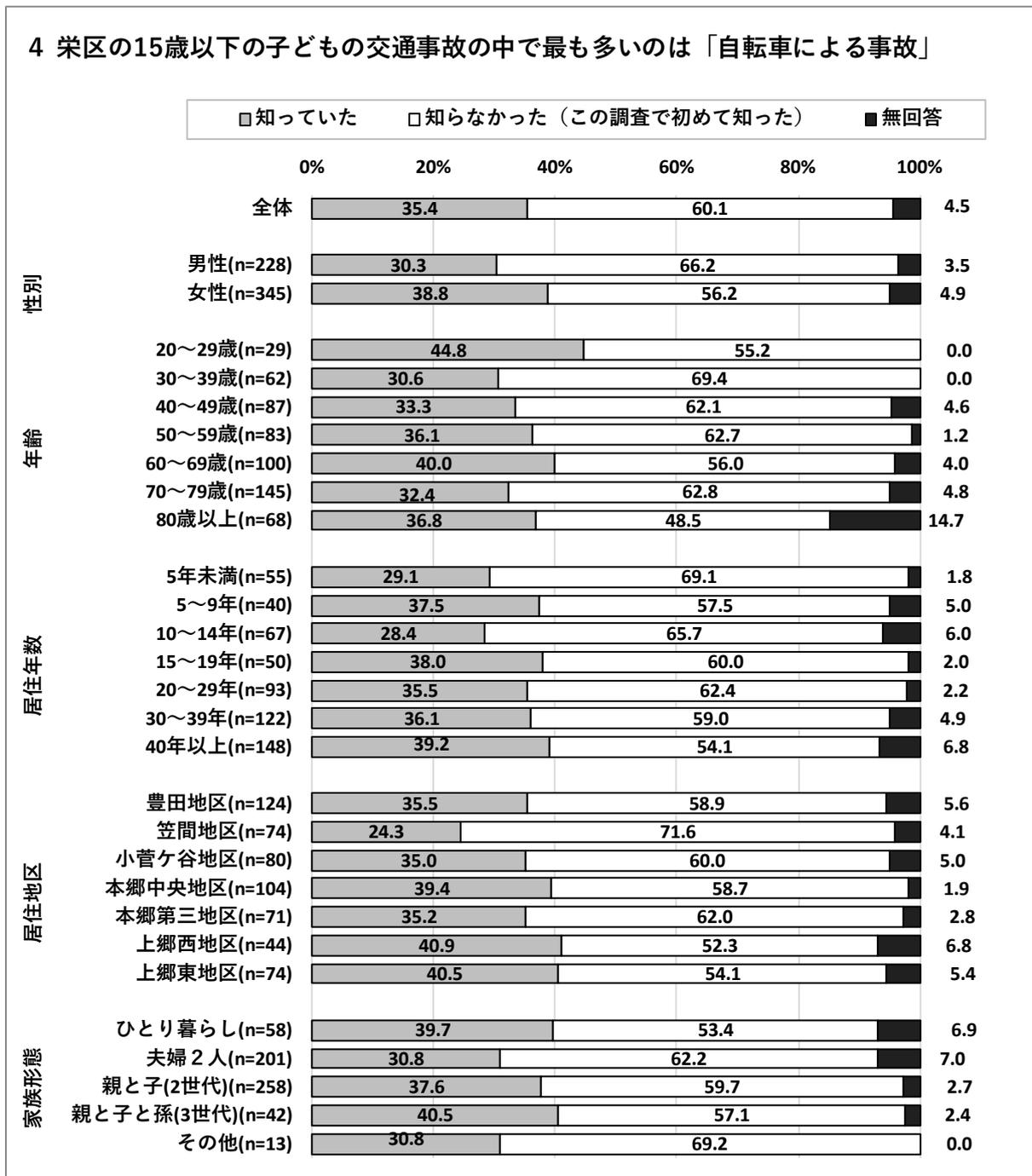
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「上郷西地区」「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



5 栄区の65歳以上の高齢者の交通事故の中で最も多いのは「自動車乗車時の事故」

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、2.7ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

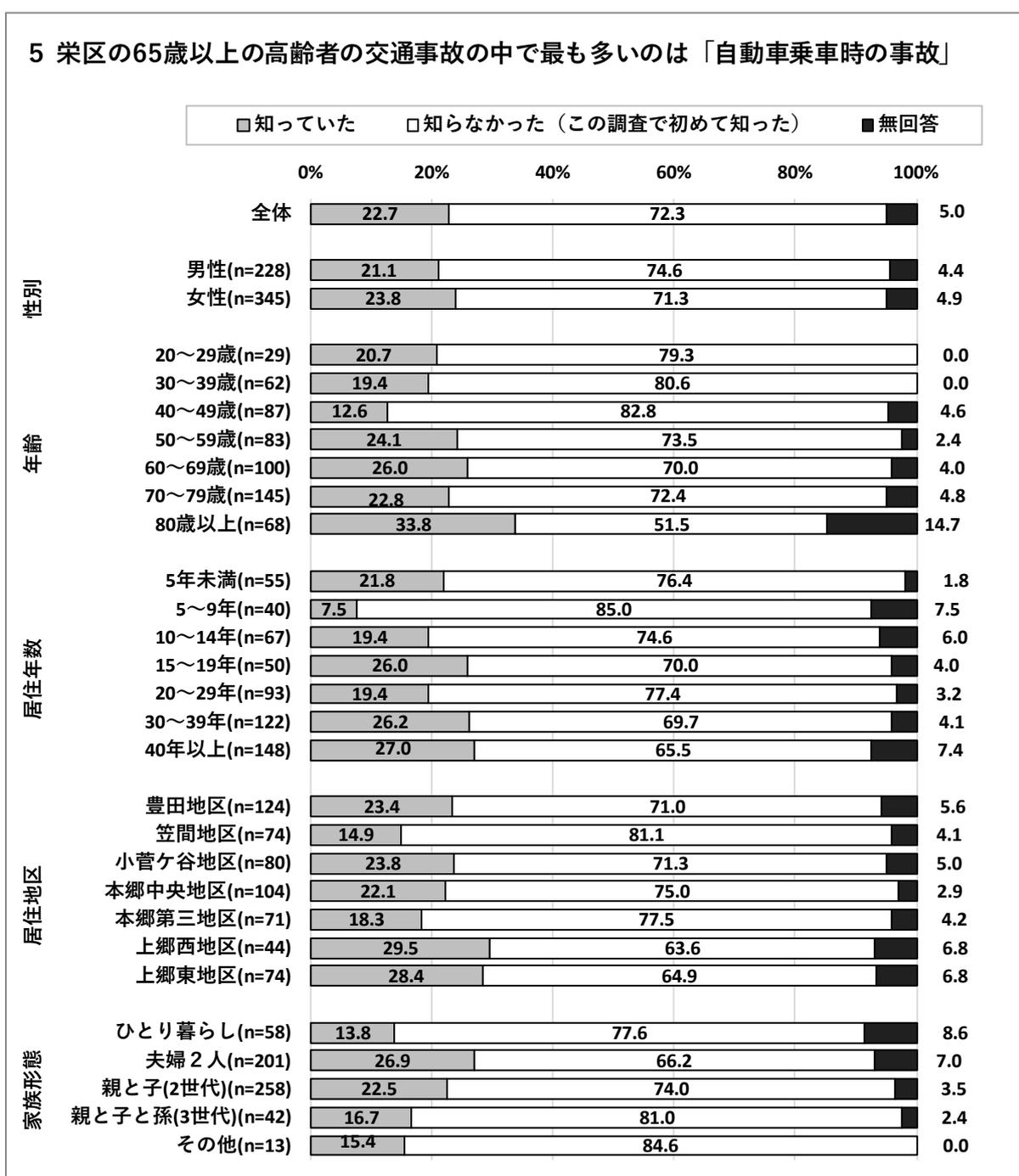
・居住年数別では、「5～9年」が全体より15ポイント低い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・ひとり暮らしでは、「知っていた」の割合が全体よりも5ポイント以上低い。



6 横浜市および栄区の児童虐待対応件数は年々増加傾向

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、9.6ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

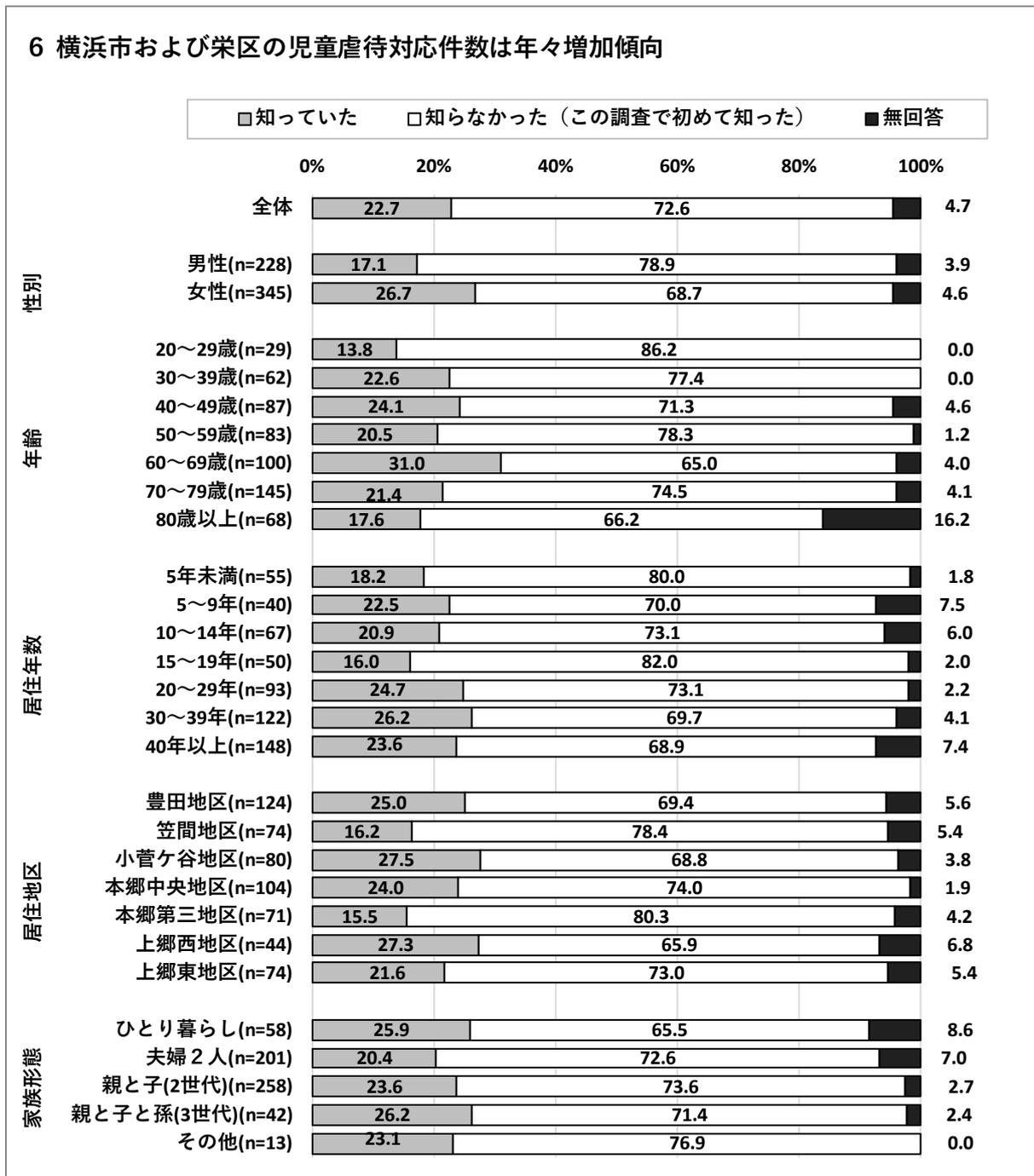
・居住年数別では、「15～19年」が全体より5ポイント以上低い。

<居住地区別>

・居住地区別では、「笠間地区」「本郷第三地区」で「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



7 横浜市では、はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人の割合は約7割

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、3.7ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

・「15～19年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

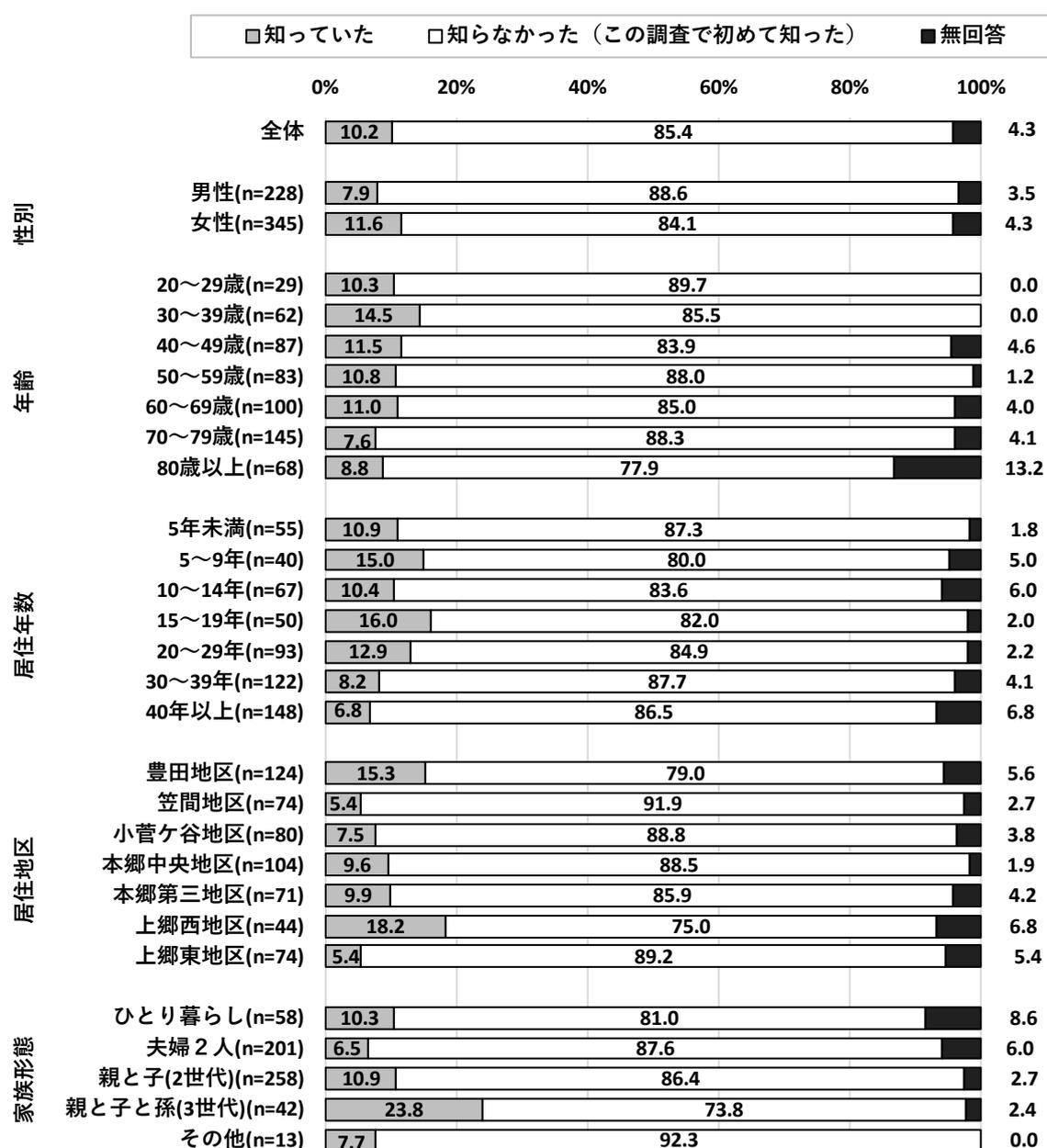
<居住地区別>

・「豊田地区」「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

7 横浜市では、はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人の割合は約7割



8 栄区の救急搬送の中で最も多い年代は「65歳以上の高齢者」

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、4.7ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く6割以上が知っている。

<居住年数別>

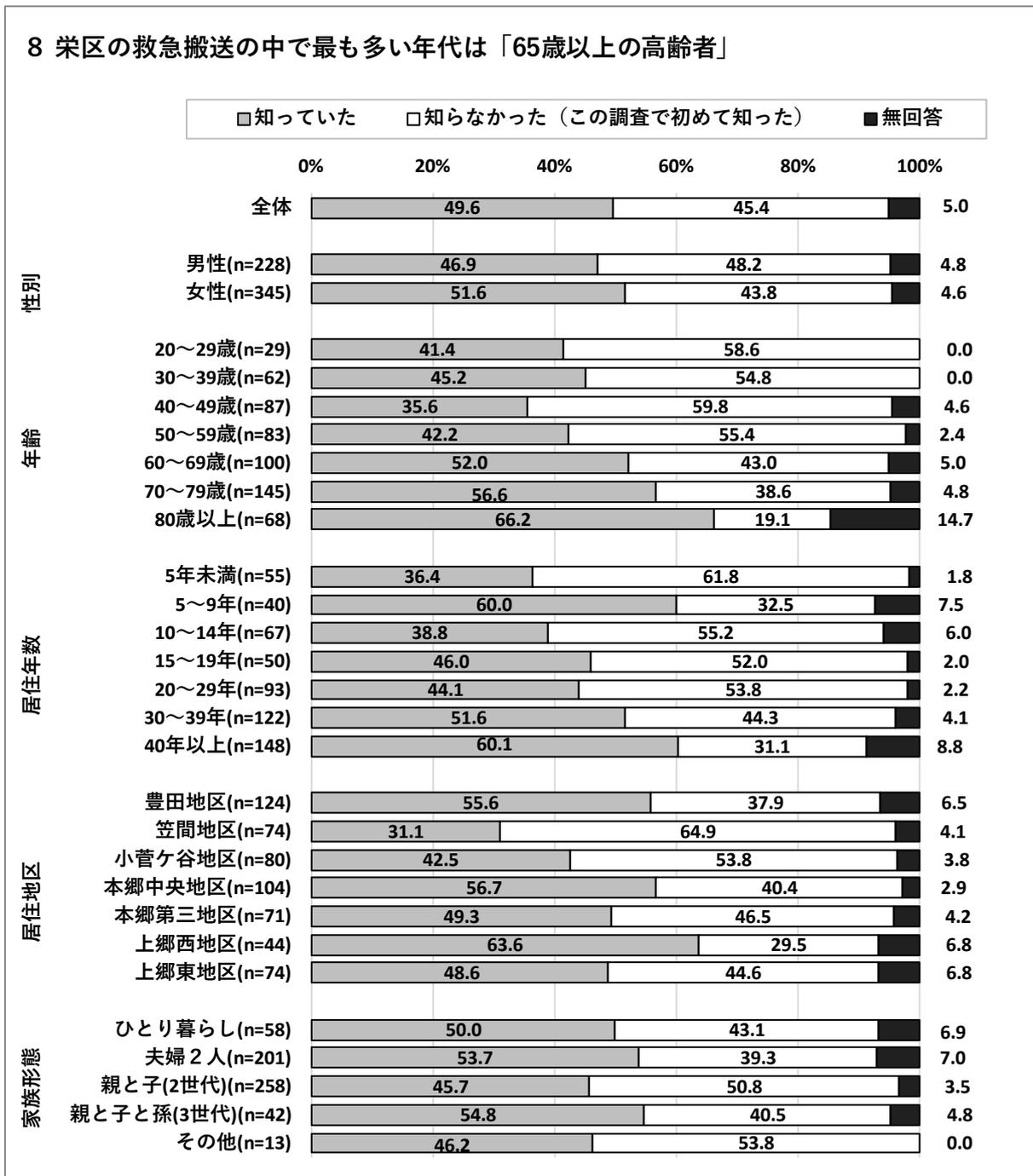
・「5～9年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く6割以上が知っている。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く6割以上が知っている。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



9 栄区の65歳以上の高齢者の救急搬送件数のうち最も多いのは「転倒・転落」

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、4.7ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

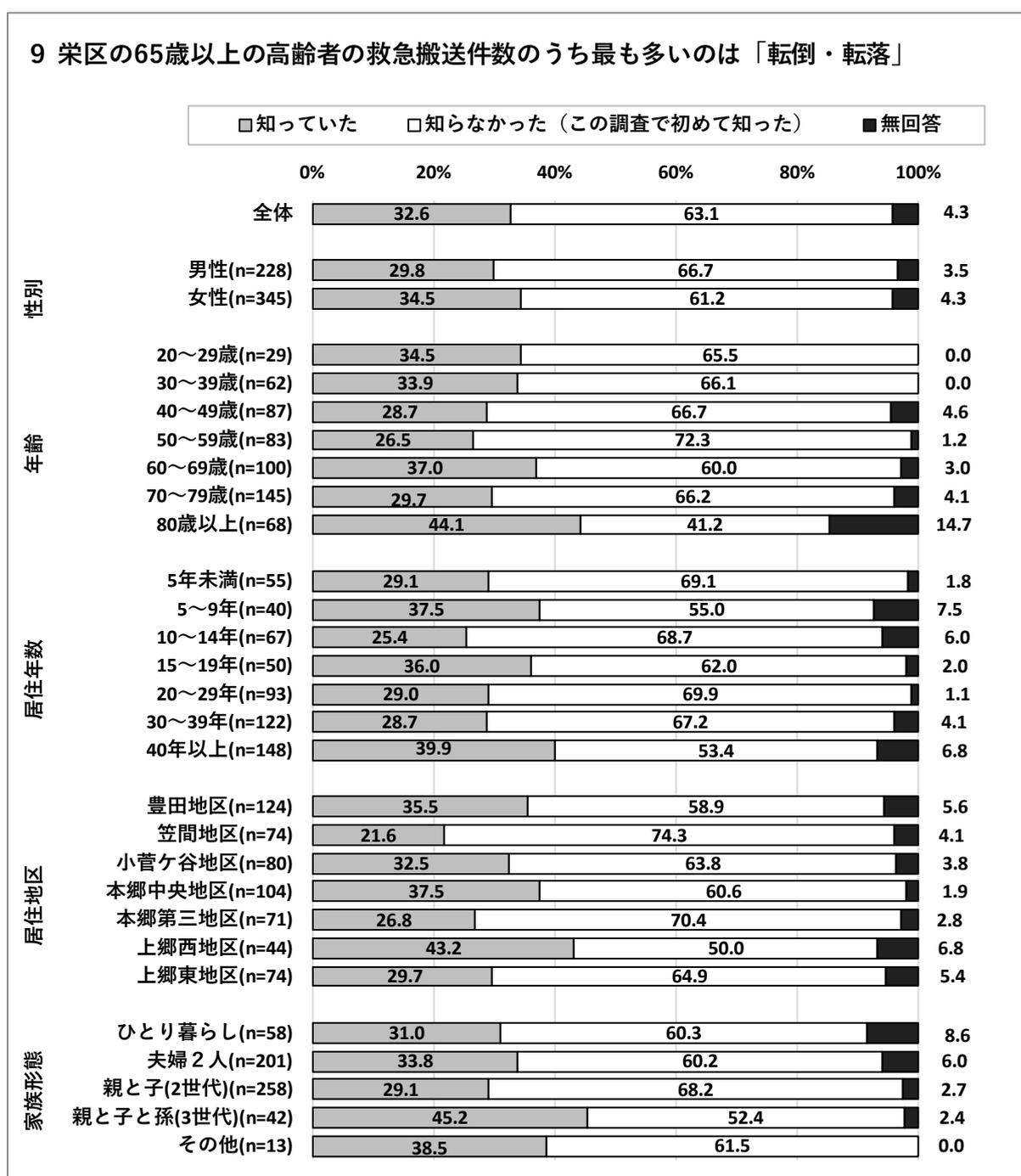
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。



10 栄区の65歳以上の不慮の事故のうち死亡・重篤に占める割合が最も多いのは「溺死・溺水」

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、2.0ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

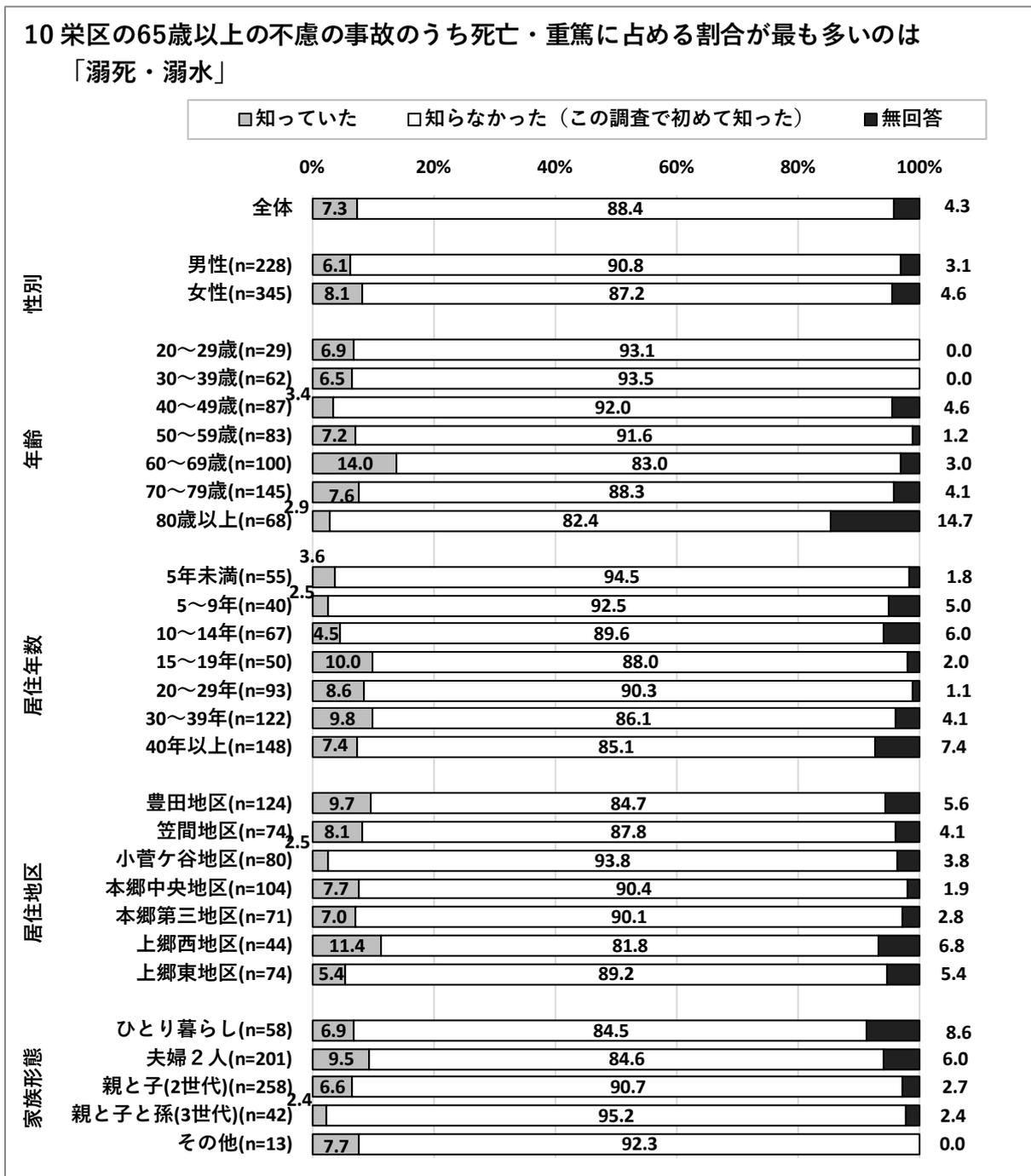
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



11 栄区の65歳以上の高齢者の溺死・溺水による救急搬送が最も多いのは、「12月～2月の冬場」

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、12.0ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

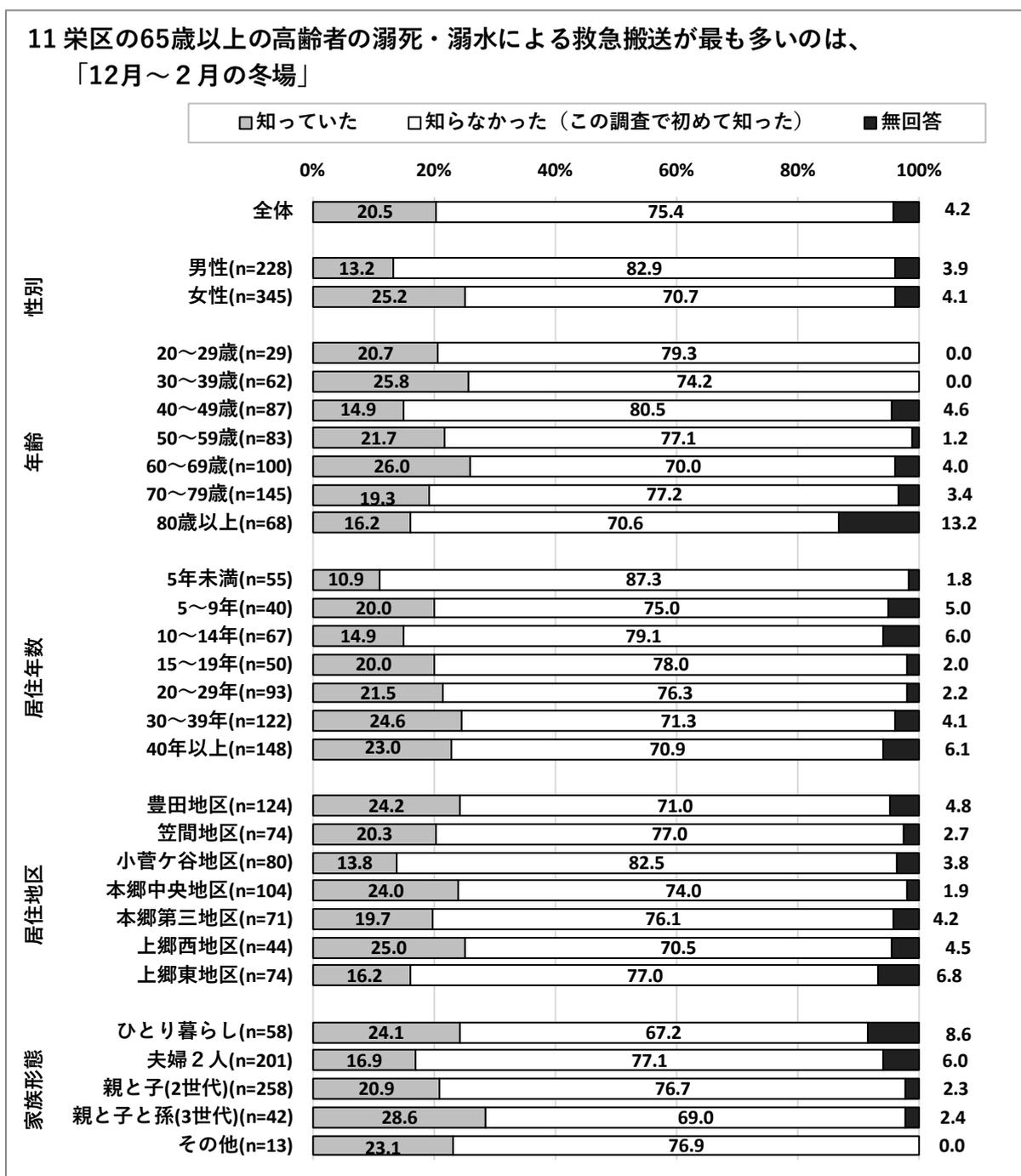
・居住年数別では、「5年未満」「10～14年」が全体より5ポイント以上低い。

<居住地区別>

・居住地区別では、「小菅ヶ谷地区」で全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

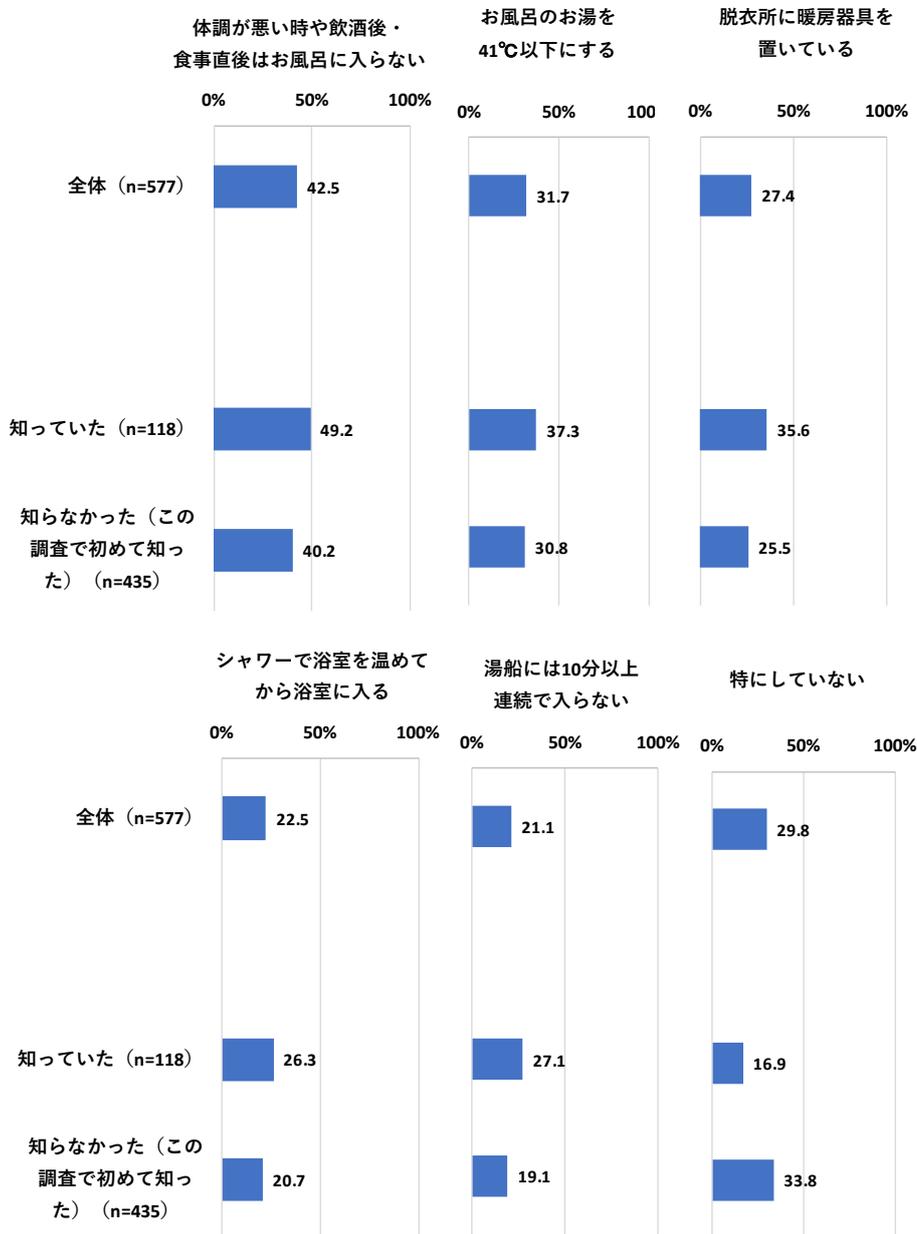
・家族形態別では、「親と子と孫（3世代）」では全体より5ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：ヒートショック対策別】

11 栄区の65歳以上の高齢者の溺死・溺水による救急搬送が最も多いのは、「12月～2月の冬場」

・ヒートショック対策について「知っていた」方は「知らなかった」方よりヒートショック対策を行っている割合は高い。特に「体調が悪い時や飲酒後・食事直後はお風呂に入らない」は9.0ポイント高くなっている。



12 横浜市は全国の都道府県庁所在地の中で震度6弱以上の大地震が発生する確率が2番目に高い

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、4.2ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

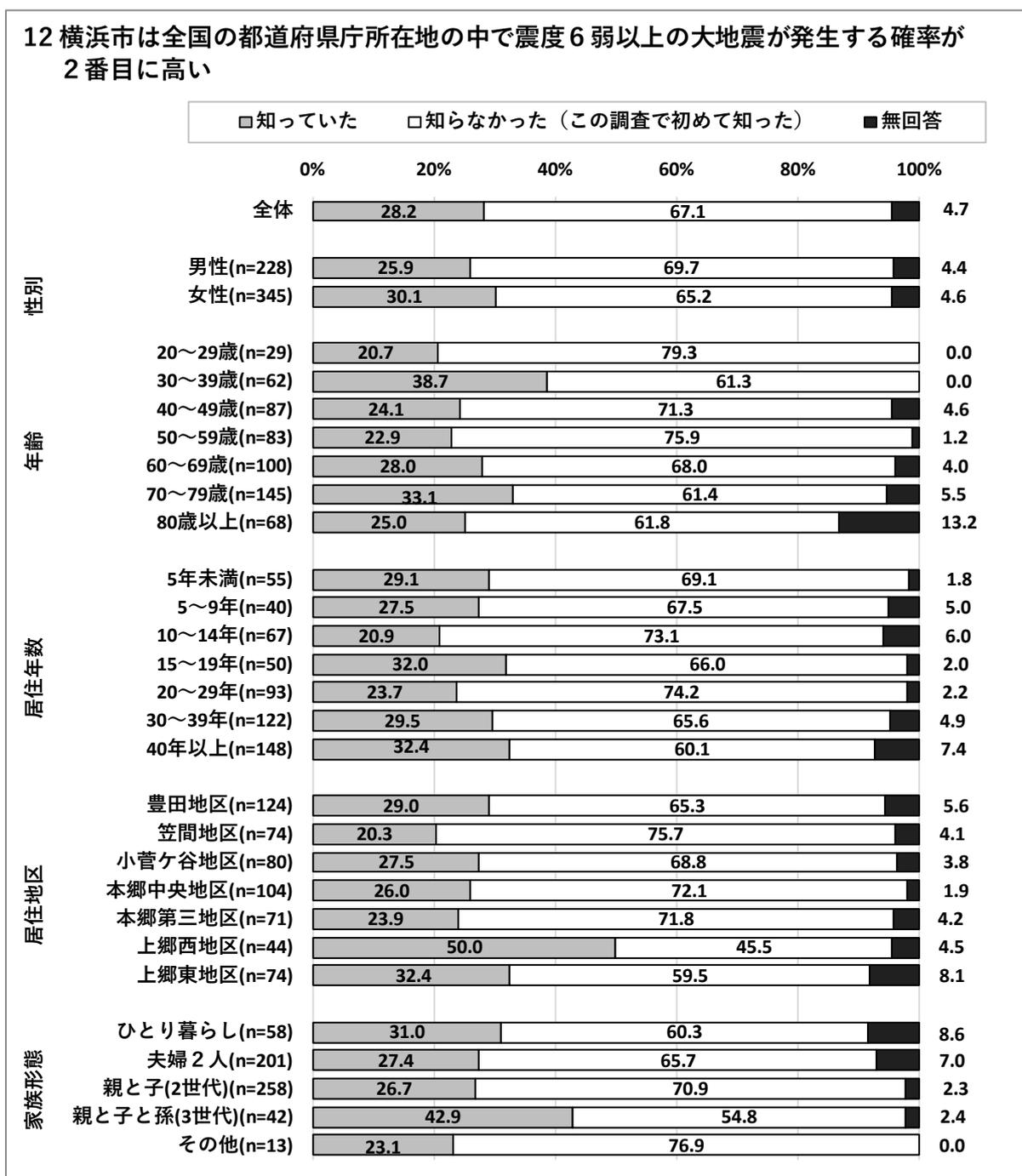
・居住年数別では、「10～14年」が全体より5ポイント以上低い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より20ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

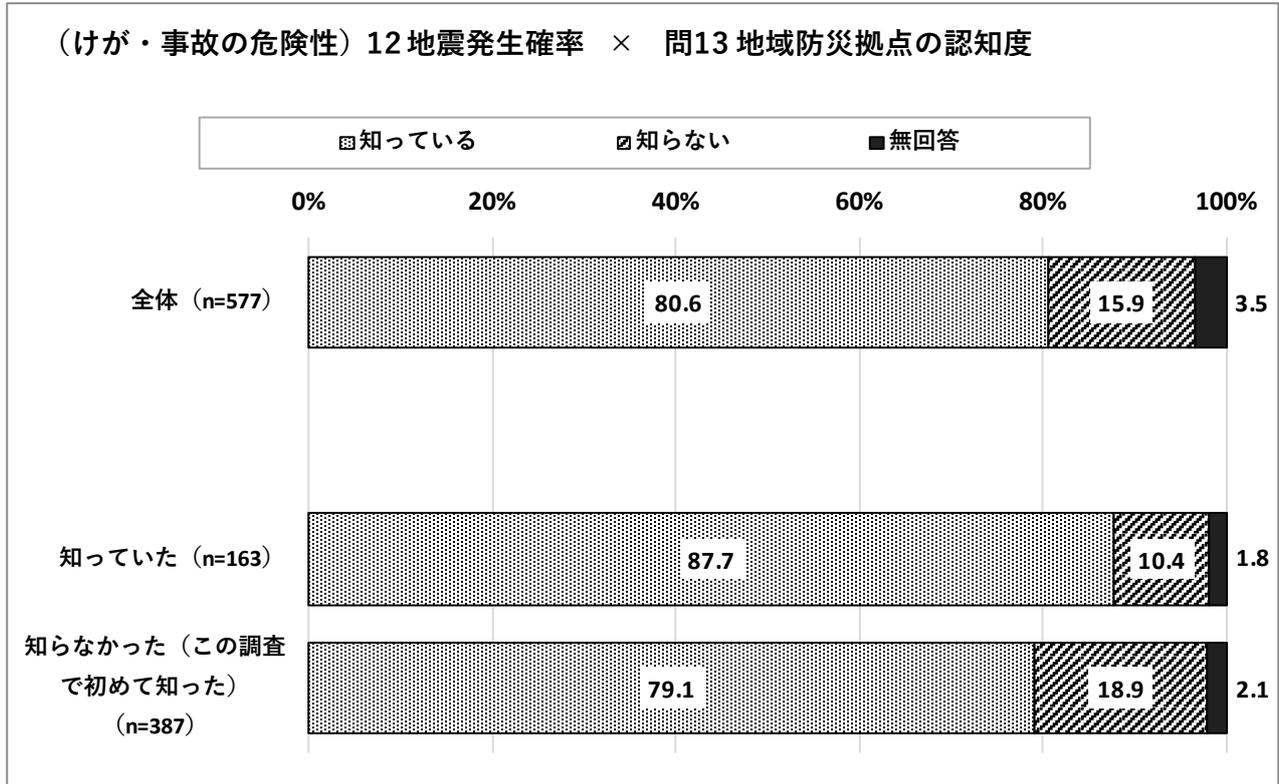


III 集計分析結果

【けが・事故の危険性：地域防災拠点の認知度別】

12 横浜市は全国の都道府県庁所在地の中で震度6弱以上の大地震が発生する確率が2番目に高い

・地震発生確率について「知っていた」方が「知らなかった」方より地域防災拠点の認知度が8.6ポイント高いが、「知っていた」「知らなかった」に関わらず地域防災拠点は8割近くの区民に認知されている。



13 市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定は死者43名、負傷者703名と大規模

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、5.2ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

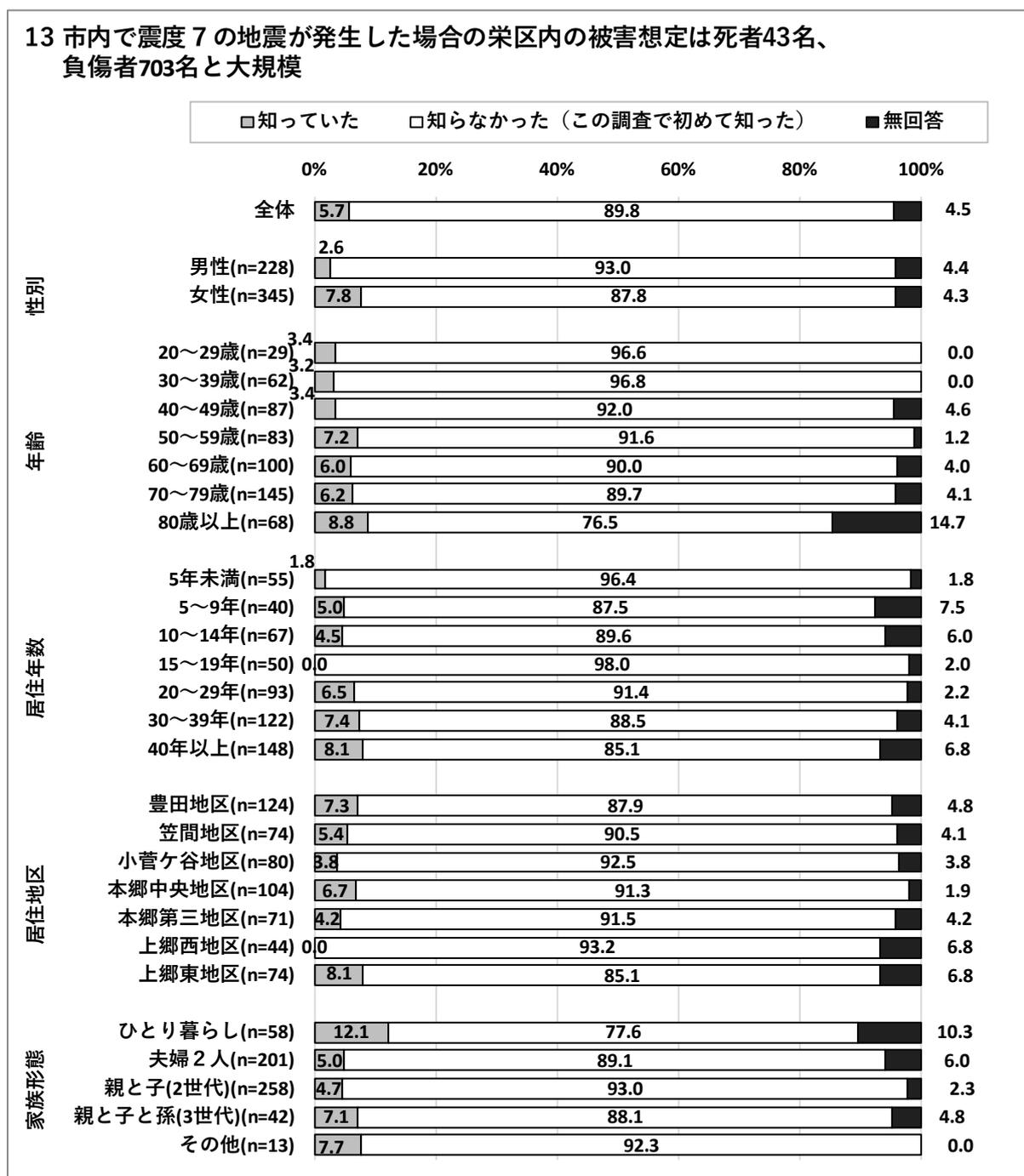
・居住年数別では、「15～19年」が全体より5ポイント以上低い。

<居住地区別>

・居住地区別では、「上郷西地区」で全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

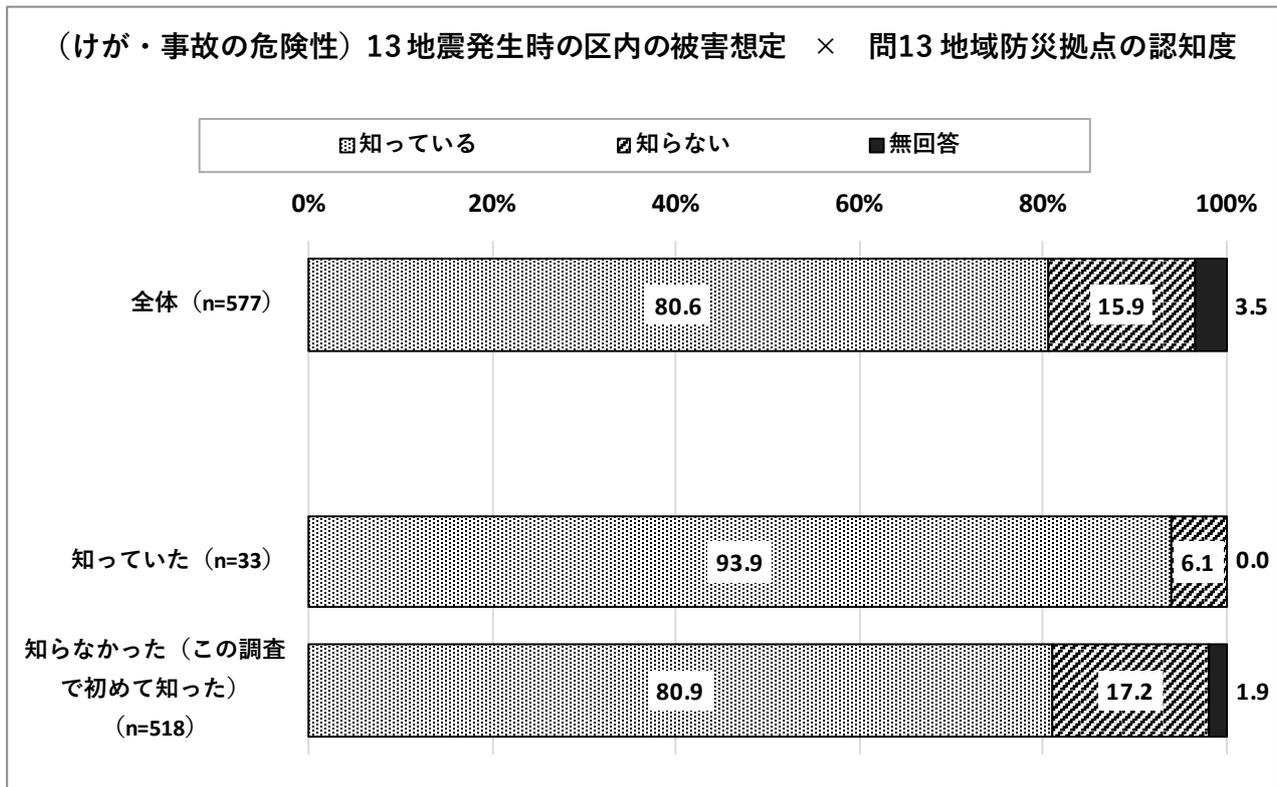


III 集計分析結果

【けが・事故の危険性：地域防災拠点の認知度別】

13 市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定は死者43名、負傷者703名と大規模

・地震発生時の区内の被害想定を「知っていた」方の方が「知らなかった」方より13.0ポイント地域防災拠点の場所を知っている割合が高い。



14 阪神・淡路大震災では、約7割の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、11.8ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

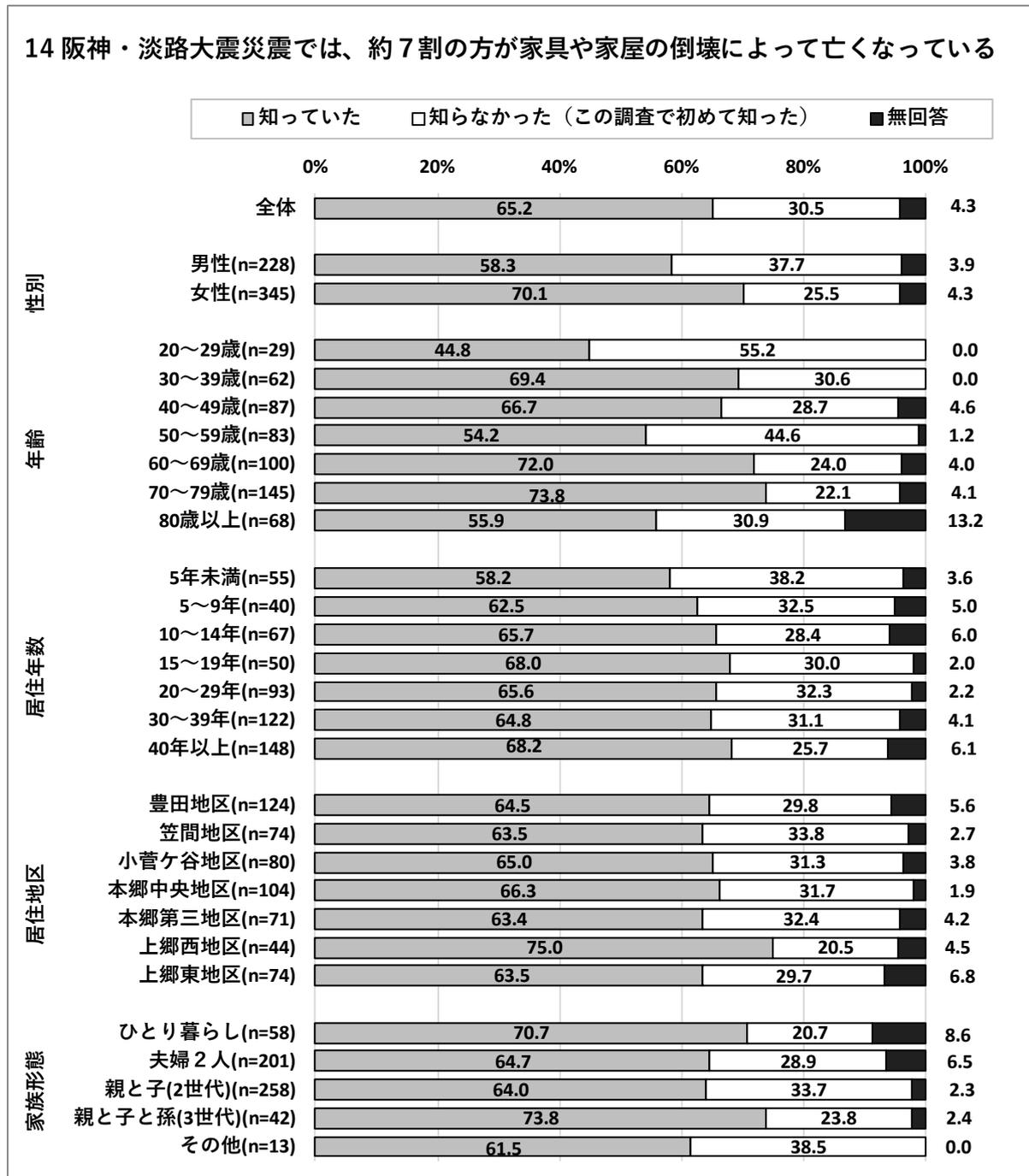
・居住年数別では、「5年未満」が全体より5ポイント以上低い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



15 栄区の自殺者の自殺原因で最も多いのは、「健康問題」によるもの

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、0.5ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

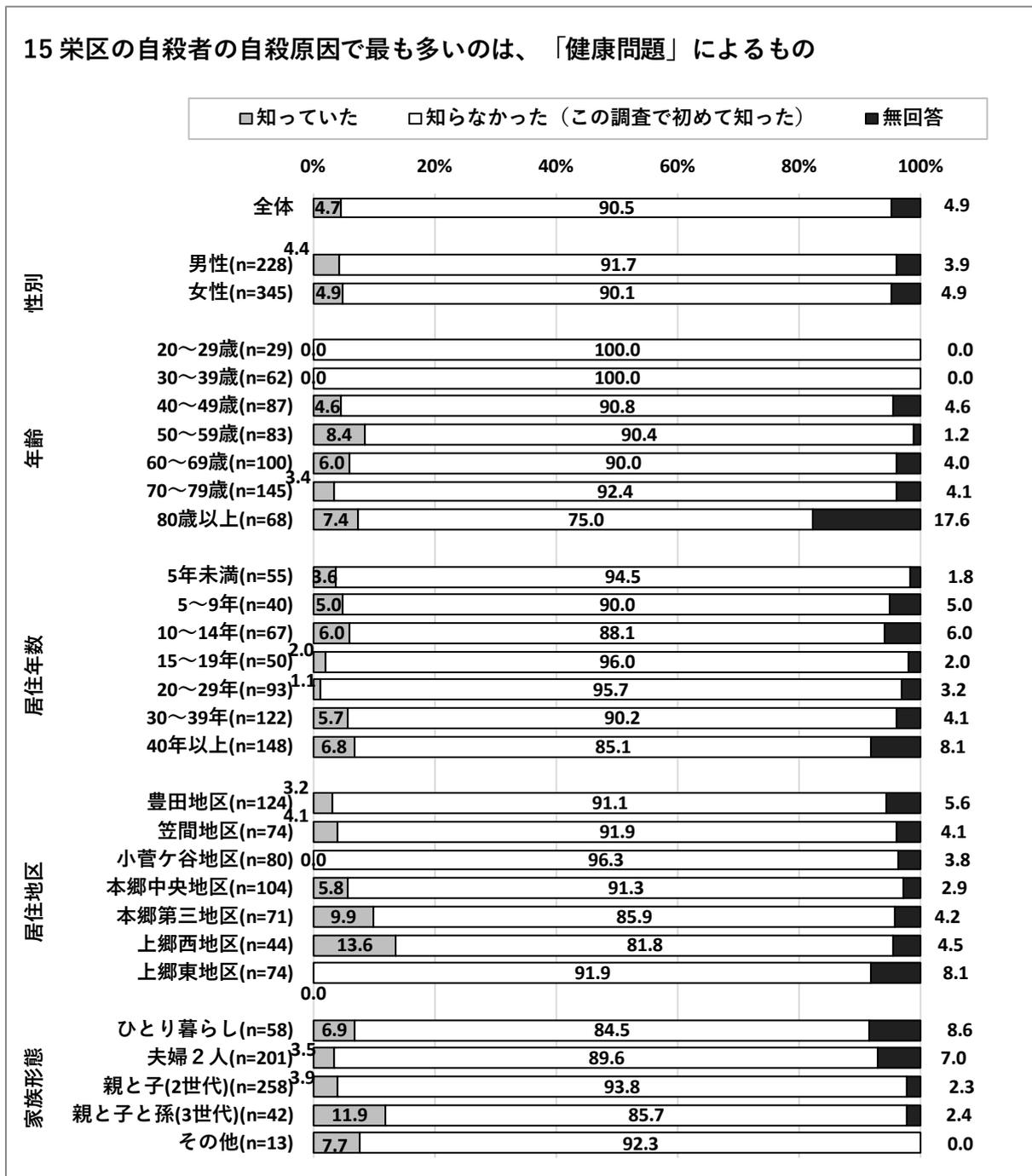
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



16 栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は年々増加

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、9.2ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

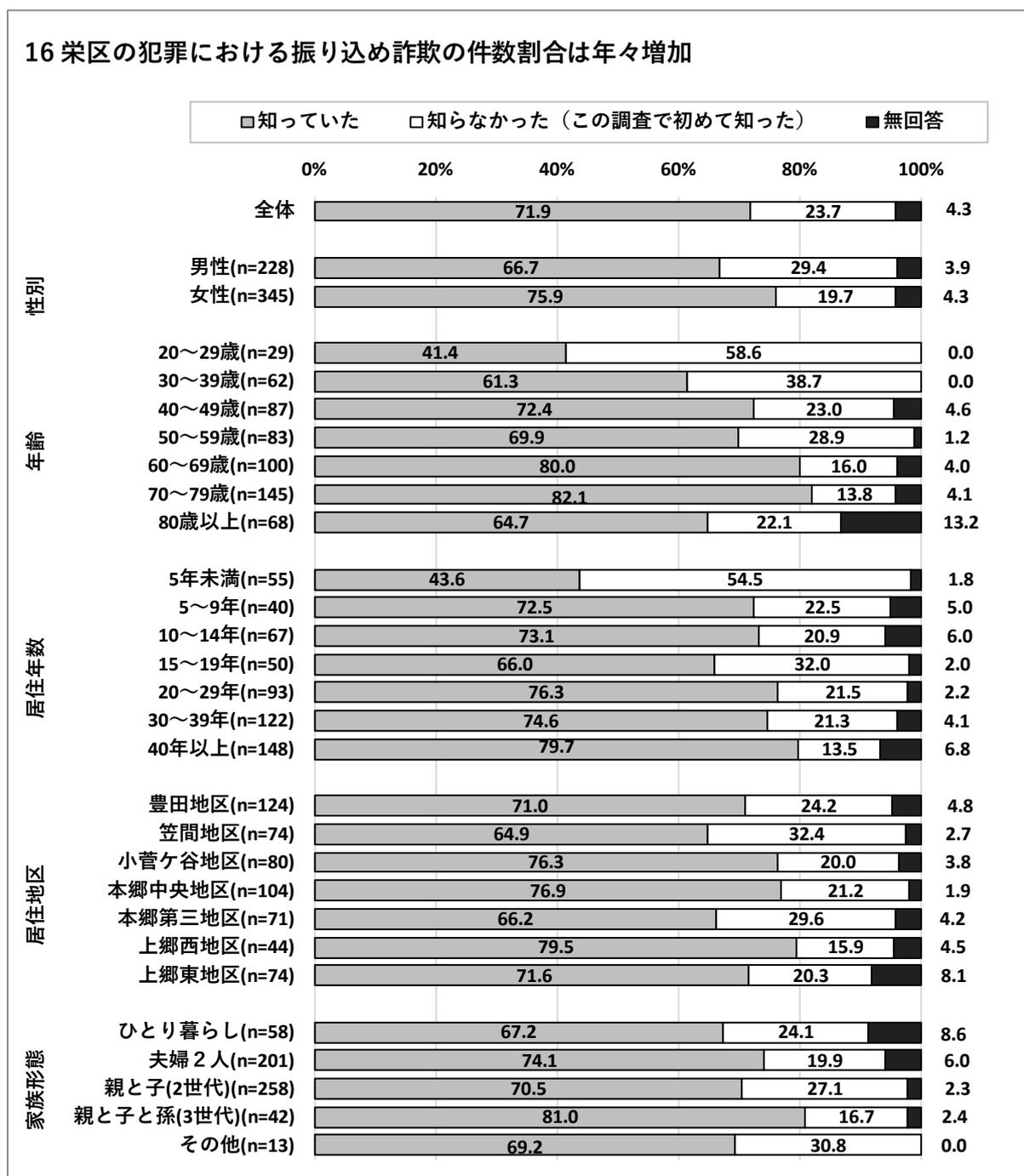
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

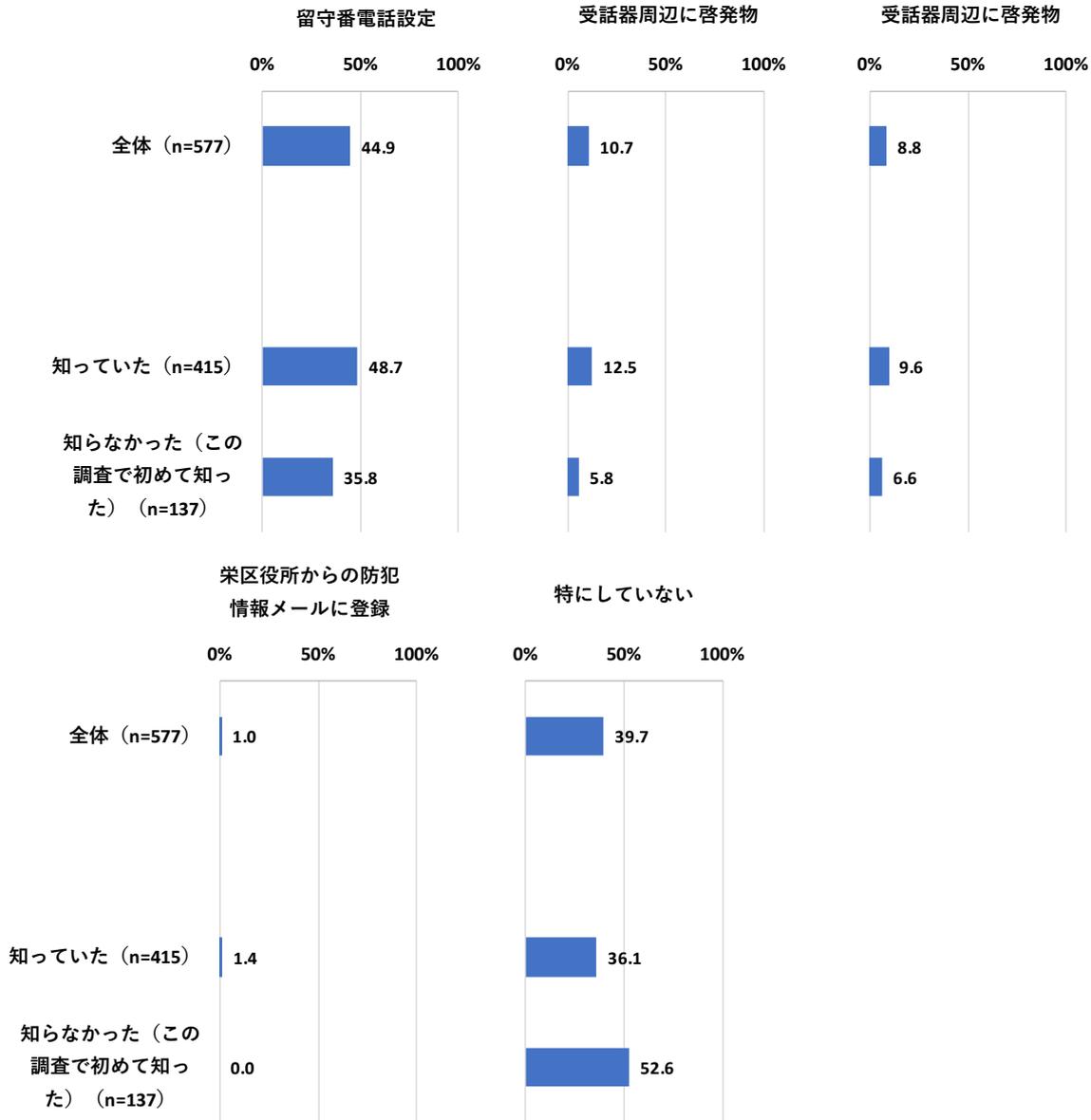
・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：振り込め詐欺対策別】

16 栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は年々増加

・振り込め詐欺件数について「知っていた」の方が「知らなかった」方より振り込め詐欺対策を行っている割合は高い。特に「留守番電話設定」では、12.9ポイント高くなっている。



17 栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、6.7ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

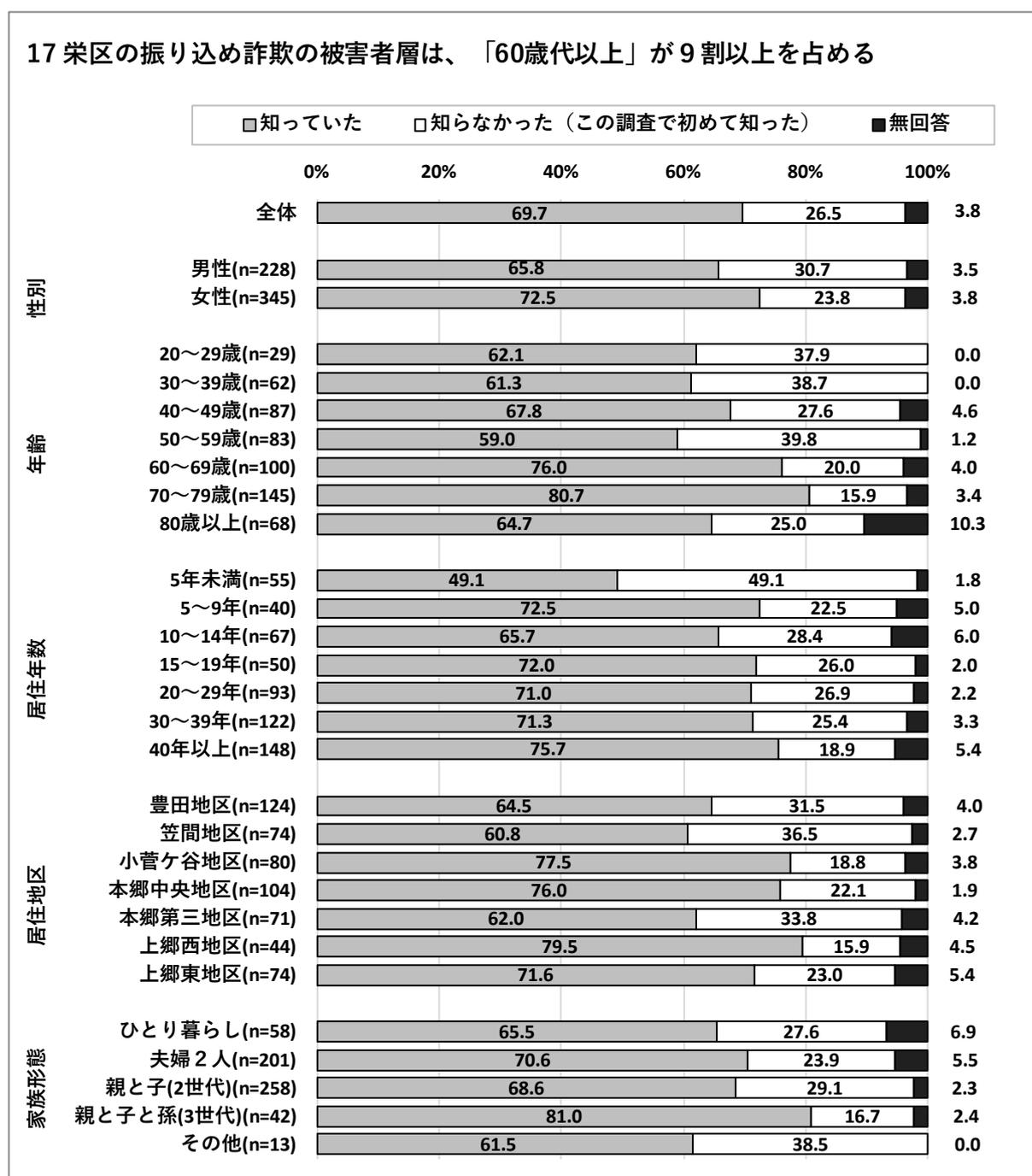
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」「本郷中央地区」「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

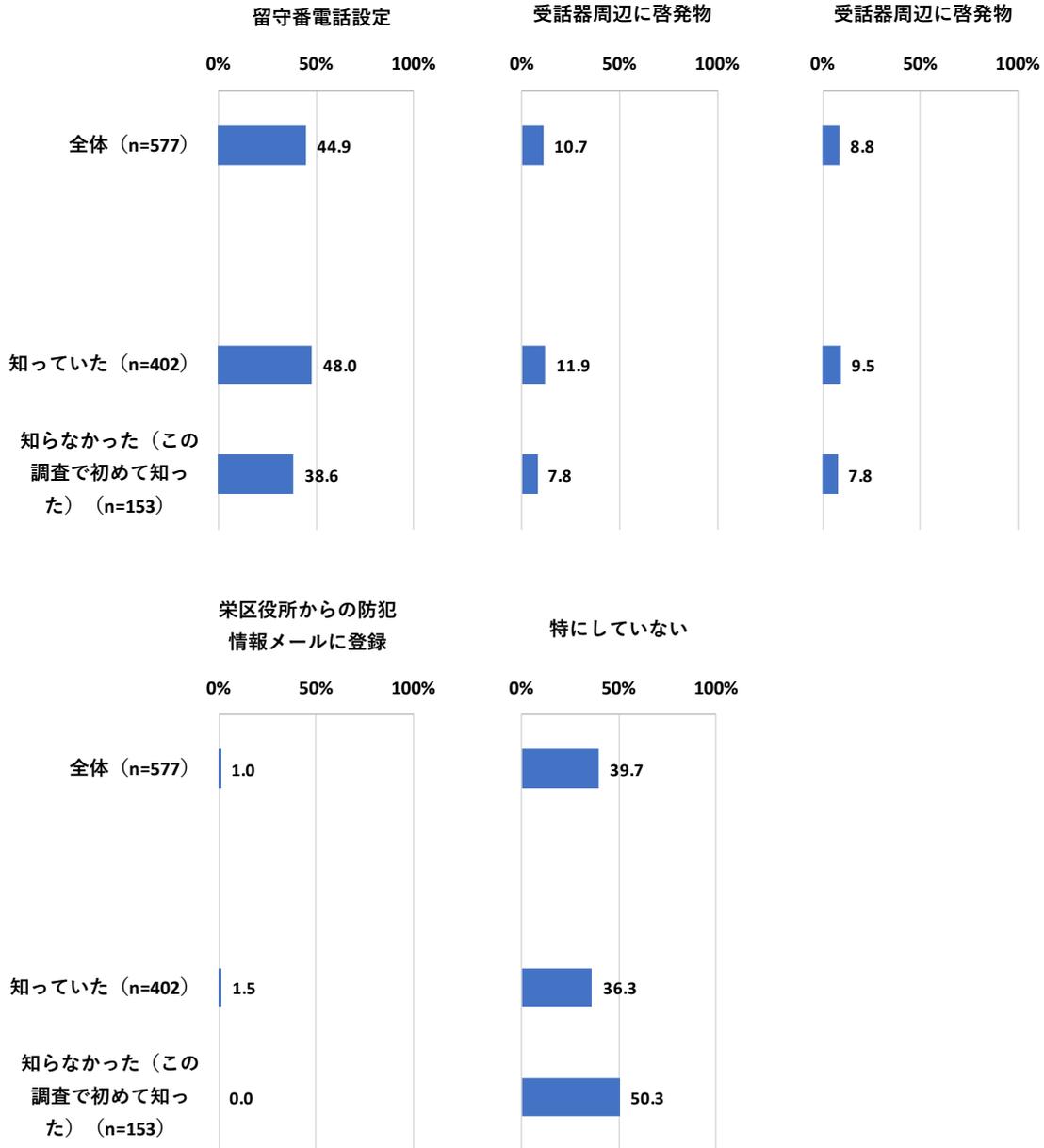
・「親と子と孫（3世代）」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：振り込め詐欺対策別】

17 栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める

・振り込め詐欺被害者層について「知っていた」方の方が「知らなかった」方よりそれぞれの振り込め詐欺対策を行っている割合は高い。特に「留守番電話設定」では、9.4ポイント高くなっている。



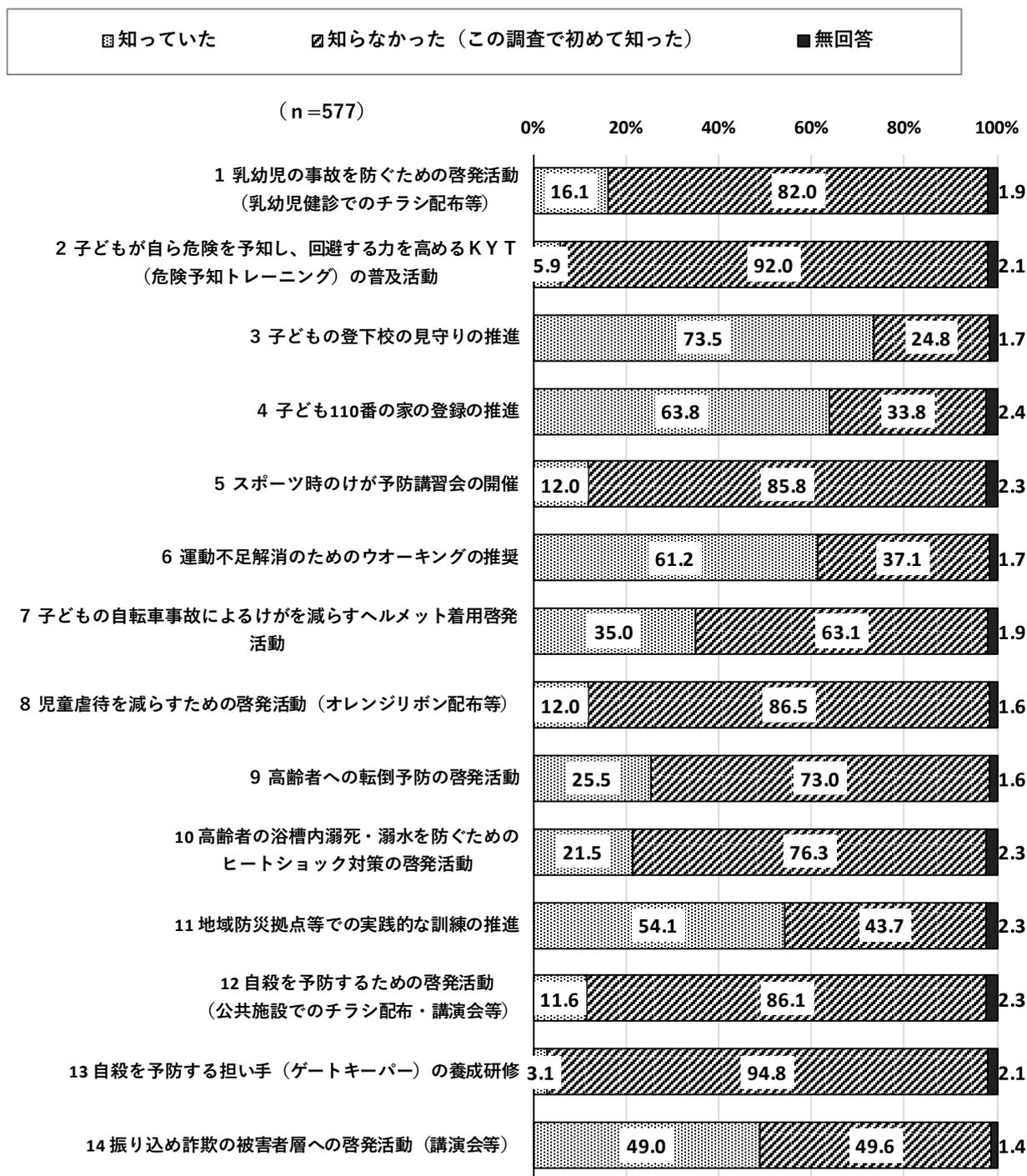
3 セーフコミュニティの取組

(5) けが・事故等の予防の取組の認知度

<全体>

- ・セーフコミュニティの取組について「知っていた」の割合は「子どもの登下校の見守りの推進」が73.5%で最も多く、次いで「子ども110番の家の登録の推進」(63.8%)、「運動不足解消のためのウォーキングの推奨」(61.2%)の順となった。その一方、「自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修」「子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT(危険予知トレーニング)の普及活動」を「知っていた」の割合は1割以下となった。
- ・男女別でみると全ての項目において「男性」より「女性」の方が、「知っていた」割合が高い。

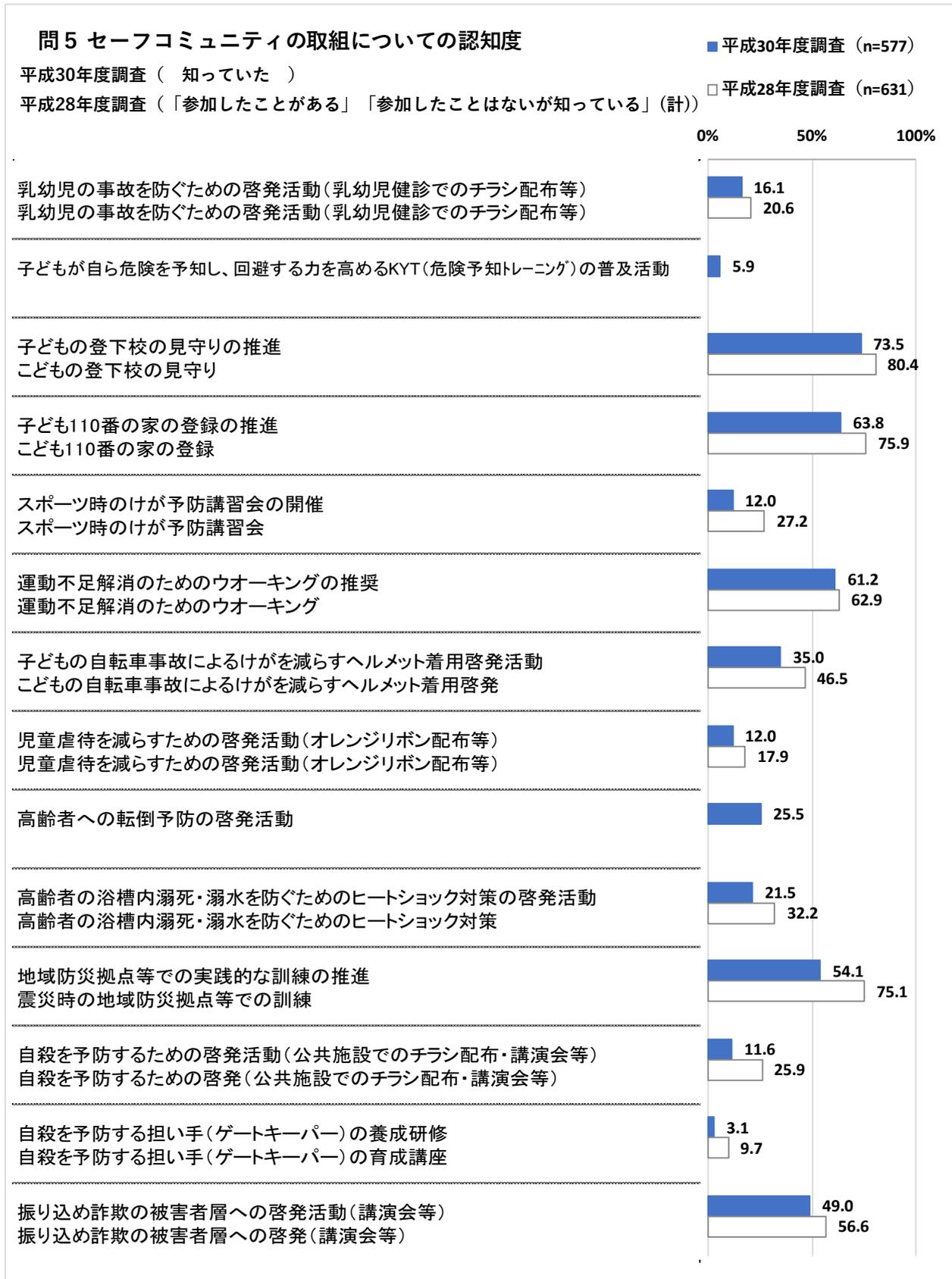
問5 セーフコミュニティの取組についての認知度



【けが・事故等の予防の取組の認知度： 時系列】

<平成28年度調査と比較>（参考：平成28年度調査と選択肢が異なるため）

・平成28年度と比較すると、全ての項目で認知度は減少している。



【けが・事故等の予防の取組の認知度： 属性別】

1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動（乳幼児健診でのチラシ配布等）

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、15.3ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

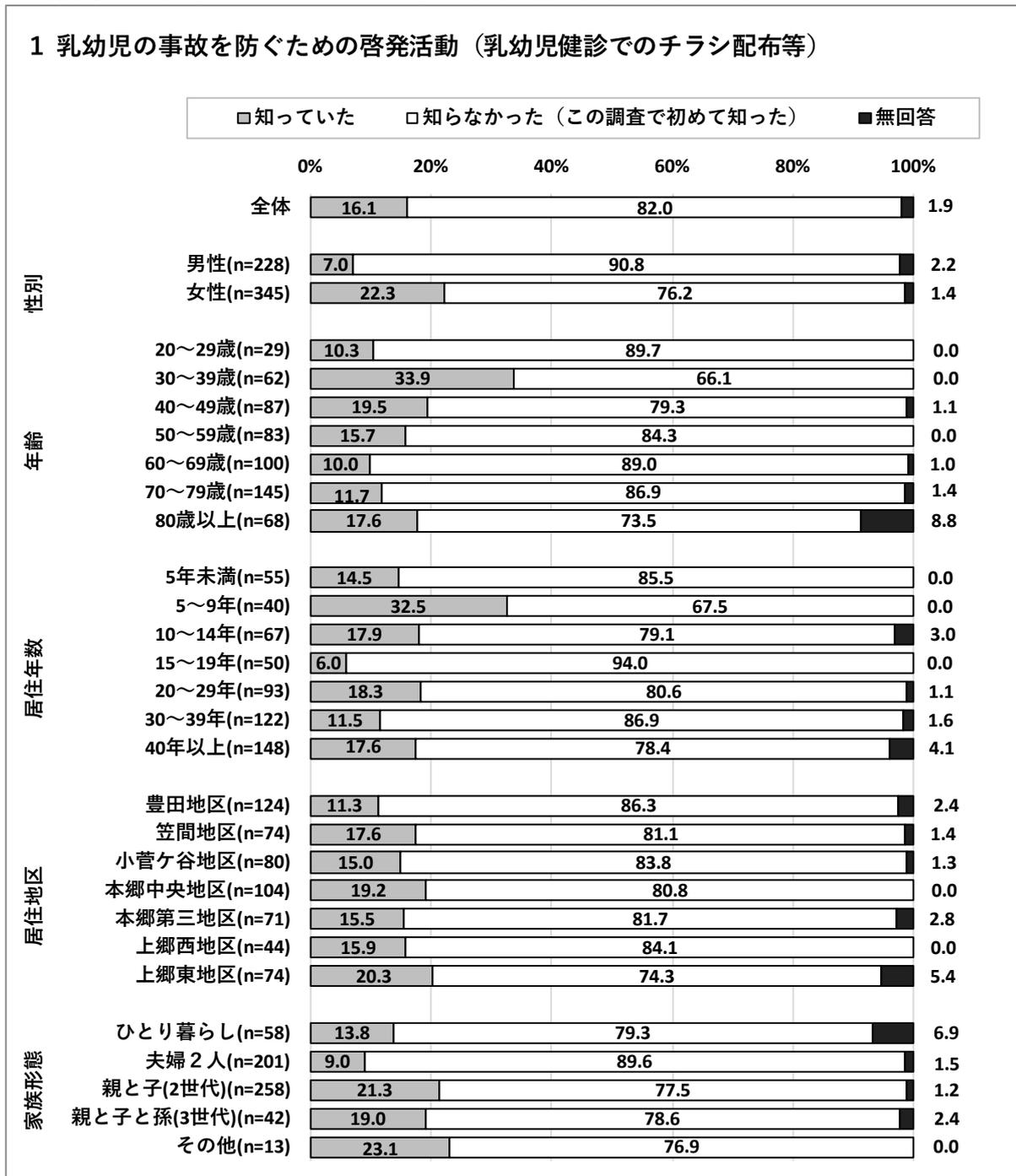
・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT（危険予知トレーニング）の普及活動
 <性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、1.1ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

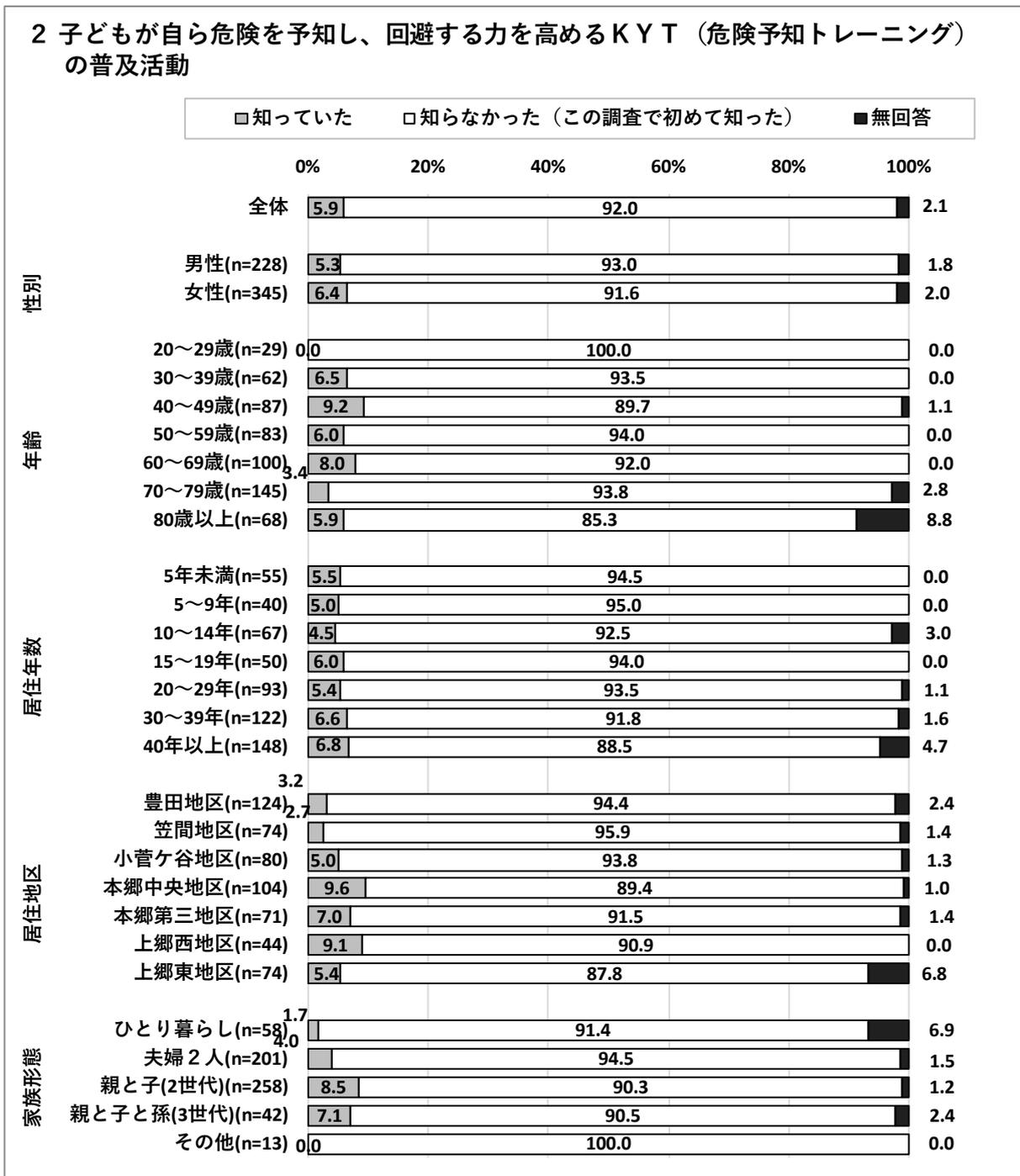
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



3 子どもの登下校の見守りの推進

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、8.2ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

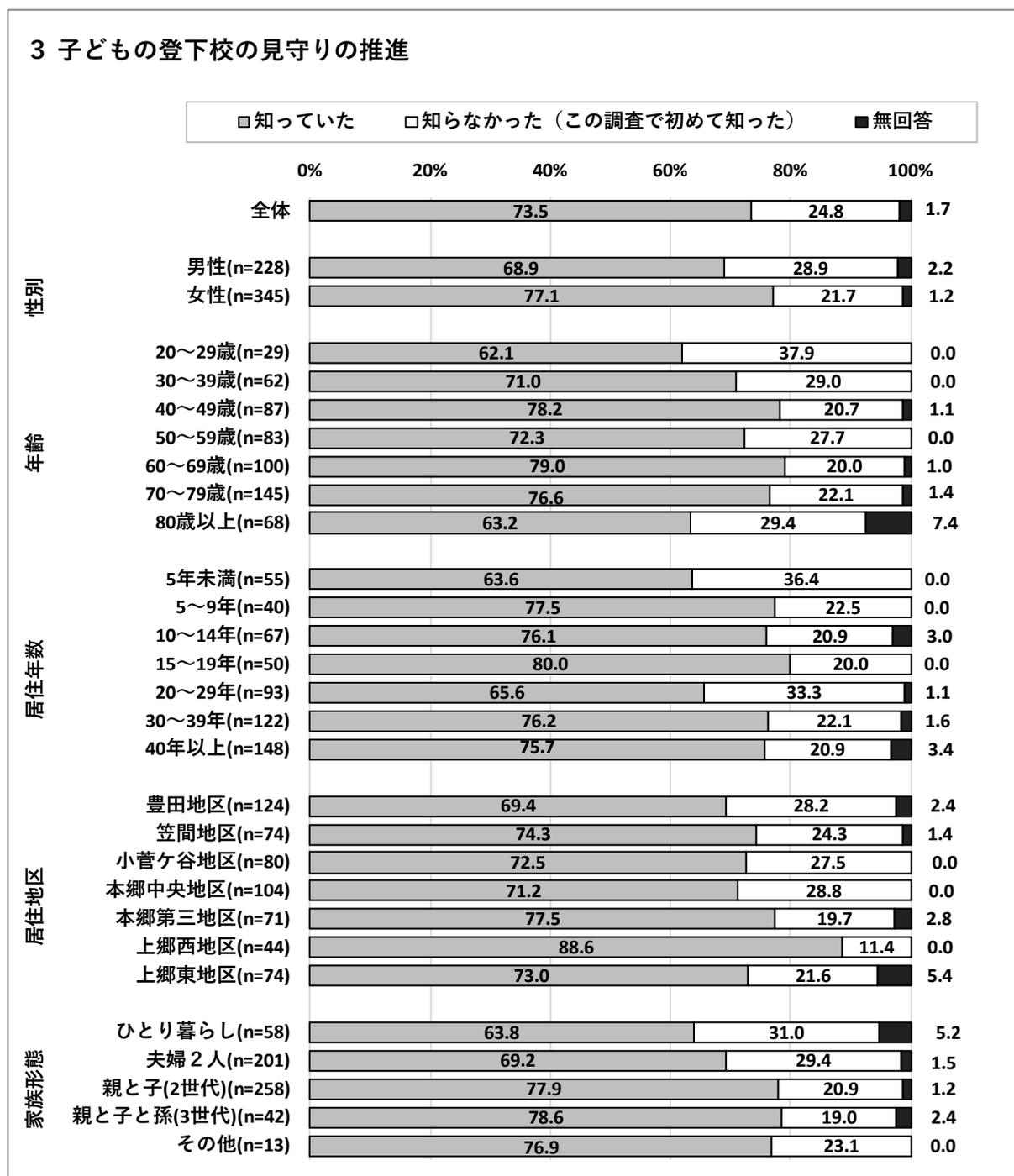
・「15～19年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



4 子ども110番の家の登録の推進

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、14.3ポイント高い。

<年齢別>

・「40～49歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

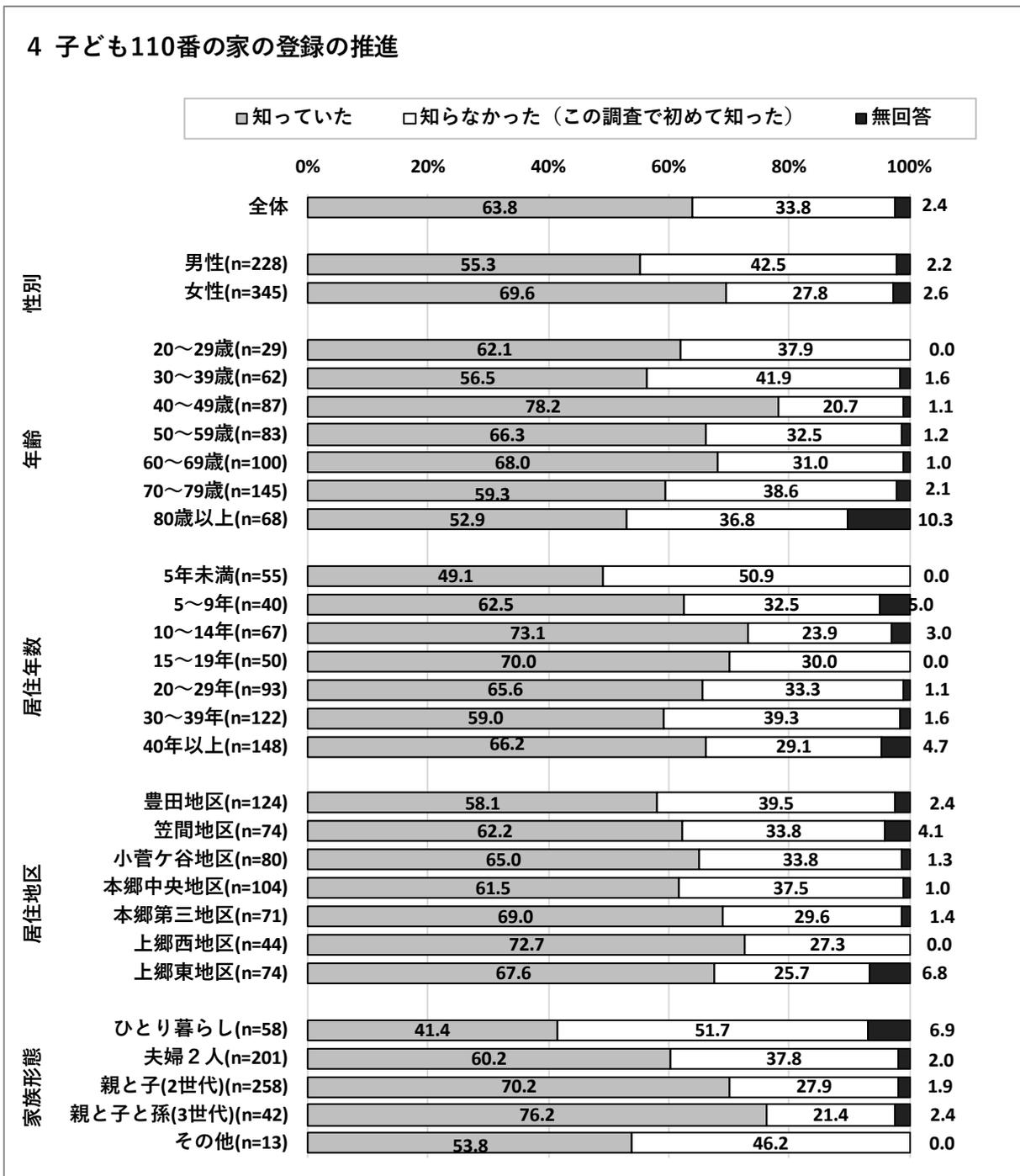
・「10～14年」「15～19年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。



5 スポーツ時のけが予防講習会の開催

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、4.0ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

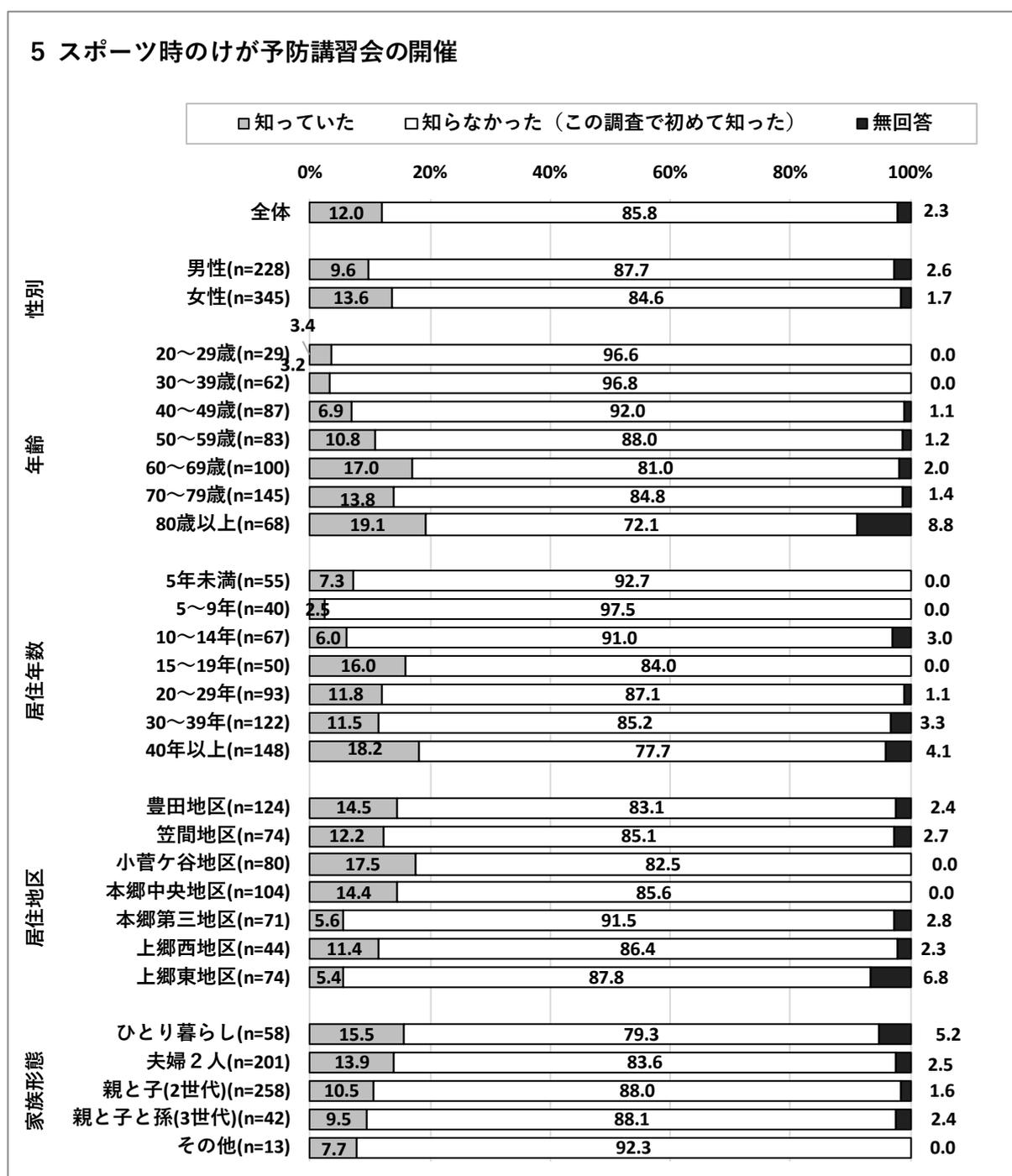
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな変化は見られない。



6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、22.3ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

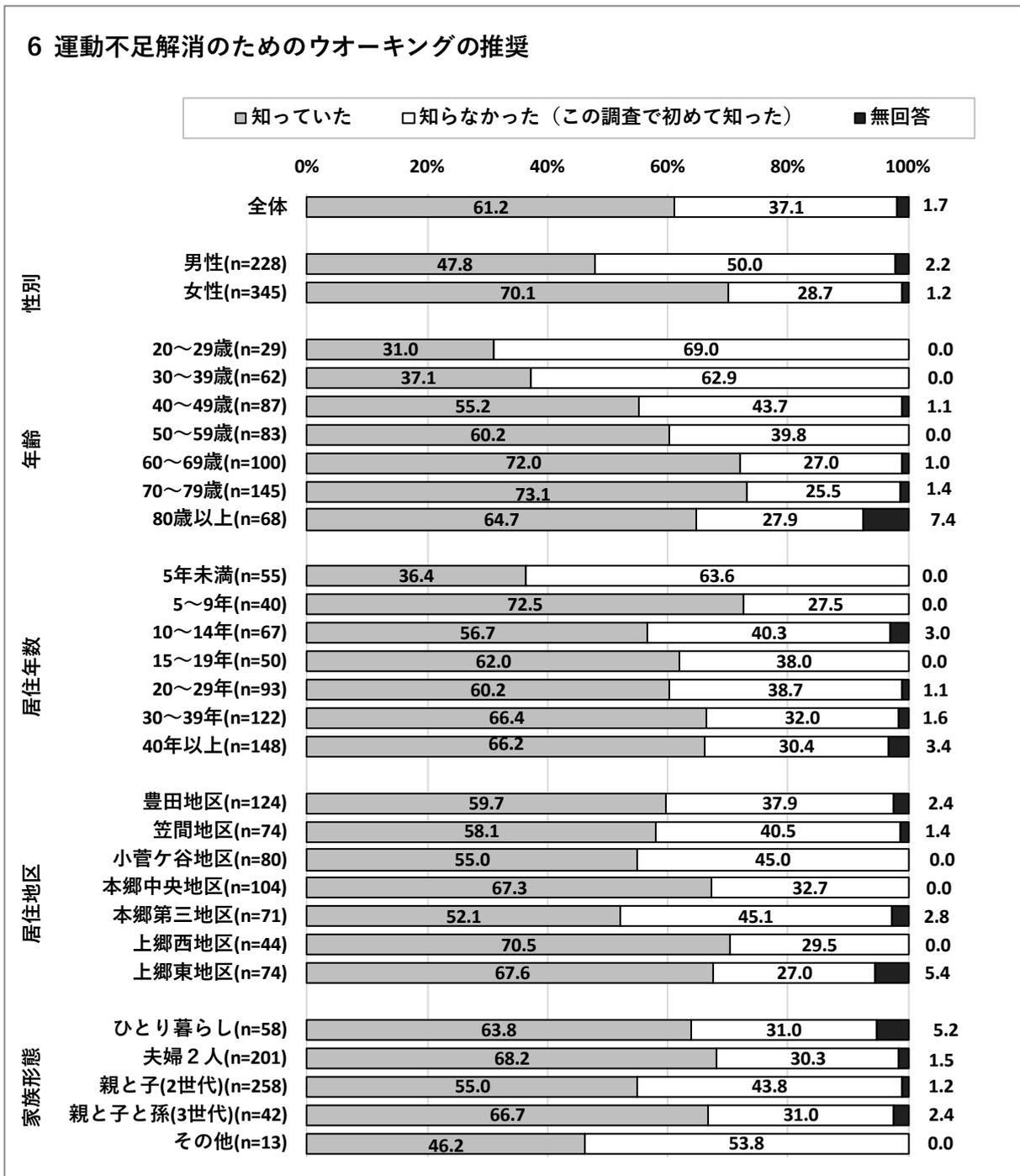
・「5～9年」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「上郷西地区」「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、5.8ポイント高い。

<年齢別>

・60歳以上では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」及び30年以上では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

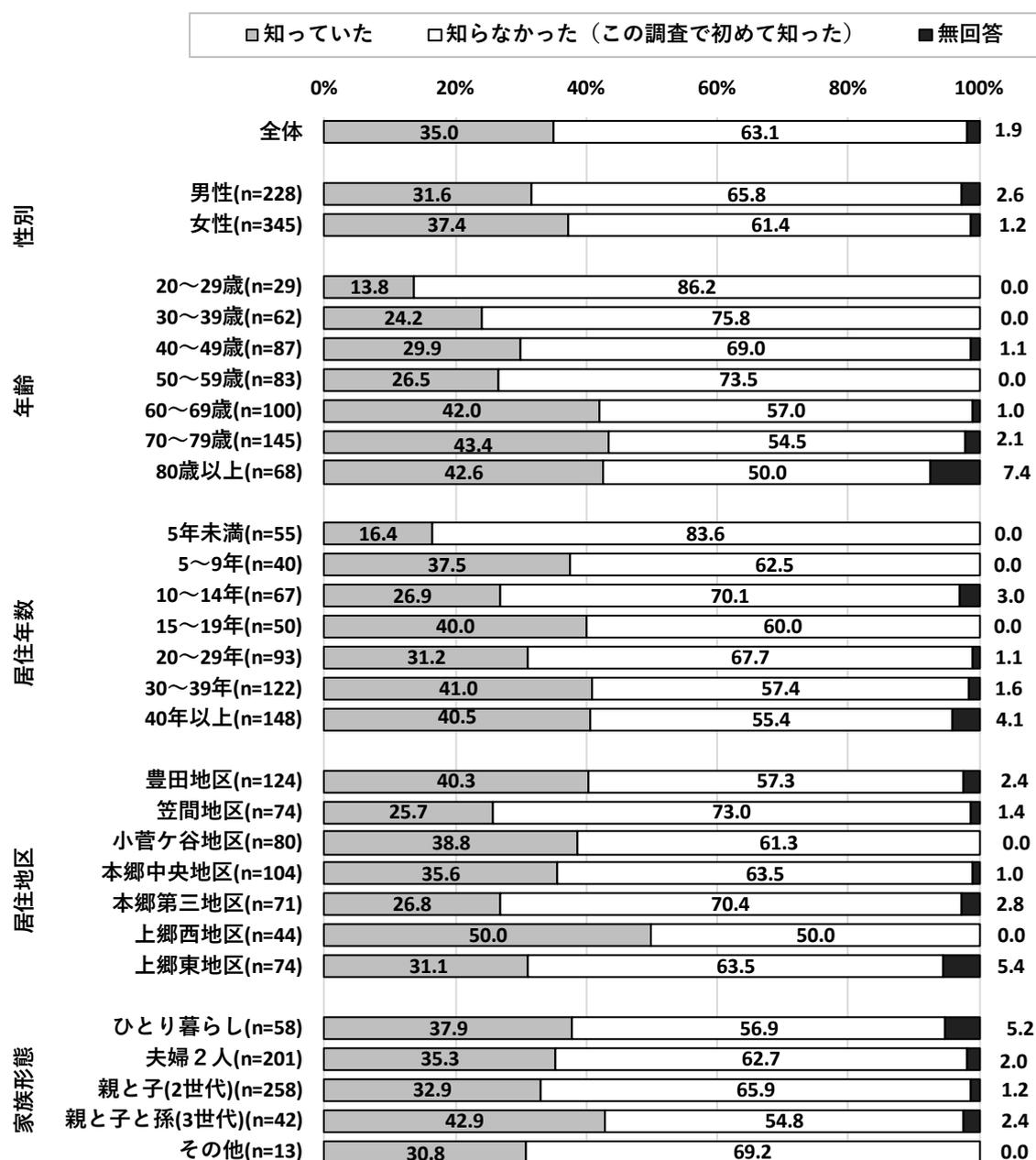
<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動



8 児童虐待を減らすための啓発活動（オレンジリボン配布等）

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、4.0ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

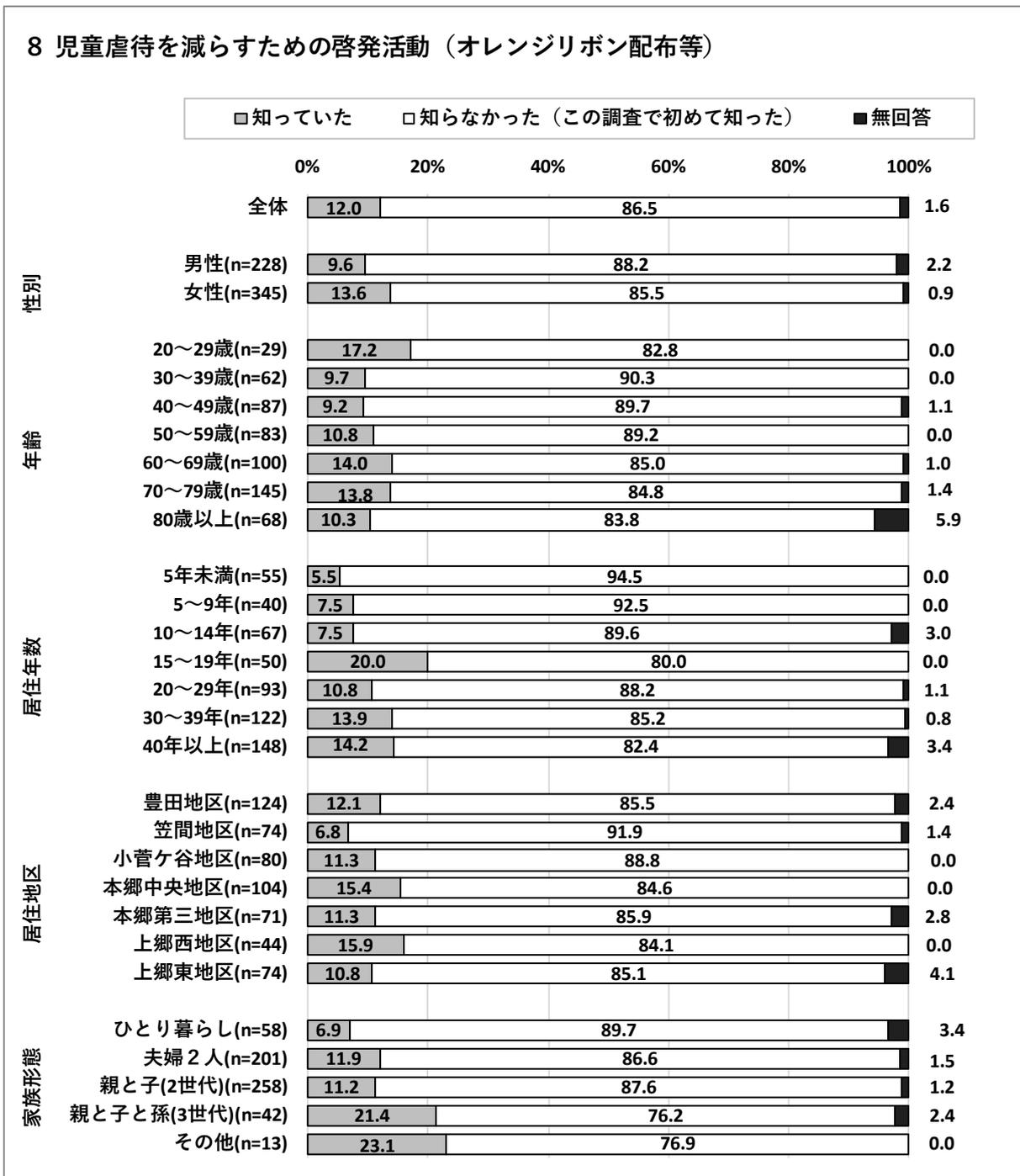
・「15～19年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



9 高齢者への転倒予防の啓発活動

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、8.4ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する
 ・70歳以上では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

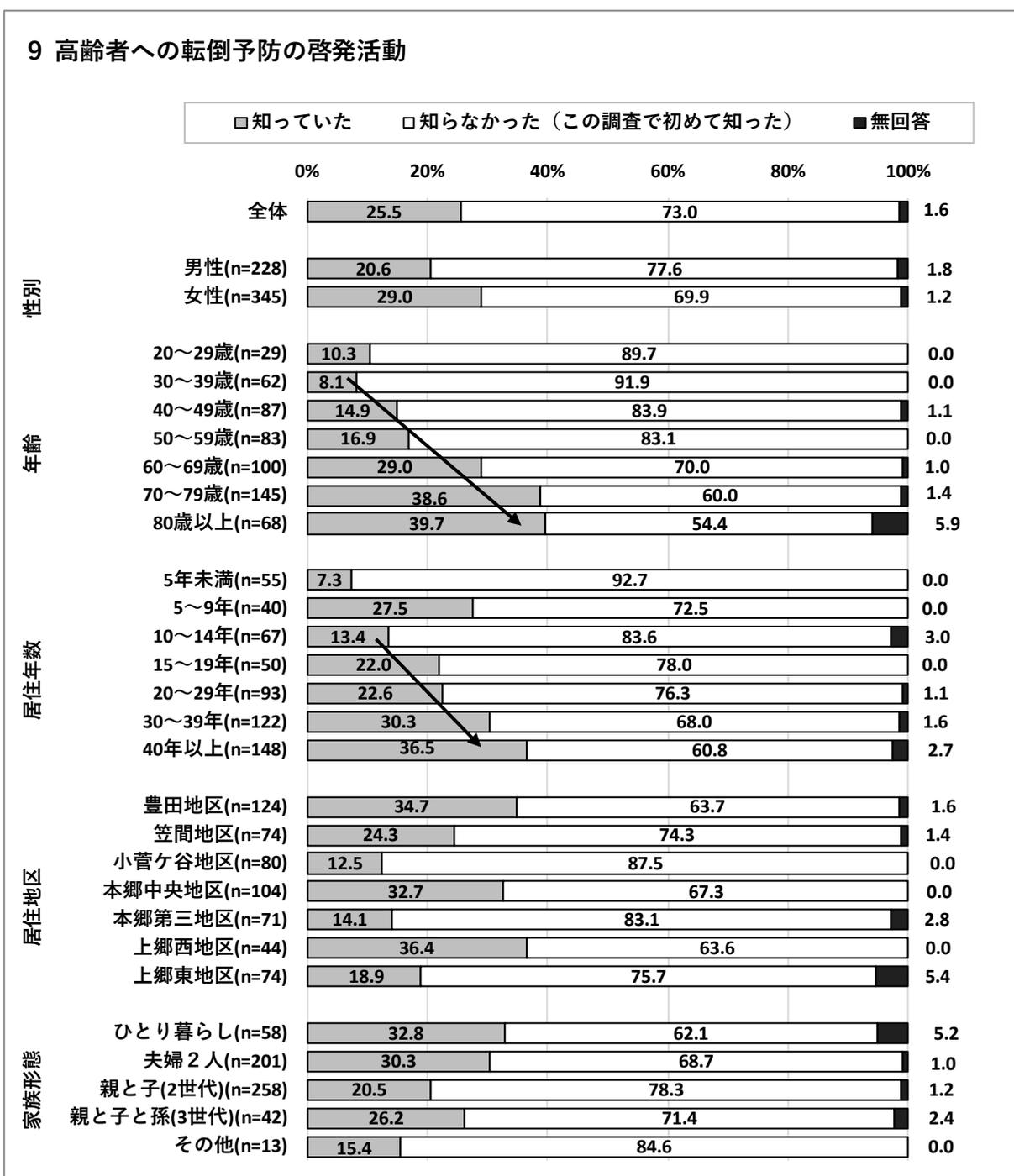
・10年未満を除いて居住年数が長いほど「知っていた」の割合が増加する。
 ・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、10.1ポイント高い。

<年齢別>

・年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する
 ・70歳以上では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント程度高い。

<居住年数別>

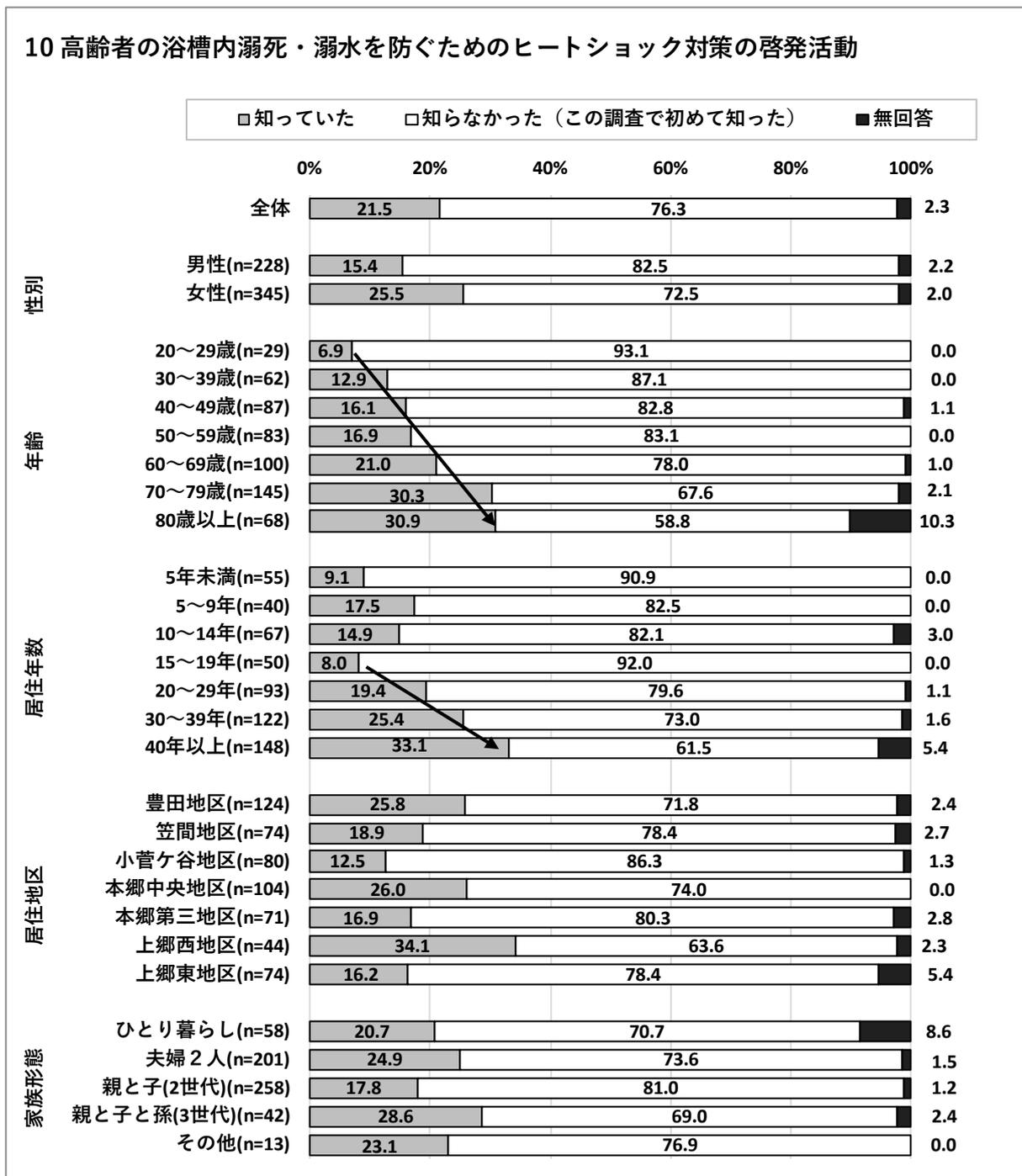
・15年未満を除いて居住年数が長いほど「知っていた」の割合が増加する。
 ・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。



11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、11.7ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

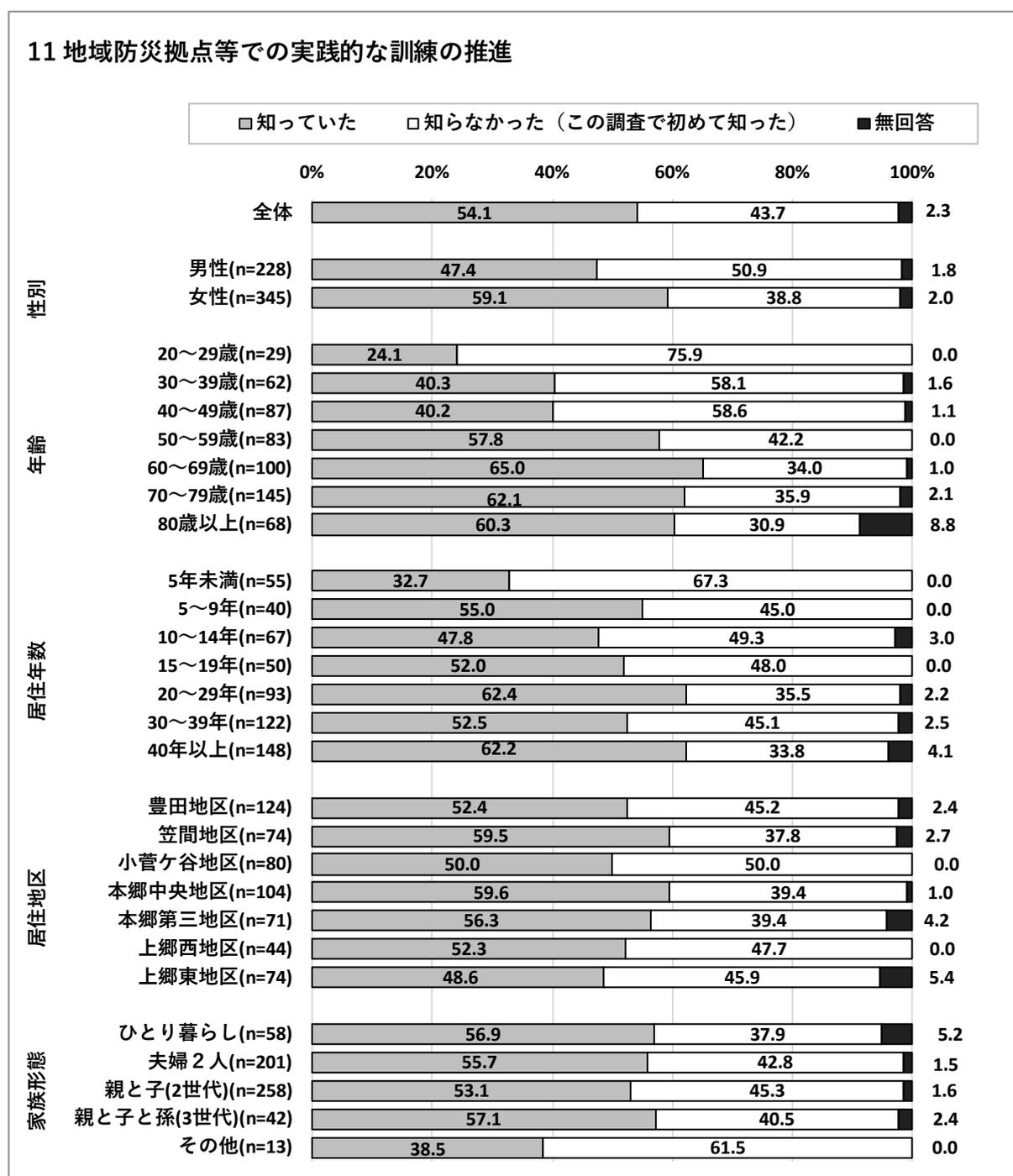
・「20～29年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」「本郷中央地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



12 自殺を予防するための啓発活動（公共施設でのチラシ配布・講演会等）

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、9.3ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

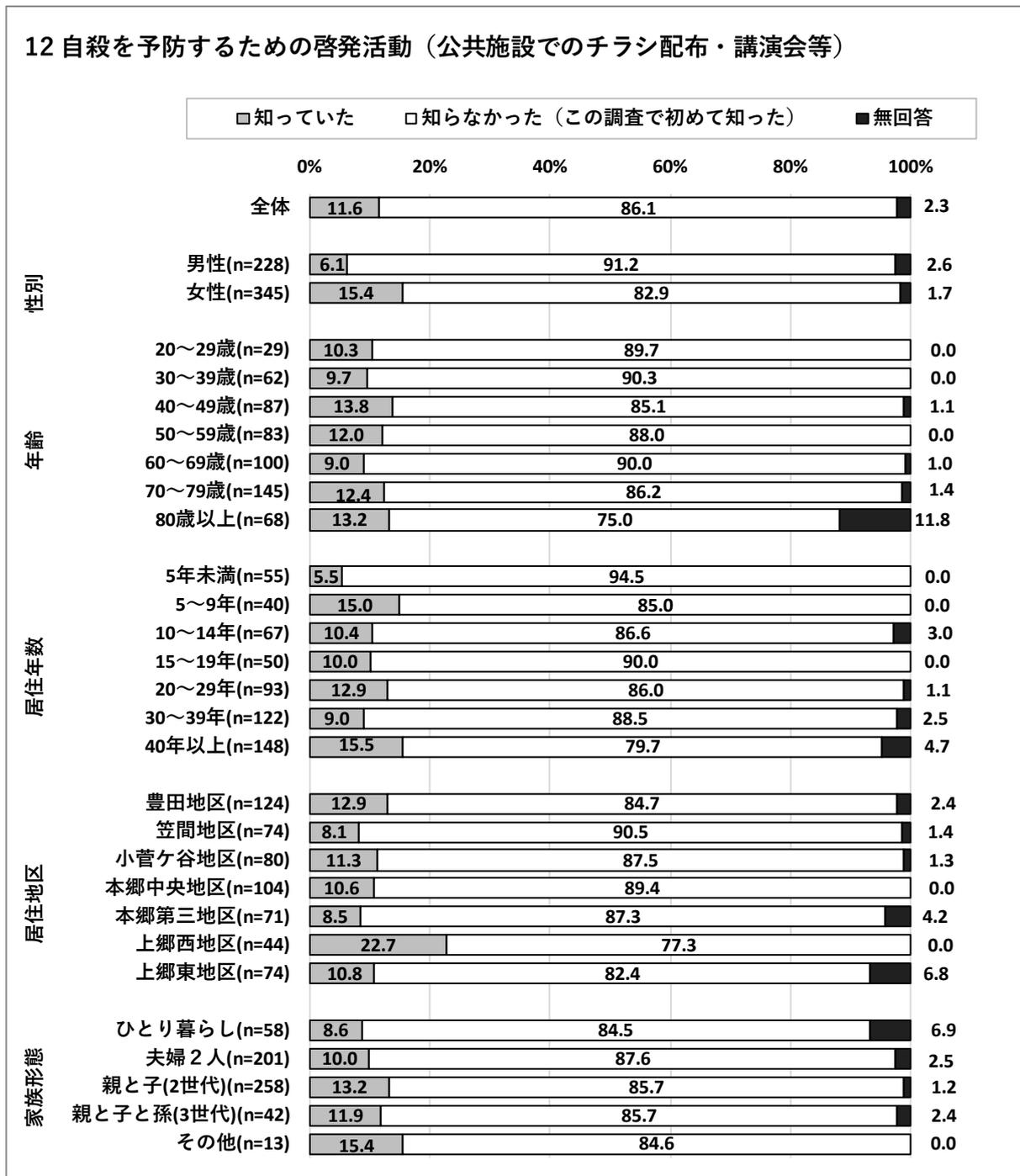
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



13 自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、3.7ポイント高い。

<年齢別>

・年齢別には大きな差は見られない。

<居住年数別>

・居住年数別には大きな差は見られない。

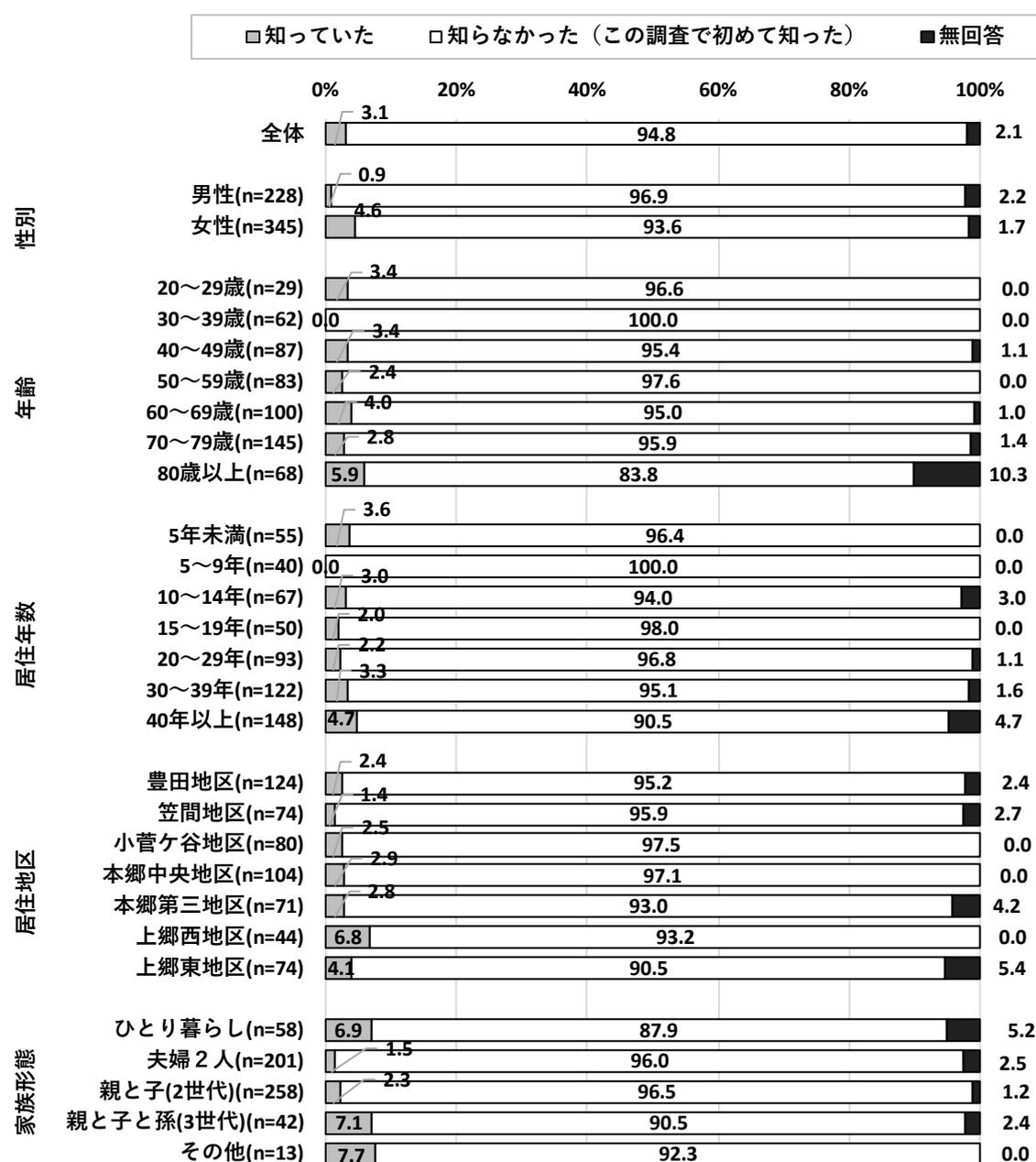
<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。

13 自殺を予防する担い手（ゲートキーパー）の養成研修



14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動（講演会等）

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っていた」で、16.9ポイント高い。

<年齢別>

・年齢が上がるほど「知っていた」の割合が増加する傾向がある。
 ・60代以上では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

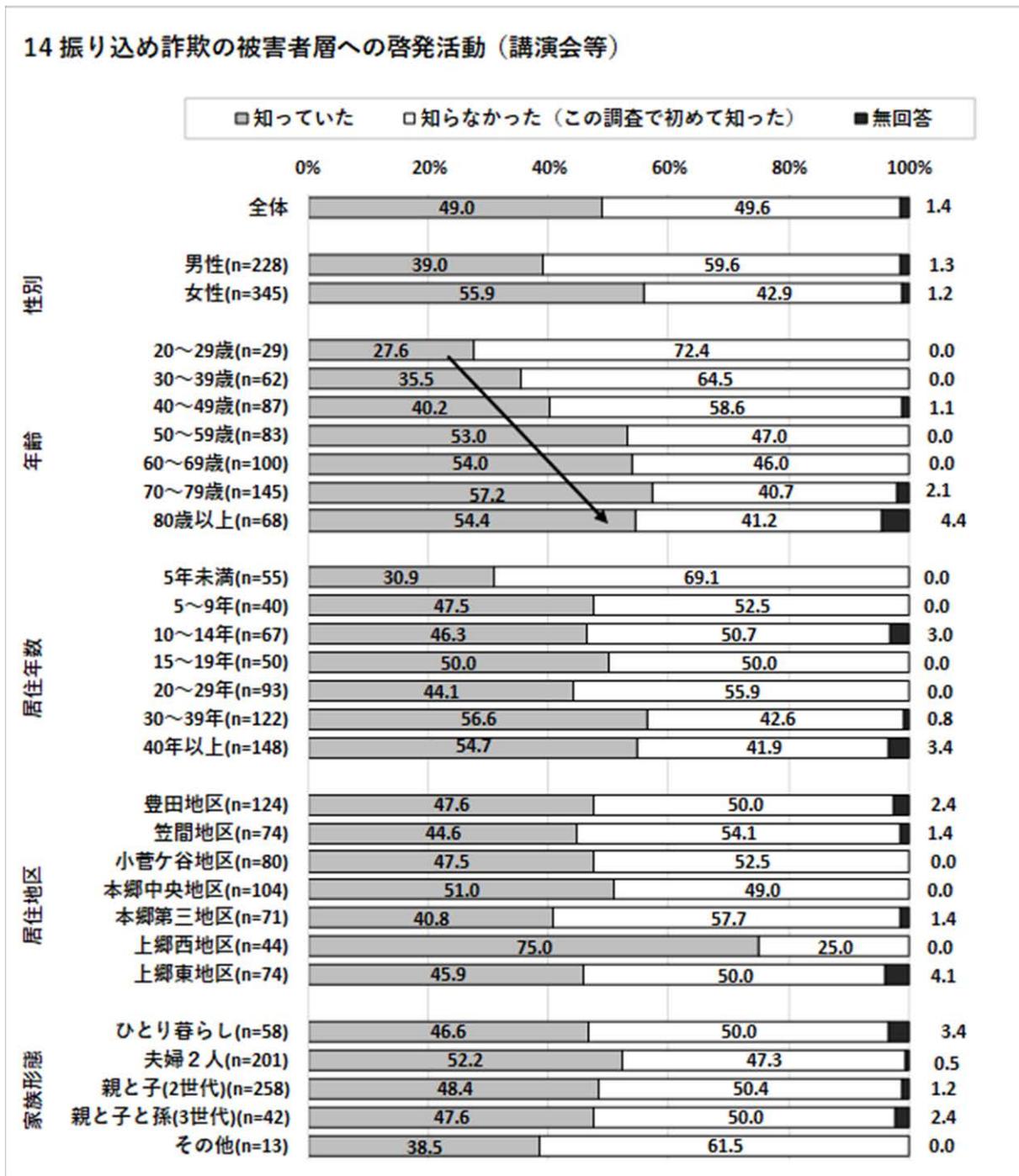
・30年以上では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より25ポイント以上高い。

<家族形態別>

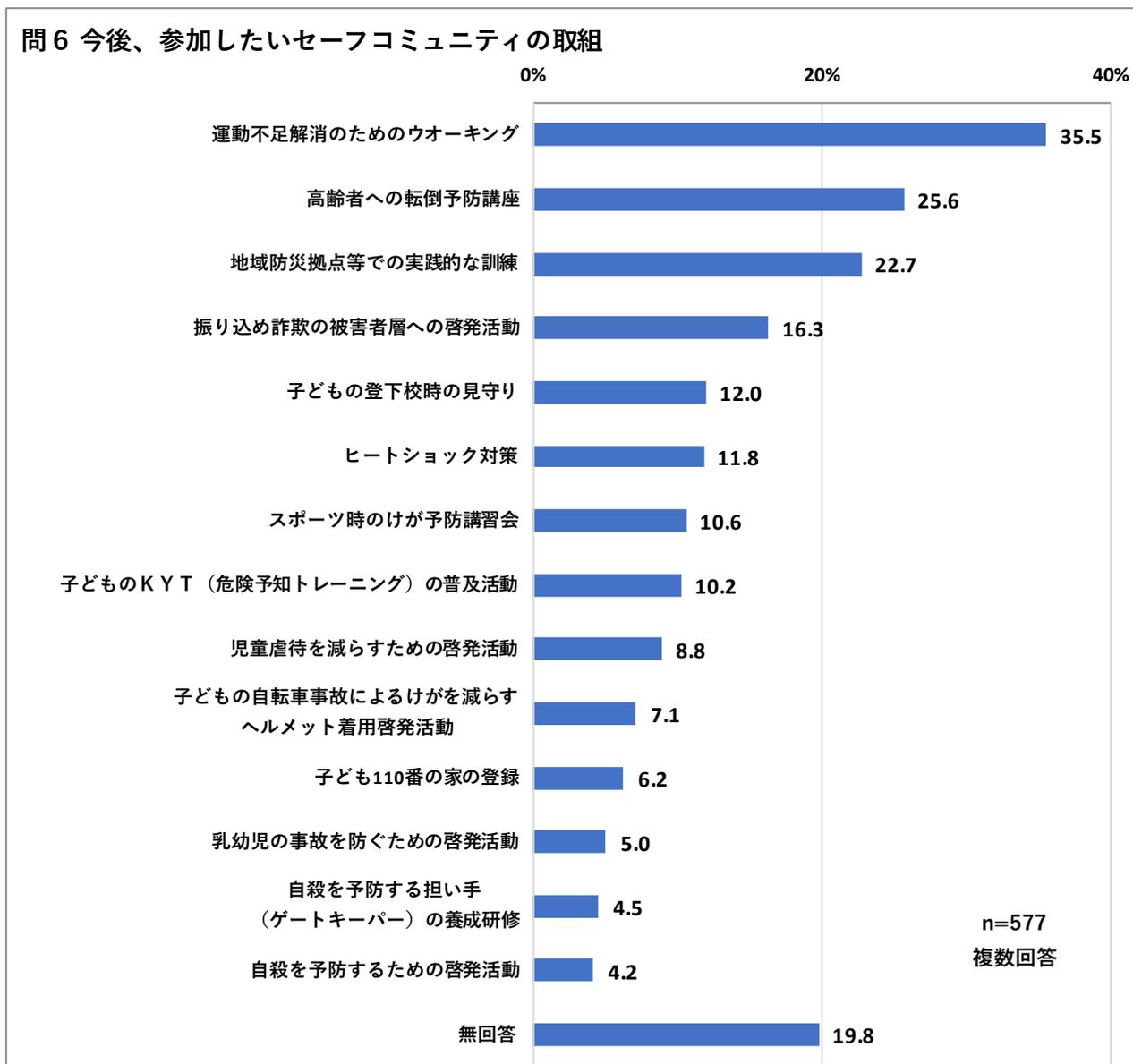
・家族形態別には大きな差は見られない。



(6) 参加したいセーフコミュニティの取組 【新規】

<全 体>

・「運動不足解消のためのウォーキング」が35.5%で最も多く、次いで「高齢者への転倒予防講座」(25.6%)、「地域防災拠点等での実践的な訓練」(22.7%)、「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」(16.3%)の順である。一方、「自殺を予防するための啓発活動」と「自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修」を挙げた方は5%未満である。



III 集計分析結果

【参加したいセーフコミュニティの取組： 属性別】上位4項目

<性別>

・「運動不足解消のためのウォーキング」「高齢者への転倒予防講座」では「女性」の方が、「地域防災拠点等での実践的な訓練」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」では「男性」の方が割合は高い。

<年齢別>

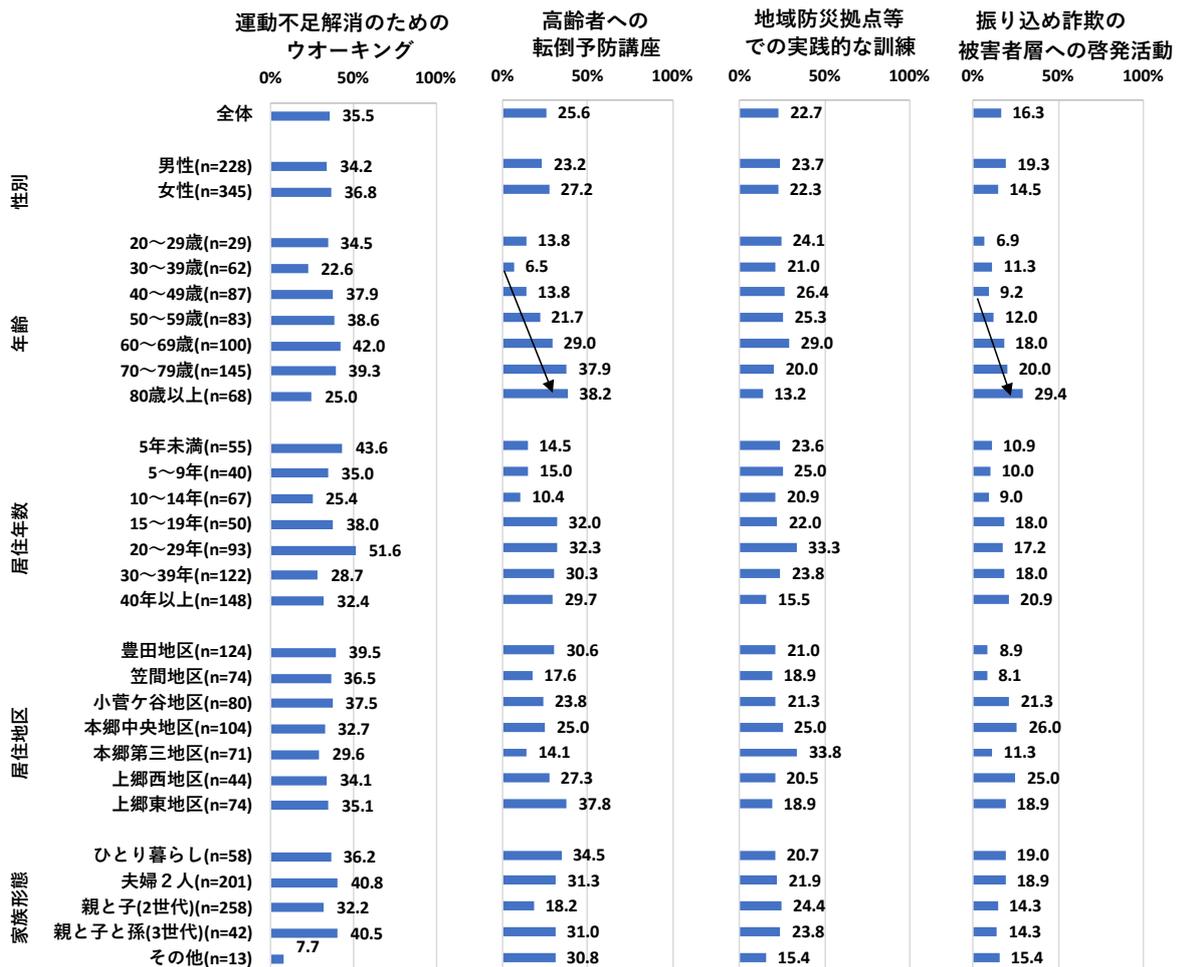
・「高齢者への転倒予防講座」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」では、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷東地区」で「高齢者への転倒予防講座」の割合が、「本郷第三地区」で「地域防災拠点等での実践的な訓練」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」で「高齢者への転倒予防講座」の割合が、他と比べて低くなっている。

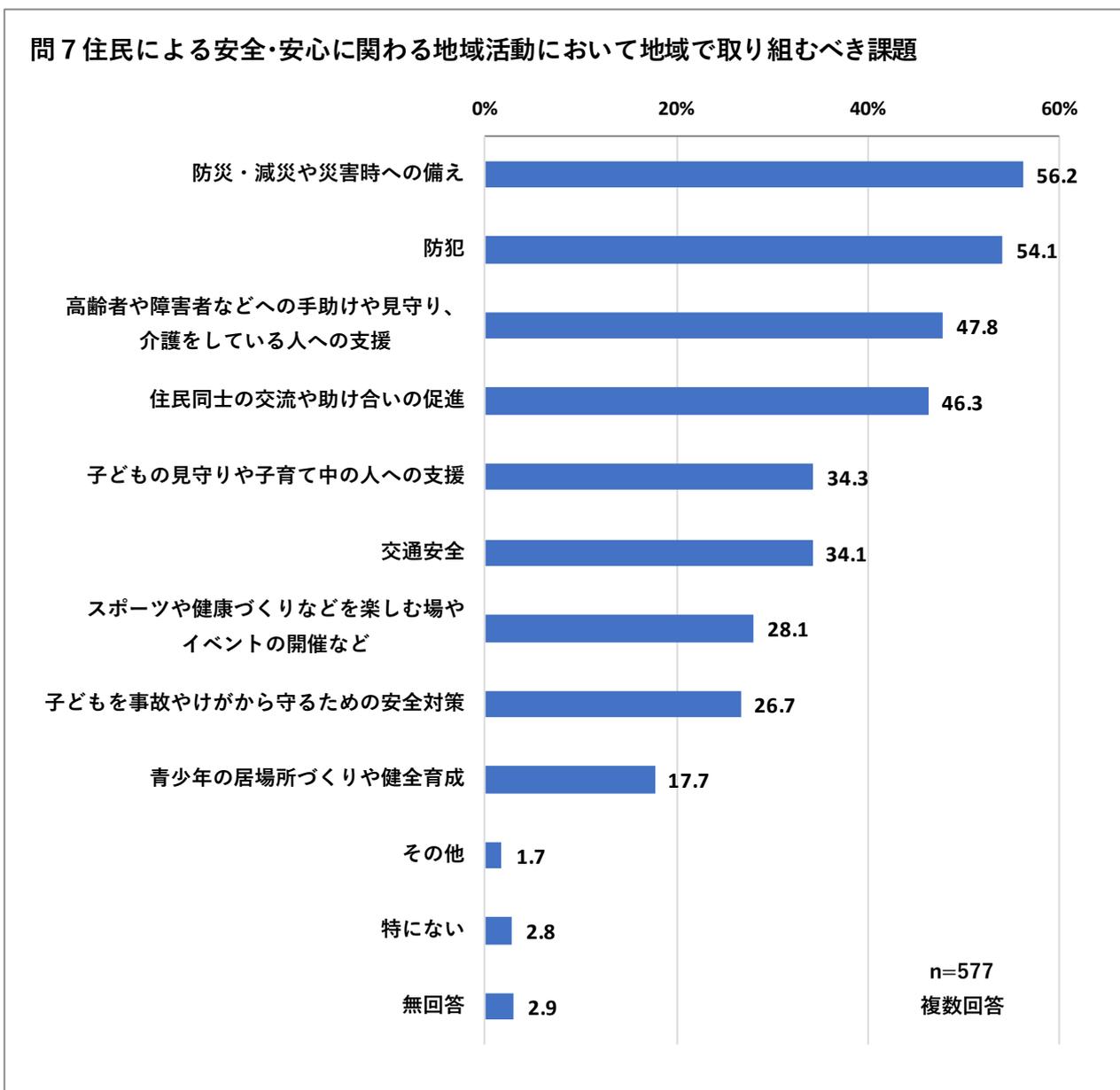


4 安全・安心に関する質問

(7) 地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動 【新規】

<全体>

・住民による安全・安心に関わる地域活動において地域で取り組むべき課題で最も多く挙げられたのは「防災・減災や災害時への備え」で56.2%、次いで「防犯」(54.1%)、「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」(47.8%)、「住民同士の交流や助け合いの促進」(46.3%)の順となりました。一方、「青少年の居場所づくりや健全育成」を挙げた方は2割以下となっています。



問7 住民による安全・安心に関わる地域活動において、地域で取り組むべき課題 (その他記述)【9件】		
自転車、バイクの運転マナー	2	若い親を教育すべき
日々のスポーツを楽しむ場所の解放	1	子供の健康を守ること特に受動喫煙!
介護保険の活用についてもっとアピールした方が良い		
女性の健康に関する知識の普及(特に男性に知識を持って欲しい)		
朝、夕の下校時の見守隊がいる		
詳しい事が知りませんが、いろいろ既に行なわれている		

【地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動： 属性別】上位4項目

<性別>

・「防犯」では「男性」の方が、その他の項目では「女性」の方が割合は高い。

<年齢別>

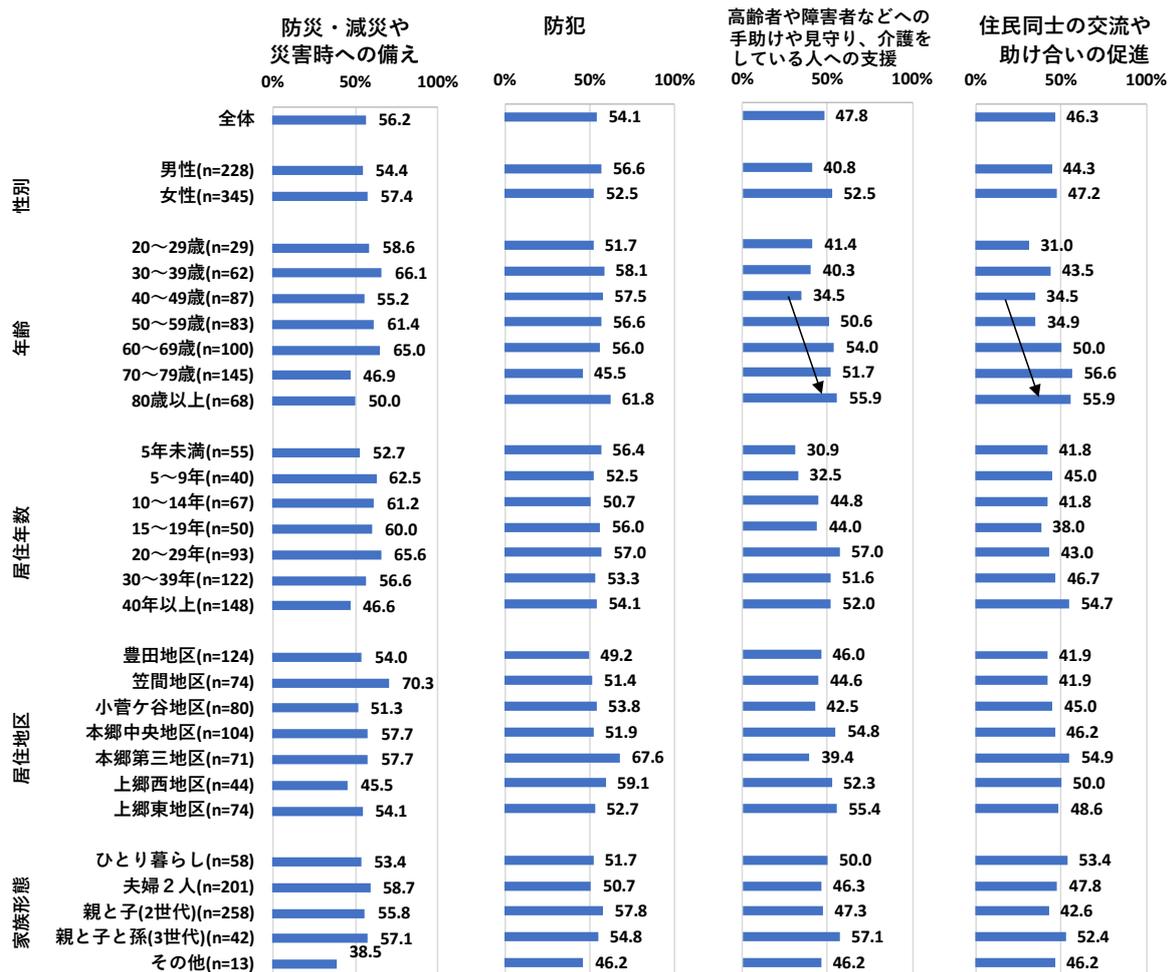
・「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」では、40歳以上では、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<地区別>

・「笠間地区」で「防災・減災や災害時への備え」の割合が、「本郷第三地区」で「防犯」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」で「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」の割合が、全体より5ポイント以上高い。



(8) 運動不足の実感

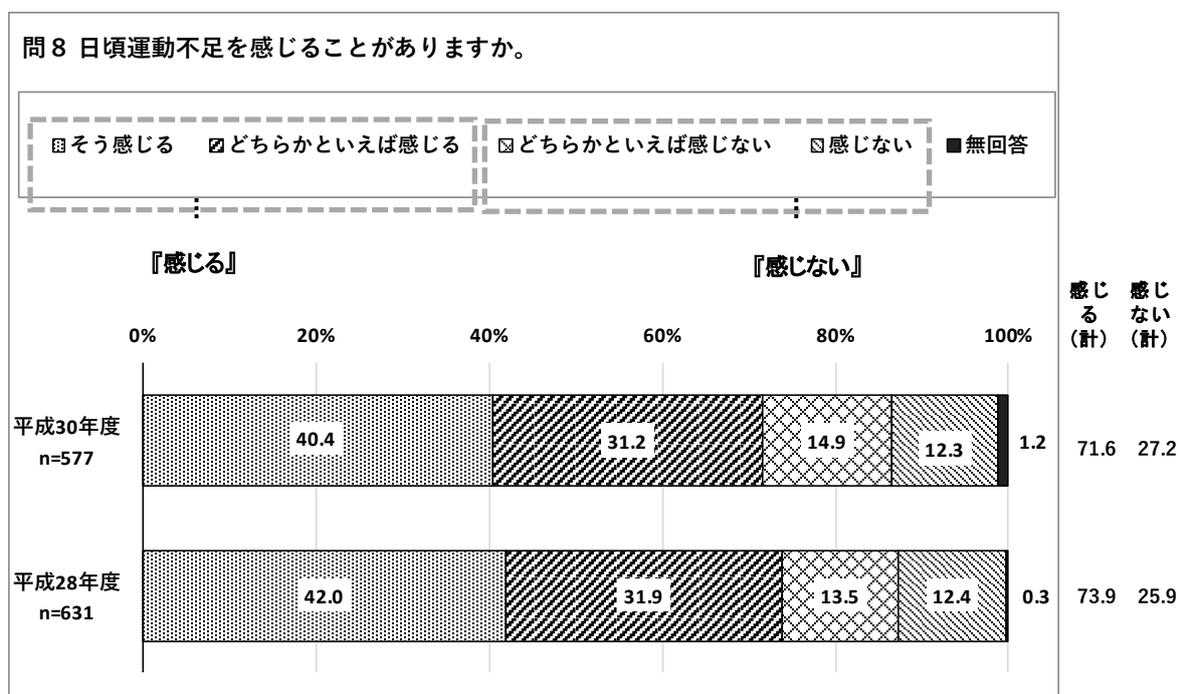
【運動不足の実感：時系列】

<全体>

- ・ 日頃運動不足を感じるかどうかについて「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『運動不足を感じる』方が71.6%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『運動不足を感じない』方が27.2%となっており、7割以上の区民が日頃運動不足だと感じている。

<平成28年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査と比較して、『感じる』割合は2.3ポイント減少し、『感じない』割合は1.3ポイント増加し、日頃運動不足だと感じる区民が微減している。



【運動不足の実感： 属性別】

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「そう感じる」で、7.5ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では「そう感じる」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

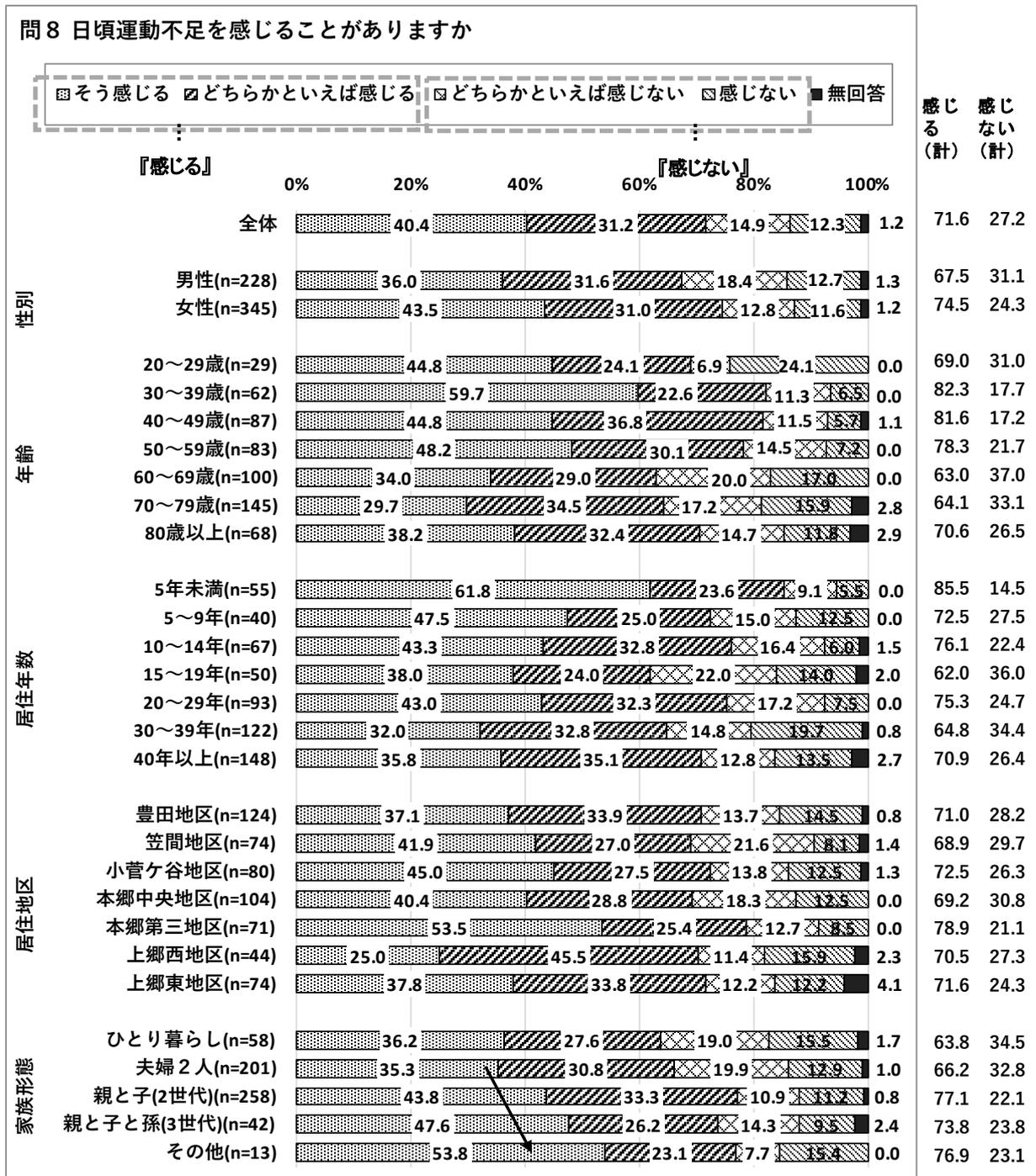
・「5年未満」では、「そう感じる」の割合が全体より20ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「そう感じる」の割合が全体より10ポイント以上高い。

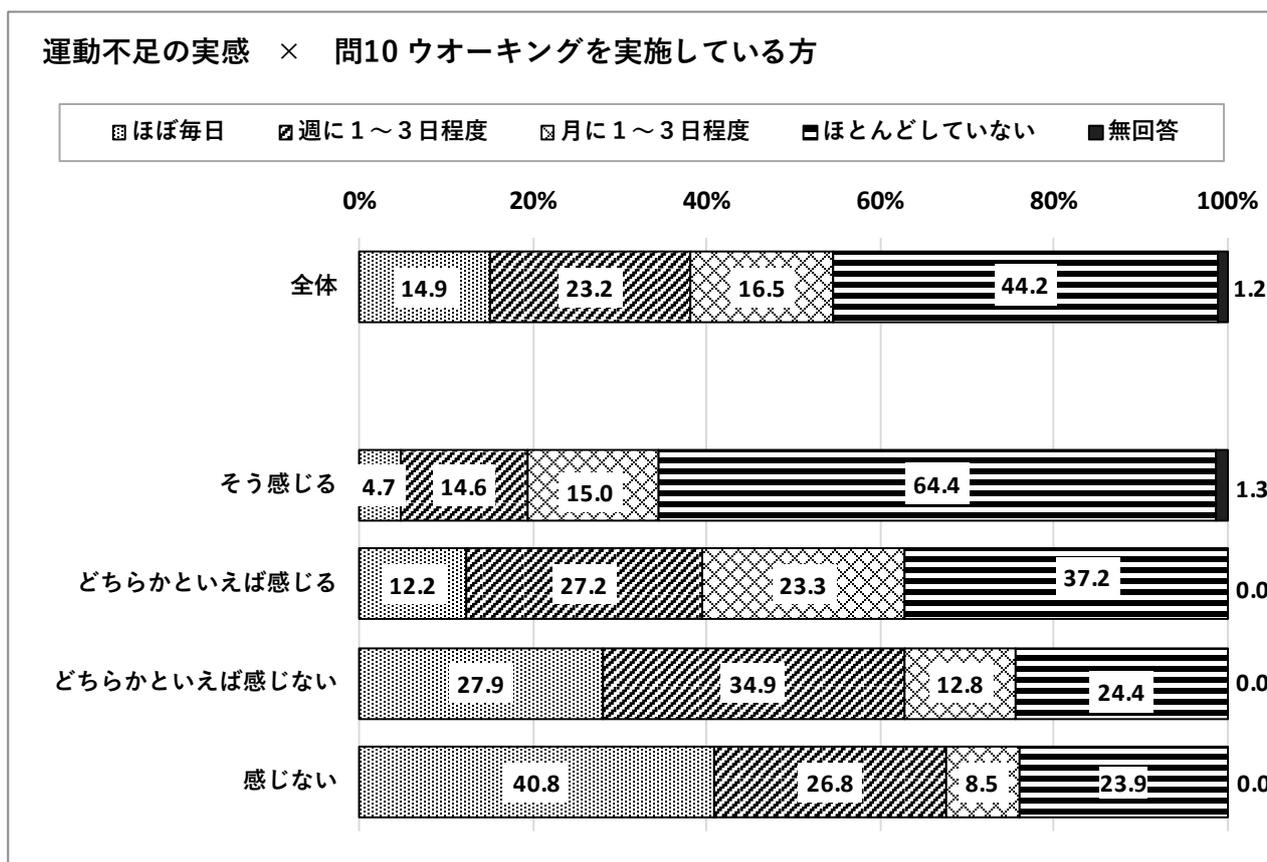
<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど「そう感じる」の割合が高くなる傾向が見られる。



【運動不足の実感： ウォーキングを実施している方別】

・運動不足を感じない人の4割は、ほぼ毎日ウォーキングをしている。



(9) スポーツをする頻度

【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度： 時系列】

<全体>

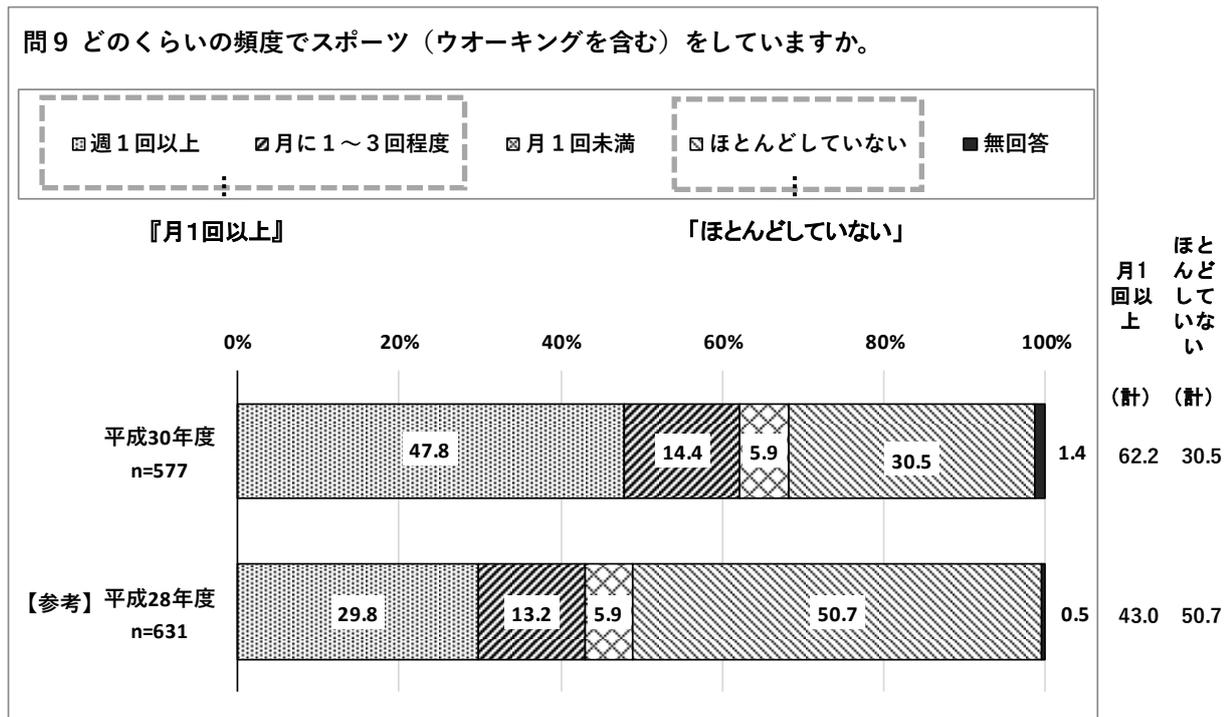
- ・ スポーツをする頻度については「週1回以上」スポーツをしている方は47.8%である。一方、「ほとんどしていない」と回答した方は30.5%である。

<参考：平成28年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査と比較して、『月1回以上』割合は19.2ポイント増加し、「ほとんどしていない」割合は20.2ポイント減少し、（ウォーキングを含む）スポーツをする頻度が激増している。

※設問が異なるため、参考扱いとします。

平成28年度調査：どのくらいの頻度でスポーツをしていますか。



【スポーツ（ウォーキングを含む）をする頻度： 属性別】

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、「週1回以上」で、9.4ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では「週1回以上」の割合が全体より10ポイント以上高く、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

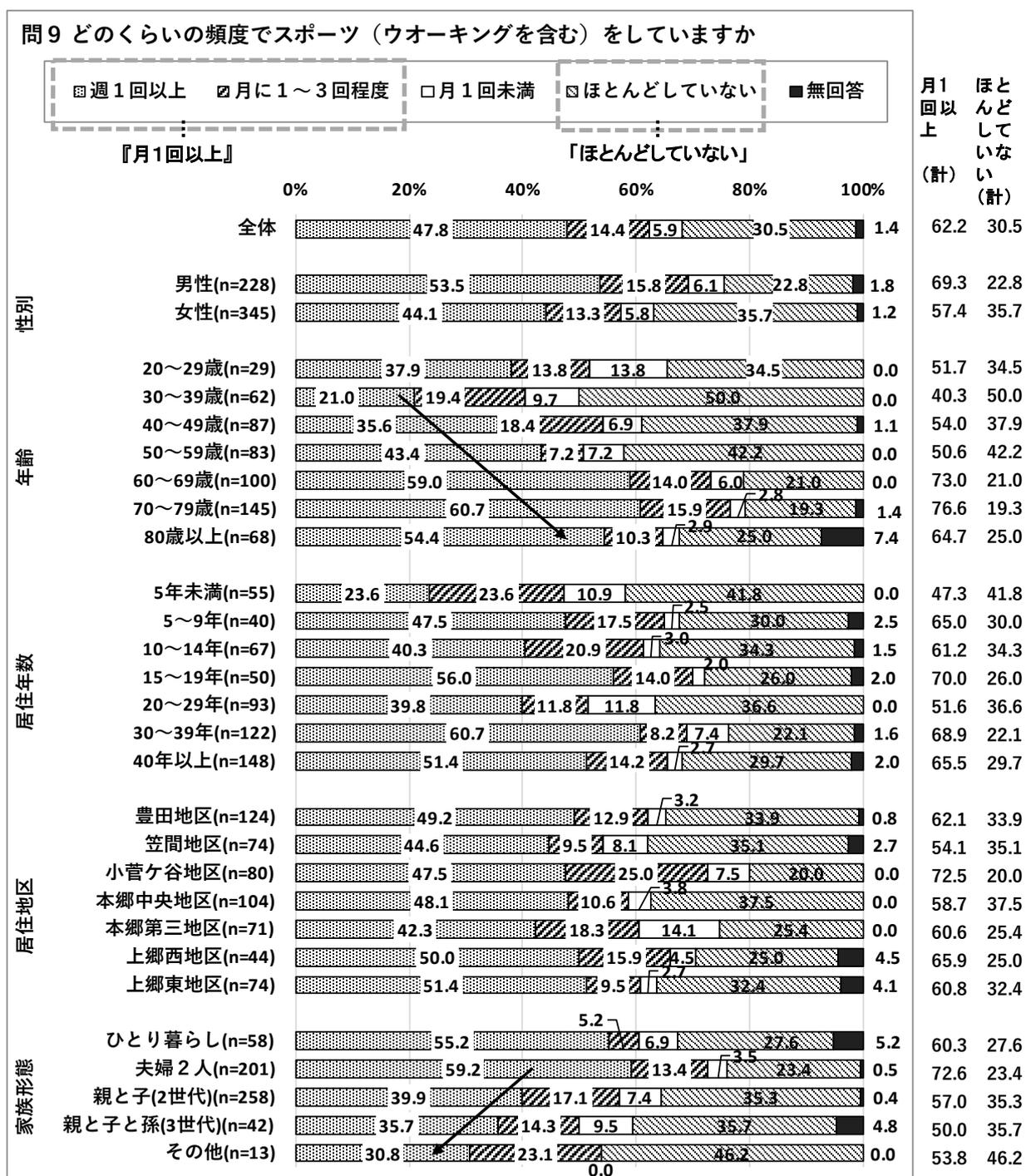
・「30～39年」では、「週1回以上」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・居住地区別には大きな差は見られない。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では「週1回以上」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」を除いて、家族の人数が多くなるほど割合が低くなる傾向が見られる。



Ⅲ 集計分析結果

(10) ウォーキングをする頻度

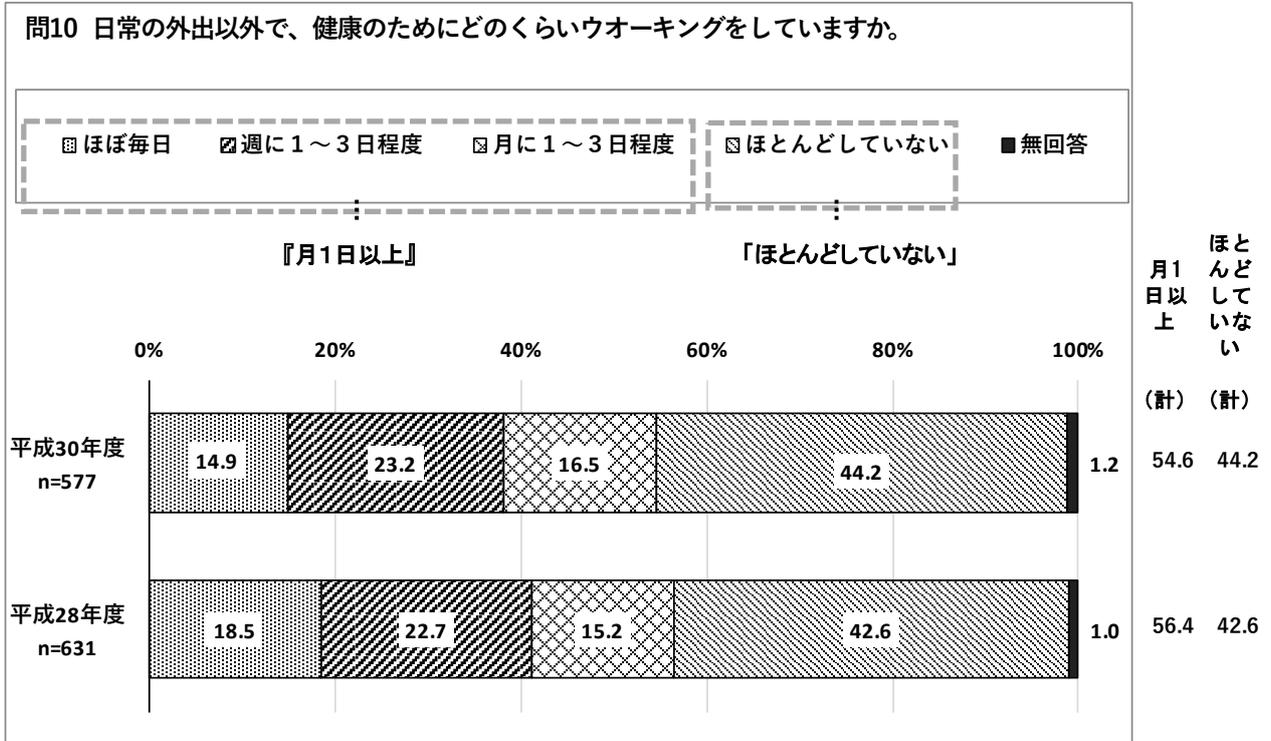
【ウォーキングをする頻度： 時系列】

<全 体>

- ・ 日常の外出以外で、健康のためにどのくらいウォーキングをしているかについては、「ほぼ毎日」「週に1～3日程度」「月に1～3日程度」を合わせた『月に1日以上』の方は54.6%、「ほとんどしていない」方が44.2%と5割以上の区民が月1日以上ウォーキングをしている。

<平成28年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査と比較して、『月1日以上』割合は1.8ポイント減少し、「ほとんどしていない」割合は1.6ポイント増加し、ウォーキングをする区民は微減している。



【ウォーキングをする頻度： 属性別】

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、「ほぼ毎日」で、5.6ポイント高い。

<年齢別>

・70歳以上では「ほぼ毎日」の割合が全体より5ポイント以上高く、高齢になるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

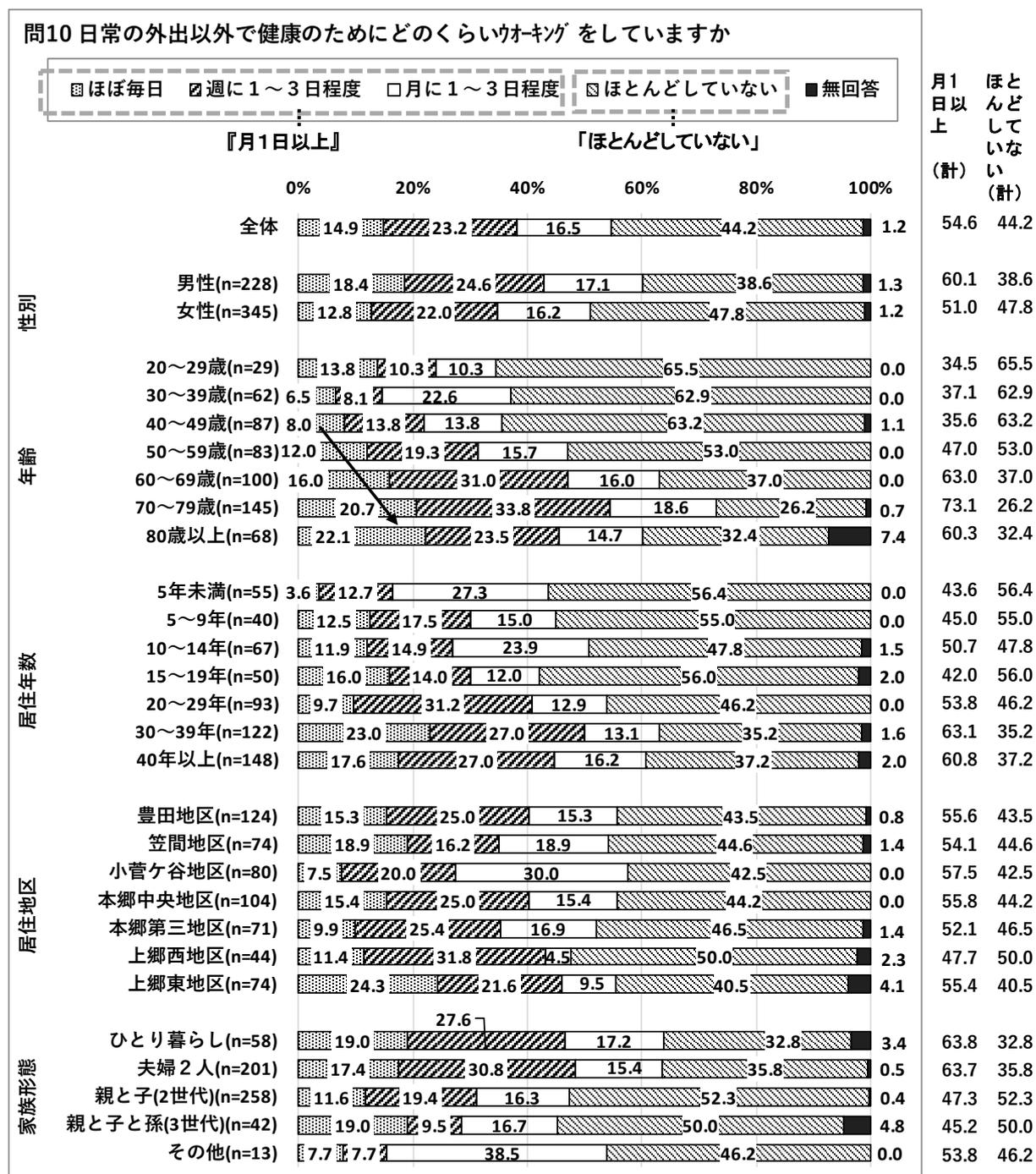
・「30～39年」では、「ほぼ毎日」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「ほぼ毎日」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」「夫婦2人」では『月1日以上』の割合が全体より10ポイント程度高い。



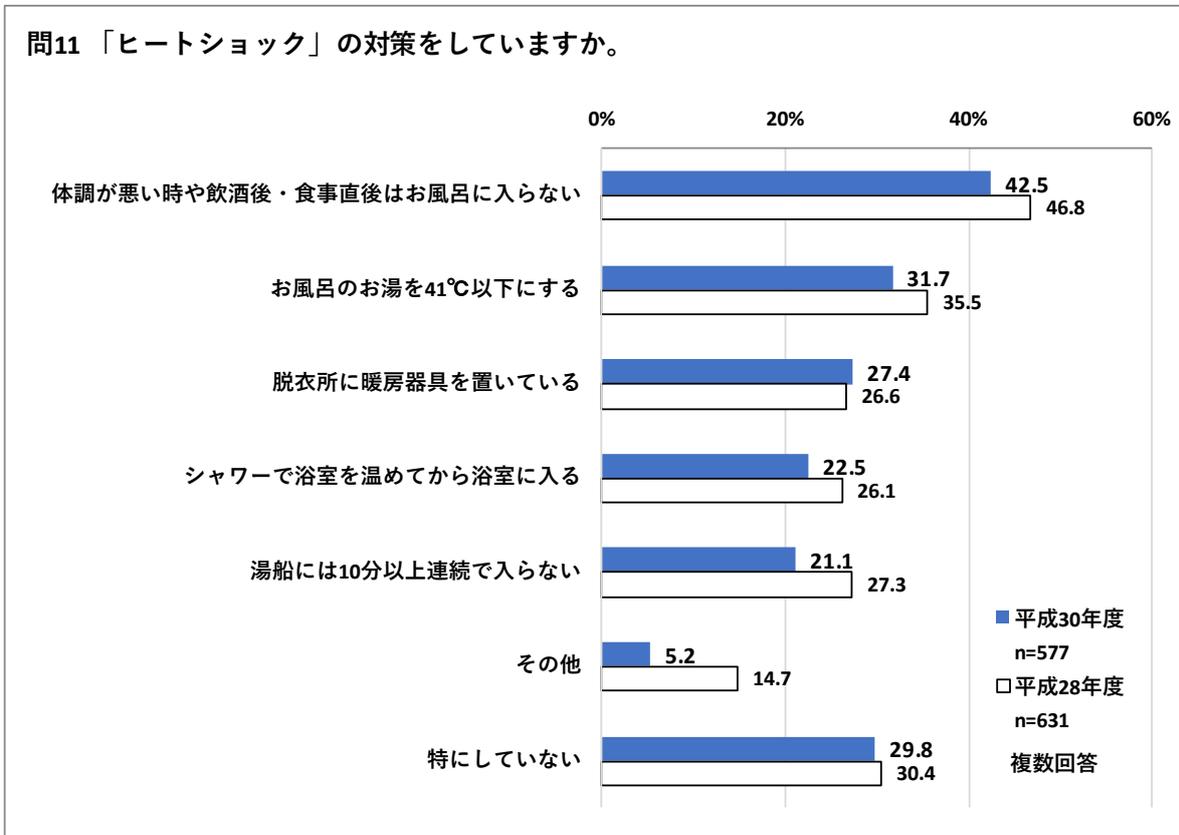
(11) 「ヒートショック」の対策

<全体>

- ・「体調が悪い時や飲酒後・食事直後はお風呂に入らない」が42.5%で最も多く、次いで「お風呂のお湯を41℃以下にする」(31.7%)、「脱衣所に暖房器具を置いている」(27.4%)の順である、一方、「特にしていない」は29.8%となっている。

<平成28年度調査と比較>

- ・平成28年度調査と比較すると「脱衣所に暖房器具を置いている」では、微増しているが、それ以外の対策では減少傾向が見られた。



問11 「ヒートショック」の対策をしていますか (その他記述)【29件】		
浴室暖房		13
全室エアコン(浴室の温度が室温と同じ)		5
風呂に入る前にシャワーを(お湯)足元からゆっくりとかける		2
昼のあたたかい時間に入る		2
手すりをいくつもつけ安全を図っている	1	水を飲む 1
お風呂に入らずシャワーのみ	1	湯船に心臓は入れない 1
入浴直前にシャワーで浴室を暖める	1	血圧等気を付ける 1
デイサービスで入浴	1	

【「ヒートショック」の対策： 属性別 】上位4項目

<性別>

・「お風呂のお湯を41℃以下にする」では「男性」の方が、その他の項目では「女性」の方が割合は高い。

<年齢別>

・どの項目も50歳以上で年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

・どの項目も居住年数が長くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷西地区」で「脱衣所に暖房器具を置いている」の割合が、全体より20ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には大きな差は見られない。



Ⅲ 集計分析結果

(12) 救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度 【新規】

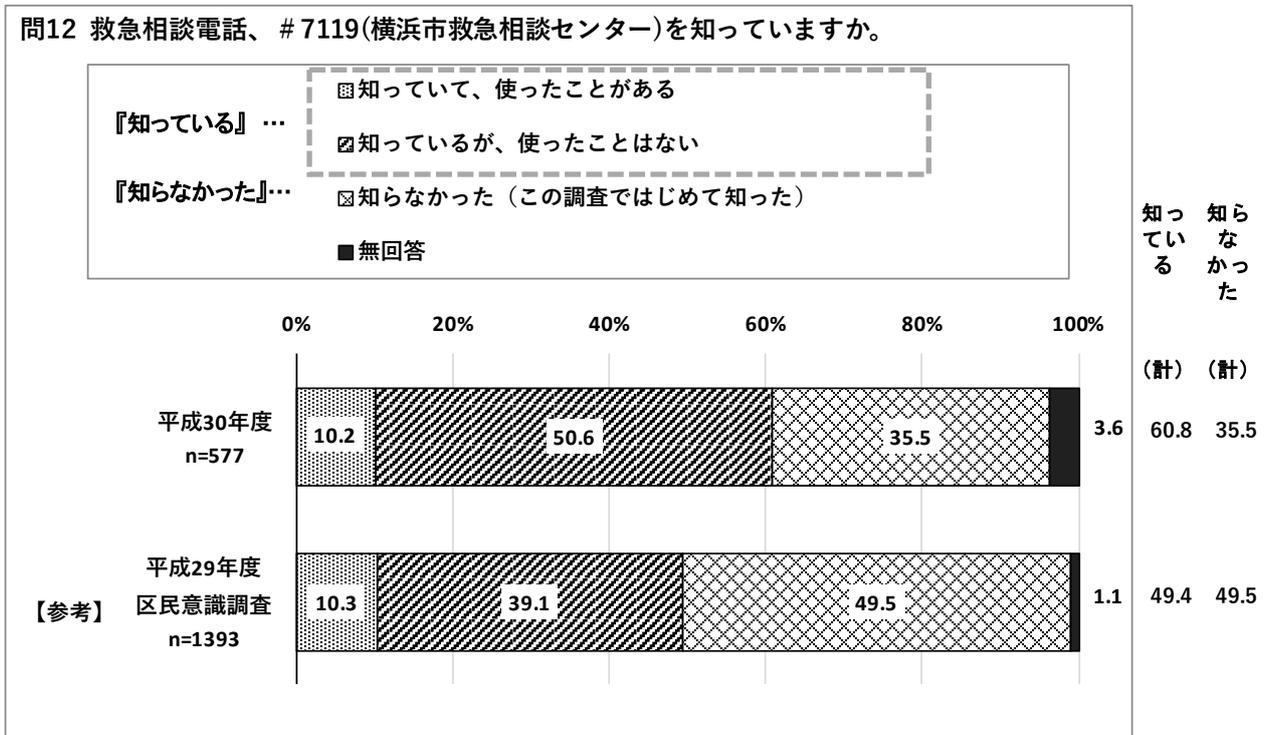
【救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度： 時系列】

<全 体>

- ・ 「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は60.8%である。また、「使ったことがある」方は全体の1割である。一方、「知らなかった（この調査ではじめて知った）」方は35.5%となっている。

<参考：平成29年度 区民意識調査と比較>

- ・ 平成29年度区民意識調査と比較して、「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は11.4ポイント増加している。



【救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度： 属性別】

<性別>

・「知っていて、使ったことがある」と「知っているが使ったことはない」と合わせた『知っている』を比較すると、「男性」より「女性」が17.4ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『知っている』の割合が全体より15ポイント以上低い。

<居住年数別>

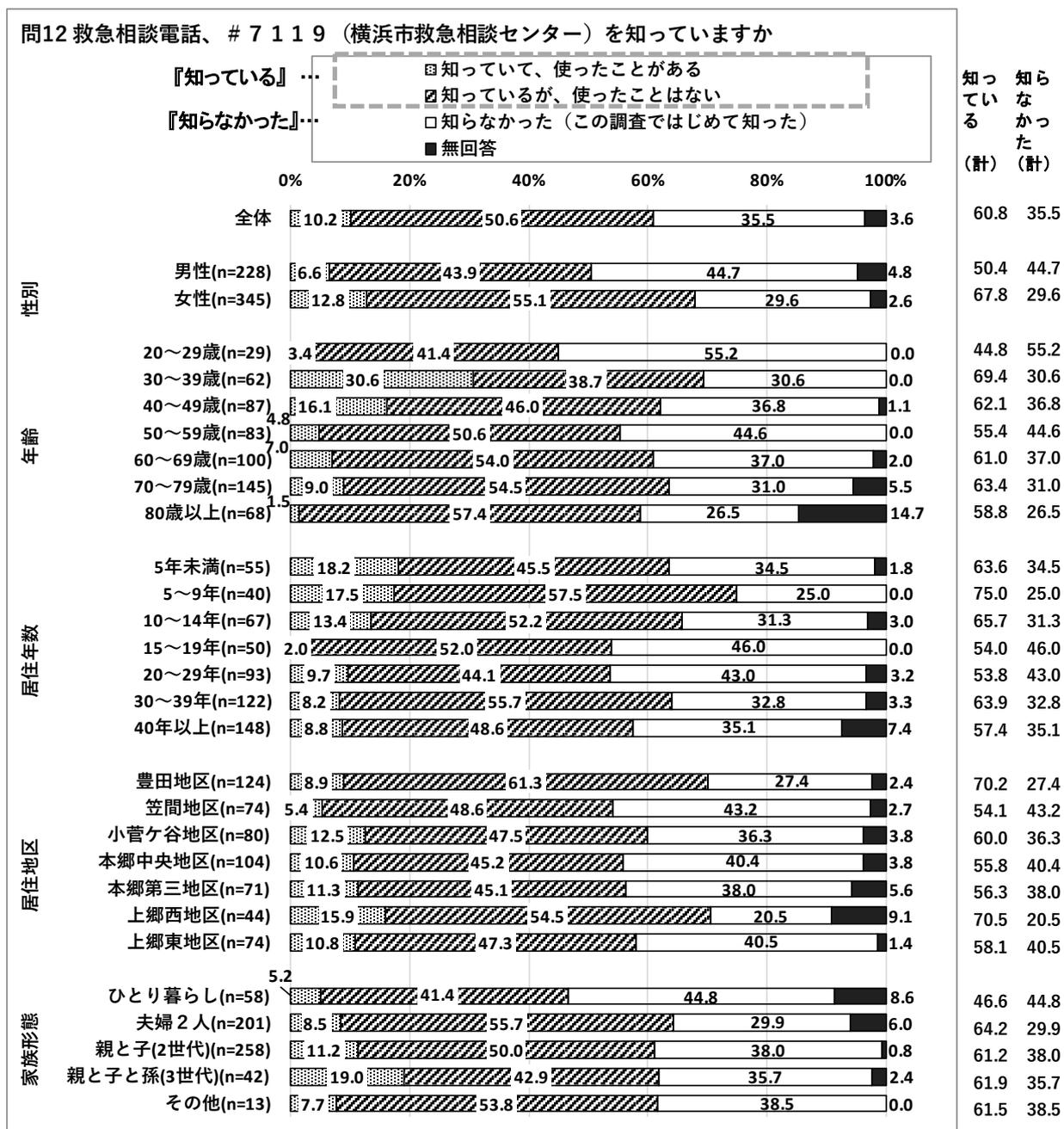
・「5～9年」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」「上郷西地区」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『知っている』の割合が全体より10ポイント以上低い。



Ⅲ 集計分析結果

(13) 地域防災拠点の認知度

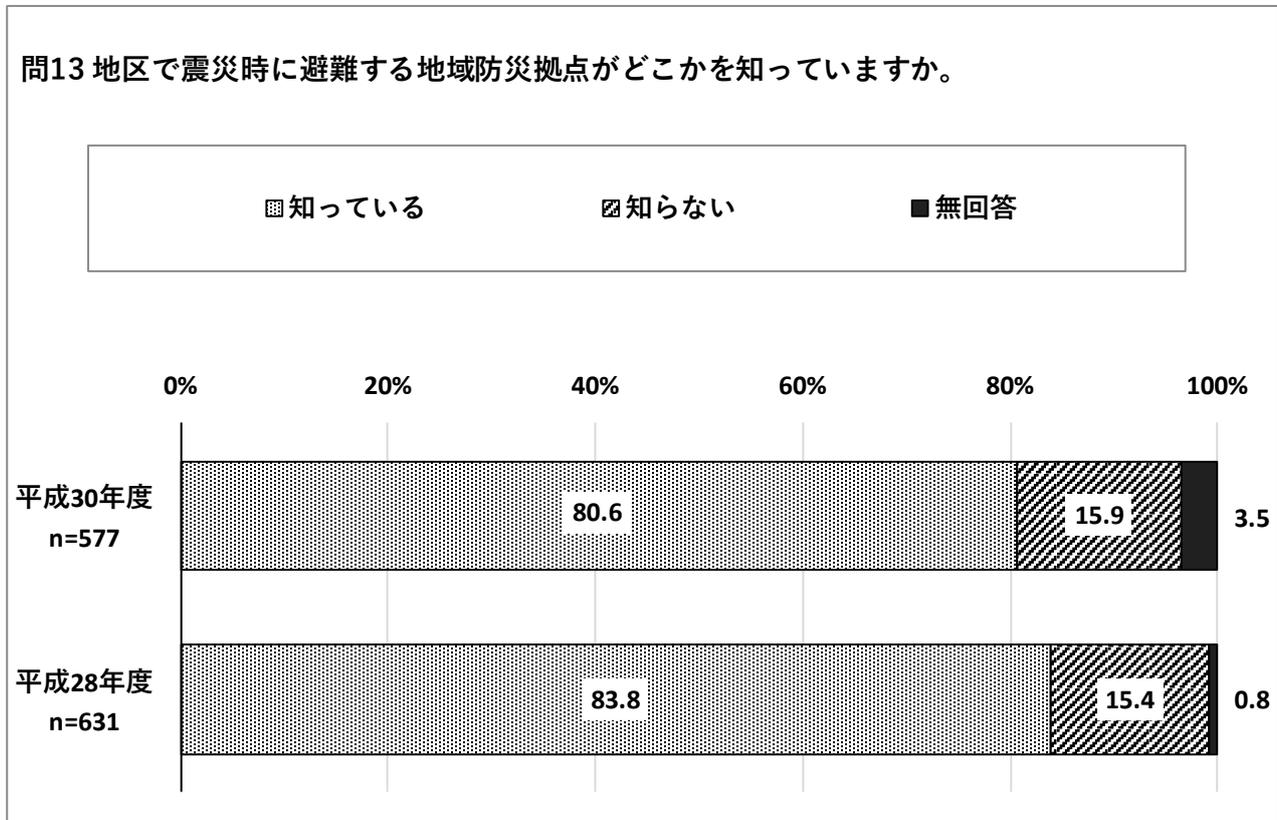
【地域防災拠点の認知度： 時系列】

<全体>

- ・ 地区で震災時に避難する地域防災拠点を「知っている」方が80.6%と、「知らない」方を大きく上回っている。

<平成28年度調査と比較>

- ・ 平成28年度調査と比較して、「知っている」割合は3.2ポイント微減している。



【地域防災拠点の認知度： 属性別】

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「知っている」で、2.8ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では「知っている」の割合が全体より35.8ポイント低く、年齢が上がるほど「知っている」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

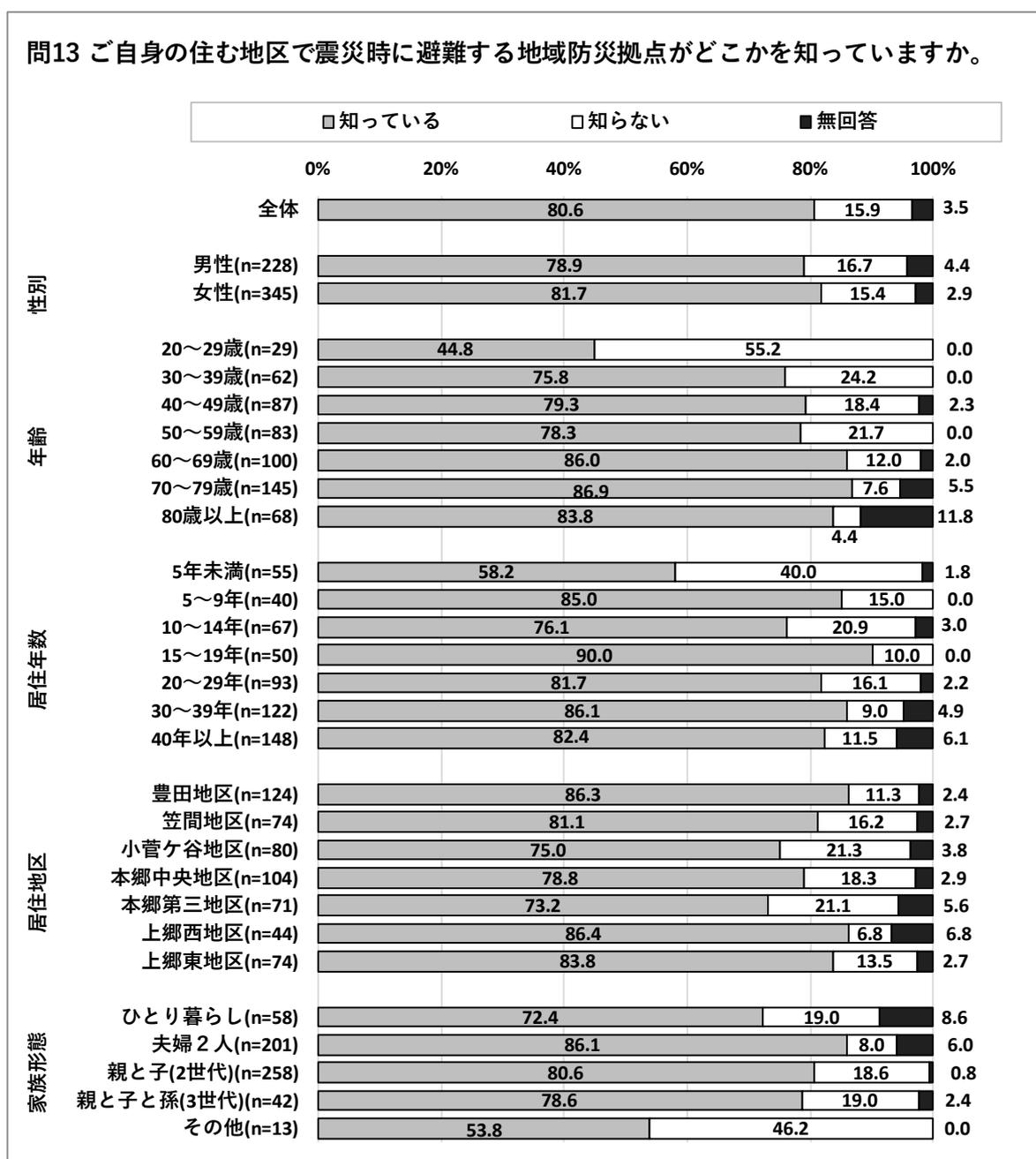
・「5年未満」では「知っている」の割合が全体より22.4ポイント低く、「15～19年」「30～39年」では、「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「豊田地区」「上郷西地区」では、「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高い。



III 集計分析結果

(14) 地域防災拠点の訓練の訓練に参加したことがある割合

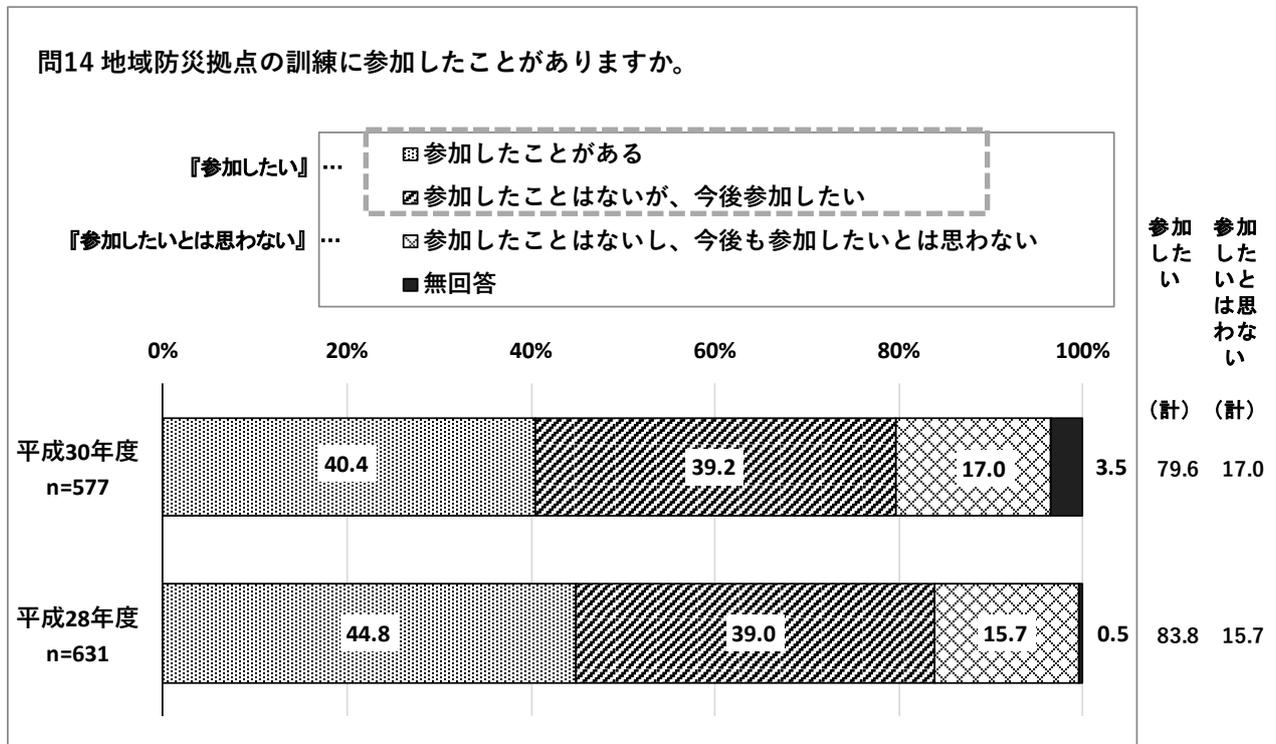
【地域防災拠点の訓練の訓練に参加したことがある割合： 時系列】

<全体>

- ・「参加したことがある」「参加したことはないが、今後参加したい」を合わせた『参加したい』の割合は79.6%となっており、約8割の区民が地域防災拠点の訓練に参加したことがある、もしくは参加する意思がある。

<平成28年度調査と比較>

- ・平成28年度調査と比較して、『参加したい』割合は4.2ポイント減少している。



【地域防災拠点の訓練の訓練に参加したことがある割合： 属性別】

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、「参加したことがある」が9.5ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」を除いて、年齢が上がるほど「参加したことがある」の割合が高くなっている。

<居住年数別>

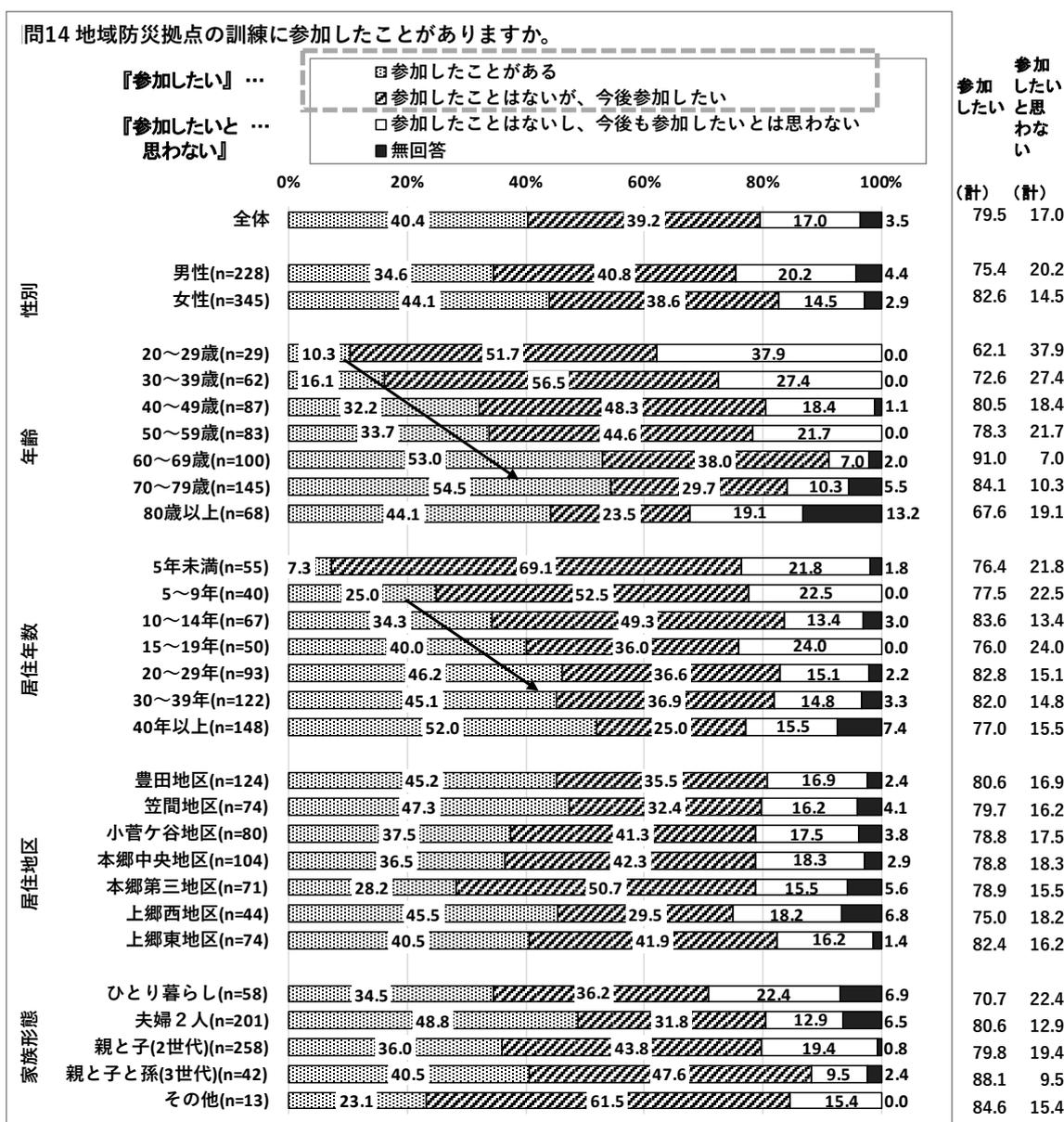
・居住年数が長くなるほど「参加したことがある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「笠間地区」「上郷西地区」では、「参加したことがある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

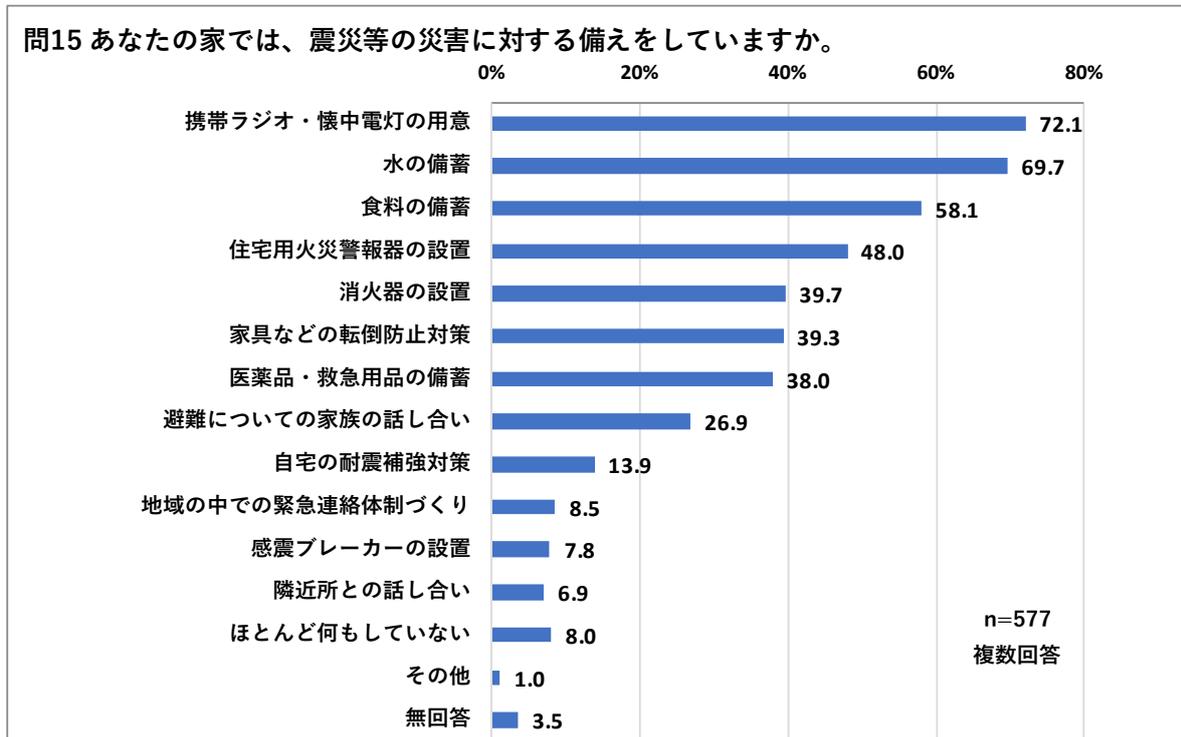
・「夫婦2人」では、「参加したことがある」の割合が全体より5ポイント以上高い。



(15) 震災等の災害に対する備え

<全体>

- ・ 区民が行っている震災等の災害に対する備えについては「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が72.1%で最も多く、次いで「水の備蓄」(69.7%)、「食料の備蓄」(58.1%)、「住宅用火災警報器の設置」(48.0%)の順になっている。一方、「ほとんど何もしていない」は8.0%となっている。



問15 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか (その他記述)【6件】	
夫も殆ど動きにくく夫をつれての避難は無理ということでここで生きる備蓄をかなりしてます	1
現在マンションに居住してますので、自治会、管理組合の決め事等の指示に従ってます	1
家を建替えた	1
現在、介護施設に世話になっています	1
避難所の掲示	1
小銭 ¥1000分ぐらい	1

【震災等の災害に対する備え： 属性別】上位4項目と「ほとんど何もしていない」

<性別>

・上位4項目では「男性」より「女性」の割合が高くなっている。

<年齢別>

・上位4項目では「20～29歳」を除いて、年齢が上がるほど備えをする割合が高くなる傾向が見られる。一方、年齢が低いほど「ほとんど何もしていない」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

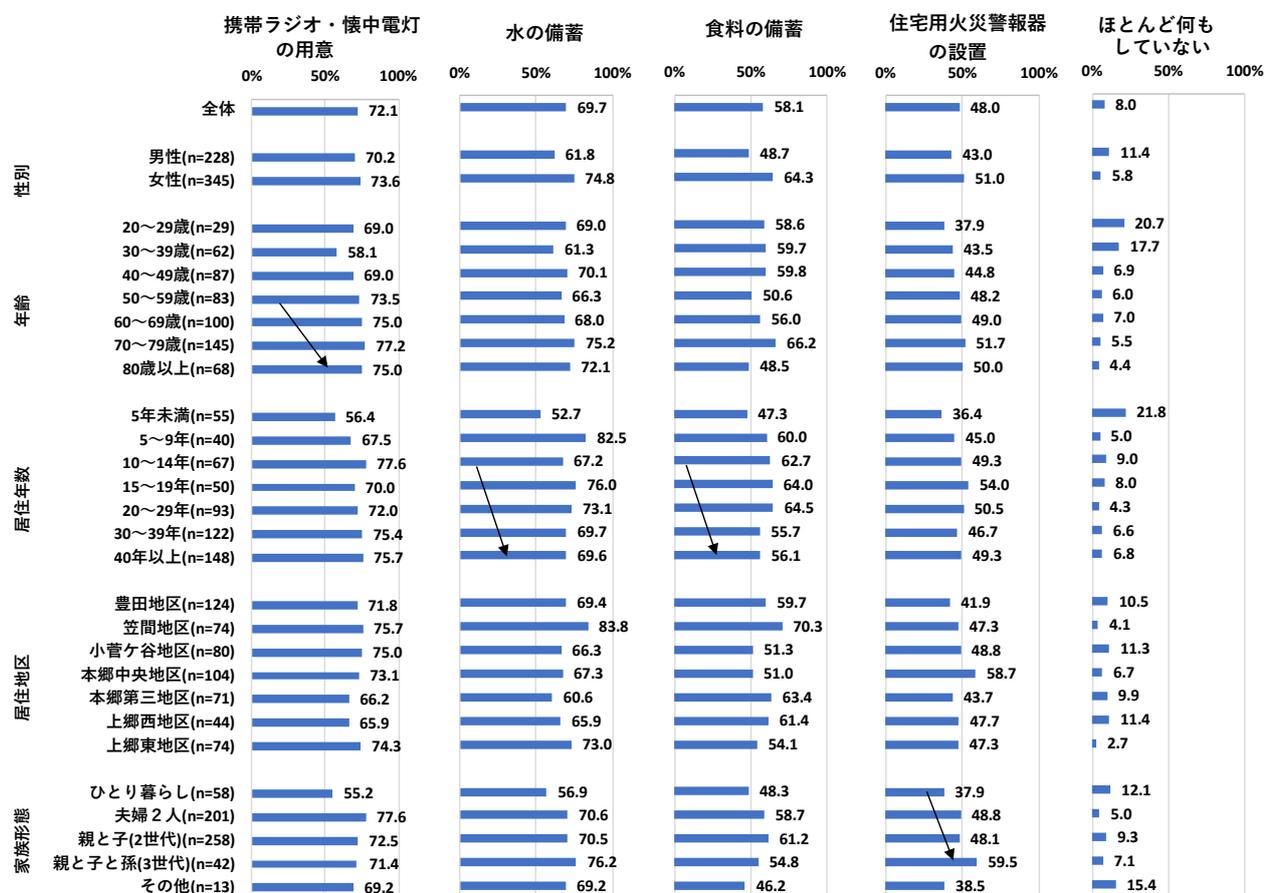
・全体的に「5年未満」では、他と比べて備えをする割合が低く、5年以降、備えをする割合が徐々に微増する傾向が見られる。
 ・「5～9年」では、「水の備蓄」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<地区別>

・「笠間地区」で「水の備蓄」「食料の備蓄」が、「本郷中央地区」で「住宅用火災警報器の設置」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

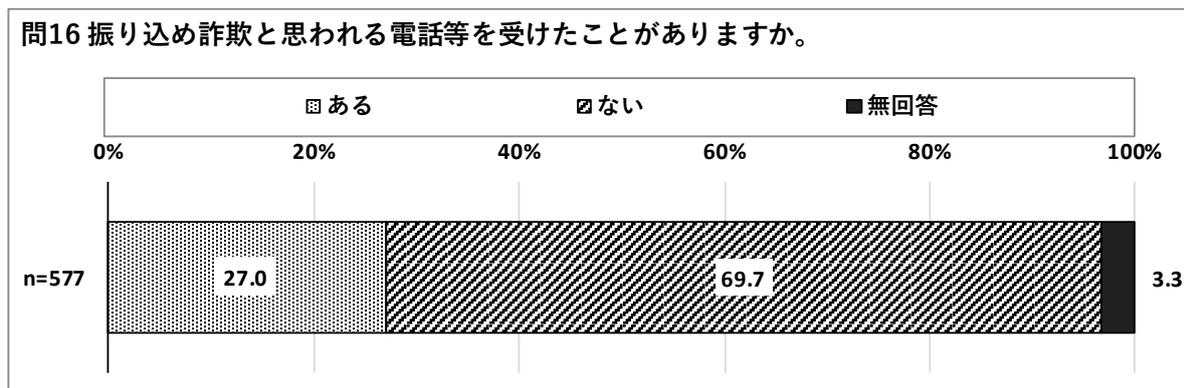
・「住宅用火災警報器の設置」は家族人数が多くなるほど割合が高くなる傾向があり、「親と子と孫（3世代）」では、全体より10ポイント以上高くなっている。



(16) 振り込め詐欺の受電経験の有無 【新規】

<全 体>

- ・ 振り込め詐欺と思われる電話を受けたことがある区民は27.0%になっている。



【振り込め詐欺の受電経験の有無： 属性別】

<性別>

・「ある」の割合が「男性」26.3%、「女性」27.2%と大きな違いは見られない。

<年齢別>

・70歳以上では「ある」の割合が全体より20ポイント程度高く、年齢が上がるほど「ある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

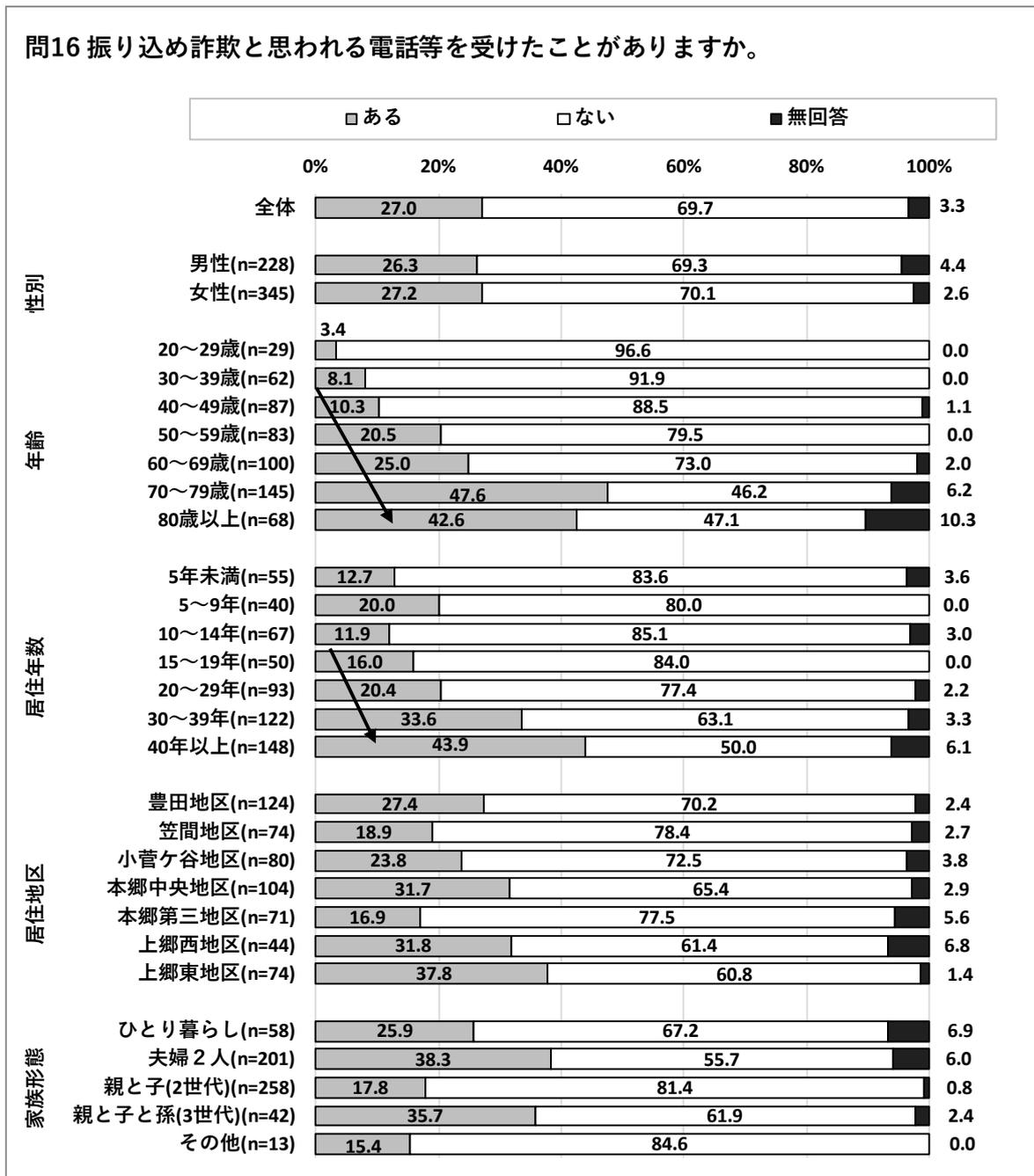
・居住年数が長くなるほど「ある」の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「ある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

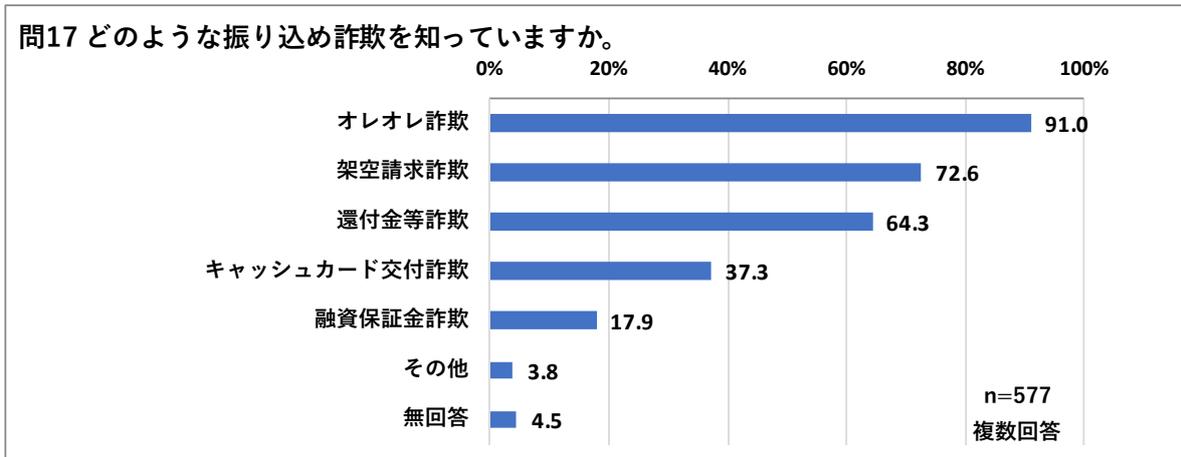
・「夫婦2人」では、「ある」の割合が全体より10ポイント以上高い。



(17) 知っている振り込め詐欺 【新規】

<全 体>

- ・ 知っている振り込め詐欺で最も多く挙げられたのは「オレオレ詐欺」が91.0%、次いで「架空請求詐欺」(72.6%)、「還付金等詐欺」(64.3%)の順となっている。



問17 どのような振り込め詐欺を知っていますか (その他記述)【18件】	
意味不明のTEL・はがき	3
フィッシング詐欺	2
裁判所呼出し詐欺	2
名義貸し(友人から)	2
着払いサギ(家族から受け取るなど言われている)	1
宅配詐欺(個人情報盗む)	1
不動産詐欺、リフォーム詐欺	1
示談金詐欺	1
インターネットウィルス被害詐欺	1
金融機関(郵便局)を名乗り取引有無確認詐欺	1
高島屋デパートで買物カードや買物したとの電話	1
その他(相手のねらいは不詳)	1
小銭¥1000分ぐらい	1

【知っている振り込め詐欺： 属性別】 上位4項目

<性別>

・「オレオレ詐欺」「架空請求詐欺」では「男性」より「女性」の割合が高く、「還付金詐欺」「キャッシュカード交付詐欺」では「女性」より「男性」の方が高くなっている。

<年齢別>

・「架空請求詐欺」は50歳未満で、「還付金等詐欺」は「50～59歳」で、「キャッシュカード交付詐欺」は「60～69歳」で、全体より10ポイント以上高い。

・「オレオレ詐欺」「架空請求詐欺」では、年齢が高いほど知っている割合が低くなる傾向にある。

<居住年数別>

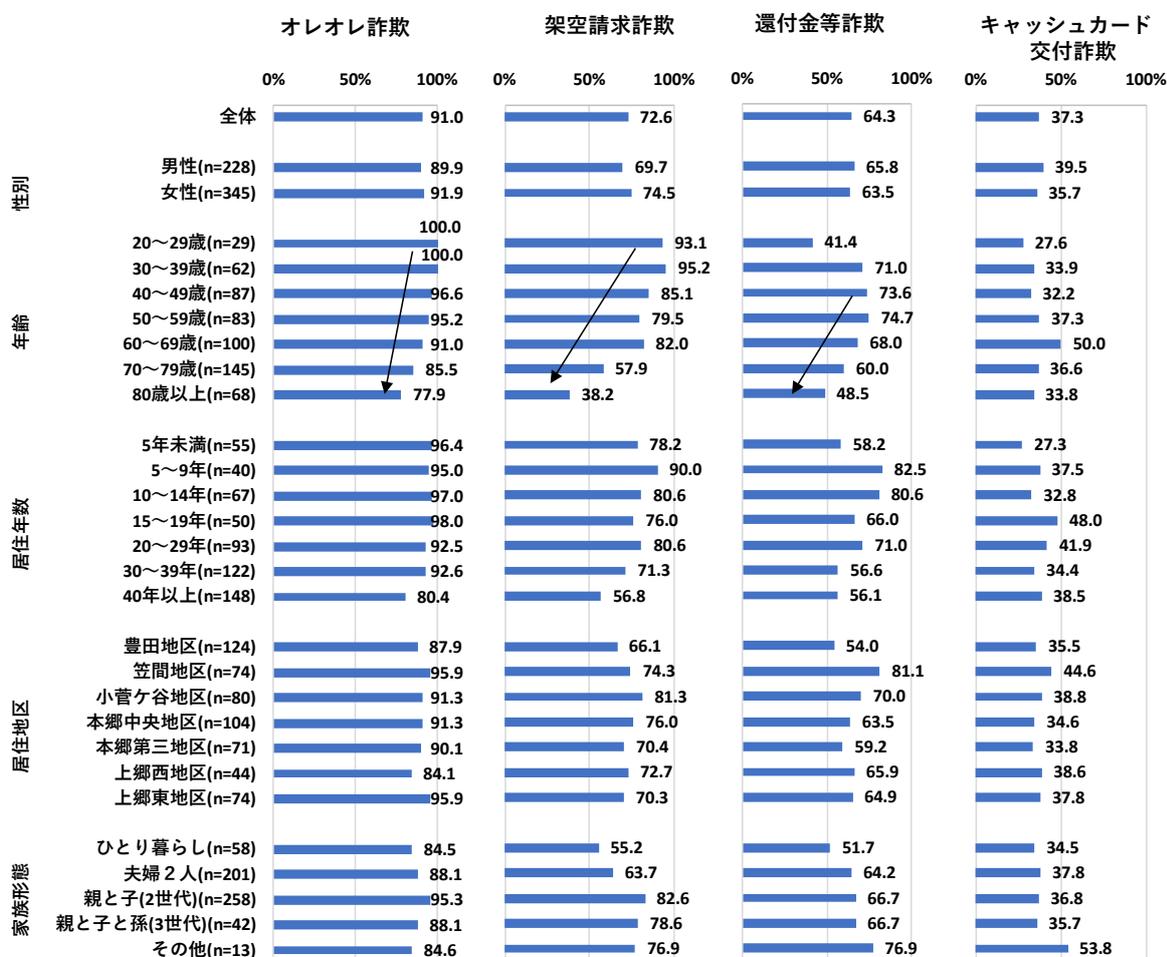
・「架空請求詐欺」は「5～9年」で、「還付金詐欺」は「5～9年」「10～14年」で、「キャッシュカード交付詐欺」は「60～69歳」で全体より10ポイント以上高い。

<地区別>

・「笠間地区」では「還付金詐欺」が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

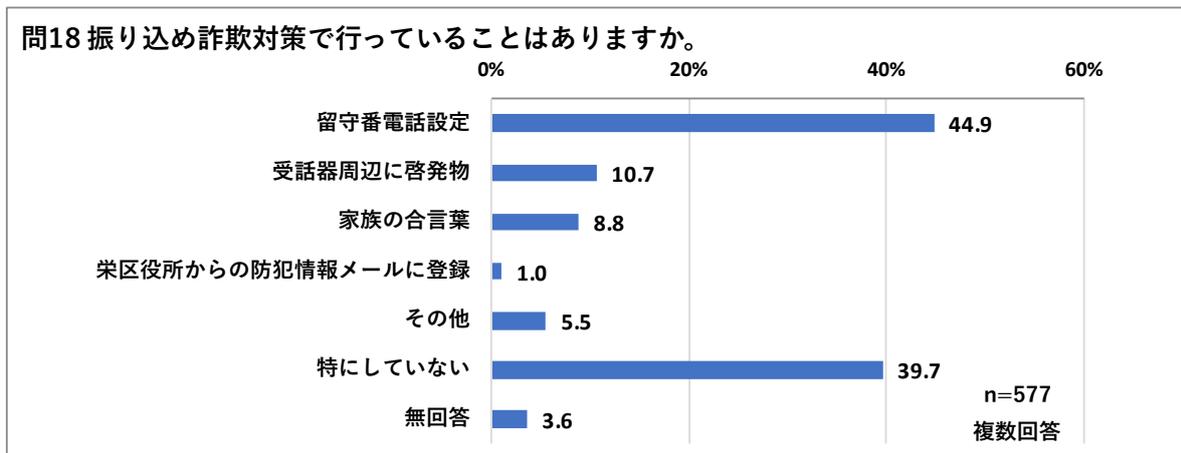
・「架空請求詐欺」では、「親と子(2世代)」「親と子と孫(3世代)」で全体より5ポイント以上高くなっている。



(18) 行っている振り込め詐欺対策 【新規】

<全体>

・「留守番電話設定」が44.9%、次いで「受話器周辺に啓発物」(10.7%)、「家族の合言葉」(8.8%)の順となっている一方、「特にしていない」が39.7%となっている。



【行っている振り込め詐欺対策： 属性別】 上位4項目

<性別>

・全ての項目で「男性」より「女性」の割合が高い。

<年齢別>

・年齢が高いほど振り込め詐欺対策を行っている割合が高くなる傾向があり、年齢が低いほど「特にしていない」割合が高くなる傾向がある。70代以上で「受話器周辺に啓発物」、「80歳以上」で「家族の合言葉」が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

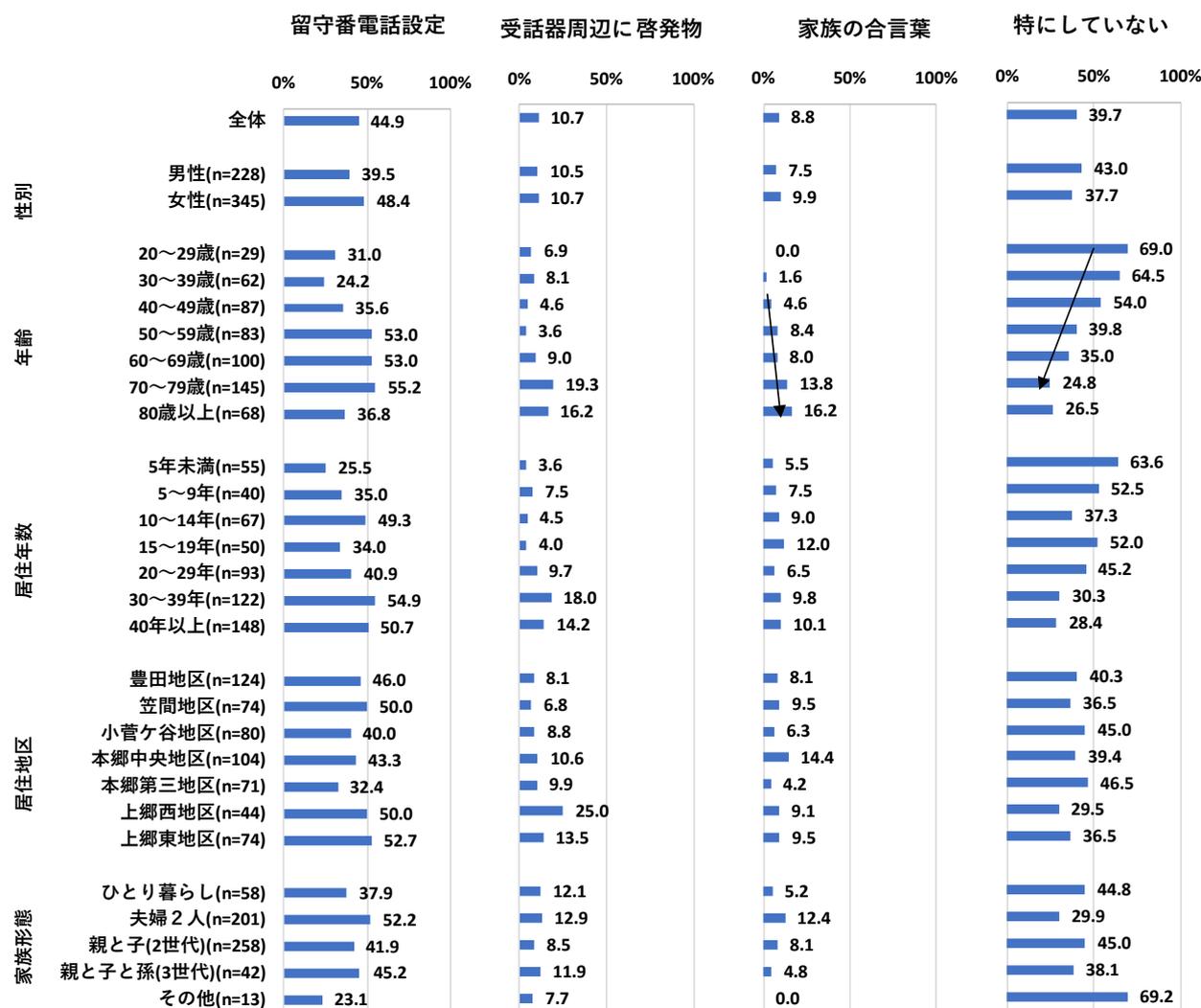
・「留守番電話設定」は「30～39年」で、全体より10ポイント以上高い。

<地区別>

・「上郷西地区」では「受話器周辺に啓発物」が、全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

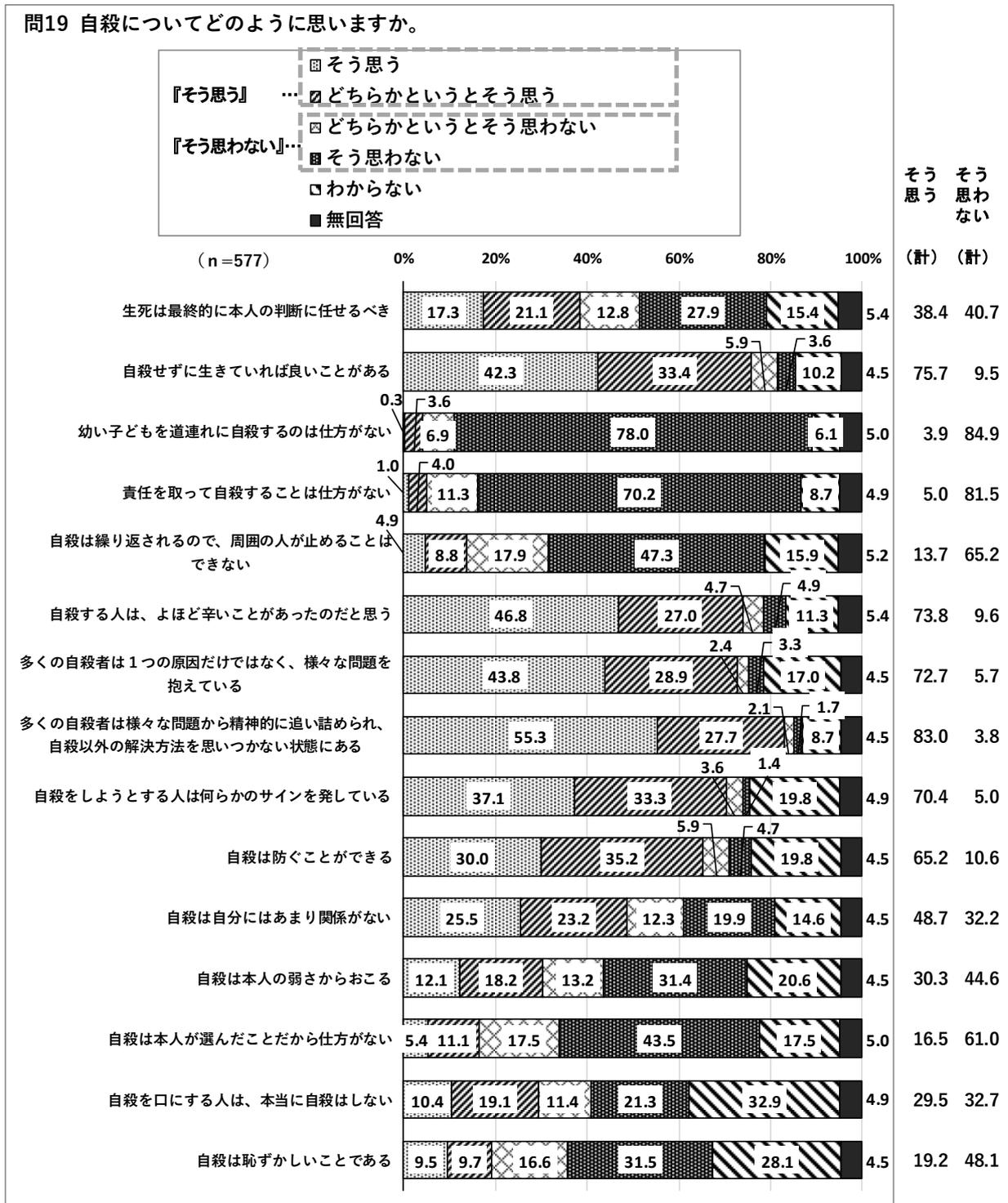
・「留守番電話設定」では、「夫婦2人」で全体より5ポイント以上高くなっている。



(19) 自殺についての考え方

<全体>

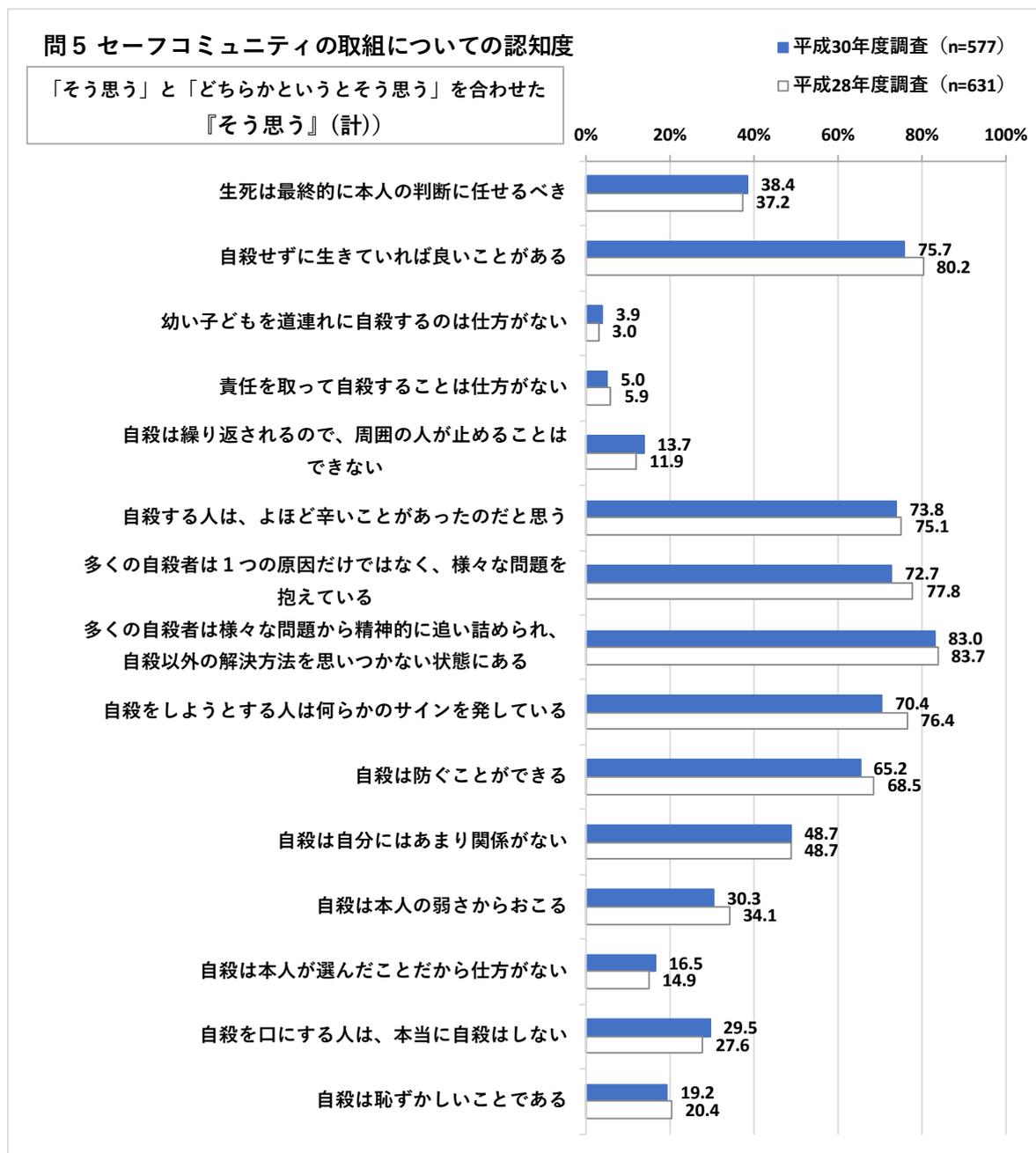
- ・「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」は「そう思う」方が5割以上、「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」「責任を取って自殺することは仕方がない」は「そう思わない」方が7割以上と高い割合になっている。



【自殺についての考え方： 時系列】

<平成28年度調査と比較>

・「『そう思う』と『どちらかというと思う』を合わせた『そう思う』の割合で比較すると、意識にあまり差はないが、「多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている」「自殺をしようとする人は何らかのサインを発している」で、『そう思う』割合が、平成28年度調査に比べて5ポイント以上減少している。



【自殺についての考え方： 属性別】

「そう思う」「どちらかというと思わない」を合わせた『そう思う』
 「どちらかというと思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』で比較

1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき

<性別>

・「女性」より「男性」の方が『そう思う』で11.1ポイント高く、『そう思わない』で10.6ポイント低い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

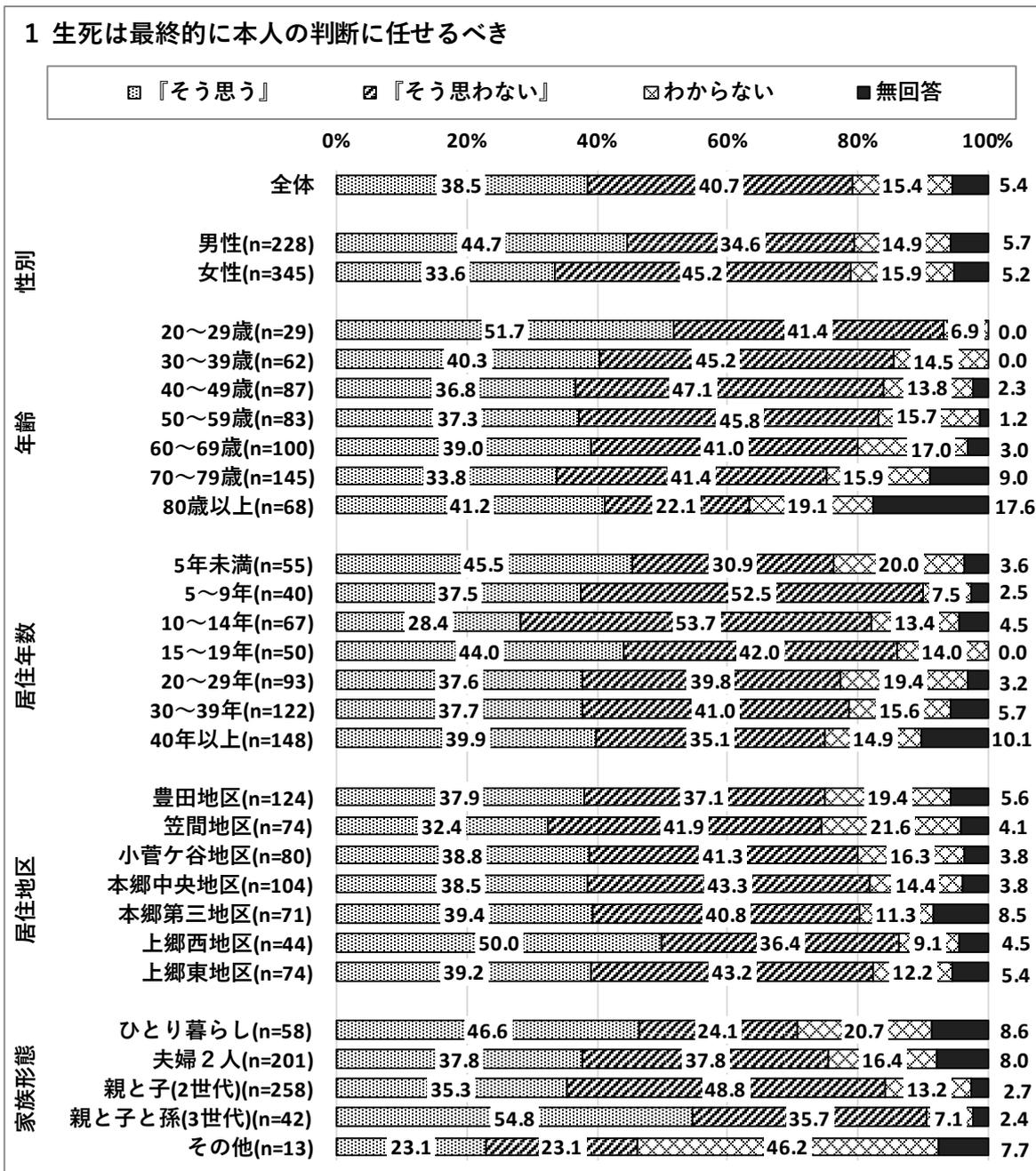
・「5～9年」「10～14年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、『そう思う』が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高い。



2 自殺せずに生きていけば良いことがある

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で2.7ポイント高いがほぼ差は見られない。

<年齢別>

・年齢が低いほど『そう思わない』の割合が高い傾向が見られる。「20～29歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント程度高い

<居住年数別>

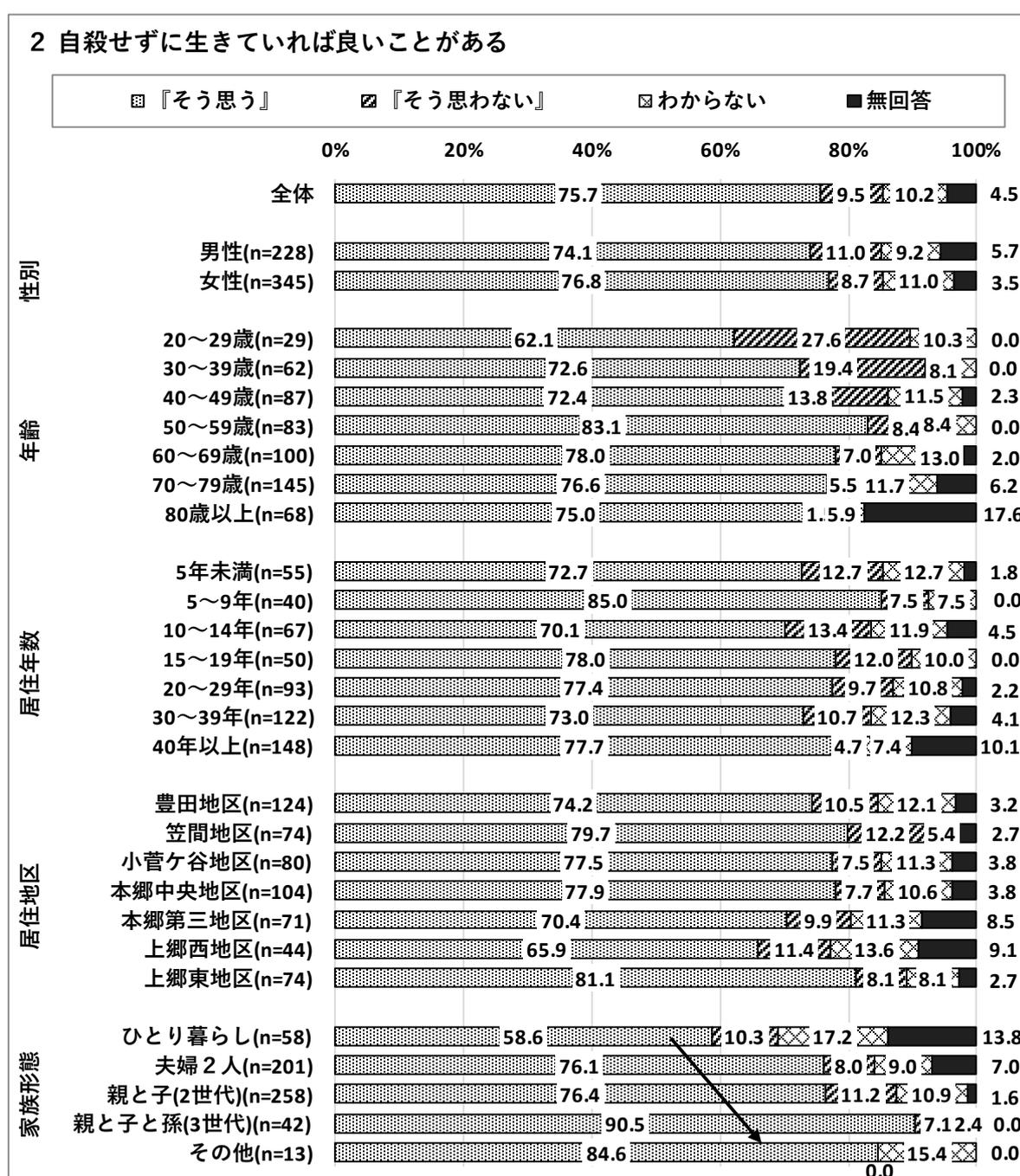
・「5～9年」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント程度高い

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント以上高く、家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合は高くなる傾向が見られる。



3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思わない』が2.0ポイント高いが男女共に8割以上の区民が「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「50～59歳」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<居住年数別>

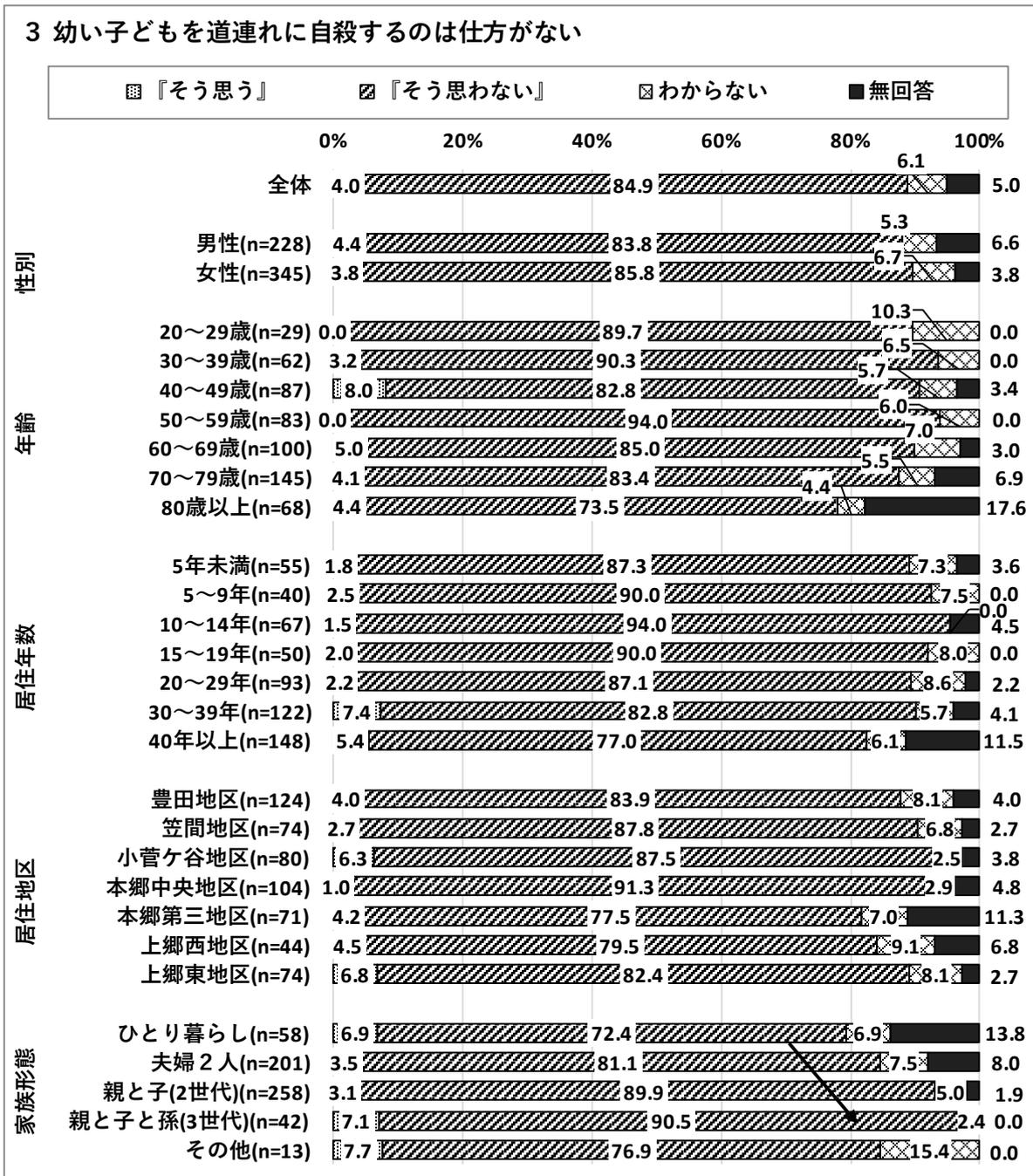
・「10～14年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」では、『そう思わない』の割合が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。



4 責任を取って自殺することは仕方がない

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思わない』が7.8ポイント高いが男女共に8割前後の区民が「責任を取って自殺をすることは仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて、年齢が低いほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向がみられ、「30～39歳」で『そう思わない』の割合が90.3%と全体より8.8ポイント高くなっている。

<居住年数別>

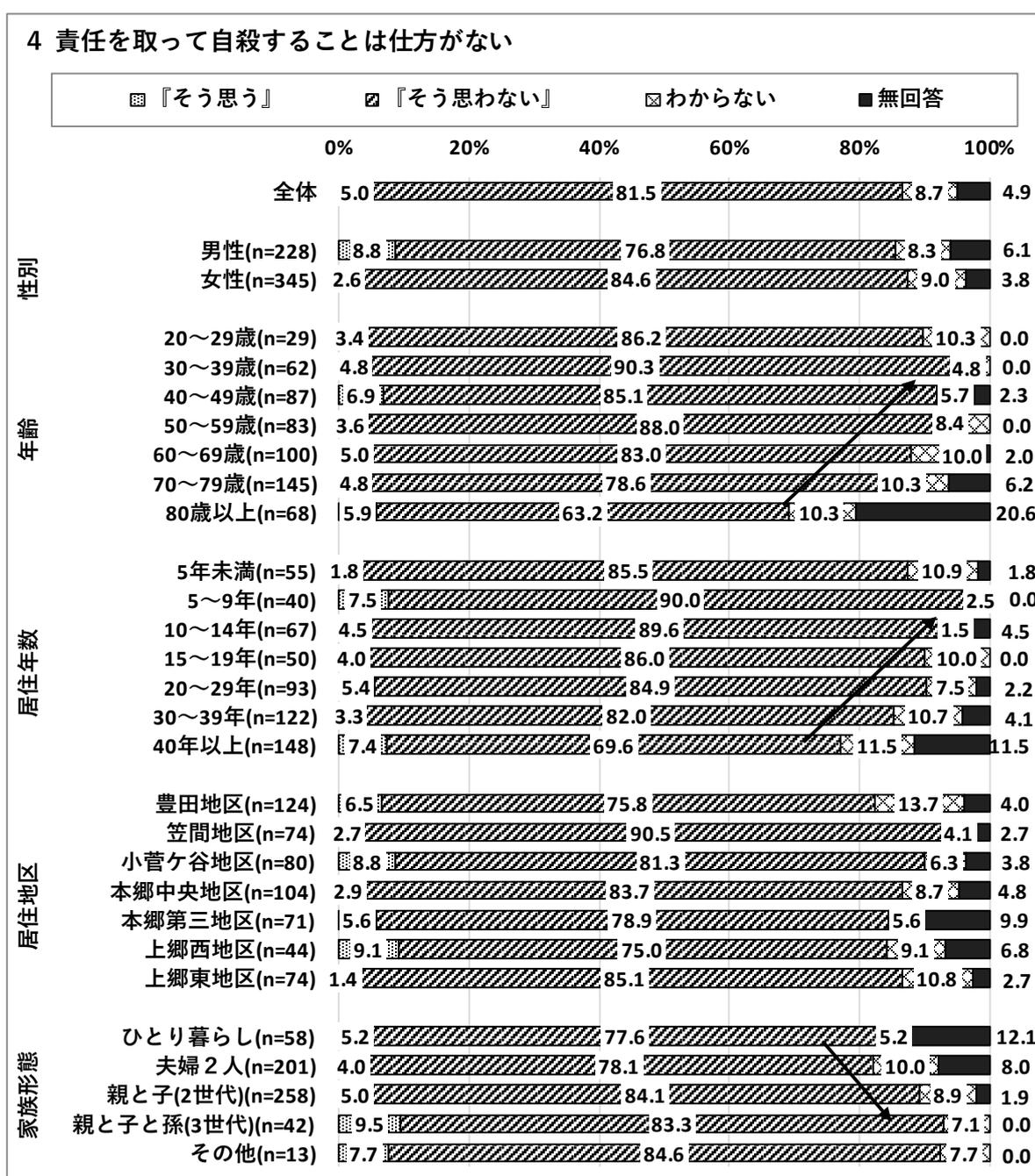
・「5年未満」を除いて、居住年数が短いほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られ、「5～9年」で『そう思わない』の割合が90.0%と全体より8.5ポイント高くなっている。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。



5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思わない』が3.5ポイント高いが男女共に6割以上の区民が「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて、年齢が低いほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向がみられ、「30～39歳」で『そう思わない』の割合が80.6%と全体より15.4ポイント高くなっている。

<居住年数別>

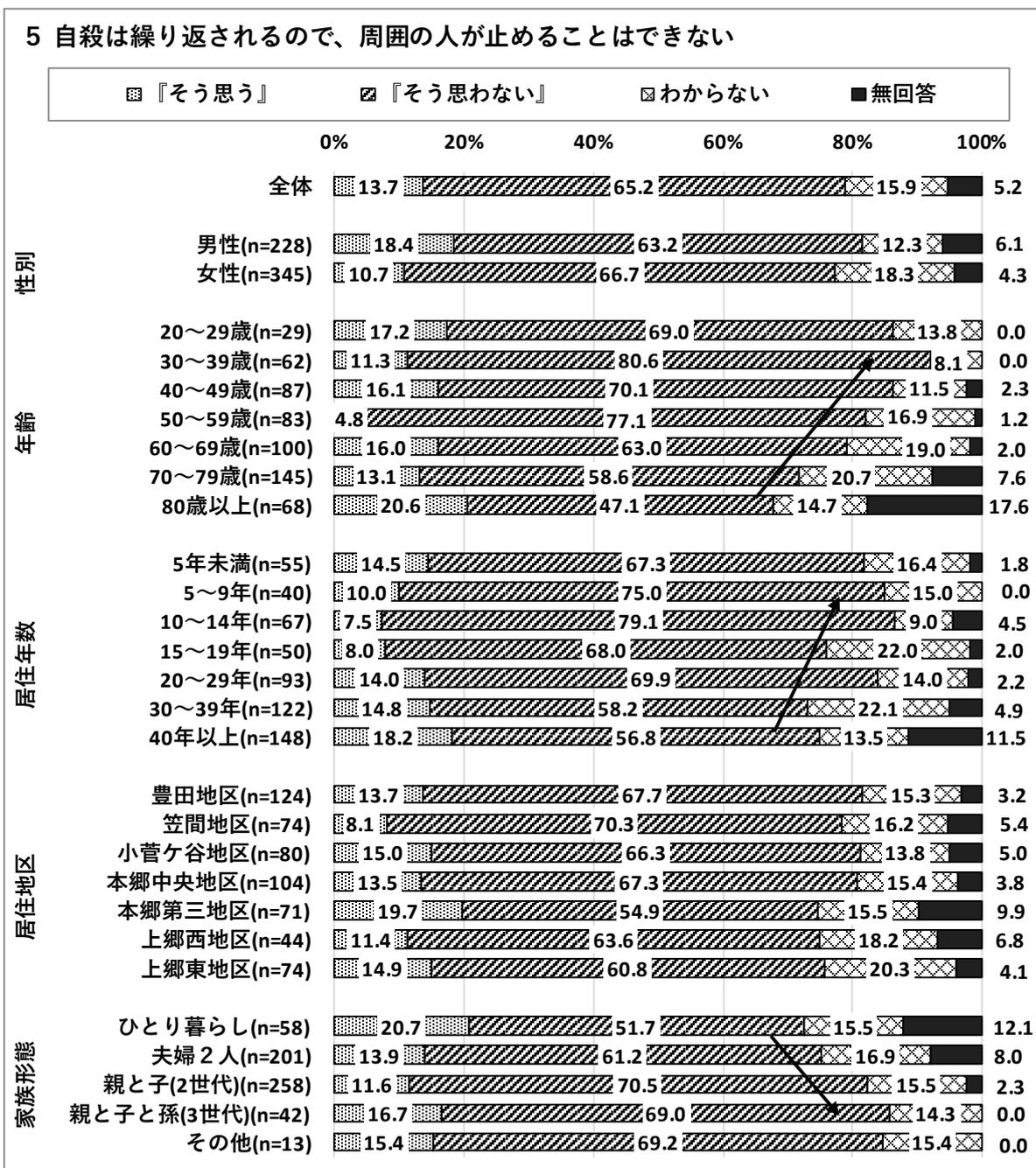
・「5年未満」を除いて、居住年数が短いほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られ、「10～14年」で『そう思わない』の割合が79.1%と全体より13.9ポイント高くなっている。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。



6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、1.0ポイント高いが、男女共に7割以上の区民が「自殺をする人はよほど辛いことがあったのだと思う」と感じており、男女間に大きな差は見られない。

<年齢別>

・50代以上で年齢が上がるほど『そう思う』の割合が低くなっている

<居住年数別>

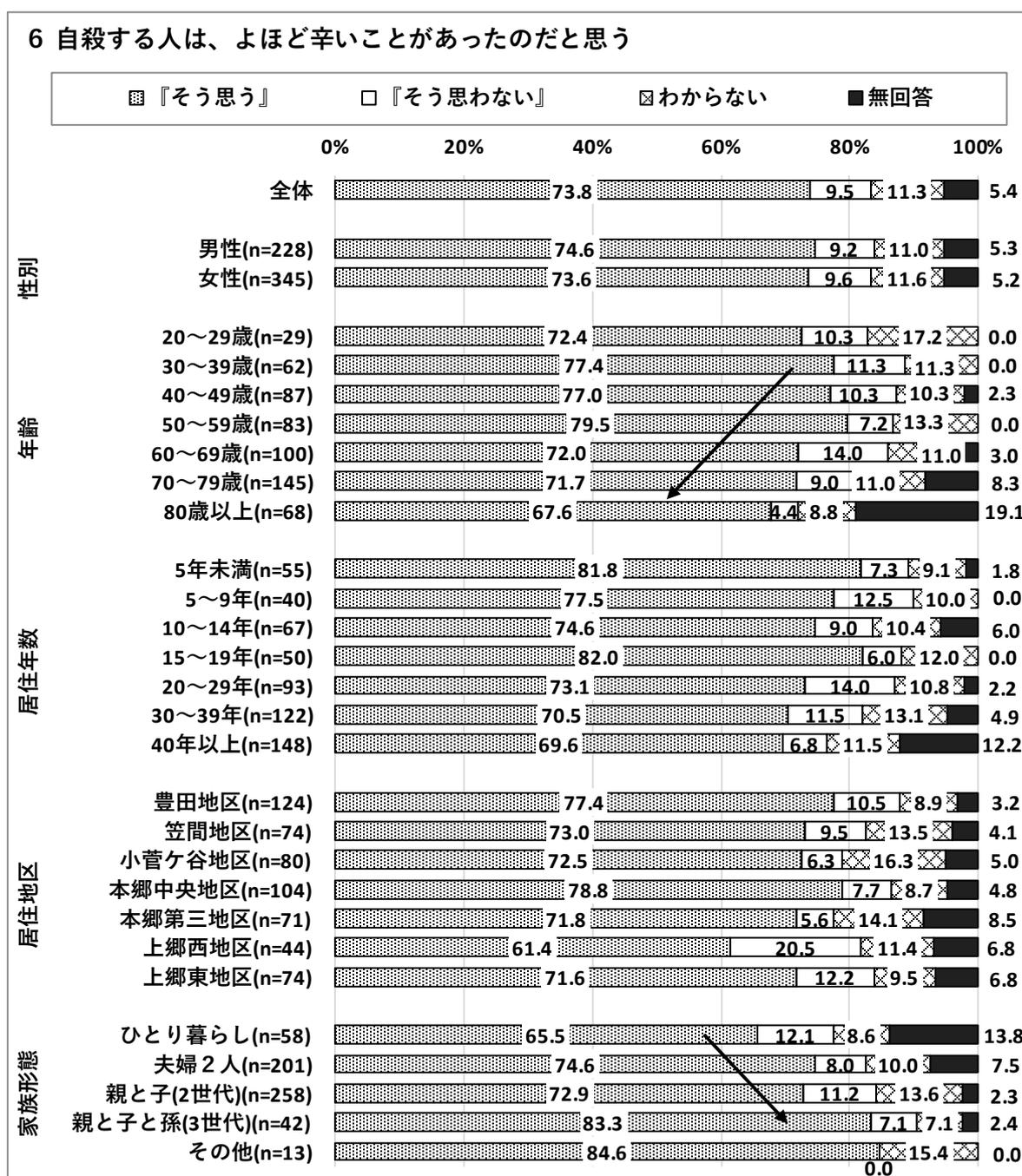
・「5年未満」「15～19年」では、全体より『そう思う』の割合が5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」では、全体より『そう思う』の割合が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られる。



7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、8.2ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」を除いて、年齢が上がるほど『そう思う』の割合が低くなる傾向がみられ、「80歳以上」では、全体の15ポイント以上低くなっている。

<居住年数別>

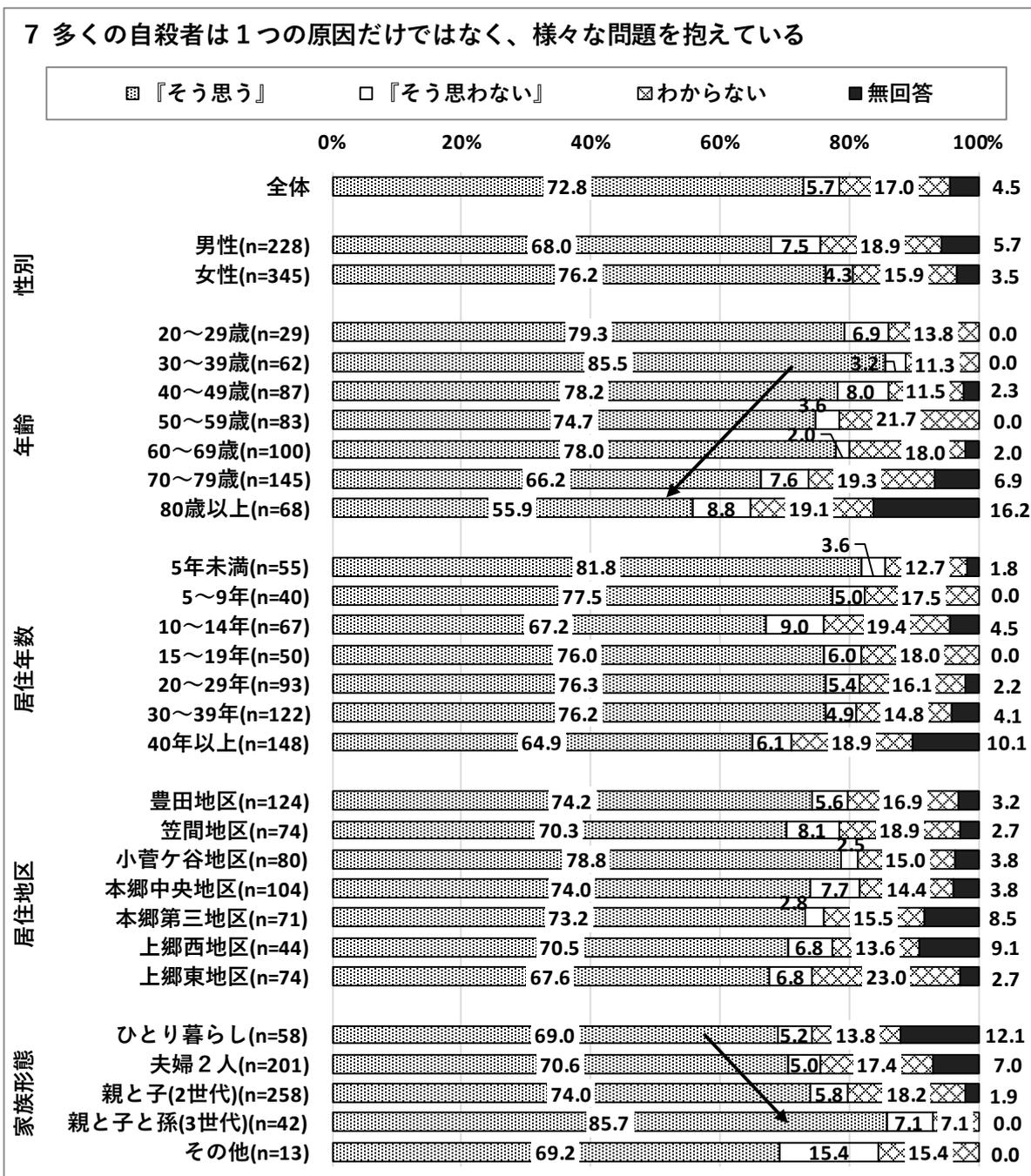
・「5年未満」では、『そう思う』の割合が全体より10ポイント程度高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、『そう思う』割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られる。



8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある

<性別>

- ・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、1.6ポイント高いが、男女共に8割以上の区民が「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」と感じている。

<年齢別>

- ・「60～69歳」を除いて、年齢が下がるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られ、「20～29歳」では100.0%となっている。

<居住年数別>

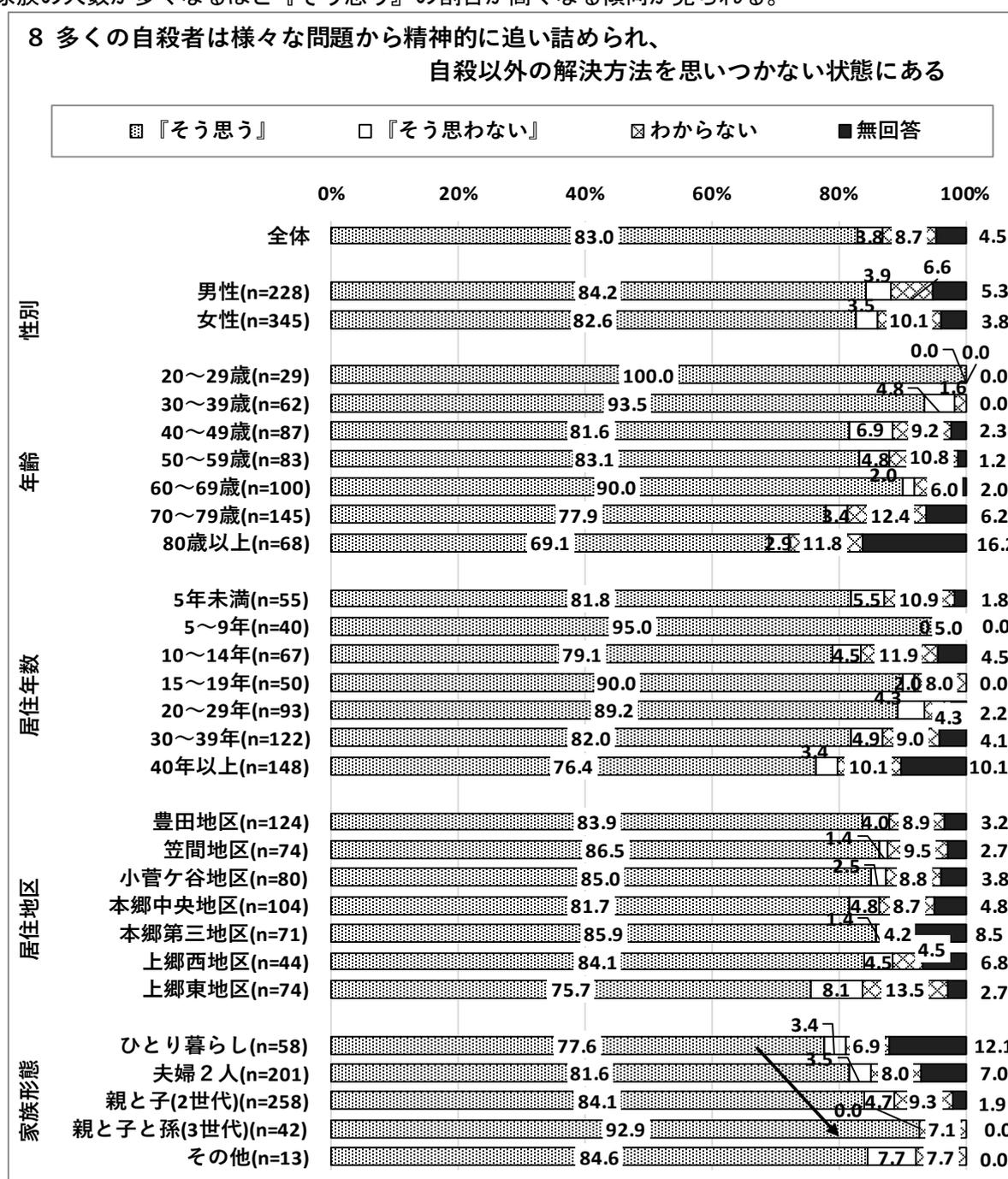
- ・「5～9年」では、『そう思う』が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

- ・「上郷東地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

- ・家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られる。



9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、9.6ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、『そう思う』の割合が最も低く、全体の10ポイント以上低い。

<居住年数別>

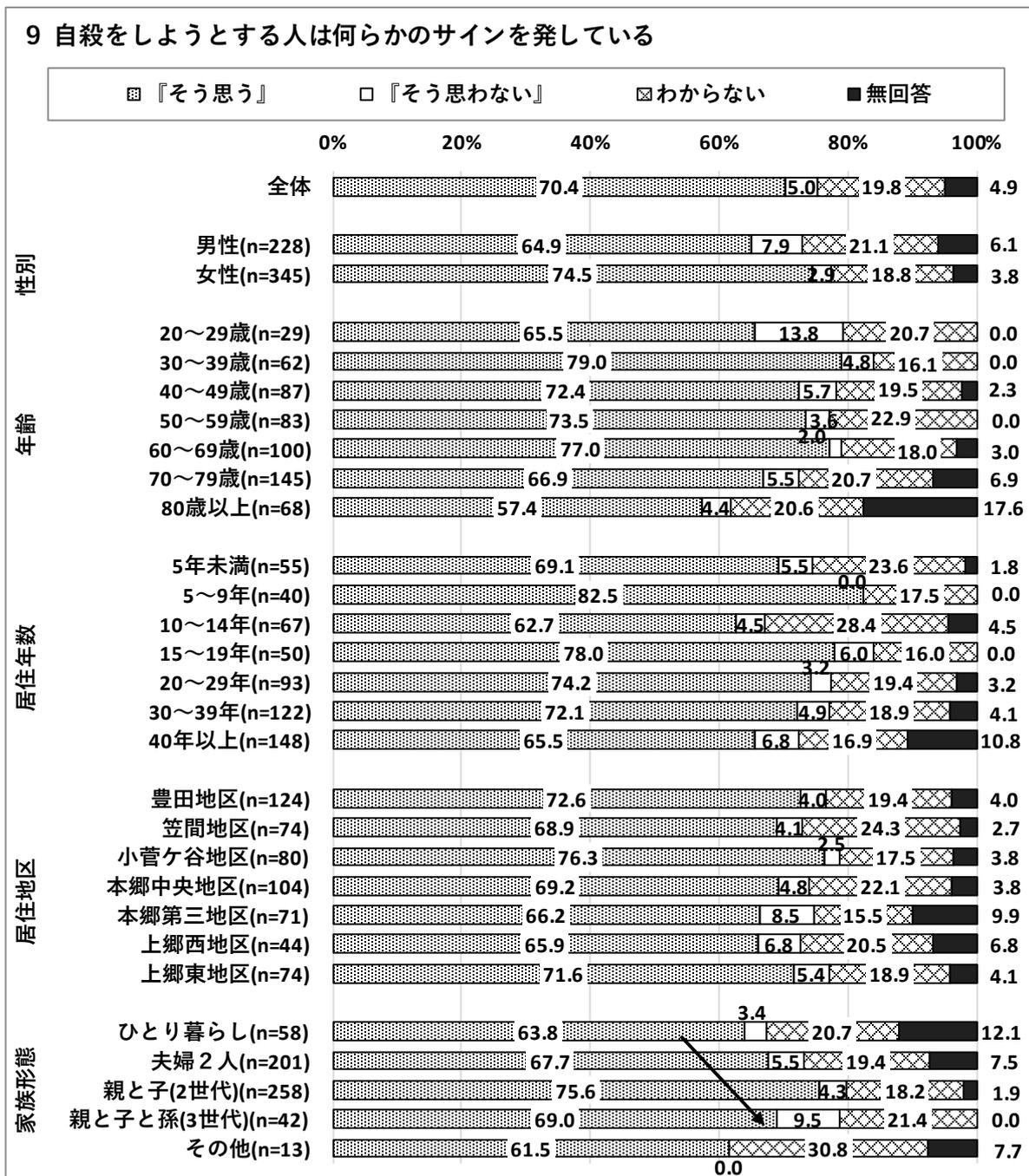
・「5～9年」「15～19年」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」を除いて、家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高い傾向が見られる。



10 自殺は防ぐことができる

<性別>

・「男性」より「女性」の方が、『そう思う』で、6.4ポイント高く、男女共に6割以上の区民が「自殺は防ぐことができる」と感じている。

<年齢別>

・「80歳以上」では、『そう思う』の割合が10ポイント程度低い。

<居住年数別>

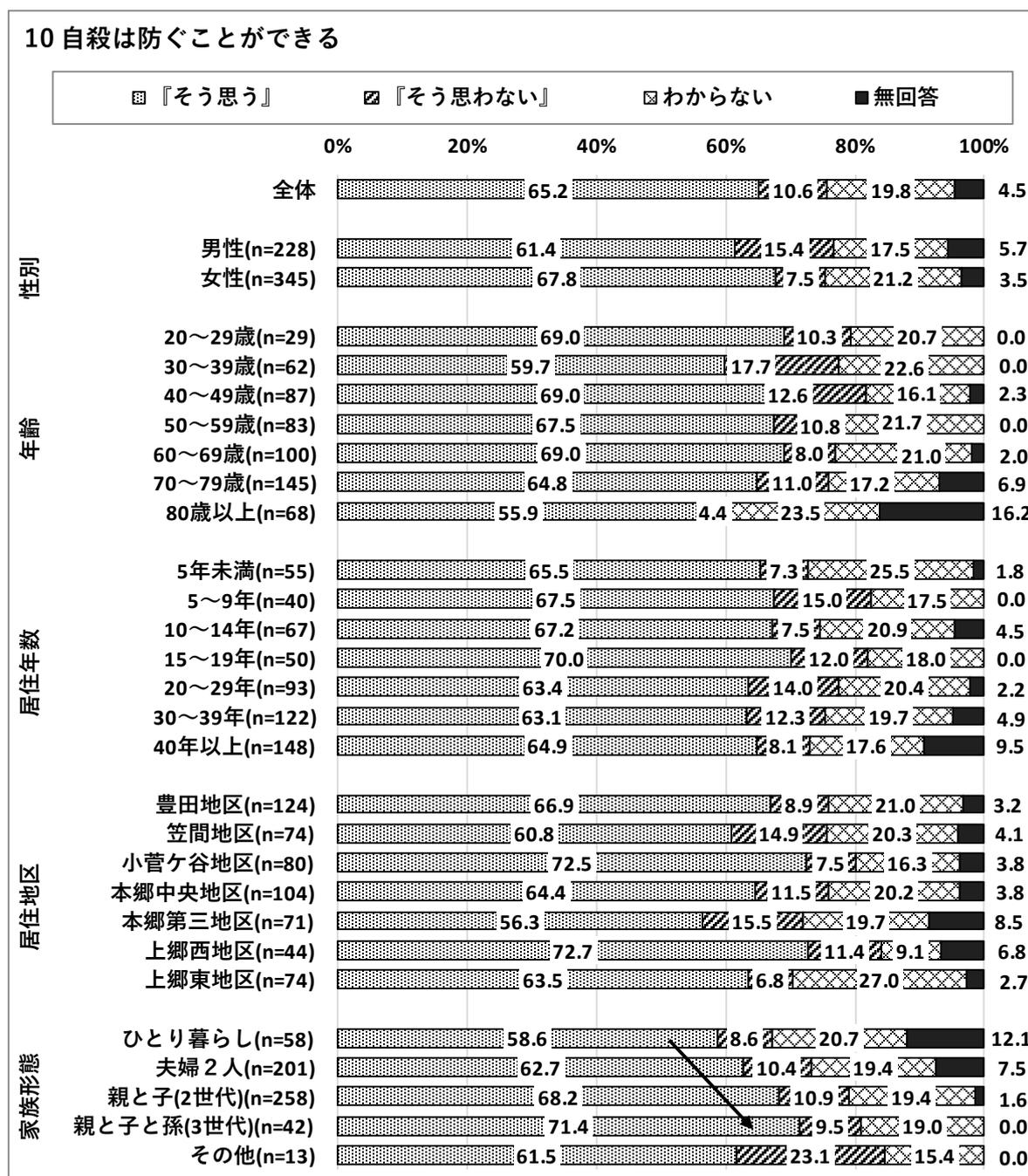
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」「上郷西地区」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族の人数が多くなるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られる。



11 自殺は自分にはあまり関係がない

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で、7.6ポイント高く、男性の方が「自殺は自分にはあまり関係がない」と感じている。

<年齢別>

・「20～29歳」「80歳以上」では、『そう思う』が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

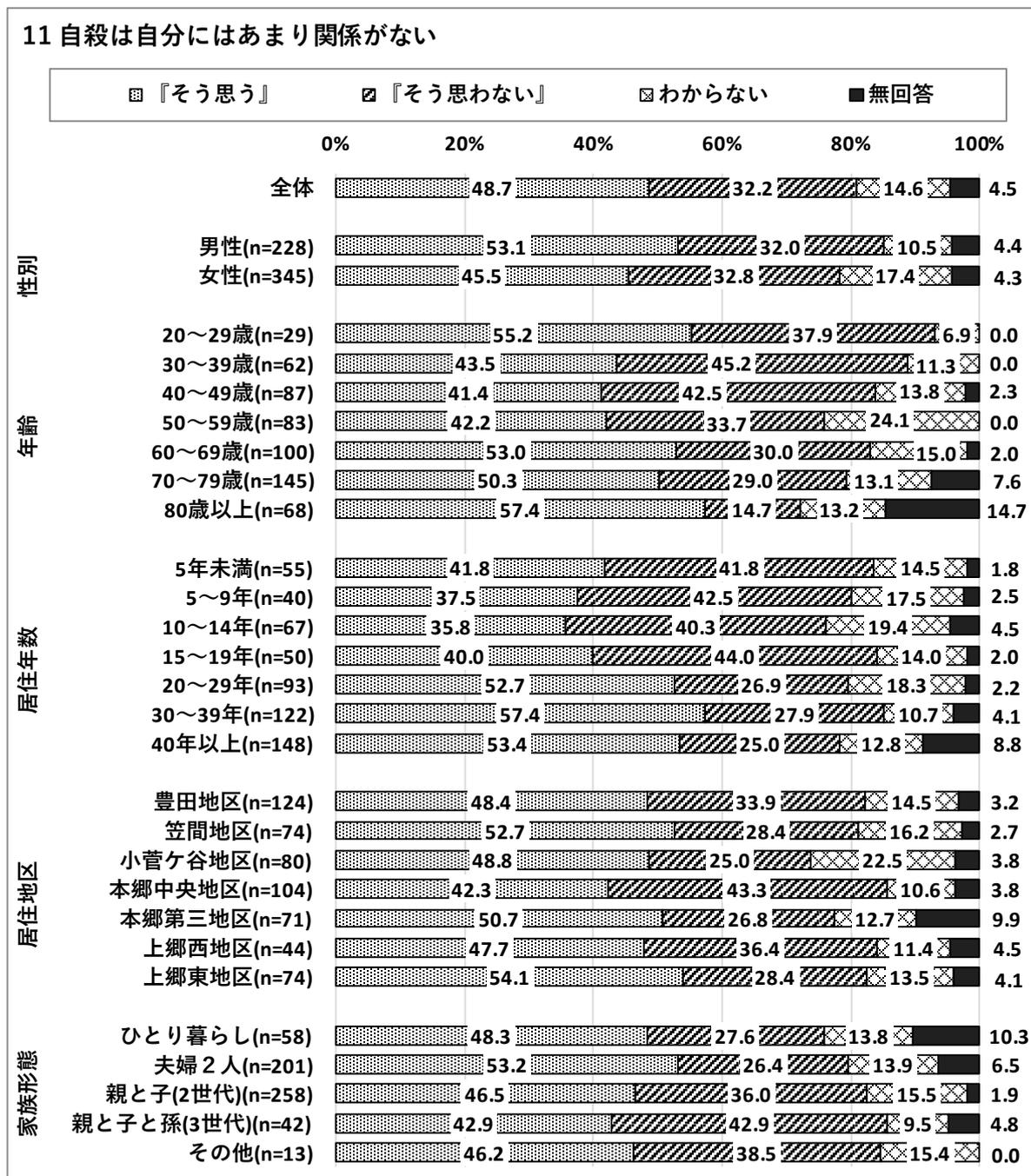
・「30～39年」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、『そう思う』が5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、『そう思う』の割合が全体より5ポイント程度高い。



12 自殺は本人の弱さからおこる

<性別>

・「男性」の約4割が『そう思う』と回答し、「女性」約5割が、『そう思わない』と回答し意見が分かれた。

<年齢別>

・年齢が低いほど『そう思わない』と回答する方が多く、年齢が上がるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られ、「80歳以上」では、『そう思う』の割合が全体より15ポイント以上高くなっている。

<居住年数別>

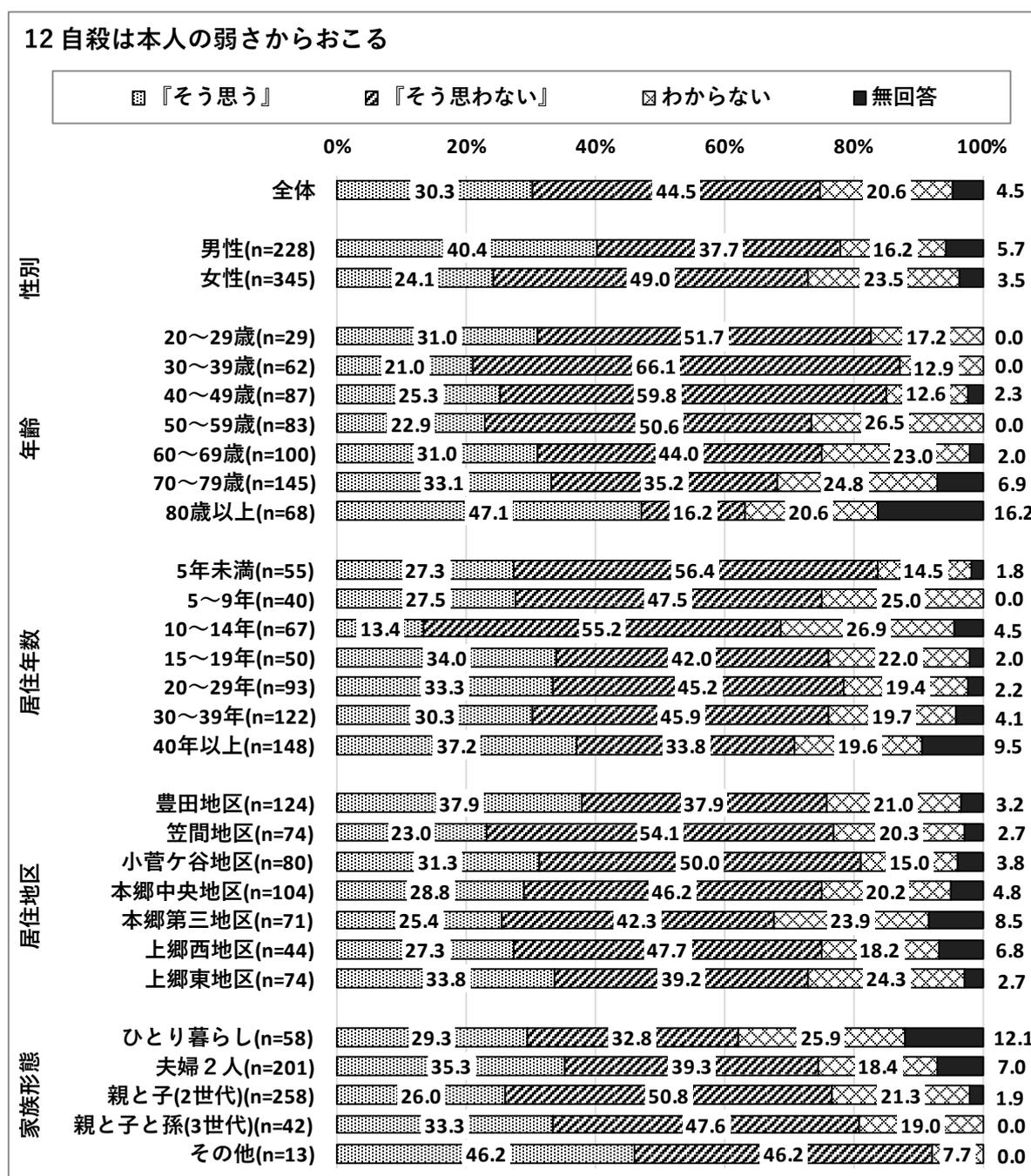
・「5年未満」「10～14年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子(2世代)」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上高い。



13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない

<性別>

・男女共に6割前後の方が「自殺は本人が選んだことだから仕方がない」とは思っていない。

<年齢別>

・「20～29歳」では、『そう思う』が全体より10ポイント以上高く、「80歳以上」では、全体より5ポイント以上低くなっている。

<居住年数別>

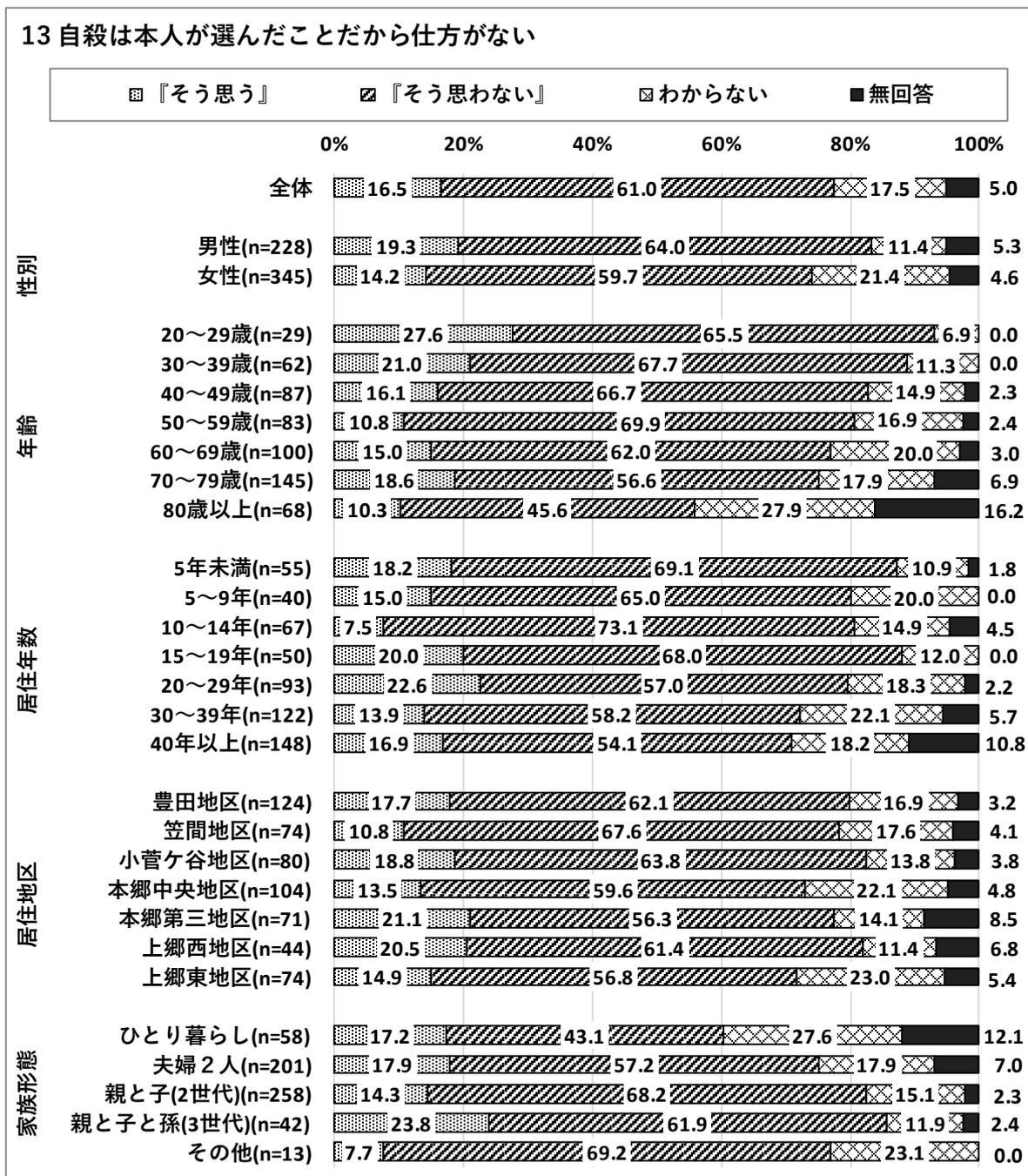
・「10～14年」では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」では、『そう思わない』の割合が全体より5ポイント以上低い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『そう思わない』の割合が全体より15ポイント以上低い。



14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない

<性別>

・男女共に、『そう思う』と『そう思わない』が3割程度で拮抗しており、男女間に大きな差はない。

<年齢別>

・「50～59歳」では、『そう思わない』が全体より20ポイント以上高い。

<居住年数別>

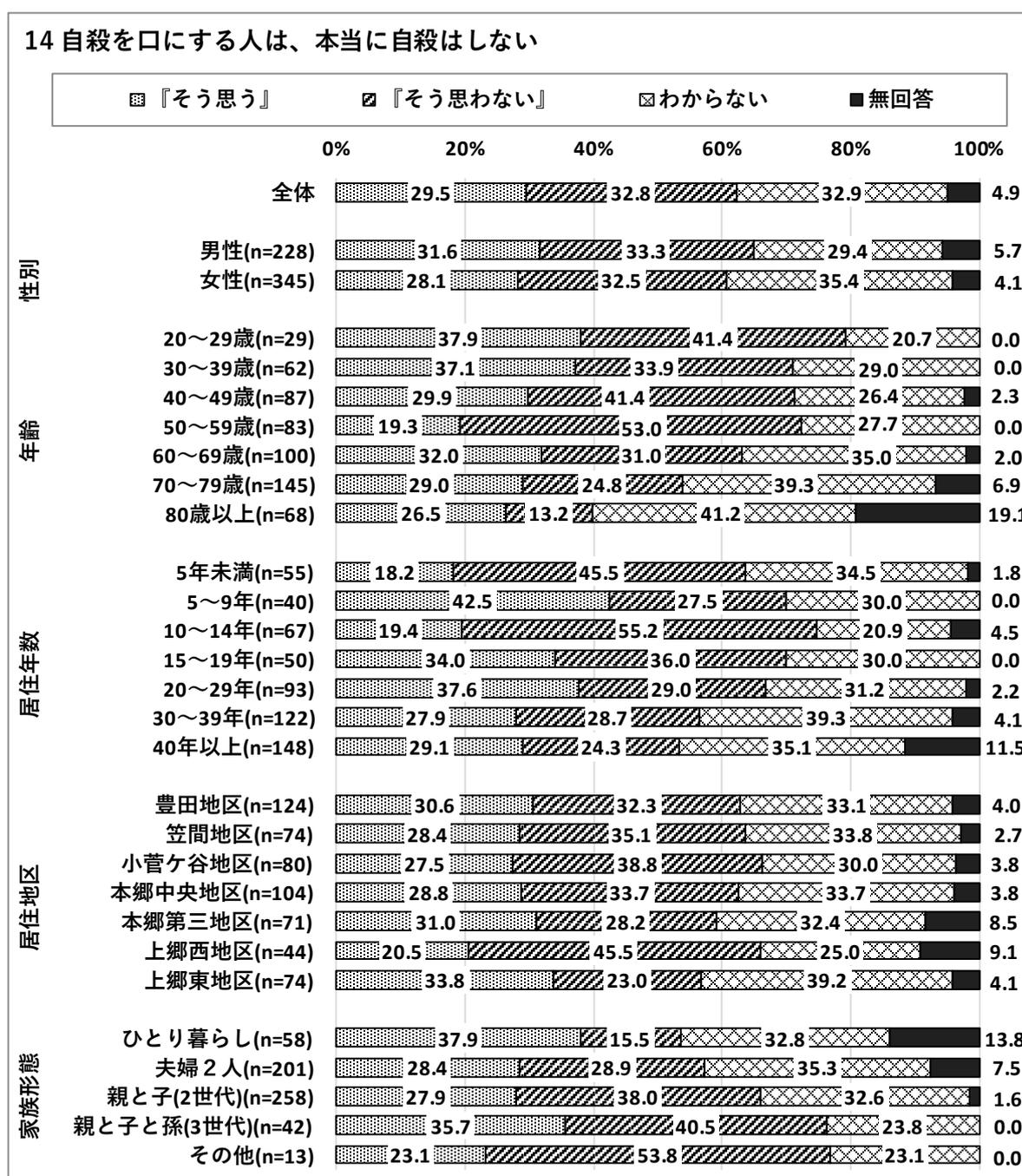
・「5～9年」では、『そう思う』割合が全体より10ポイント以上高く、「10～14年」で『そう思わない』割合が全体より20ポイント以上高くなっている。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、『そう思わない』割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、『そう思う』割合が全体より5ポイント以上高い。



15 自殺は恥ずかしいことである

<性別>

・「女性」より「男性」の方が、『そう思う』で13.7ポイント高く、女性の5割以上は「自殺は恥ずかしいことである」とは思っていない。

<年齢別>

・年齢が上がるほど『そう思う』の割合が高くなる傾向が見られ、「80歳以上」では、全体より10ポイント以上高くなっている。

<居住年数別>

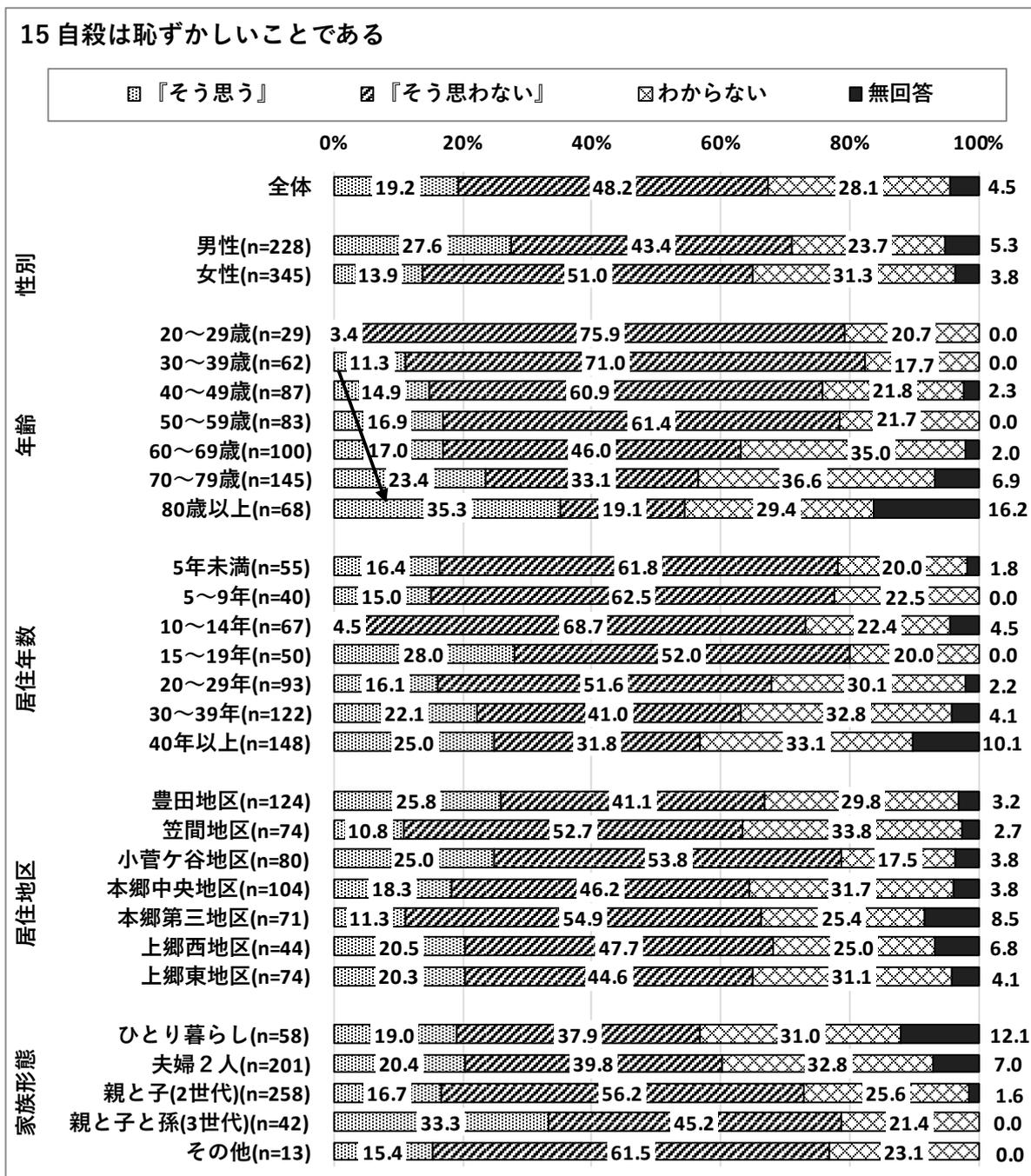
・居住年数が15年未満では、『そう思わない』の割合が全体より10ポイント以上高くなっている。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」「本郷第三地区」では、『そう思わない』が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、『そう思う』で全体より10ポイント以上高い。



(20) セーフコミュニティについてのご意見やご要望

- ・セーフコミュニティについてのご意見やご要望に関する自由記述欄には、全部で65件（11.3%）の回答がありました。

意見の種類 (大分類)	件数	意見の種類 (中分類)	主な意見内容
感想	20	13 肯定 (満足・前向き)	・『横浜市』ではなく『栄区』という単独でのセーフコミュニティ都市に選ばれたのは素晴らしい事である。 ・継続は「力」です。5年後の再認証に向けてガンバロー！ ・PDCAサイクルというのはプラン→ドゥー→チェック→アクションの事と知り大切だと思いました。
		3 否定 (不満・不安・疑問)	・赤ちゃんからお年寄りまで誰もが住みやすい、全国のモデルのような街になるように、私も栄区民として協力したい。 ・セーフコミュニティに認証されていることは、図書館などの広告で知っていましたが、詳細は理解していませんでした。子どもたちにもアンケートの内容を読ませました。調査に参加できてよかったです。
		1 意見・提案・要望	・セーフのワケが広すぎると思う。サギと自然災害では、注目度が人により大きく変動すると思う。 ・今は生きづらい。情報も多く知らなくていい事も知りすぎて悩む精神が強い人になりたい。孫のいじめ等考えると、心配します。若い人の自殺は助けられなかったのか。虐待も昔はなかったし。
		3 どちらでもない (その他)	・アンケート内容を見て思った事だが、行政が出来る範囲の対策と行政だけでは解決不可能な問題もあるように感じた。活動内容は根本的解決に有効か否か仕分けて、もう少し絞るべきだと思う。
プロモーション (広報)	18	3 肯定 (満足・前向き)	・区から配布されるチラシ・お知らせ等、よく目を通す様心掛けます。 ・この取組が全区民に誰にでも、簡単に分る、伝える様になるといいと感じます。何よりこのことが1人でも多くの人に理解されること全区民が何らかの活動に参加することが、よりよい環境につながるのかと思います。まずは、周知を。
		2 否定 (不満・不安・疑問)	・どのような取組をしているのか、簡単にまとめたリーフレットなどがあると良いかも。
		12 意見・提案・要望	・駅前でタッチー君を用いたイベントなどを開催することで人目を引き興味を持ってくれる人が多いと思う。「セーフコミュニティ」は今後の活動と、理解しました。私には、現在のところ、その活動の中身が見えていません(当然ですが)。指導者(区役所)が、明確な方針(課題、目標、方策)管理を打ち出し、区民ファーストで課題を達成することを期待いたします。実施項目を検討される時、やはりニーズを考慮して、年齢別とか、主婦、職種、など一考されたいと思います。
		1 どちらでもない (その他)	
災害への備え	3	1 意見・提案・要望	・震災時トイレが心配で避難すべきか迷っています。(心臓腎臓が悪い為) ・具体的に活動している事が身近ではないので活動だけでなく、どこに行っても良いのか、わかるようにしてもらいたい。地震の避難訓練も場所がわからない人が沢山います。炊き出しにいつも力を入れているが助かってからの話でその前の事が何もしていない。栄区だけが他の県よりまったく地震の取り組みが出来てないのでもち早く改善して早く避難場所がわかるマップを作って安心して住めるまちづくりを考えてもらいたい。
		2 どちらでもない (その他)	
高齢者の安全	6	4 肯定 (満足・前向き)	・個人の問題解決は難しいと思いますが、地域で犯罪から守れることもあると思います。高齢者の一人暮らしが増加してるので、地域で守ることは必要だと感じました。 ・老人世帯で生活の質が、今後ますます下がっていくと思います。救急相談電話のように、生活の些細な問題を相談できる窓口があるといいのですが。
		2 意見・提案・要望	・高齢者の交通事故撲滅策として運転免許返納を推進するためにも敬老パス制度は今後とも維持して欲しい。 ・知らない事が多かった。横のつながり、縦のつながりが、できてくると良いと思った。又、高齢者をだます詐欺は、絶対に許してはいけないと思う。
交通安全	5	1 肯定 (満足・前向き)	・交通事故を防ぐための自転車専用レーンの整備が遅れていると思います。今だに歩道を我者顔で走って自転車が多く、常々危ないと思っていました。乗車マナーとあわせて取り組むべきです。
		1 否定 (不満・不安・疑問)	・信号機の設置など、行政の強力な取組みと具体化が欲しい。
		3 意見・提案・要望	・横断歩道に立っただけでも止まる車がほとんど無い現状は、非常にキケン！！ ・区内の走行速度は、20km以下と定めるなど認証都市ならではのルールが欲しい。
生活の安心・安全	5	2 否定 (不満・不安・疑問)	・子供がいない人達、老人にも優しい町であってほしい。
		2 意見・提案・要望	・セーフコミュニティ以前に近所づきあいのないでどうしようもない。賃貸住宅に7年くらいして公園などにも子供を連れて行くが住民とコミュニケーションがほとんど取れない。皆に警戒されているように感じる。
		1 どちらでもない (その他)	
子育て支援と虐待の防止	4	3 意見・提案・要望	・栄区は子ども支援のコミュニティ場が少なく感じる。港南区に足を運ぶ人も多い。できることなら、自宅近くでの遊び場が来やすい雰囲気になると栄区も若い人にとって住みやすくなると思う。公園、広場の充実です。(日陰の場を作る、水あそびの場を作るetc)
		1 否定 (不満・不安・疑問)	・いろいろ言ってもそもそもは家庭でのしつけからだだと思います。
防犯対策	2	1 意見・提案・要望	・家に停めていた自転車を2回も盗まれた。窃盗に対して強化すべき。安全な街だと思いたいです。
		1 否定 (不満・不安・疑問)	
こどもの安全	1	1 意見・提案・要望	・年々不登校の子供が増えているので、そういう子供達の行き場所を作ってほしい。
自殺予防対策	1	1 意見・提案・要望	・気軽に相談できる場所があると良い。(自殺予防など)
総計	65		

IV 調査票

【1 セーフコミュニティ全体】

問1 あなたは、「セーフコミュニティ」について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1 セーフコミュニティの活動に参加したことがある |
| 2 セーフコミュニティの活動について知っている |
| 3 セーフコミュニティという言葉を知っている |
| 4 セーフコミュニティについて全く知らない |

(問1で「1」「2」「3」と答えた方にお聞きします)

問1-1 あなたは、どこで「セーフコミュニティ」について知りましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 1 ポスター | 6 ホームページ |
| 2 のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター | 7 啓発グッズ |
| 3 タウンニュース | (ふせん・クリアファイル・コットンバック・タオル等) |
| 4 広報よこはま | 8パンフレット |
| 5 選挙啓発チラシ | 9 その他(具体的に) |

問2 栄区は安全・安心なまちだと感じますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 そう感じる | 3 どちらかといえば感じない |
| 2 どちらかといえば感じる | 4 感じない |

問3 あなたは、栄区がセーフコミュニティの重点取組として取り組んでいる以下の8分野について、それぞれどの程度関心がありますか。(○はそれぞれ1つ)

	関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	まったく関心がない
1 子どもの安全	ア	イ	ウ	エ	オ
2 スポーツ時のけが予防	ア	イ	ウ	エ	オ
3 交通安全	ア	イ	ウ	エ	オ
4 子育て支援と児童虐待の防止	ア	イ	ウ	エ	オ
5 高齢者の安全	ア	イ	ウ	エ	オ
6 災害への備え	ア	イ	ウ	エ	オ
7 自殺予防対策	ア	イ	ウ	エ	オ
8 防犯対策	ア	イ	ウ	エ	オ

【2 日常生活におけるけが・事故の危険性】

問4 栄区は、セーフコミュニティに取り組むことで、日常生活におけるけが・事故等の予防活動を進めています。あなたは、それぞれのけが・事故の危険性について知っていますか。
(○はそれぞれ1つ)

	知っていた	知らなかった (この調査で初めて知った)
1 栄区の14歳以下の子どもの救急搬送の中で、件数が最も多いのは0～4歳の乳幼児である	ア	イ
2 栄区の小学生・中学生の30%以上が、1年間に「怖い人と出会った」と回答している	ア	イ
3 栄区の運動競技中のけが・事故の原因で最も多いのは、「準備運動不足」である	ア	イ
4 栄区の15歳以下の子どもの交通事故の中で最も多いのは、「自転車による事故」である	ア	イ
5 栄区の65歳以上の高齢者の交通事故の中で最も多いのは、「自動車乗車時の事故」である	ア	イ
6 横浜市および栄区の児童虐待対応件数は年々増加傾向にある	ア	イ
7 横浜市では、はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人の割合は約7割である	ア	イ
8 栄区の救急搬送の中で最も多い年代は、「65歳以上の高齢者」である	ア	イ
9 栄区の65歳以上の高齢者の救急搬送件数のうち、最も多いのは「転倒・転落」である	ア	イ
10 栄区の65歳以上の不慮の事故のうち、死亡・重篤に占める割合が最も多いのは「溺死・溺水」である	ア	イ

	知 っ て い た	知 ら な か つ た (この調査で初めて知った)
11 栄区の65歳以上の 高齢者の溺死・溺水 による救急搬送が最も多いのは、「 12月～2月の冬場 」である	ア	イ
12 横浜市は、全国の都道府県庁所在地の中で、 震度6弱以上の大地震 が発生する確率が 2番目 に高い	ア	イ
13 市内で 震度7の地震 が発生した場合の栄区内の被害想定は、 死者43名、負傷者703名 と大規模である	ア	イ
14 阪神・淡路大震災では、 約7割の方が家具や家屋の倒壊 によって亡くなっている	ア	イ
15 栄区の自殺者の 自殺原因 で最も多いのは、「 健康問題 」によるものである	ア	イ
16 栄区の犯罪における 振り込め詐欺 の件数割合は、 年々増加 している	ア	イ
17 栄区の 振り込め詐欺 の被害者層は、「 60歳代以上 」が 9割以上 を占める	ア	イ

【3 セーフコミュニティの取組】

問5 栄区は、けが・事故等の予防のために、様々な取組を行っています。あなたは、それぞれの取組についてどの程度知っていますか。(○はそれぞれ1つ)

	知 っ て い た	知 ら な か っ た (この調査で初めて知った)
1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動 (乳幼児健診でのチラシ配布等)	ア	イ
2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高める KYT (危険予知トレーニング) の普及活動	ア	イ
3 子どもの登下校の見守りの推進	ア	イ
4 子ども110番の家の登録の推進	ア	イ
5 スポーツ時のけが予防講習会の開催	ア	イ
6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨	ア	イ
7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット 着用啓発活動	ア	イ
8 児童虐待を減らすための啓発活動 (オレンジリボン配布等)	ア	イ
9 高齢者への転倒予防の啓発活動	ア	イ
10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐための ヒートショック対策の啓発活動	ア	イ
11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進	ア	イ
12 自殺を予防するための啓発活動 (公共施設でのチラシ配布・講演会等)	ア	イ
13 自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修	ア	イ
14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動(講演会等)	ア	イ

問6 セーフコミュニティの取組の中で、今後参加したい取組はありますか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動 | 8 児童虐待を減らすための啓発活動 |
| 2 子どものKYT (危険予知トレーニング)の普及活動 | 9 高齢者への転倒予防講座 |
| 3 子どもの登下校時の見守り | 10 ヒートショック対策 |
| 4 子ども110番の家の登録 | 11 地域防災拠点等での実践的な訓練 |
| 5 スポーツ時のけが予防講習会 | 12 自殺を予防するための啓発活動 |
| 6 運動不足解消のためのウォーキング | 13 自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修 |
| 7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動 | 14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 |

【4 安全・安心に関する質問】

問7 栄区では、住民により、安全・安心に関わる地域活動が進められています。あなたのお住まいの地域で、取り組むべき課題にはどのようなものがあると思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 住民同士の交流や助け合いの促進 |
| 2 高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援 |
| 3 子どもの見守りや子育て中の人への支援 |
| 4 子どもを事故やけがから守るための安全対策 |
| 5 青少年の居場所づくりや健全育成 |
| 6 スポーツや健康づくりなどを楽しむ場やイベントの開催など |
| 7 交通安全 |
| 8 防犯 |
| 9 防災・減災や災害時への備え |
| 10 その他 (具体的に) |
| 11 特になし |

問8 あなたは、日頃運動不足を感じることはありませんか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 そう感じる | 3 どちらかといえば感じない |
| 2 どちらかといえば感じる | 4 感じない |

問9 あなたは、どのくらいの頻度でスポーツ(ウォーキングを含む)をしていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 週1回以上 | 3 月1回未満 |
| 2 月に1~3回程度 | 4 ほとんどしていない |

問10 栄区では、「ウォーキングで健康づくり」の取組を進めています。あなたは、日常の外出以外で、健康のためにどのくらいウォーキングをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 月に1~3日程度 |
| 2 週に1~3日程度 | 4 ほとんどしていない |

問11 栄区では、寒い時期に脱衣所から熱い湯船に入ることによって脳出血や脳梗塞、心筋梗塞等を起こしてしまう「ヒートショック」の対策に取り組んでいます。あなたは、「ヒートショック」の対策をしていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 お風呂のお湯を41℃以下にする | 5 体調が悪い時や飲酒后・食事直後はお風呂に入らない |
| 2 脱衣所に暖房器具を置いている | 6 その他 (具体的に) |
| 3 シャワーで浴室を温めてから浴室に入る | 7 特にしていない |
| 4 湯船には10分以上連続で入らない | |

問 12 あなたは、救急車を呼ぶか迷ったときの救急相談電話、#7119（横浜市救急相談センター）を知っていますか。（○は1つ）

- | |
|------------------------|
| 1 知っていて、使ったことがある |
| 2 知っているが、使ったことはない |
| 3 知らなかった（この調査ではじめて知った） |

問 13 あなたは、ご自身の住む地区で震災時に避難する地域防災拠点がどこかを知っていますか。（○は1つ）

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 14 あなたは、地域防災拠点の訓練に参加したことがありますか。（○は1つ）

- | |
|-----------------------------|
| 1 参加したことがある |
| 2 参加したことはないが、今後参加したい |
| 3 参加したことはないし、今後も参加したいとは思わない |

問 15 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 水の備蓄 | 9 感震ブレーカーの設置 |
| 2 食料の備蓄 | 10 避難についての家族の話し合い |
| 3 医薬品・救急用品の備蓄 | 11 隣近所との話し合い |
| 4 携帯ラジオ・懐中電灯の用意 | 12 地域の中での緊急連絡体制づくり |
| 5 消火器の設置 | 13 ほとんど何もしていない |
| 6 住宅用火災警報器の設置 | 14 その他 |
| 7 家具などの転倒防止対策 | (具体的に) |
| 8 自宅の耐震補強対策 | |

問 16 あなたは、振り込め詐欺と思われる電話等を受けたことがありますか。（○は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問 17 あなたは、どのような振り込め詐欺を知っていますか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------|----------------|
| 1 オレオレ詐欺 | 4 還付金等詐欺 |
| 2 架空請求詐欺 | 5 キャッシュカード交付詐欺 |
| 3 融資保証金詐欺 | 6 その他（具体的に) |

問 18 あなたが、振り込め詐欺対策で行っていることはありますか。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 留守番電話設定 | 4 栄区役所からの防犯情報メールに登録 |
| 2 家族の合言葉 | 5 その他（具体的に) |
| 3 受話器周辺に啓発物 | 6 特にしていない |

問 19 あなたは、自殺についてどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	そう思う どちらかというと	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない
1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき	ア	イ	ウ	エ	オ
2 自殺せずに生きていれば良いことがある	ア	イ	ウ	エ	オ
3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
4 責任を取って自殺することは仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない	ア	イ	ウ	エ	オ
6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う	ア	イ	ウ	エ	オ
7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている	ア	イ	ウ	エ	オ
8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある	ア	イ	ウ	エ	オ
9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している	ア	イ	ウ	エ	オ
10 自殺は防ぐことができる	ア	イ	ウ	エ	オ
11 自殺は自分にはあまり関係がない	ア	イ	ウ	エ	オ
12 自殺は本人の弱さからおこる	ア	イ	ウ	エ	オ
13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない	ア	イ	ウ	エ	オ
15 自殺は恥ずかしいことである	ア	イ	ウ	エ	オ

問 20 セーフコミュニティについて、ご意見やご要望があれば自由にご記入ください。

【5 フェイスシート】

最後に、あなた自身のことについてお尋ねします。ご回答いただいた内容については、すべて統計的に処理され、個人が特定されることはありませんので、ご協力をお願いします。

F 1 性別（○は1つ） ※日常生活における性別をご回答ください。

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢（○は1つ）

1 20～24 歳	6 45～49 歳	11 70～74 歳
2 25～29 歳	7 50～54 歳	12 75～79 歳
3 30～34 歳	8 55～59 歳	13 80 歳以上
4 35～39 歳	9 60～64 歳	
5 40～44 歳	10 65～69 歳	

谷折り

F 3 栄区にお住まいの期間（○は1つ）

1 5年未満	5 20～29年
2 5～9年	6 30～39年
3 10～14年	7 40年以上
4 15～19年	

F 4 現在お住まいのご住所（○は1つ）

1 飯島町	15 桂台西一丁目	29 小菅ケ谷三丁目	43 野七里一丁目
2 犬山町	16 桂台西二丁目	30 小菅ケ谷四丁目	44 野七里二丁目
3 尾月	17 桂台東	31 小山台一丁目	45 柏陽
4 笠間町	18 桂台南一丁目	32 小山台二丁目	46 東上郷町
5 笠間一丁目	19 桂台南二丁目	33 庄戸一丁目	47 本郷台一丁目
6 笠間二丁目	20 桂町	34 庄戸二丁目	48 本郷台二丁目
7 笠間三丁目	21 金井町	35 庄戸三丁目	49 本郷台三丁目
8 笠間四丁目	22 上郷町	36 庄戸四丁目	50 本郷台四丁目
9 笠間五丁目	23 上之町	37 庄戸五丁目	51 本郷台五丁目
10 鍛冶ケ谷町	24 亀井町	38 田谷町	52 元大橋一丁目
11 鍛冶ケ谷一丁目	25 公田町	39 長尾台町	53 元大橋二丁目
12 鍛冶ケ谷二丁目	26 小菅ケ谷町	40 長倉町	54 若竹町
13 桂台北	27 小菅ケ谷一丁目	41 長沼町	
14 桂台中	28 小菅ケ谷二丁目	42 中野町	

谷折り

F 5 現在のお住まいの世帯の家族形態（○は1つ）

1 ひとり暮らし	4 親と子と孫（3世代）
2 夫婦2人	5 その他(具体的に)
3 親と子（2世代）	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
恐れ入りますが本紙を3つ折りにして同封の返信用封筒で
平成30年11月23日（金）までにご投函ください。